Assist8
ユーザーガイド

株式会社ジツタ

目次

Assist8　ユーザーガイド..... 1
I.　画面表示と基本 11
I.1. 画面表示..... 11
I.1.1. ポイント（点）を選択した場合の画面 12
I.1.2. ポイント（点）を選択した状態で右ボタンクリックした際、表示されるメニューについて 12
I.1.3. ポリゴン（面）を選択した場合の画面 15
I.1.4. ポリゴン（面）を選択した状態で右ボタンクリックした際、表示されるメニューについて 15
I.1.5. ライン（線）を選択した場合の画面..... 18
I.1.6. ライン（線）を選択した状態で右ボタンクリックした際、表示されるメニューについて 18
I.1.7. ポリゴン、ポリライン、単点をダブルクリックした際、表示されるメニューについて 20
I.2. 簡易表示モード 21
II.　ツールバー..... 22
II.1.1. 各種ツールバー 22
II.1.2. スタンダードツールバー..... 25
II.1.3. エディットツールバー 27
III.　杭番号 29
III.1. 杭番号の入力 29
III.1.1. 点名の頭文字挿入 30
III.2. 杭種（デフォルト） 32
III.3. 杭種の個別変更..... 33
III.4. 杭種一括変更 34
III.5. 交点の入力..... 35
IV.　ＰＤＡとのデータ転送..... 38
IV.1. SMC ファイルを開く 38
IV.2. SMC ファイルマッピングインポート..... 39
IV.3. SMC ファイル切り出し保存..... 40
V.　ARUQAndroid 入出力..... 43
V.1. SMR ファイルを開く..... 43
V.2. GGA 45
V.3. SMR ファイル切り出し保存 45
VI.　新 ARUQ 入出力 47
VI.1. ARQ ファイルを開く..... 47
VI.2. ARQ ファイル切り出し保存 47
VI.3. GNSS ログファイルを取得 47
VII.　コンパス入力 48
VII.1. コンパス路線の標記..... 48
VII.2. コンパス野帳入力セル 48
VII.3. 新規コンパスの入力手順..... 51
VII.4. 放射観測 54
VII.4.1. 境界点では無い放射点..... 54
VII.4.2. 境界点では無い放射点..... 55
VII.5. 2 方向から入力 55
VII.6. 前方交会入力 56
VII.7. チェックマークを付け替えると 56
VII.8. コンパス再編集 57
VII.8.1. ダイレクトコンパス編集 57
VII.8.2. コンパスパネルを開く..... 57
VII.9. CSV ファイルインポート..... 65
VIII. ファイルメニュー 67
VIII.1.　［ファイル］－［新規作成］ 70
VIII.2.　［ファイル］－［開く］ 70
VIII.3.　［ファイル］－［名前を付けて保存］ 71
VIII.4.　［ファイル］－［現場設定］ 71
VIII.4.1. 現場変更..... 71
VIII.4.2. 現場を作る..... 72
VIII.4.3. ラスタ読み込みフォルダ指定..... 72
VIII.4.4. 環境設定保存フォルダの設定 73
VIII.4.5. データベース最適化..... 73
VIII.4.6. データベース最適化（参照） 74
VIII.5.　［ファイル］－［SMC ファイルを開く］ 75
VIII.6.　［ファイル］－［SMR ファイルを開く］ 75
VIII.7.　［ファイル］－［旧 Assist ファイルを開く］ 76
VIII.7.1. Assist7 / Assist6..... 76
VIII.7.2. Assist5..... 76
VIII.8.　［ファイル］－［地図を開く］ 78
VIII.8.1.　［ファイル］－［地図を開く］－［ラスタ］－

［ラスタファイル］ 78
VIII.8.2. ［［ファイル］－［地図を開く］－［ラスタ］－［1/25000 地形図、 1/50000 地形図、1/200000 地形図］ 80
VIII.8.3. ［ファイル］－［地図を開く］－［ベクタ］ ... 81
VIII.8.4. ［ファイル］－［地図を開く］－［ベクタ］－［DXF］、［SIMA］、［ASS］、［シェープ］、［単点シェープ（テキスト抽出）］、［GGA］、［DWG］、［GPX］、［KML］の選択］ 82
VIII.8.5. ［ファイル］－［地図を開く］－［ベクタ］－［CSV 単点］ 82
VIII.8.6. ［ファイル］－［地図を開く］－［ベクタ］－［緯度経度単点］ 82
VIII.8.7. ［ファイル］－［地図を開く］－［ベクタ］－［法務省地図 XML］ 82
VIII.8.8. ［ファイル］－［地図を開く］－［地理院地図から開く］ 82
VIII.8.9. ［ファイル］－［地図を開く］－［OpenStreetMap から開く］ 83
VIII.9. ［ファイル］－［インポート］ 84
VIII.9.1. 他の Assist8 ファイル 84
VIII.9.2. 他の Assist8 ファイル（点名マッチング） 86
VIII.9.3. ＤＸＦ 86
VIII.9.4. シェープ 86
VIII.9.5. SIMA 88
VIII.9.6. SIMA（点名マッチング） 88
VIII.9.7. 単点シェープ（テキスト抽出） 88
VIII.9.8. GGA 88
VIII.9.9. GPX 88
VIII.9.10. KML 88
VIII.9.11. CSV 単点 88
VIII.9.12. CSV 単点（点名マッチング） 89
VIII.9.13. 緯度経度単点 89
VIII.9.14. 検収データ CSV 89
VIII.9.15. 森発見 CSV 89
VIII.9.16. ［法務省］－［地図 XML］ 89
VIII.9.17. ［法務省］－［要約書 CSV］ 89
VIII.9.18. ［旧 Assist ファイル］－［Assist7 ファイル、Assist7 ファイル（点名マッチング）、Assist6 ファイル、Assist6 ファイル（点名マッチング）、Assist5 ファイル、Assist5 ファイル（点名マッチング）］ 89
VIII.10. ［ファイル］－［外部出力］ 90
VIII.10.1. ＤＸＦファイルへ出力 90
VIII.10.2. ＳＸＦファイルへ出力 92
VIII.10.3. ＳＩＭＡ・ＡＳＳファイルへ出力 92
VIII.10.4. シェープファイルへ出力 94
VIII.10.5. DWG ファイルへ出力 95
VIII.10.6. GPX ファイルへ出力 96
VIII.10.7. KML・KMZ ファイルへ出力 97
VIII.10.8. テキストファイル（図形、頂点）へ出力 98
VIII.10.9. テキストファイル（頂点）へ出力 98
VIII.10.10. テキストファイル（頂点：緯度経度）へ出力 99
VIII.10.11. テキストファイル（頂点：GPS 詳細）へ出力 99
VIII.10.12. 多角指定出力で選択した図形をＳＩＭＡ・ＡＳＳファイルに出力 100
VIII.10.13. 多角指定出力で選択した図形をシェープファイルに出力 100
VIII.10.14. 多角指定出力で選択した図形を GPX ファイルに出力 101
VIII.10.15. 多角指定出力で選択した図形を杭備考ＣＳＶファイルに出力 101
VIII.10.16. レイヤ指定出力で選択したレイヤをシェープファイルに出力 101
VIII.10.17. レイヤ指定出力で選択したレイヤを GPX ファイルへ出力 102
VIII.10.18. レイヤ指定出力で選択したレイヤを KML ファイルへ出力 102
VIII.10.19. 画面キャプチャをファイルに出力 103
VIII.10.20. 画面キャプチャ 2 をファイルに出力 104
VIII.10.21. 箇所位置図設定 105
VIII.10.22. 箇所位置図をファイルに出力 106
VIII.10.23. Excel 自由帳票設定 107
VIII.10.24. Excel 自由帳票出力 108
VIII.11. ［ファイル］-［図面印刷］ 109
VIII.12. ［ファイル］-［Assist 印刷］ 119
VIII.13. ［ファイル］-［Assist 連続印刷］ 124
VIII.14. ［ファイル］-［各種印刷］ 125
VIII.14.1. 測量野帳印刷 125
VIII.14.2. 測量地籍印刷 128

VIII.14.3. 路線測量印刷 130
VIII.14.4. 路線測量印刷（コンパス選択） 130
VIII.14.5. GNSS 観測手簿 130
VIII.14.6. GNSS 観測手簿（多角指定） 131
VIII.14.7. GNSS 測量野帳 131
VIII.15. ［ファイル］－［境界明確化　各種印刷］ .. 132
VIII.15.1. 印刷帳票基本データ設定 132
VIII.15.2. 所有山林一覧 133
VIII.15.3. 所有山林一覧（自署） 134
VIII.15.4. 森林境界保全簿 134
VIII.15.5. 森林境界明確化土地一覧 135
VIII.15.6. 森林境界明確化土地確認書 135
VIII.15.7. 隣接者教会立会い確認書 136
VIII.15.8. 不明土地一覧 137
VIII.15.9. 森林境界保全図 137
VIII.16. ［ファイル］－［山村境界基本調査］ 138
VIII.17. ［ファイル］－［プリンタの設定］ 138
VIII.18. ［ファイル］－［図面情報］ 138
VIII.19. ［ファイル］－［点名杭種情報］ 140
VIII.19.1. 画地面積・杭種本数一覧 140
VIII.19.2. 杭種別座標リスト 140
VIII.19.3. 点名の抜番表示 141
VIII.19.4. 最大番号の表示 141
VIII.20. ［ファイル］－［閉じる］ 141
VIII.21. ［ファイル］－［アプリケーションの終了］ 141
VIII.22. ［ファイル］－［地理院地図から開く］ 142
IX. 作成 143
IX.1. ［作成］－［ポイント］ 143
IX.2. ［作成］－［ポリライン］ 143
IX.3. ［作成］－［ポリゴン］ 143
IX.4. ［作成］－［ライン上ポイント］ 144
IX.5. ［作成］－［オフセットポイント］ 144
IX.6. ［作成］－［重心ポイント］ 144
IX.7. ［作成］－［頂点上ライン］ 145
IX.8. ［作成］－［頂点上ライン R］ 145
IX.9. ［作成］－［角度・距離指定ライン］ 145
IX.10. ［作成］－［円］ 146
IX.11. ［作成］－［円弧］ 148
IX.12. ［作成］－［めがね］ 151
IX.13. ［作成］－［自動ポリゴン化］ 151
X. 編集 153
X.1. ［編集］－［元に戻す］ 153
X.2. ［編集］－［やり直し］ 153
X.3. ［編集］－［頂点］ 153
X.3.1. ［編集］－［頂点］－［移動］ 153
X.3.2. ［編集］－［頂点］－［辺移動］ 154
X.3.3. ［編集］－［頂点］－［削除］ 154
X.3.4. ［編集］－［頂点］－［範囲削除］ 155
X.3.5. ［編集］－［頂点］－［順序変更］ 155
X.4. ［編集］－［画地］ 156
X.4.1. ［編集］－［分割］ 156
X.4.2. ［編集］－［画地］－［中抜きポリゴン］－［範囲選択］ 157
X.4.3. ［編集］－［画地］－［中抜きポリゴン］－［図形選択］ 158
X.4.4. ［編集］－［画地］－［中抜き線変更］ 158
X.4.5. ［編集］－［画地］－［始終点変更］ 159
X.4.6. ［編集］－［画地］－［面積分割］ 159
X.4.7. ［編集］－［画地］－［合成］ 160
X.4.8. ［編集］－［画地］－［外周線・印刷地番色］ 160
X.5. ［編集］－［テキスト］ 161
X.5.1. ［編集］－［テキスト］－［編集］ 161
X.5.2. ［編集］－［テキスト］－［矩形］ 162
X.5.3. ［編集］－［テキスト］－［多角］ 163
X.5.4. ［編集］－［テキスト］－［レイヤ］ 163
X.5.5. ［編集］－［テキスト］－［多角指定テキスト移動］ 164
X.6. ［編集］－［ルーペ］ 165
X.6.1. ［編集］－［ルーペ］－［編集］ 165
X.6.2. ［編集］－［ルーペ］－［拡大位置移動］ ... 165
X.7. ［編集］－［円・円弧］ 166
X.7.1. ［編集］－［円・円弧］－［多角指定コピー］ 166
X.7.2. ［編集］－［円・円弧］－［多角指定移動］ 166
X.8. ［編集］－［選択図形］ 167
X.8.1. ［編集］－［選択図形］－［図形移動］ 167
X.8.2. ［編集］－［選択図形］－［図形拡大・縮小］ 168
X.8.3. ［編集］－［選択図形］－［図形回転］ 168

X.9. ［編集］－［削除］ 169
X.9.1. ［編集］－［削除］－［図形削除］ 169
X.9.2. ［編集］－［削除］－［ポイント削除］ 169
X.9.3. ［編集］－［削除］－［一辺削除］ 169
X.9.4. ［編集］－［削除］－［一辺削除 2］ 169
X.10. ［編集］－［多角指定図形削除］ 169
X.11. ［編集］－［多角指定コピー］ 170
X.12. ［編集］－［多角指定移動］ 171
X.13. ［編集］－［多角指定回転］ 171
X.14. ［編集］－［多角指定二点］ 172
X.15. ［編集］－［多角指定移動２］ 172
X.16. ［編集］－［全頂点頭文字追加］ 173
X.17. ［編集］－［点名連番付与］ 173
X.18. ［編集］－［画地･ライン点名連番付与］ 174
X.19. ［編集］－［点名重複チェック］ 174
X.20. ［編集］－［描画順序交換］ 175
X.21. ［編集］－［図形正視化］ 175
X.22. ［編集］－［オブジェクト］ 176
X.22.1. ［編集］－［オブジェクト］－［オブジェクトの作成と貼り付け］ 176
X.22.2. ［編集］－［オブジェクト］－［OLE 一覧］ 176
X.22.3. ［編集］－［オブジェクト］－［リンクの設定］ 177
X.22.4. ［編集］－［オブジェクト］－［オブジェクト］ 178
X.22.5. ［編集］－［オブジェクト］－［ＯＬＥクリア］ 178
X.23. ［編集］－［コピー(クリップボード)(１)］ 179
X.24. ［編集］－［ライン指示編集］ 179
X.25. ［編集］－［多角指定編集］ 181
X.26. ［編集］－［背景画地選択］ 182
X.27. ［編集］－［図形多角選択］ 182
X.28. ［編集］－［線種変更］ 182
X.29. ［編集］－［多角指定杭種一括設定］ 183
X.30. ［編集］－［多角指定備考一括設定］ 183
XI. テキスト 184
XI.1. ［テキスト］－［作成］ 184
XI.1.1. ［テキスト］－［作成］－［テキスト］ 184
XI.1.2. ［テキスト］－［作成］－［距離テキスト作成］ 185
XI.2. ［テキスト］－［個別選択編集］ 186
XI.3. ［テキスト］－［多角指定選択編集］ 187
XI.4. ［テキスト］－［角度変更］ 188
XI.5. ［テキスト］－［位置変更］ 189
XI.6. ［テキスト］－［引出し線］ 190
XI.6.1. ［テキスト］－［引き出し線］－［作成］ 190
XI.6.2. ［テキスト］－［引き出し線］－［削除］ 190
XI.6.3. ［テキスト］－［引き出し線］－［カスタム色設定］ 191
XI.6.4. ［テキスト］－［引き出し線］－［カスタム色削除］ 191
XI.7. ［テキスト］－［自動配置］ 192
XI.8. ［テキスト］－［ポリゴンテキスト自動配置］ 193
XI.9. ［テキスト］－［要素フォント･配置初期化］ 193
XI.10. ［テキスト］－［テキスト重なりチェック］ 194
XI.11. ［テキスト］－［文字サイズ変更（スケール指定）］ 194
XI.12. ［テキスト］－［旧属性変換］ 195
XI.13. ［テキスト］－［自由属性変換］ 196
XI.14. ［テキスト］－［GIS フィールド表示設定］ 196
XI.15. ［テキスト］－［要素］ 197
XI.15.1. ［テキスト］－［要素］－［頂点名］－［編集］ 197
XI.15.2. ［テキスト］－［要素］－［頂点名］－［角度］ 197
XI.15.3. ［テキスト］－［要素］－［頂点名］－［テキストへ］ 198
XI.15.4. ［テキスト］－［要素］－［頂点名］－［引出し線］ 199
XI.15.5. ［テキスト］－［要素］－［頂点名］－［位置変更］ 199
XI.15.6. ［テキスト］－［要素］－［地番］－［編集］ 200
XI.15.7. ［テキスト］－［要素］－［地番］－［地番･点名→テキストへ］ 200
XI.15.8. ［テキスト］－［要素］－［地番］－［引出し線］ 201
XI.15.9. ［テキスト］－［要素］－［画地面積］－［位置編集］ 201

XI.15.10. ［テキスト］－［要素］－［画地面積］－［面積→テキスト］ 202
XI.15.11. ［テキスト］－［要素］－［画地面積］－［引出し線］ 202
XI.15.12. ［テキスト］－［要素］－［属性］－［位置編集］ 202
XI.15.13. ［テキスト］－［要素］－［属性］－［引出し線］ 203
XI.15.14. ［テキスト］－［要素］－［編集］ 203
XI.15.15. ［テキスト］－［要素］－［個別文字設定］ 204
XI.15.16. ［テキスト］－［要素］－［個別文字設定解除］ 204
XI.15.17. ［テキスト］－［要素］－［属性設定］ .. 205
XI.15.18. ［テキスト］－［要素］－［レイヤ指定テキスト化］ 206

XII. 計算 207
XII.1. ［計算］－［方向･距離］ 207
XII.2. ［計算］－［延長］ 207
XII.2.1. ［計算］－［延長］－［図形指定］ 207
XII.2.2. ［計算］－［延長］－［辺指定］ 208
XII.2.3. ［計算］－［延長］－［レイヤ別］ 208
XII.2.4. ［計算］－［延長］－［全延長計算］ 209
XII.3. ［計算］－［面積］ 210
XII.3.1. ［計算］－［面積］－［点指定］ 210
XII.3.2. ［計算］－［面積］－［ポリゴン合計］ 211
XII.3.3. ［計算］－［面積］－［範囲合計］ 211
XII.3.4. ［計算］－［面積］－［レイヤ別］ 212
XII.3.5. ［計算］－［面積］－［ラインバッファ検索］ 212
XII.4. ［計算］－［計算点］ 213
XII.4.1. ［計算］－［計算点］－［交点］ 213
XII.4.2. ［計算］－［計算点］－［交点（確認有）］ 214
XII.4.3. ［計算］－［計算点］－［４点交点(ライン上単点)］ 215
XII.4.4. ［計算］－［計算点］－［直交交点］ 215
XII.4.5. ［計算］－［計算点］－［３円交点］ 216
XII.4.6. ［計算］－［計算点］－［中間点］ 216
XII.4.7. ［計算］－［計算点］－［等間隔点］ 217
XII.4.8. ［計算］－［計算点］－［等分点］ 218
XII.4.9. ［計算］－［計算点］－［延長点］ 218
XII.4.10. ［計算］－［計算点］－［平行点］ 219
XII.4.11. ［計算］－［計算点］－［オフセット点］. 220
XII.4.12. ［計算］－［計算点］－［平均点］ 220
XII.5. ［計算］－［コンパス計算］ 221
XII.5.1. ［計算］－［コンパス計算］－［コンパス開放路線作成］ 221
XII.5.2. ［計算］－［コンパス計算］－［コンパス結合路線作成］ 221
XII.5.3. ［計算］－［コンパス計算］－［コンパスパネルを開く］ 221

XIII. DB（オプション） 222
XIII.1. DB オプションの基本..... 222
XIII.1.1. GIS キー 223
XIII.1.2. GIS 機能アイコン 226
XIII.2. ［DB］－［DB 一覧表示］ 227
XIII.3. ［DB］－［ソート設定］ 238
XIII.4. ［DB］－［検索］ 239
XIII.5. ［DB］－［GIS 配色設定］ 244
XIII.6. ［DB］－［印刷･出力］ 245
XIII.6.1. ［DB］－［印刷･出力］－［一覧表印刷］ 245
XIII.6.2. ［DB］－［印刷･出力］－［台帳印刷］ 246
XIII.6.3. ［DB］－［印刷･出力］－［Excel 出力］ 254
XIII.6.4. ［DB］－［印刷･出力］－［CSV 出力］255
XIII.7. ［DB］－［GIS 設定］ 256
XIII.7.1. ［DB］－［GIS 設定］－［ＧＩＳ基本設定］ 256
XIII.7.2. ［DB］－［GIS 設定］－［新規･変更］ 281
XIII.7.3. ［DB］－［GIS 設定］－［フィールド一括登録］ 283
XIII.7.4. ［DB］－［GIS 設定］－［レコード自動追加］ 284
XIII.7.5. ［DB］－［GIS 設定］－［GIS キー］... 285
XIII.7.6. ［DB］－［GIS 設定］－［フィールド連結］ 289
XIII.7.7. ［DB］－［GIS 設定］－［フィールド文字置換］ 290
XIII.8. ［DB］－［AssistDB 操作］ 291
XIII.8.1. ［DB］－［AssistDB 操作］－［DB レコード

→選択画地データ転送（キー以外）］..... 291
XIII.8.2. ［DB］－［AssistDB 操作］－［全 DB→全画地同一キーデータ転送］..... 292
XIII.8.3. ［DB］－［AssistDB 操作］－［背景画地地番転送］..... 292
XIII.8.4. ［DB］－［AssistDB 操作］－［背景画地林齢更新］..... 293
XIII.8.5. ［DB］－［AssistDB 操作］－［背景画地・所有者 MDB フィールド設定］..... 294
XIII.9. ［DB］－［EXCEL 連動］..... 295
XIII.9.1. ［DB］－［EXCEL 連動］－［連動設定］..... 295
XIII.9.2. ［DB］－［EXCEL 連動］－［起動］... 297
XIII.9.3. ［DB］－［EXCEL 連動］－［検索］... 298
XIII.9.4. ［DB］－［EXCEL 連動］－［表示］－［一覧形式表示］..... 299
XIII.9.5. ［DB］－［EXCEL 連動］－［表示］－［標準表示］..... 299
XIII.9.6. ［DB］－［EXCEL 連動］－［表示］－［表示位置変更］..... 300
XIII.9.7. コマンドバー表示/非表示 300
XIII.9.8. ［DB］－［EXCEL 連動］－［終了］... 300
XIV. 表示..... 301
XIV.1. ［表示］－［再表示］..... 301
XIV.2. ［表示］－［ズーム］..... 301
XIV.3. ［表示］－［ドラッグ］..... 302
XIV.4. ［表示］－［ルーペ機能］..... 303
XIV.5. ［表示］－［点名］..... 303
XIV.6. ［表示］－［地番］..... 304
XIV.7. ［表示］－［ライン名称］..... 304
XIV.8. ［表示］－［画地確認］..... 304
XIV.9. ［表示］－［図形別］..... 305
XIV.9.1. ［表示］－［図形別］－［図形別表示（1）］..... 305
XIV.9.2. ［表示］－［図形別］－［図形別点滅（2）］..... 305
XIV.10. ［表示］－［ユーザー定義］..... 305
XIV.11. ［表示］－［フォント］..... 306
XIV.11.1. ［表示］－［フォント］－［印刷頂点名］..... 306
XIV.11.2. ［表示］－［フォント］－［印刷地番］.. 306
XIV.11.3. ［表示］－［フォント］－［固定地番］.. 307
XIV.11.4. ［表示］－［フォント］－［面積］..... 307
XIV.12. ［表示］－［固定点名設定］..... 308
XIV.13. ［表示］－［ツールバーとドッキングウィンドウ］..... 309
XIV.14. ［表示］－［ツールバー設定］..... 316
XIV.14.1. ［表示］－［ツールバー設定］－［一括表示設定］..... 316
XIV.14.2. ［表示］－［ツールバー設定］－［ツールバー配置保存］..... 316
XIV.14.3. ［表示］－［ツールバー設定］－［ツールバー再配置］..... 316
XIV.14.4. ［表示］－［ツールバー設定］－［ツールバー固定化］..... 316
XIV.14.5. ［表示］－［ツールバー設定］－［グループレイヤツールバー幅設定］..... 317
XIV.14.6. ［表示］－［ツールバー設定］－［レイヤツールバー幅設定］..... 317
XIV.14.7. ［表示］－［ツールバー設定］－［ポイントバー高さ設定］..... 317
XIV.14.8. ［表示］－［ツールバー設定］－［デフォルト設定］..... 317
XIV.15. ［表示］－［ステータスバー］..... 318
XIV.16. ［表示］－［フルスクリーン表示］..... 318
XIV.17. ［表示］－［チェック］..... 319
XIV.17.1. ［表示］－［チェック］－［点名未記入チェック］..... 319
XIV.17.2. ［表示］－［チェック］－［標高チェック］319
XIV.17.3. ［表示］－［チェック］－［非閉合点チェック］..... 319
XIV.17.4. ［表示］－［チェック］－［点備考チェック］..... 320
XIV.17.5. ［表示］－［チェック］－［森林チェック］320
XIV.17.6. ［表示］－［チェック］－［Exif 情報チェック］..... 320
XIV.17.7. ［表示］－［チェック］－［コンパス情報チェック］..... 320
XIV.17.8. ［表示］－［チェック］－［閉合比チェック］..... 321
XIV.17.9. ［表示］－［チェック］－［GPS 情報チェッ

ク］ 321
XIV.17.10. ［表示］－［チェック］－［GPS 情報（未補正）チェック］ 321
XIV.17.11. ［表示］－［チェック］－［インポート点チェック（ｲﾝﾎﾟｰﾄ側）］ 321
XIV.17.12. ［表示］－［チェック］－［インポート点チェック（既存図側）］ 321
XIV.17.13. ［表示］－［チェック］－［インポート点チェック（両方）］ 321
XIV.17.14. ［表示］－［チェック］－［ログファイル作成］ 322
XIV.17.15. ［表示］－［チェック］－［点チェック解除］ 322
XIV.17.16. ［表示］－［チェック］－［二重線チェック］ 323
XIV.18. ［表示］－［地理院地図］ 324
XIV.18.1. ［表示］－［地理院地図］－［地理院地図モード］ 324
XIV.18.2. ［表示］－［地理院地図］－［電子国土利用規約］ 324
XIV.19. ［表示］－［GEOSPACE CDS］（オプション） 325
XIV.19.1. ［表示］－［GEOSPACE CDS］－［GEOSPACE モード］ 325
XIV.20. ［表示］－［OpenStreetMap］ 325
XIV.21. ［表示］－［アプリケーションの外観］ 326
XIV.22. ［表示］－［スクロール］ 326
XIV.22.1. ［表示］－［スクロール］－［GoogleMap から入力］ 326

XV. Ｇ３ １９座標系 327

XVI. ツール 329
XVI.1. ［ツール］－［プロパティ］ 329
XVI.1.1. 表示 329
XVI.1.2. 編集･補正 332
XVI.1.3. 画面 334
XVI.1.4. 単位･角度 335
XVI.1.5. オペレーション 337
XVI.1.6. 図形表示要素 340
XVI.1.7. ラスタ展開･ファイル 341
XVI.1.8. 地番･点名入力モード 342
XVI.1.9. コンパス設定 344
XVI.1.10. スナップ 345
XVI.2. ［ツール］－［自由属性］ 346
XVI.2.1. ［ツール］－［自由属性］－［基本設定］ 346
XVI.2.2. ［ツール］－［自由属性］－［表示順設定］ 348
XVI.2.3. ［ツール］－［自由属性］－［引用設定］ 349
XVI.2.4. ［ツール］－［自由属性］－［特殊設定］ 350
XVI.2.5. ［ツール］－［自由属性］－［設定入力］ 353
XVI.2.6. ［ツール］－［自由属性］－［設定出力］ 353
XVI.2.7. ［ツール］－［自由属性］－［個別配色凡例設定］ 354
XVI.2.8. ［ツール］－［自由属性］－［申請面積保持］ 355
XVI.2.9. ［ツール］－［自由属性］－［メンテナンス機能］ 355
XVI.3. ［ツール］－［レイヤ管理］ 356
XVI.3.1. ［ツール］－［レイヤ管理］－［杭種一覧設定］ 356
XVI.3.2. ［ツール］－［レイヤ管理］－［グループレイヤ管理］ 360
XVI.3.3. ［ツール］－［レイヤ管理］－［レイヤ表示設定］ 361
XVI.3.4. ［ツール］－［レイヤ管理］－［選択図形色設定］ 364
XVI.3.5. ［ツール］－［レイヤ管理］－［図形レイヤ編集］－［移動］ 364
XVI.3.6. ［ツール］－［レイヤ管理］－［図形レイヤ編集］－［コピー］ 365
XVI.3.7. ［ツール］－［レイヤ管理］－［図形レイヤ編集］－［削除］ 365
XVI.3.8. ［ツール］-［レイヤ管理］-［図形レイヤ編集］-［選択図形移動］ 366
XVI.3.9. ［ツール］-［レイヤ管理］-［図形レイヤ編集］-［選択図形コピー］ 367
XVI.3.10. ［ツール］-［レイヤ管理］-［図形レイヤ編集］-［選択図形削除］ 368

XVI.3.11. ［ツール］-［レイヤ管理］-［図形レイヤ編集］-［一括レイヤ移動・コピー・削除］ 369
XVI.3.12. ［ツール］-［レイヤ管理］-［図形レイヤ編集］-［ByData・ByEdge 削除］ 369
XVI.3.13. ［ツール］－［レイヤ管理］－［システム→データレイヤ（Ｄ）］ 370
XVI.3.14. ［ツール］－［レイヤ管理］－［データ→システムレイヤ（Ｓ）］ 371
XVI.3.15. ［ツール］－［レイヤ管理］－［ポリゴン基本色設定（G）］ 372
XVI.3.16. ［ツール］－［レイヤ管理］－［グループレイヤ間設定コピー］ 372
XVI.3.17. ［ツール］－［レイヤ管理］－［杭種・森林属性入出力］－［杭種入力］ 372
XVI.3.18. ［ツール］－［レイヤ管理］－［杭種・森林属性入出力］－［杭種出力］ 372
XVI.4. ［ツール］－［補正］ 373
XVI.4.1. ［ツール］－［補正］－［基準点］ 373
XVI.4.2. ［ツール］－［補正］－［基準点］－［左下］ 374
XVI.4.3. ［ツール］－［補正］－［基準点］－［4点］ 375
XVI.4.4. ［ツール］－［補正］－［基準点］－［数点］ 376
XVI.4.5. ［ツール］－［補正］－［基準点］－［編集］ 377
XVI.4.6. ［ツール］－［補正］－［基準点］－［移動］ 377
XVI.4.7. ［ツール］－［補正］－［基準点］－［削除］ 377
XVI.4.8. ［ツール］－［補正］－［基準メッシュ］ .. 378
XVI.4.9. ［ツール］－［補正］－［基準メッシュ］－［追加］ 378
XVI.4.10. ［ツール］－［補正］－［基準メッシュ］－［削除］ 378
XVI.4.11. ［ツール］－［補正］－［補正条件］ 379
XVI.4.12. ［ツール］－［補正］－［４点自動］ 380
XVI.4.13. ［ツール］－［補正］－［2 点補正］ 382
XVI.4.14. ［ツール］－［補正］－［係数確認］ 383
XVI.4.15. ［ツール］－［補正］－［ラスタ］ 384
XVI.4.16. ［ツール］－［補正］－［補正方法］ 385
XVI.4.17. ［ツール］－［補正］－［測地成果２０００］ 386
XVI.4.18. ［ツール］－［補正］－［座標系変換］ 389
XVI.4.19. ［ツール］－［補正］－［座標パラメータ］ 389
XVI.5. ［ツール］－［３D 連動］ 390
XVI.5.1. ［ツール］－［３D 連動］－［３D 連動アプリ選択］ 390
XVI.5.2. ［ツール］－［３D 連動］－［３D 表示］－［範囲指定］ 390
XVI.5.3. ［ツール］－［３D 連動］－［３D 表示］－［ベクタ指定］ 391
XVI.5.4. ［ツール］－［３D 連動］－［３D 表示］－［3D データのリンク］ 392
XVI.5.5. ［ツール］－［３D 連動］－［３D 表示］－［保存データの表示］ 392
XVI.6. ［ツール］－［外部ベクタ］ 392
XVI.6.1. ［ツール］－［外部ベクタ］－［外部ベクタ読込み］ 392
XVI.6.2. ［ツール］－［外部ベクタ］－［外部ベクタ出力］ 393
XVI.6.3. ［ツール］－［外部ベクタ］－［管理ファイル選択］ 393
XVI.7. ［ツール］－［ラスタ設定］ 394
XVI.8. ［ツール］－[階層ラスタ] 400
XVI.8.1. ［ツール］－[階層ラスタ］－［階層ラスタリンク設定］ 400
XVI.8.2. ［ツール］－［階層ラスタ］－［階層ラスタ切替］ 403
XVI.8.3. ［ツール］－［階層ラスタ］－［他ファイルから階層ラスタ設定読み込み］ 403
XVI.8.4. ［ツール］－［階層ラスタ］－［階層ラスタ表示設定］ 403
XVI.9. ［ツール］－［外部ラスタ表示設定］ 404
XVI.10. ［ツール］－［外部ラスタ順序変更］ 404
XVI.11. ［ツール］－［外部ラスタパス確認］ 405
XVI.12. ［ツール］－［ラスタエクスポート］ 405
XVI.13. ［ツール］－［外部ラスタ wld エクスポート］ 406
XVI.14. ［ツール］－［簡易ライン］ 407
XVI.15. ［ツール］－［簡易ライン表示］ 408

XVI.16. ［ツール］－［簡易ライン編集］ 408
XVI.16.1. ［ツール］－［簡易ライン編集］－[線幅設定］－［多角指定］ 408
XVI.16.2. ［ツール］－［簡易ライン編集］－[線幅設定］－［全体］ 408
XVI.16.3. ［ツール］－［簡易ライン編集］－[色］ . 409
XVI.17. ［ツール］－［図面の余白調整］ 409
XVI.18. ［ツール］－［地籍ツール］ 410
XVI.18.1. ［ツール］－［地籍ツール］－［画地情報を Excel で編集］ 410
XVI.18.2. ［ツール］－［地籍ツール］－［画地情報インポート］ 411
XVI.18.3. ［ツール］－［地籍ツール］－［画地情報エクスポート］ 411
XVI.18.4. ［ツール］－［地籍ツール］－［図形有り画地情報エクスポート］ 412
XVI.18.5. ［ツール］－［地籍ツール］－［自由属性フィールド値加算］ 412
XVI.18.6. ［ツール］－［地籍ツール］－［空レコード作成］ 413
XVI.18.7. ［ツール］－［地籍ツール］－［属性情報の使用状況確認］ 413
XVI.18.8. ［ツール］－［地籍ツール］－［ポイント自由属性を Excel で編集］ 414
XVI.18.9. ［ツール］－［地籍ツール］－［ライン自由属性を Excel で編集］ 414
XVI.19. ［ツール］－［地番・点名機能］ 415
XVI.19.1. ［ツール］—［地番・点名機能］—［地番点名検索］ 415
XVI.19.2. ［ツール］—［地番・点名機能］—［全角文字チェック］ 418
XVI.20. ［ツール］－［特殊検索］ 419
XVI.21. Exif オプション（オプション） 420
XVI.21.1. ［ツール］－［Exif オプション］－［Exif 取込］ 420
XVI.21.2. ［ツール］－［Exif オプション］－［Exif 矢印一括変更］ 424
XVI.21.3. ［ツール］－［Exif オプション］－［矢印→簡易ライン］ 425
XVI.21.4. ［ツール］－［Exif オプション］－［画像フィールド選択］ 426
XVI.21.5. ［ツール］－［Exif オプション］－［新規画像取込］ 427
XVI.21.6. ［ツール］－［Exif オプション］－［画像入替］ 429
XVI.21.7. ［ツール］－［Exif オプション］－［台帳手動設定］ 430
XVI.21.8. ［ツール］－［Exif オプション］－［DB→単点］ 431
XVI.21.9. ［ツール］－［Exif オプション］－［方向矢印の表示／非表示］ 431
XVI.22. ［ツール］－［印刷/自由帳票　詳細設定］ 432
XVI.23. ［ツール］－［画面中心を GoogleMap で開く］ 432

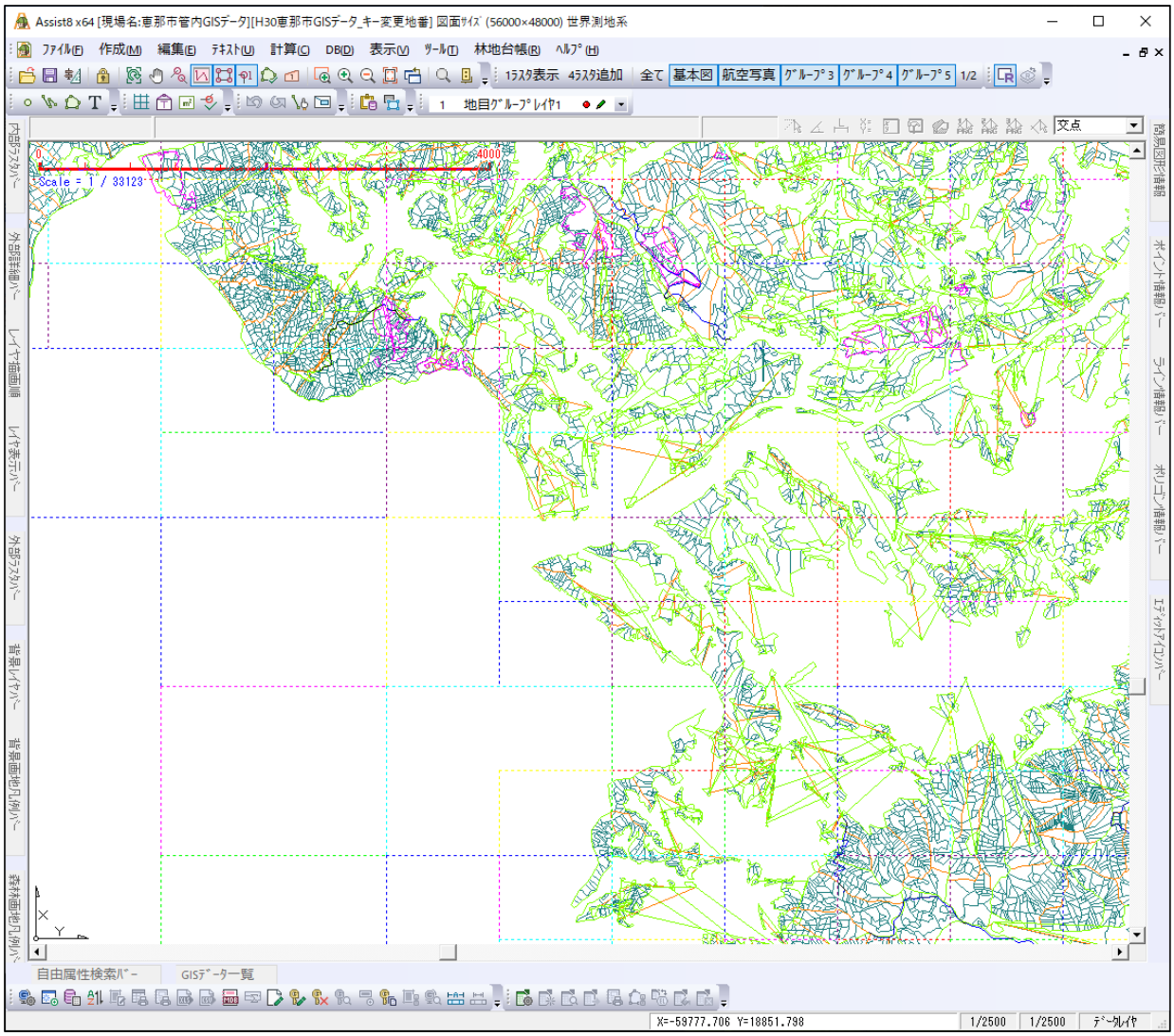
XVII. ヘルプ 433
XVII.1. ［ヘルプ］－［バージョン情報] 433
XVII.2. ［ヘルプ］－［ブラウザでサポートサイトを開く] 433
XVII.3. ［ヘルプ］－［Assist8 環境設定フォルダを開く] 433
XVII.4. ［ヘルプ］－［現場フォルダを開く] 433
XVII.5. ［ヘルプ］－［イベントエラーログ表示] 433
XVII.6. ［ヘルプ］－［ビデオツールで録画開始] 434

XVIII.　森林バーチャルビュー（オプション） 435
XVIII.1.1. 動画登録 435
XVIII.1.2. 動画箇所選択 435
XVIII.1.3. 動画削除 436
XVIII.1.4. 設定 436

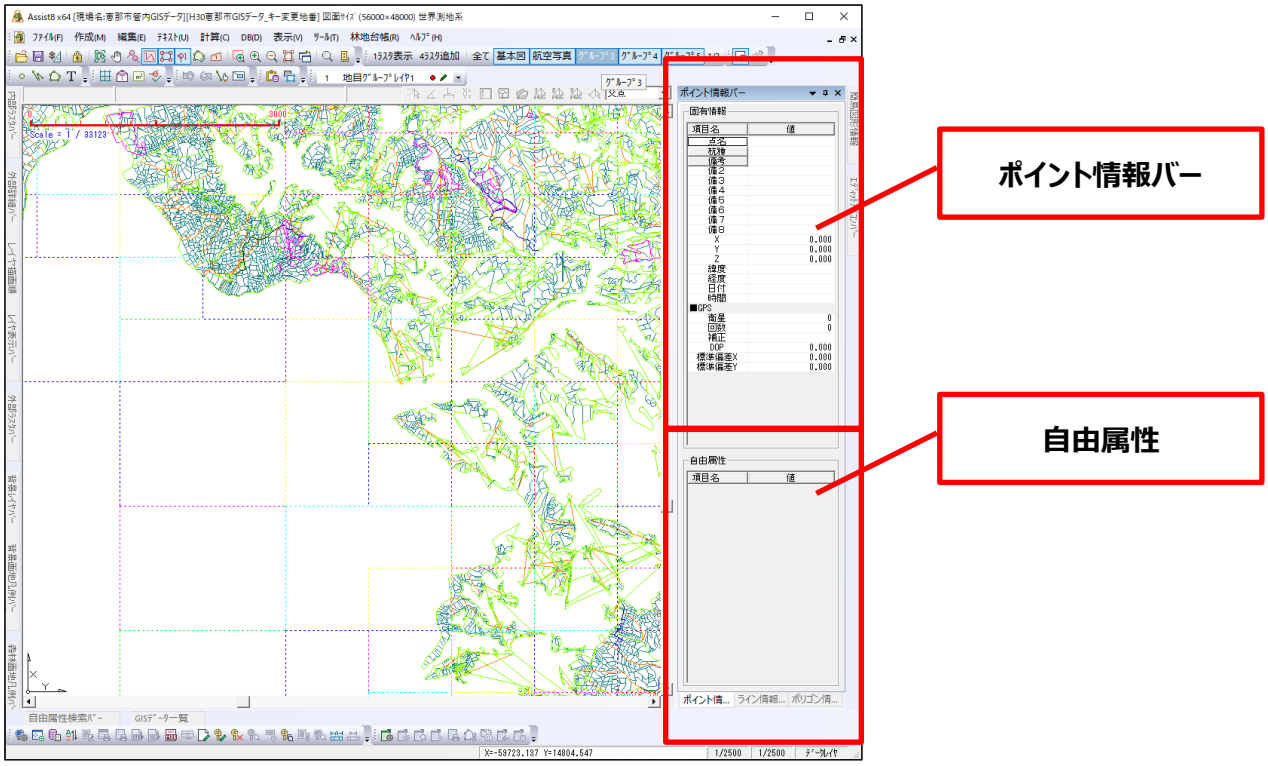
※当ガイドの画面は開発中のものであり、実際の仕様と異なる場合があります。

I. 画面表示と基本

I.1. 画面表示



I.1.1. ポイント（点）を選択した場合の画面



I.1.2. ポイント（点）を選択した状態で右ボタンクリックした際、表示されるメニューについて



同時単点移動

点を移動します。

単点削除

点を削除します。

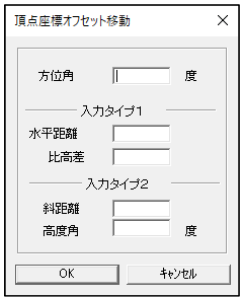
座標入力

選択された点の座標値を表示します。数値を変更してＯＫを押すと、与えられた座標値の場所に移動します。



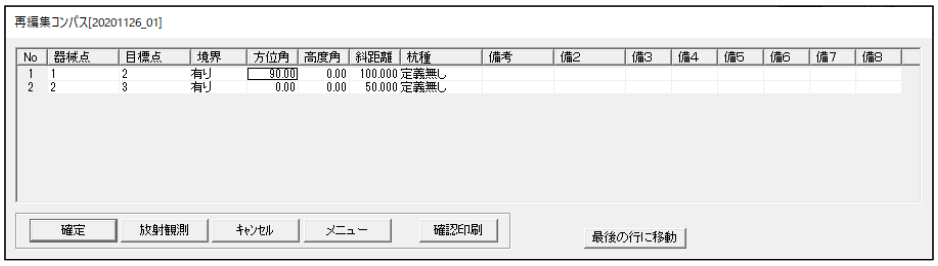
オフセット入力

オフセット計算された結果の点の座標値を表示します。



ダイレクトコンパス編集

コンパス機能で作成された点の場合は、コンパスの編集パネルが開きます。



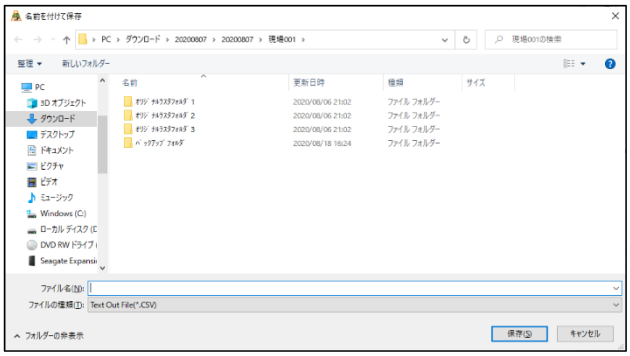
コンパスパネルを開く

コンパス機能で作成された点の場合は、コンパスパネルが開きます。

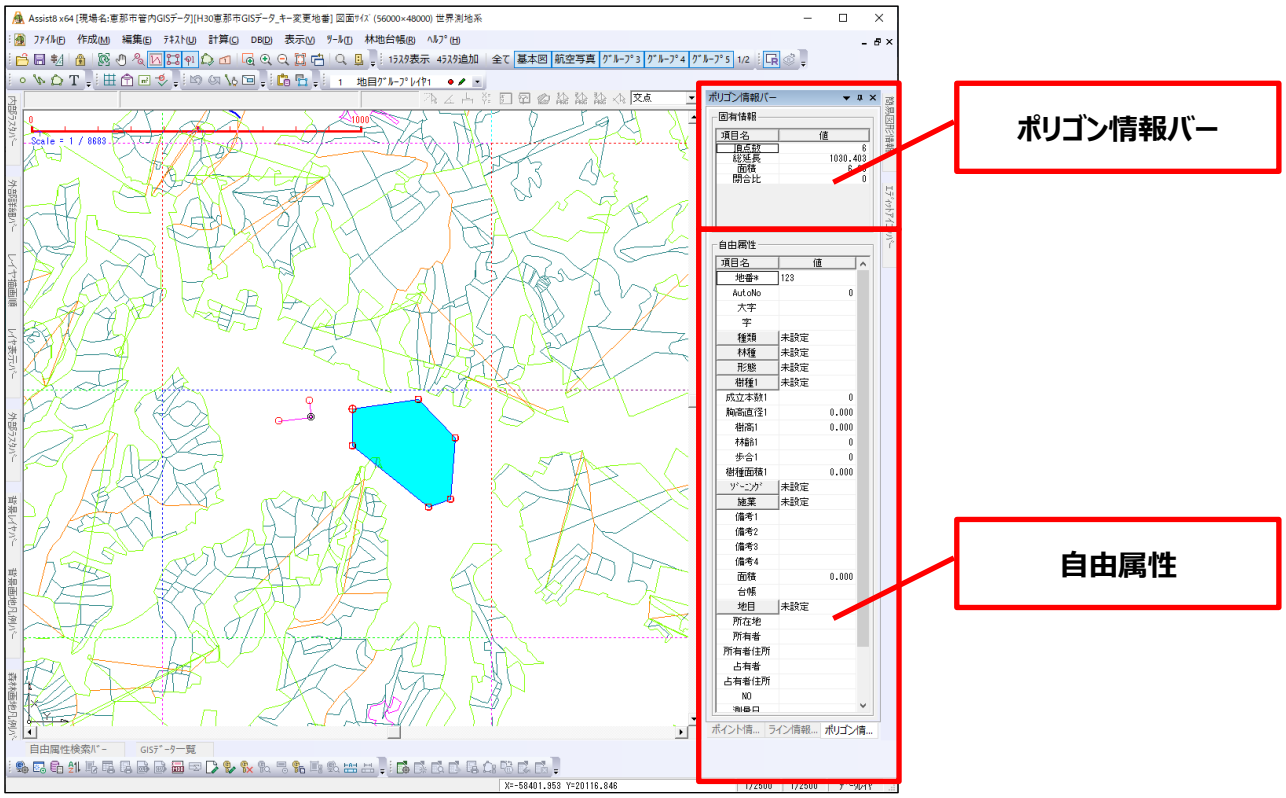


選択単点 CSV 出力

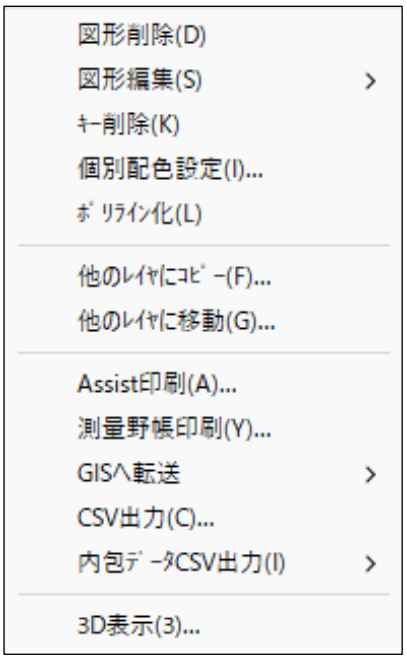
選択した単点の CSV を出力します。



I.1.3. ポリゴン（面）を選択した場合の画面



I.1.4. ポリゴン（面）を選択した状態で右ボタンクリックした際、表示されるメニューについて



図形削除

選択されたポリゴンを削除します。

図形編集

選択されたポリゴンを編集します。（移動・拡大・縮小・回転）

キー削除

キーを削除します。

個別配色設定

任意のカラーを個別に設定できます。

ポリライン化

ポリラインに変換します。

他のレイヤにコピー

他のレイヤにコピーします。

他のレイヤに移動

他のレイヤに移動します。

Assist 印刷

Assist 印刷を行います。

測量野帳印刷

選択されたポリゴンが印刷指示された状態で測量野帳印刷ウィンドウが開きます。

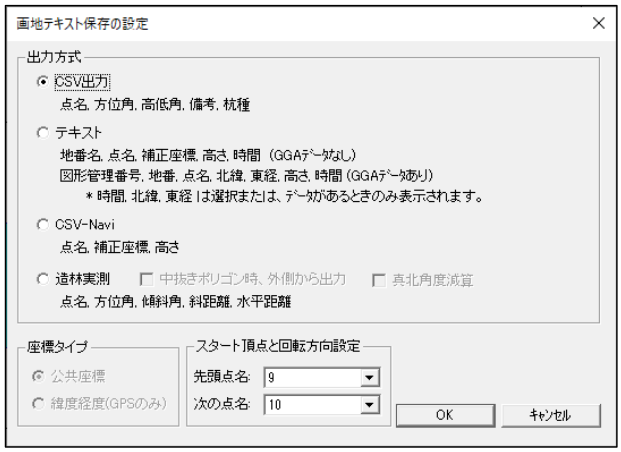
印刷設定につきましては**Ⅶ.14.1 測量野帳印刷**の印刷設定をご参照ください。

GIS へ転送

SIMA、ASS、シェープに出力します。

CSV へ出力

［画地テキスト保存の設定］ウィンドウが開きます。ポリゴン情報を CSV ファイルに出力変換します。



- 出力方法：
  - CSV 出力：点名、方位角、高低角、備考、杭種を CSV ファイルに出力・印刷します。
    「CSV ファイルの保存」ウィンドウの「印刷」ボタンをクリックすると印刷されます。
  - テキスト：地番名、点名、補正座標、高さ、時間、図形管理番号、地番、点名、北緯、東経、高さ、時間を CSV ファイルに出力します。
  - CSV-Navi：点名、補正座標、高さを CSV ファイルに出力します。
  - 造林実測：点名、方位角、傾斜角、斜距離、水平距離を CSV ファイルに出力します
- 座標タイプ：テキスト出力時のみ、公共座標か緯度経度を選択できます。
- スタート頂点と回転方向設定：始点となる頂点と、回転方向を決定する次の点名を選択します。

内包データ CSV 出力

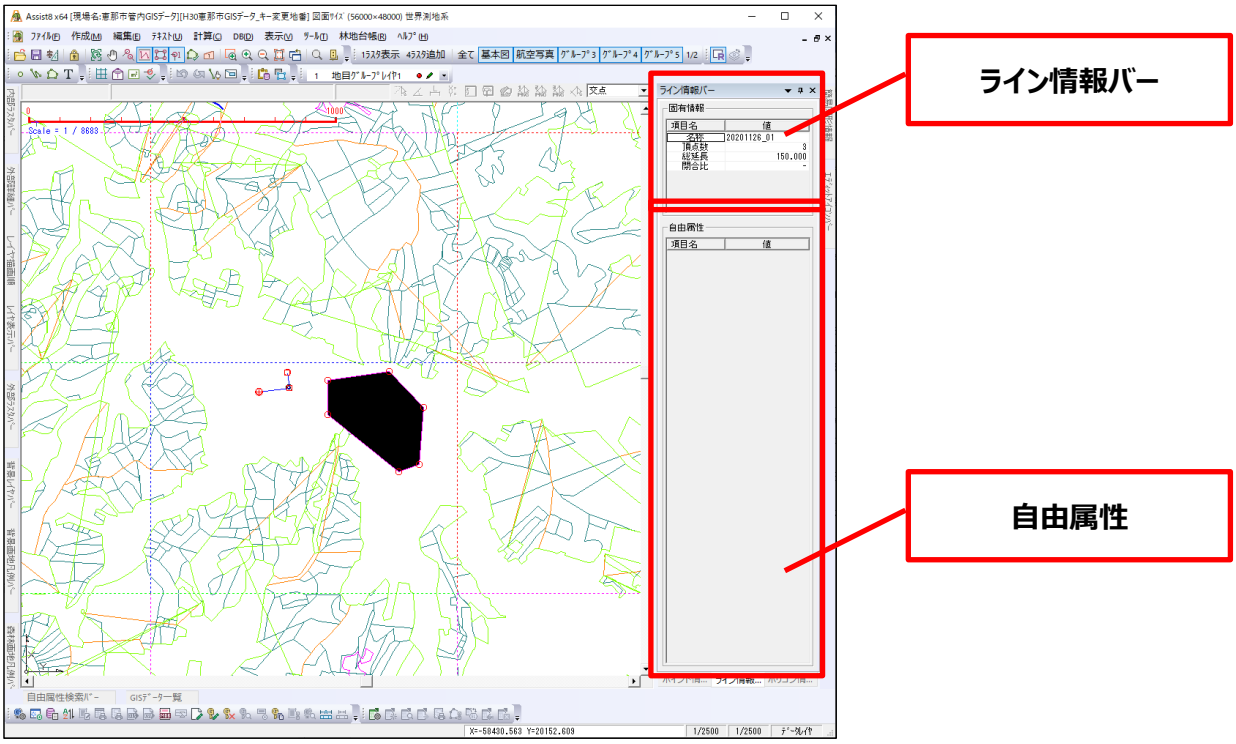
内包したデータの CSV 出力を行います。

単点 CSV 出力、ライン CSV 出力から選択できます。

3D 表示

AssistZ が起動します。（別途、システムが必要）

I.1.5. ライン（線）を選択した場合の画面



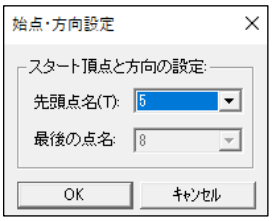
I.1.6. ライン（線）を選択した状態で右ボタンクリックした際、表示されるメニューについて



CSV 出力

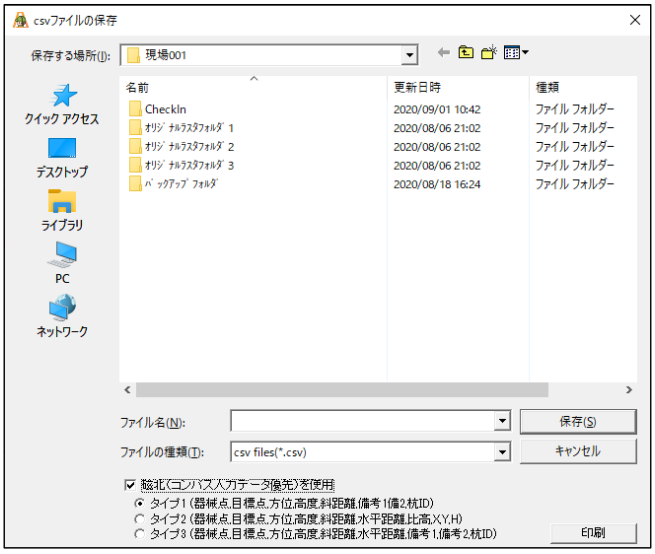
ラインを CSV 出力します。

1） CSV 出力を選択すると、［始点・方向設定］ウィンドウが開きます。



- スタート頂点と方向の設定：
  - 先頭点名：ラインの先頭点名を指定します。
  - 最後の点名：ラインの最後の点名です。先頭点名を選択すると、自動的に最後の点名が決定・表示されます。

2） 設定終了後［OK］ボタンをクリックすると、［csv ファイルの保存］ウィンドウが開きます。



- 磁北（コンパス入力データ優先）を使用：磁北を使用して出力します。
  - タイプ 1 ：器械点、目標点、方位、高度、斜距離、備考 1 、備考 2 、杭 ID を出力します。
  - タイプ 2 ：器械点、目標点、方位、高度、斜距離、水平距離、比高、X、Y 座標、H（高さ）を出力します。
  - タイプ 3：器械点、目標点、方位、高度、斜距離、水平距離、備考 1 、備考 2 、杭 ID を出力します。

3） 設定終了後［保存］ボタンをクリックすると、ラインデータが CSV で保存されます。

図形編集

選択されたポリゴンを編集します。（移動・拡大・縮小・回転）

他のレイヤにコピー

他のレイヤにコピーします。

他のレイヤに移動

他のレイヤに移動します。

Assist 印刷

Assist 印刷を行います。

路線測量印刷

選択されたラインが印刷指示された状態で路線測量　印刷ウィンドウが開きます。

印刷設定につきましては**Ⅶ.14.1 測量野帳印刷**の印刷設定をご参照ください。

I.1.7. ポリゴン、ポリライン、単点をダブルクリックした際、表示されるメニューについて

（表示タブ選択で切り替え）

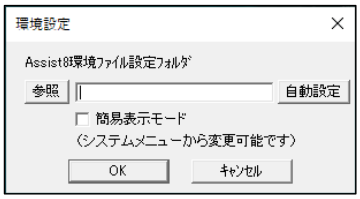
ポリゴン、ポリライン、単点をダブルクリックすると［図形情報］ウィンドウが表示されます。



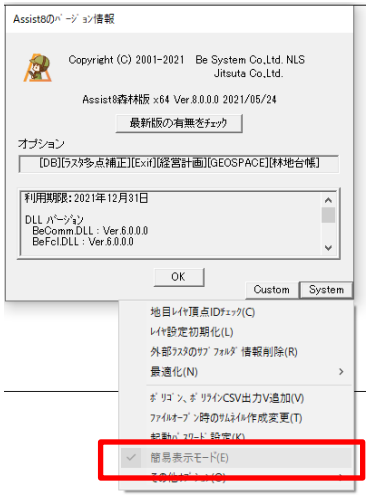
- レイヤ詳細：図形で使用されているレイヤの詳細を表示します。
- 図形詳細：図形の地番・頂点数・総延長・面積などを表示します。
- 頂点詳細：頂点の点名・Ｘ座標・Ｙ座標・Ｚ座標・辺長などを表示します。
- 属性：図形に結び付けられている属性を表示します。
- 履歴：図形の編集履歴を表示します。

I.2. 簡易表示モード

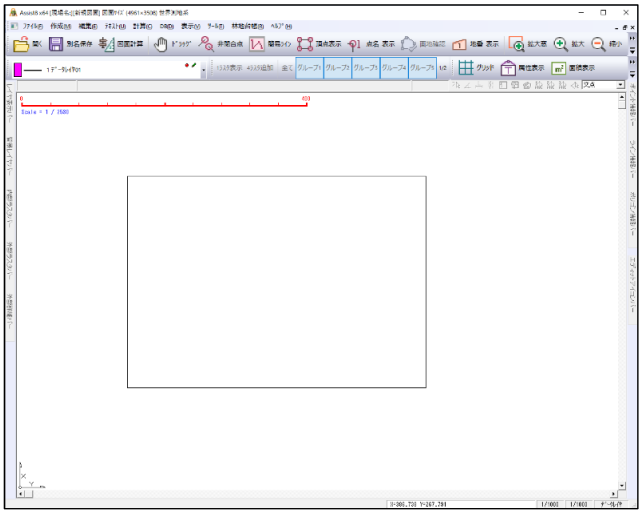
Assist8 を簡易表示で使用する事ができます。
Assist8 初回起動時に環境設定ウィンドウが表示されます。[簡易表示モード]を選択すると簡易表示モードが表示されます。



起動後は［ヘルプ］－［バージョン情報］で[Assist８のバージョン情報]ウィンドウを開いた後、［System］－［簡易表示モード］で変更が可能です。



［簡易表示モード］画面

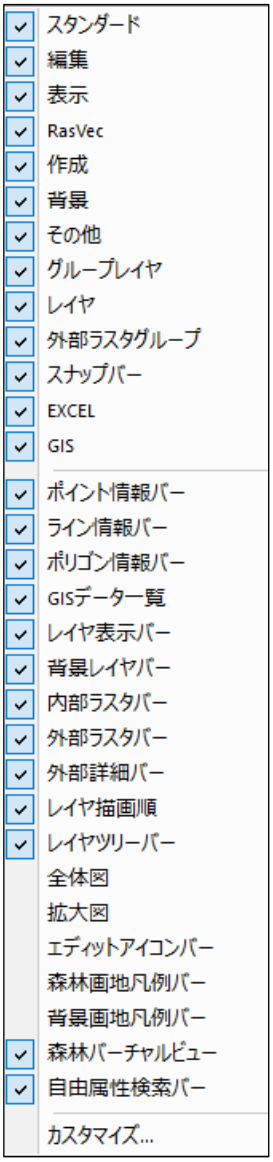


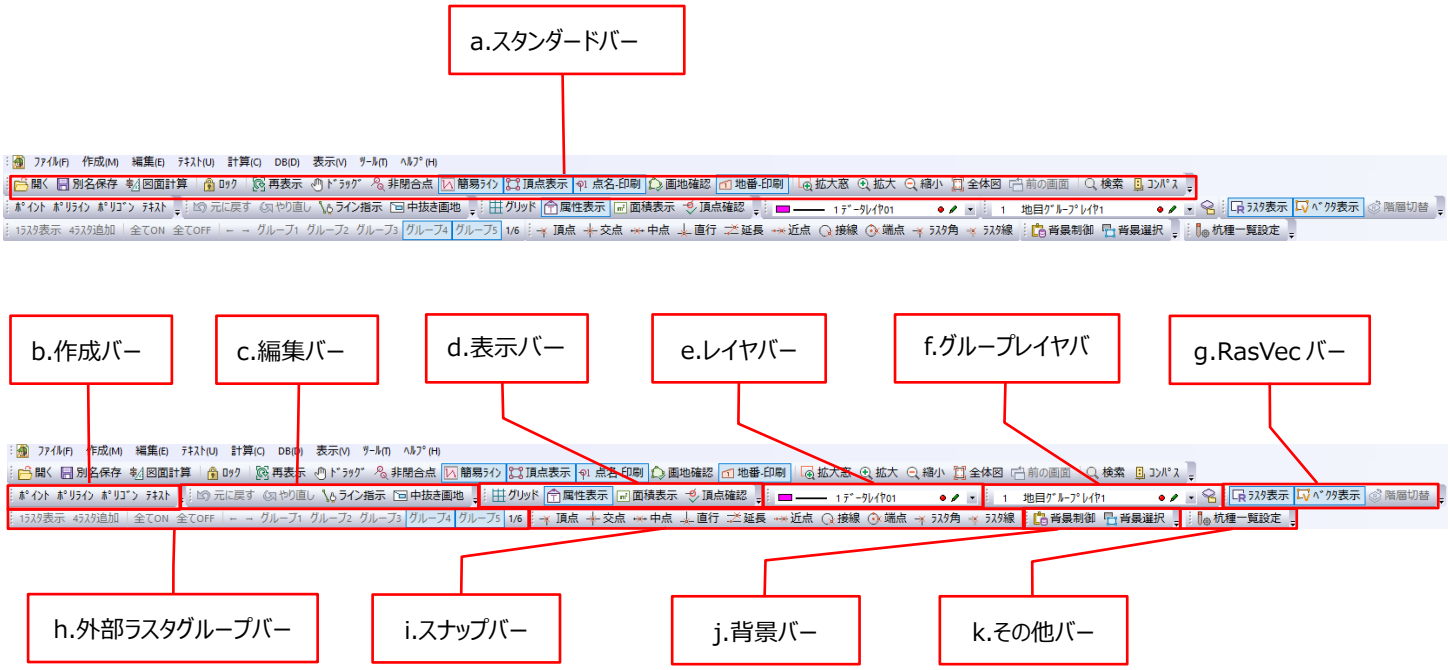
II. ツールバー

II.1.1. 各種ツールバー

［表示］－［ツールバーとドッキングウィンドウ］・［ステータスバー］

※ 表示されているツールバー上で右クリックからツールバーの表示設定ができます。





a. スタンダードバー：次章、**Ⅱ.1.2 スタンダードツールバー**をご参照ください。

b. 作成バー：ポイント、ライン、ポリゴン、テキストを作成する。

c. 編集バー：元に戻す、やり直し、ライン指示、中抜き画地。

d. 表示バー：グリット、属性、面積、頂点の表示・非表示を設定する。

e. レイヤバー：レイヤ毎に表示（線種・線の太さ・色　等）を任意に設定する。

f. グループレイヤバー：グループレイヤ毎に表示（線種・線の太さ・色　等）を任意に設定する。

g. RasVec バー：ベクタ、ラスタの表示／非表示を切り替えます。

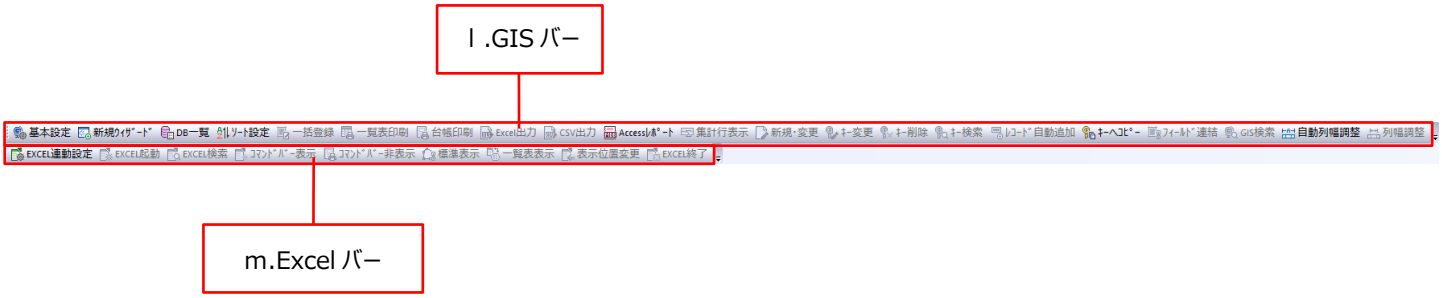
h. 外部ラスタグループバー：４枚のラスタの追加表示、グループ化したラスタ、１ラスタや４ラスタ等の表示を切り替える。

- １ラスタ表示：画面中央に近い１枚のラスタを表示します。
- ４ラスタ追加：現在表示しているラスタに４枚のラスタを追加表示します。
- 全て：グループ１～５のラスタを全て表示します。
- グループ１～５：グループ１～５を選択します。表示状態であれば、選択したグループのみのラスタを表示します。

i. スナップバー：指定した部分がスナップモードになります。

j. 背景バー：背景制御、背景選択を行います。

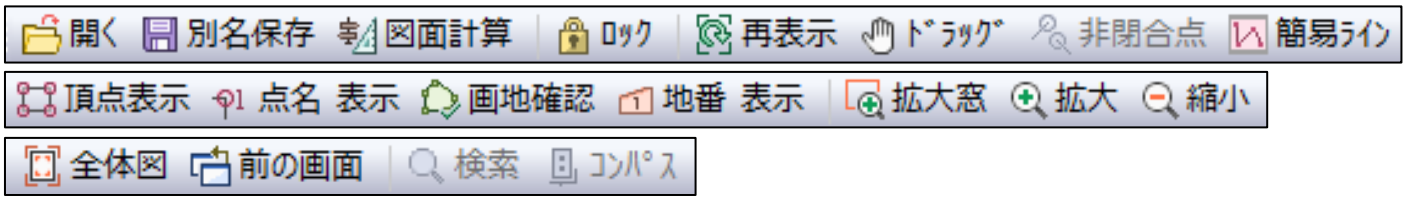
k. その他バー：杭種一覧設定を行います。



l. GIS バー：DB オプション使用時に表示。DB データの抽出、背景レイヤ選択。

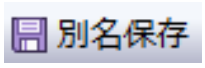
m. Excel バー：Excel と連動します。

II.1.2. スタンダードツールバー

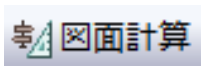




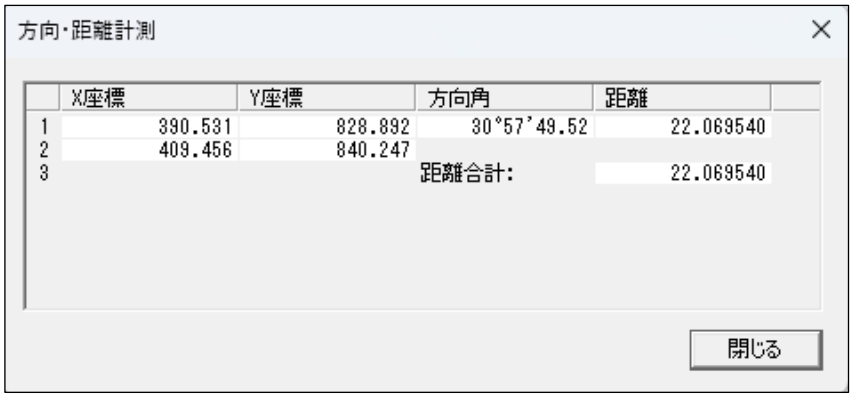
開く：Assist8 ファイルを開く



別名保存：現在作成中の図面を保存



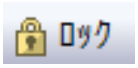
図面計算：画面上の方向と距離を表示



1） 方向・距離計算アイコンを押す

2） 画面上の任意点をヒット

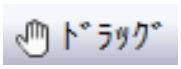
3） 終了はダブルクリック



ロック：図面を編集できないようにする。長押しで解除します。

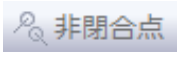


再表示：位置と縮尺はそのままで地図を再表示する。

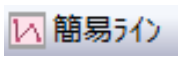


ドラッグ：ハンドカーソルと矢印カーソルの変更（矢印カーソルは事務所での編集作業向け）

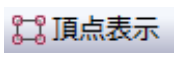
アイコンを押すと“矢印カーソル”が“ハンドカーソル”に変わる。
矢印カーソルの場合は、右クリックしたままでスクロールができる。



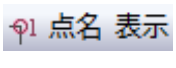
非閉合点：非閉合点以外（頂点記号、点名）を非表示にする。



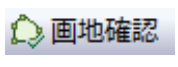
簡易ライン表示/非表示：［ツール］－［簡易ライン］で作成した図を表示する。



頂点表示：プロットマーク（杭種マーク）を表示する。



頂点名表示：点名（杭番号）を表示する。続けてクリックで可変頂点名を表示する。



画地確認：閉図形（画地）を網掛け表示する。

地番 表示 地番表示：閉図形（画地）の地番を表示する。続けてクリックで可変地番を表示する。

地番-固定：可変、地番-印刷：可変なし（印刷ビューモード）

拡大窓 拡大窓：図面エリアで拡大したい場所を矩形で指示。

拡大 拡大：場所はそのままで拡大。

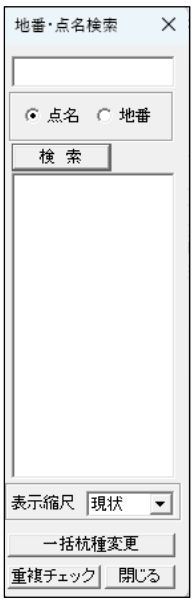
縮小 縮小：場所はそのままで縮小。

全体図 全体図：図面エリア全体を表示。

前の画面 前の画面：部分拡大、拡大、縮小、全体図などで行なった図面表示を一つ戻す。

検索 検索：点名、地番、画地情報を検索する。

検索したい点名、地番、画地情報を入力し、検索ボタンをクリックすると検索結果の一覧が表示される。検索結果をクリックすると自動スクロールし該当データが表示される。

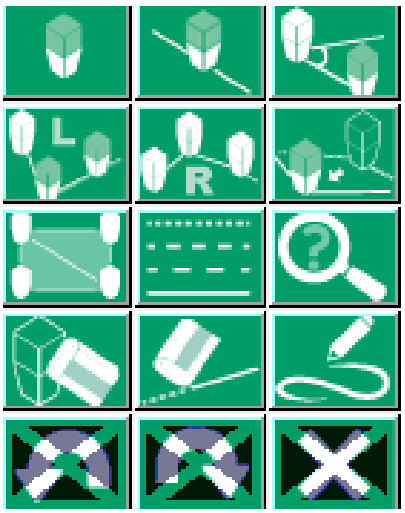


コンパス コンパスメニュー：開放路線の作成、結合路線の作成、コンパスパネル表示による編集が可能。



II.1.3. エディットツールバー

①	②	③
④	⑤	⑥
⑦	⑧	⑨
⑩	⑪	⑫
⑬	⑭	⑮



アイコンの意味

- 赤い杭マーク：これから作成する点　白の杭マーク…既にある点
- [×]：現在動作中のモードを解除し、何も選択していない状態になる。

操作の順序

1） ①～⑫のボタンをクリックします。

2） 画面上に持っていって、＋ で指示します。

各ボタンの説明

① ポイント作成：図面上をヒットすると単独の点を作ります。（終了は[×]および右クリック）

② ライン上ポイント追加：図面上のラインの近くでヒットするとライン上に点を作ります。
（終了は[×] および右クリック）

③ オフセットポイント作成：既にある点を 1 度ヒットしマウスを移動させると、現地離れ（m）を表示し、
作りたい場所で再度ヒットすると単点を作成（終了は[×] および右クリック）

④ 頂点上ライン作成：既存点を 1 度ヒットし、再度ヒットすると点を作成すると同時にラインを作成します。
2 点目以降は、右ボタンクリックで既存点を選択（一旦終了は最後の点で
ダブルクリック、全て終了は[×]）

⑤ 頂点上ライン作成Ｒ：既にある点を 1 度ヒットし、次に既にある点をヒットすると点間にラインを作成します。
右ボタンクリックで新点作成（一旦終了は最後の点でダブルクリック、
全て終了は[×]）

⑥ 頂点移動：既にある頂点を 1 度ヒットし、再度移動したい場所でヒットすると頂点が移動します。
同時にラインも移動します。隣り合わせの筆の筆界座標も同時に変わります。
（終了は[×] および右クリック）

⑦ 自動ポリゴン化：閉図形を自動判断し、筆を作成します。

⑧ 線種変更：指示した線を線種変更バーで選択している線種に変えます。

⑨ 地番・点名検索：点名や地番を探す。見つかると画面中央に表示します。

⑩ ポイント削除：点の削除。筆の構成点を削除しても筆はその点が無い状態で記録されます。

⑪ 一辺削除：筆界線の削除。筆の構成点を削除すると筆情報は無くなります。
⑫ 簡易ライン：データとは別の線分や文字を手書で図面上に記入します。
⑬ 元に戻す：動作を戻します。
⑭ やり直す：戻した動作を、元通りにします。
⑮ ×：現在動作中のモードを解除し、何も選択しない状態になりなます。

III. 杭番号

III.1. 杭番号の入力

自動連番の ON／OFF や点名の頭文字設定は［プロパティ］－［地番・点名入力モード］をご参照ください。



特徴

1.［ツール］－［プロパティ］－［地番・点名入力モード］の［自動連番］にチェックが入っている場合は、次の杭番号は、最後に入力した杭番号に 1 加算されます。

2.点名入力時に ENTER を押さなくても良い。点名入力後、違うモードに

3.移った時に、システム内部で入力の動作を行います。

4.システムを起動時には、データ内の杭番号の最大値＋ 1 を必ず表示します。
（交点杭も同様）

5.点名が重複した場合は、点名入力後次の動作を行おうとしたときに、警告を表示します。

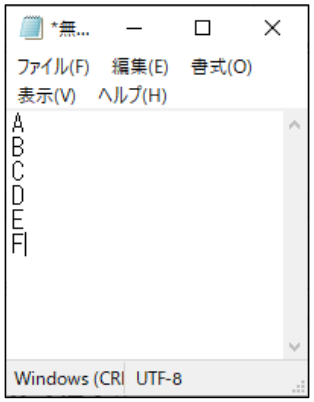
6.過年度点との重複は警告を表示しません。

III.1.1. 点名の頭文字挿入

常に同じ頭文字を使用する場合は、［ツール］－［プロパティ］－［地番・点名入力モード］の杭番号頭文字でセットしてください。一つの現場で頻繁に頭文字が変更される場合は、下記の方法でご使用ください。

事前準備

Windows のメモ帳やワードパットで、挿入したい文字のリストを作成し、tenmei.txt（テキストファイル）で、使用する現場フォルダ内に保存します。

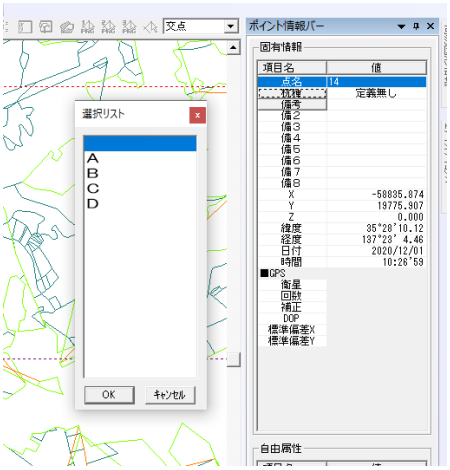


都度、挿入文字が変更される場合

点を作成すると、点名の文字列の先頭にカーソルが点滅します。そのまま[点名]を押すとリストが

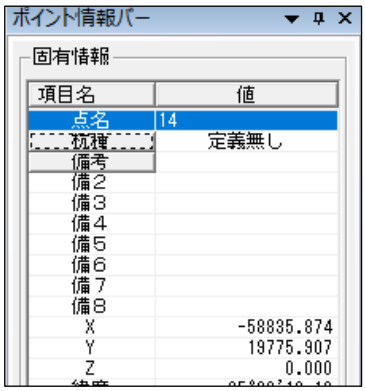
表示されるので、リストの中から挿入したい文字を選択します。

マウスを文字列の途中でヒットし、カーソルを移動することで途中の挿入も可能です。



挿入文字があまり変更されない場合

マウスで空白箇所をヒットすると直接テキストを入力することができます。



注意

1. 末尾にアルファベットを挿入は可能ですが、自動連番との併用は不可です。
   末尾が数字ではないため＋１を行えません。したがって、末尾にアルファベットを挿入する場合は、ツールのプロパティで点名自動連番のチェックを外して使用してください。
2. プロパティの頭文字を併用すると、カーソル位置は、プロパティの頭文字の次にきます。

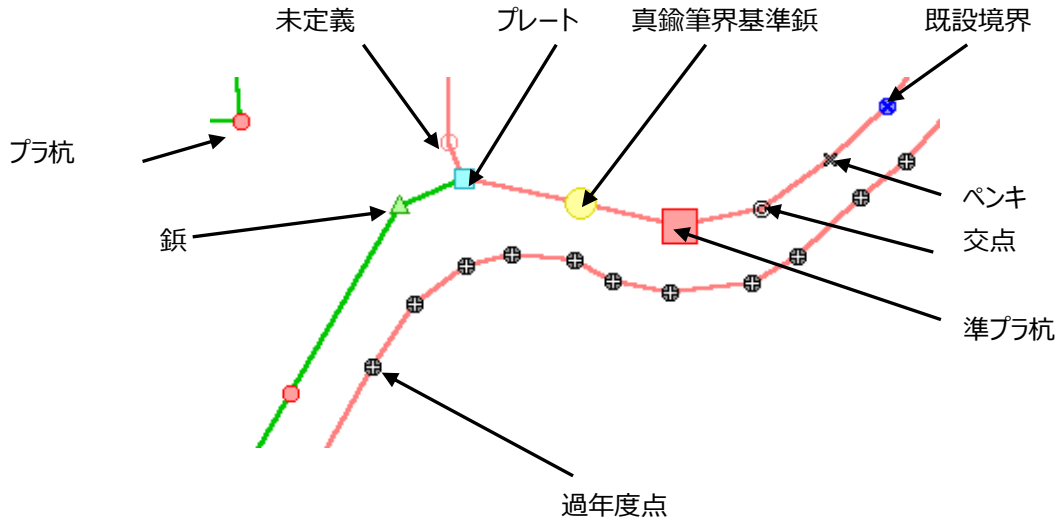
III.2. 杭種（デフォルト）

デフォルトで設定されている杭種は下記の通りです。

種類	ﾓﾉｸﾛ印刷時	表示とカラー印刷時	記号種別 ID
未定義	○	○ （赤）	0
プラ杭	●	● （赤）	1
鋲	▲	▲ （緑）	2
プレート	■	■ （青）	3
真鍮筆界基準鋲	● （1 の大きい物）	● （黄） （1 の大きい物）	4
筆界基準プラ杭	■ （3 の大きい物）	■ （赤） （3 の大きい物）	5
交点	◎	◎	6
ペンキ	×	×	7
既設境界	○ （丸に×）	○ （丸に×）	8
過年度点	○ （丸に＋）	○ （丸に＋）	19

既設境界…最近別の測量を行った鋲が残っており、それを地籍調査にも使う場合

過年度点…前年度以前に行なわれた地籍調査の境界



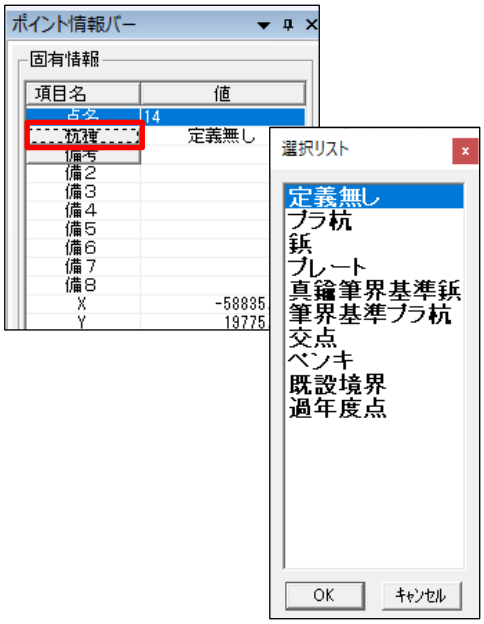
III.3. 杭種の個別変更

点ごとに杭種を変更します。

手順

1） 杭種を設定したい点を選択します。

2） 杭種表示ボタン （下図：定義無し）を押すと杭種設定のウィンドウが開きます。



3） 設定したい杭種を選択します。

4） 杭種欄に設定した杭種が表示されます。

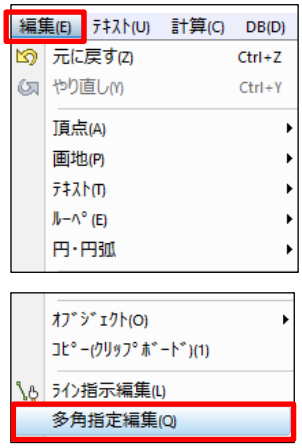


III.4. 杭種一括変更

範囲を指定して一括で杭種を変更します。

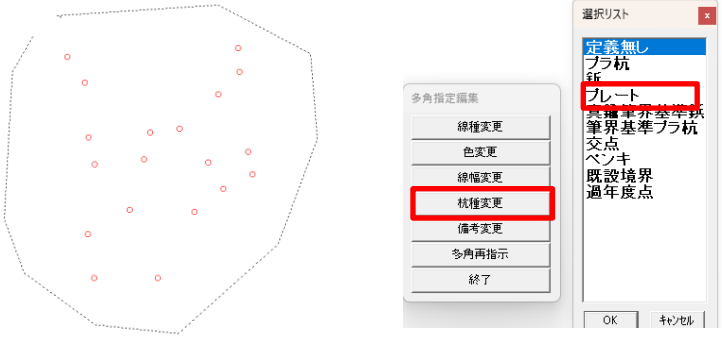
手順

1） [編集]－[多角指定編集]を選択します。

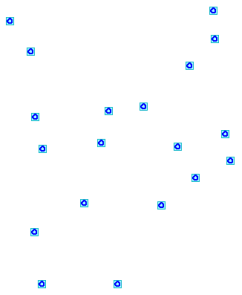


2） カーソルが十字マークになったら、変更する範囲を囲みます。

ダブルクリックで確定後、[多角指定編集]－[杭種変更]を選択すると杭種設定のウィンドウが開きます。



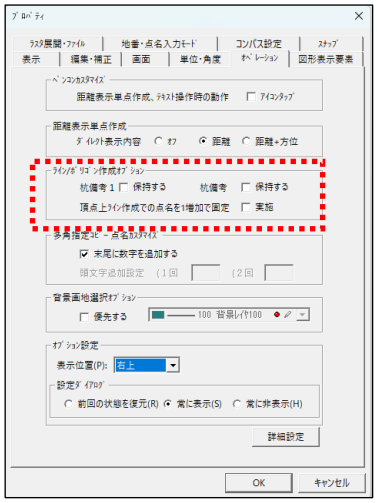
3） 設定したい杭種を選択する、杭種が変更されます。

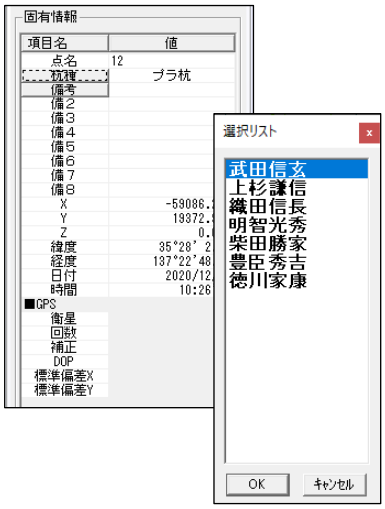


4） [多角指定編集]の終了を押すと、操作が終了します。

III.5. 交点の入力

杭の備考上部（備考１）、杭の備考下部（備考２）に、各々備考 1 には comment1.txt、備考 2 には comment2.txt を対応させ、これらの 2 種のファイルを作成の上、現場フォルダ内に用意すると、ボタンによりリスト表示され選択可能です。また、同じ備考欄にリストより複数記入も可能です。





また、［ツール］－［プロパティ］－［オペレーション］の［杭備考 1］
［杭備考］で作成時に前回記入された備考を保持させるか、クリアさせるかの選択が可能です。
一般に考えられる動作は、備考１に立会者名、備考に調査者名の記入などが考えられるため、複数人を
１つのリストから１つの備考欄に記入したり、杭を作る都度記入を行うなどの無駄な動作を行わなくて
済みます。
もちろん、ユーザーによって、交点（計算点）の備考記入に使ったり、comment1.txt、comment2.txt を事前に用意すれば、色々な用途に使用できます。

備考･･･comment1.txt に対応

備２･･･comment2.txt に対応

リストから複数の文字列を選択するには、１度選択し、もう一度　備考　を押し、選択を繰り返す。

備考３～８定義方法

任意の備考を作成します。

現場フォルダに bktantens.txt と備考 txt（３～８）があり、データ定義をしていれば表示されます。

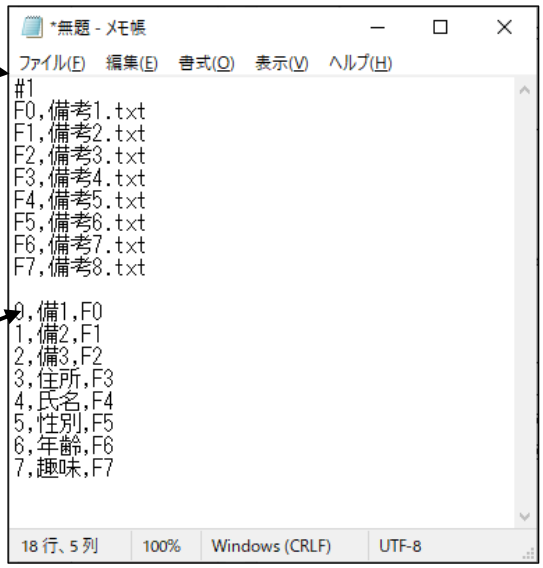
bktantens.txt テキストファイル指定定義

F4,テキストファイル名.txt

F5,テキストファイル名 2.txt

のように、Fn のあとにテキストファイルを指定してください。

Fn の n は仕様アプリにもよりますが、3～250 まで登録可能です。



属性 n 個の属性名、選択 ID の定義

4,属性 A,F0

5,属性 B,F0｜F2

6,属性 C,F1

7,直接入力属性

数字（ID）,の後に属性タイトル、次に選択する内容を持つテキストファイル ID を記述します。

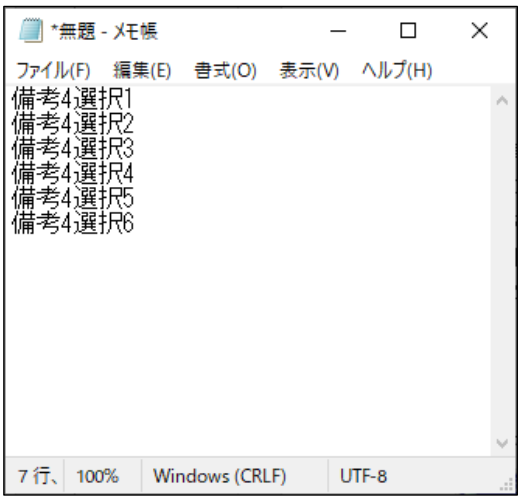
※　テキストファイル ID は 1 属性に最大 16 個のリンク付けができます。その場合は｜で結んでください。

※2 属性名のみ定義で直接入力タイプ（選択肢なし）の場合は上記例の ID7 を参考にしてください。

※3 アプリにより、この ID 番号＋ 1 の表示になることがあります。

例）ID４→（備考 5：属性 A）

備考 txt 例


*無題 - メモ帳
ファイル(F) 編集(E) 書式(O) 表示(V) ヘルプ(H)
備考4選択1
備考4選択2
備考4選択3
備考4選択4
備考4選択5
備考4選択6
7 行、 100% Windows (CRLF) UTF-8


選択リスト
武田信玄
上杉謙信
織田信長
明智光秀
柴田勝家
豊臣秀吉
徳川家康
OK
キャンセル
ポイント情報バー
固有情報
項目名
値
点名 1
杭種 定義無し
備考
備2
備3
備4
備5
備6
備7
備8
X -59393.774
Y 19887.964
Z 0.000
緯度 35°27'52.01
経度 137°23' 8.85
日付 2020/11/26
時間 15:29'47
■GPS
衛星
回数
補正
DOP
標準偏差X
標準偏差Y

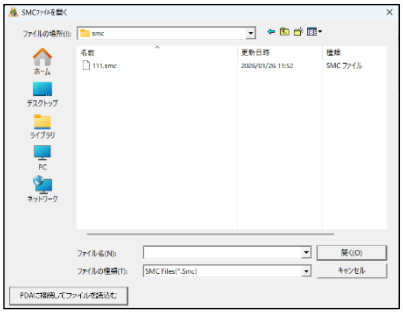
IV.　　ＰＤＡとのデータ転送

IV.1. SMC ファイルを開く

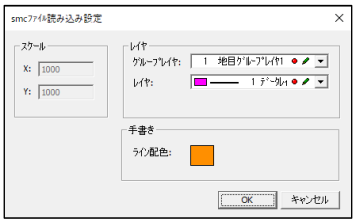
ＰＤＡに記録されたデータを Assist8 に読み込みます。

手順

1)　［ファイル］－［PDA 入出力］－［SMC ファイルを開く］を選択すると、
［ＳＭＣファイルを開く］ウィンドウが表示されます。



2)　Ｘ、Ｙスケール、レイヤ、ライン配色を決定し、［OK］を押すとＳＭＣファイルが読み込まれます。



3)　ＰＤＡから読み込む場合は、[ＰＤＡに接続してファイルを読込む] をクリックします。
ＰＤＡに接続してファイルを読み込むには、Assist8 を起動しているＰＣとＰＤＡが接続された状態にします。ＰＤＡの内部に記録されているデータが一覧表示されます。
読み込みたいファイルを選択し、[読込み]を押すとＰＣにデータが転送され、ファイルが開きます。

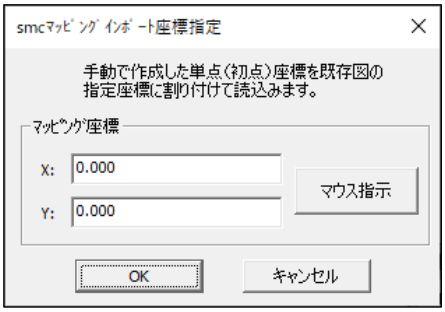


IV.2. SMC ファイルマッピングインポート

ＰＤＡに記録されたデータがコンパスデータで任意の座標値で記録されている場合、コンパスの初点を地図上で指示して読み込みます。

手順

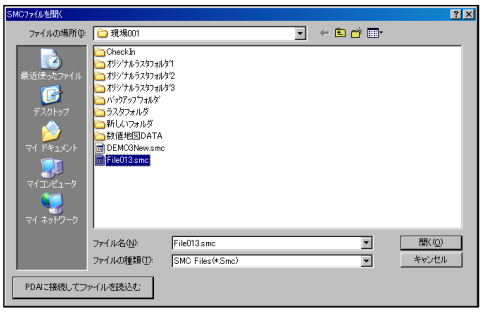
1) ［ファイル］－［PDA 入出力］－［ＳＭＣファイルマッピングインポート］を選択すると、
［ＳＭＣマッピングインポート座標指定］ウィンドウが表示されます。



2) マッピングしたい座標を入力またはマウス指示でクリックします。
ＯＫを押すと、［ＳＭＣファイルを開く］ウィンドウが表示されます。
ファイルを選択し、［開く］を押すと［ＳＭＣファイル読み込み設定］ウィンドウが表示されます。
グループレイヤ、レイヤを決定し、［OK］を押すとＳＭＣファイルが読み込まれます。



3) ＰＤＡから読み込む場合は、[ＰＤＡに接続してファイルを読み込む]をクリックします。
ファイルを選択して開くで［ｓｍｃファイル読み込み設定］ウィンドウが開きます。
グループレイヤ、レイヤを決定し、［OK］を押すとＳＭＣファイルが読み込まれます。

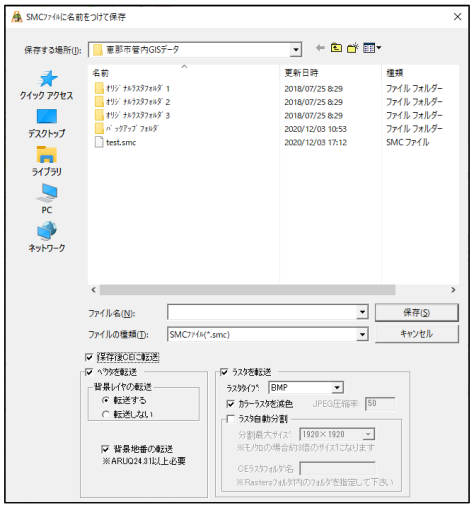


IV.3. SMC ファイル切り出し保存

Assist8 の地図の一部分を公共座標を持ったままでＰＤＡに転送します。

手順

1）　［ファイル］－［PDA 入出力］－［ＳＭＣファイル切り出し保存］を選択すると、
マウスカーソルが　＋に変わるので、矩形に切出したいエリアを指示します。
エリアを指示後、[SMC ファイルに名前をつけて保存]ウィンドウが表示されます。



- 保存後ＣＥに転送:保存後にＰＤＡにデータを転送する場合はチェックを入れます。
- ベクタを転送：ベクタを転送する場合はチェックを入れます。
  - 背景レイヤデータの転送:背景レイヤを転送する場合はでチェックを入れます。
  - 背景地番の転送：背景地番を転送する場合はチェックを入れます。
- ラスタを転送:ラスタタイプ　で BMP、Tiff、JPEG から選択します。JPG を選択すると JPGE
  圧縮率で、BMP、Tiff を選択した場合はカラーラスタを減色　でサイズを小さくできます。
  ラスタタイプ　で BMP、Tiff、JPEG から選択します。JPG を選択すると JPGE 圧縮率で、
  BMP、Tiff を選択した場合はカラーラスタを減色　でサイズを小さくできます。

※ラスタタイプで Tiff を選択した場合は Geotiff、JPG を選択した場合は JPG と
JGW（ワールドファイル）が出力されます。

- ラスタ自動分割:ラスタを転送　でラスタ自動分割　にチェックを入れ、分割サイズを指定し、
  CE ラスタフォルダ名を入力します。作成されたフォルダに自動分割された
  BMA、BMP ファイルが保存されます。

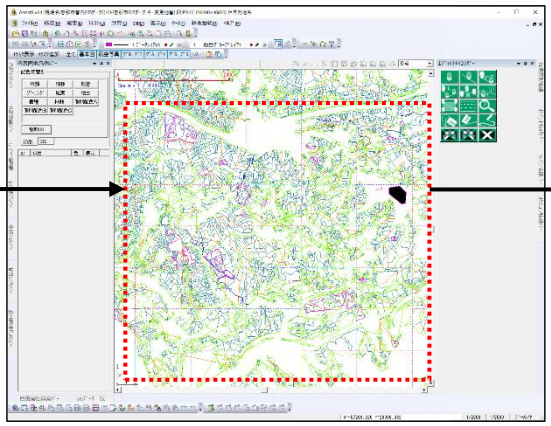
生成されるファイルはそれぞれ･･･＊＊＊．ＳＭＣ、＊＊＊．BMA（座標ファイル）、＊＊＊．
BMP　（イメージファイル）の３種です。

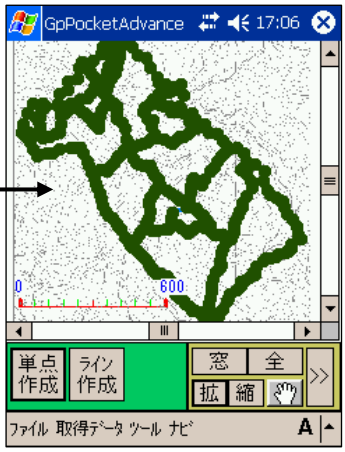
【注意】
ＰＤＡの機種によりますが、8000KB 程度を目処にしてください。
森林基本図を 300dpi でスキャニングされたモノクロラスタファイルの場合、3km＊3km が目安です。
カラー画像は 256 色のビットマップで保存されます。同じピクセル数でもファイルサイズはモノクロに比較して
８倍大きくなります。
ファイルサイズが大きいとＰＤＡの転送に約１分程度時間が掛かります。Assist8 は砂時計が表示された
状態ですが、しばらく待つと操作可能になります。

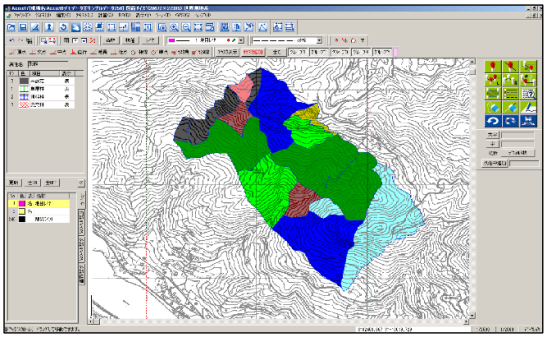
2） 設定後ファイル名を入力し［保存］ボタンをクリックすると SMC ファイルが保存されます。
ＰＣの現場フォルダに、必要なファイルを保存後、ＰＤＡに自動転送します。

【 Assist8 画面 】　　【 PDA 画面 】

転送したエリア







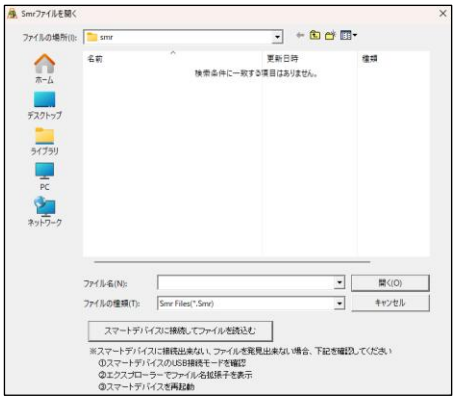
V.　ARUQAndroid 入出力

V.1. SMR ファイルを開く

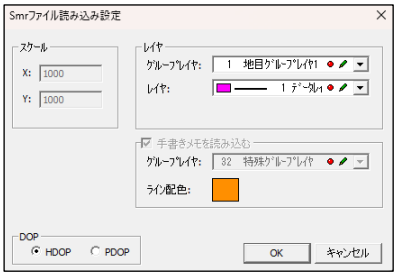
ARUQAndroid に記録されたデータを Assist8 に読み込みます。

手順

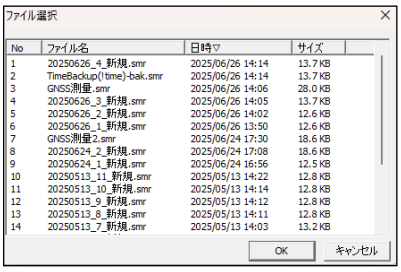
1）［ファイル］－［ARUQAndroid 入出力］－［SMR ファイルを開く］を選択すると、
［SMR ファイルを開く］ウィンドウが表示されます。



2）X、Y スケール、レイヤ、ライン配色を決定し、［OK］を押すと SMR ファイルが読み込まれます。



3）Android 端末から読み込む場合は、[スマートデバイスに接続してファイルを読込む]をクリックします。
Android 端末に接続してファイルを読み込むには、Assist8 を起動している P C と Android 端末が接続された状態にします。Android 端末内部に記録されているデータが一覧表示されます。
読み込みたいファイルを選択し、[OK]を押すと P C にデータが転送され、ファイルが開きます。

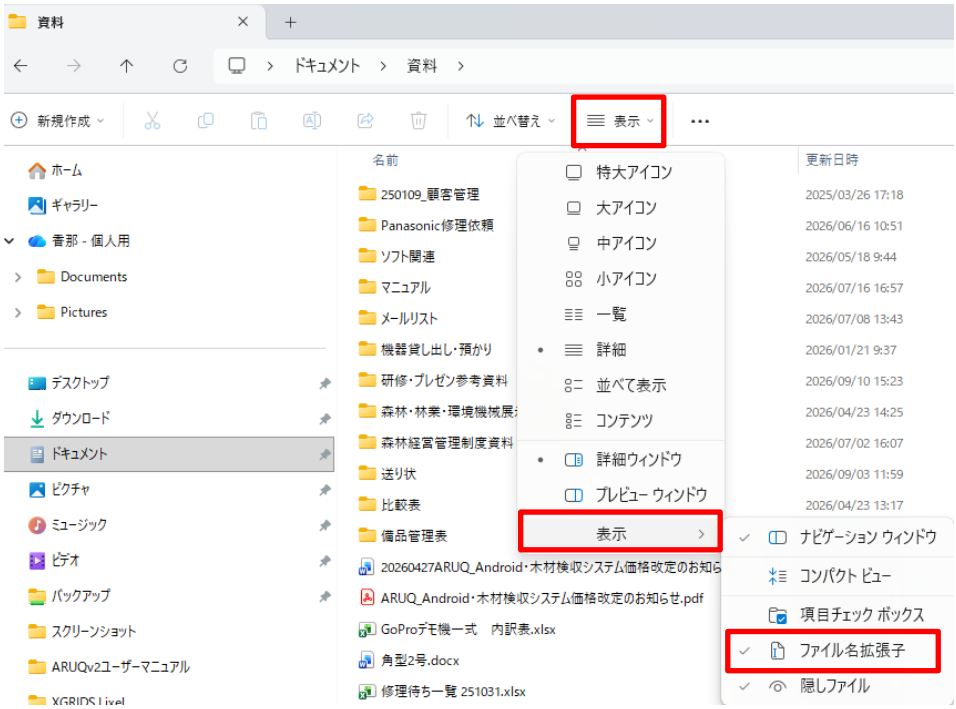


＜ファイル転送時の注意事項＞

Android 端末からファイルが読み込みできない場合、下記 2 点の設定についてご確認ください。

①ファイル名拡張子の表示設定

エクスプローラー（フォルダ）を開いて、表示からファイル名拡張子を有効にします。



②Android 端末のファイル転送設定

端末の設定からシステム＞ 開発者オプション＞ デフォルトの USB 設定で[ファイル転送]を有効にします。



V.2. GGA

Assist8 に読み込む GGA ファイルを選択します。

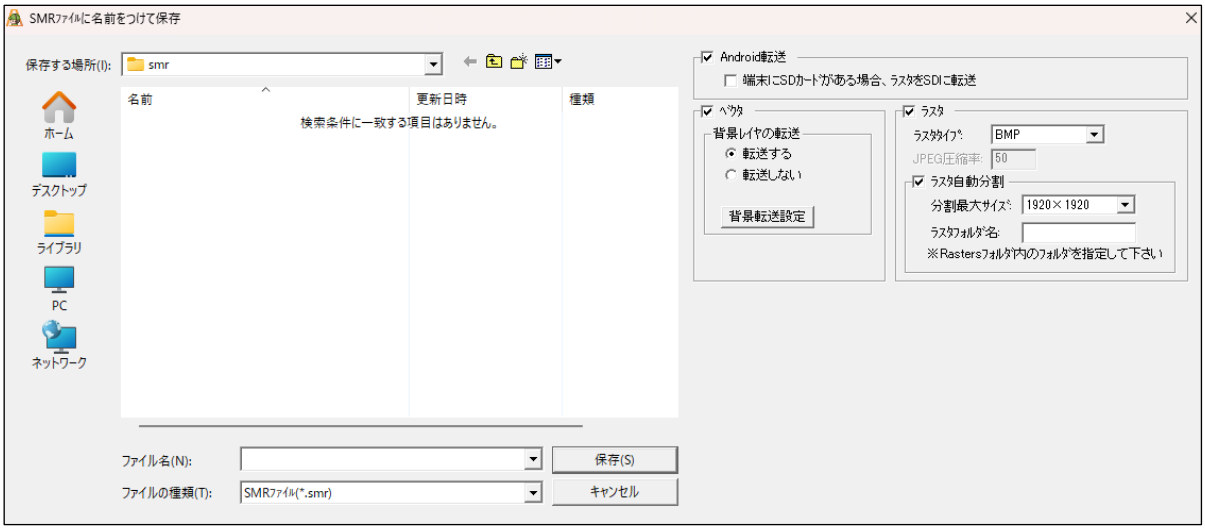
［ファイル］－［ARUQAndroid 入出力］－［GGA］を選択すると、
［GGA ファイル読み込み］ウィンドウが表示されます。
あとの作業は上記、**V.1.ＳＭＲファイルを開く**と同様です。

V.3. SMR ファイル切り出し保存

Assist8 の地図の一部分、または公共座標付の地図で Android 端末に転送します。

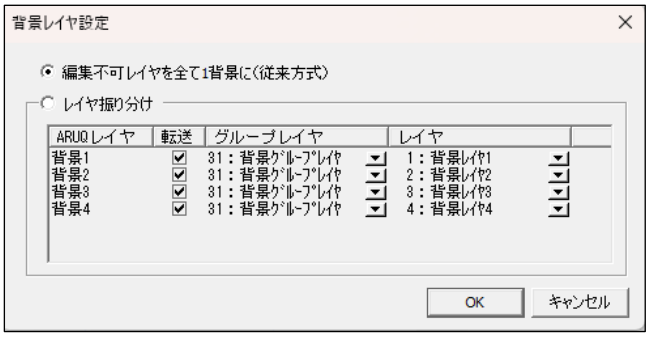
手順

1）　［ファイル］－［ARUQAndroid 入出力］－［SMR ファイル切り出し保存］を選択すると、
マウスカーソルが　＋に変わるので、矩形に切出したいエリアを指示します。
エリアを指示後、[SMR ファイルに名前をつけて保存]ウィンドウが表示されます。



- Android 転送: Android 端末にデータを転送する場合はチェックを入れます。
  端末の SD カードにデータを転送するかも選択できます。
- ベクタ:ベクタの転送を選択できます。背景レイヤの転送で転送するまたは転送しないにチェックを入れます。
- 背景転送設定：すべてを一つの背景として取り込む場合は従来方式にチェックを入れます。
  レイヤ振り分けにチェックを入れると背景レイヤの振り分けが設定できます。
  ARUQ の背景 1~4 に転送するレイヤグループとレイヤ名をそれぞれ選択し、
  転送にチェックを入れます。最大 4 レイヤまで転送が可能です。

（最大４レイヤ）



- ラスタの転送:ラスタタイプ　で BMP、Tiff、JPEG から選択します。JPG を選択すると JPGE
  圧縮率で、BMP、Tiff を選択した場合はカラーラスタを減色でサイズを小さくできます。
  ラスタタイプ　で BMP、Tiff、JPEG から選択します。JPG を選択すると JPGE 圧縮率で、
  BMP、Tiff を選択した場合はカラーラスタを減色でサイズを小さくできます。
  ※ラスタタイプで Tiff を選択した場合は Geotiff、JPG を選択した場合は JPG と
  JGW（ワールドファイル）が出力されます。
- ラスタ自動分割:ラスタを転送　でラスタ自動分割にチェックを入れ、分割サイズを指定し、
  ラスタフォルダ名を入力します。作成されたフォルダに自動分割された
  BMA、BMP ファイルが保存されます。

生成されるファイルはそれぞれ･･･＊＊＊．ＳＭＣ、＊＊＊．BMA（座標ファイル）、＊＊＊．
BMP　（イメージファイル）の３種です。

【注意】
Android 端末によりますが、ファイルサイズが大きいと処理に時間がかかります。
森林基本図を 300dpi でスキャニングされたモノクロラスタファイルの場合、3km＊3km が目安です。
カラー画像は 256 色のビットマップで保存されます。同じピクセル数でもファイルサイズはモノクロに比較して
８倍大きくなります。
ファイルサイズが大きいと Android 端末への転送に約 1 分程度時間が掛かります。
Assist8 は砂時計が表示された状態ですが、しばらく待つと操作可能になります。

設定が終わったら名前を付けて保存を押します。
ＰＣの現場フォルダに、必要なファイルを保存後、Android 端末に自動転送します。

2)　設定後ファイル名を入力し［保存］ボタンをクリックすると SMR ファイルが保存されます。
ＰＣの現場フォルダに、必要なファイルを保存後、Android 端末に自動転送します。

VI. 新 ARUQ 入出力

VI.1. ARQ ファイルを開く

ARUQ V2 に記録されたデータを Assist8 に読み込みます。

［ファイル］－［新 ARUQ 入出力］－［ARQ ファイルを開く］を選択します。

あとの作業は**Ⅴ.1.ＳＭＲファイルを開く**と同様です。

VI.2. ARQ ファイル切り出し保存

Assist8 の地図の一部分、または公共座標付の地図で ARUQ V2 に転送します。

［ファイル］－［新 ARUQ 入出力］－［ARQ ファイル切り出し保存］を選択します。

あとの作業は**Ⅴ.3.ＳＭＲファイル切り出し保存**と同様です

VI.3. GNSS ログファイルを取得

Assist8 から GNSS ログファイルを取得します。

［ファイル］－［新 ARUQ 入出力］－［GNSS ログファイルを取得］を選択すると、

［フォルダの選択］ウィンドウが表示されます。

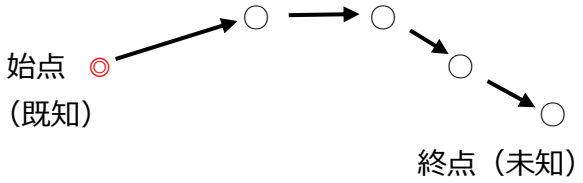
フォルダを選択すると、指定したフォルダ内に GNSS ログファイルを保存します。

VII.　コンパス入力

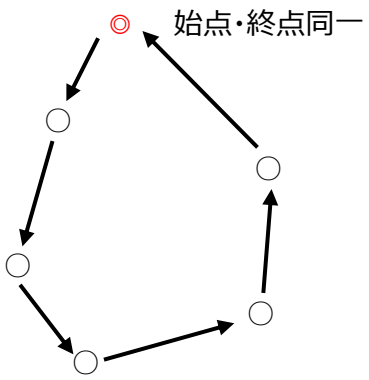
VII.1. コンパス路線の標記

ソフトウエア及び本解説書での標記は下記の通りです。

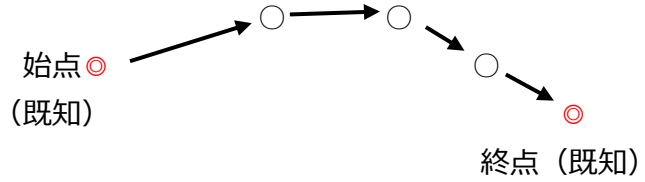
【 開放ライン 】・・・誤差配布なし



【 閉合路線 】・・・誤差配布あり



【 結合路線 】・・・誤差配布ライン



VII.2. コンパス野帳入力セル

チェックマークの有無で境界を構成します。開放路線と結合路線で表示される項目が異なります。

確定

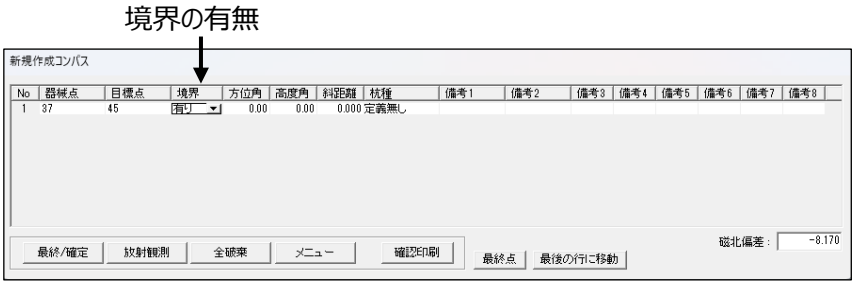
入力を終了します。

放射観測

放射観測の器械点を画面で指示します。詳細は**VI.4.放射観測**をご参照ください。

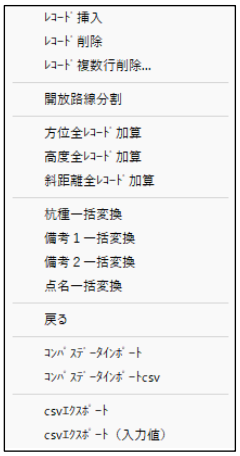
全破棄

入力中の全てを破棄します。



杭種欄は設定されている一覧のうちから杭種を選びます。

メニュー



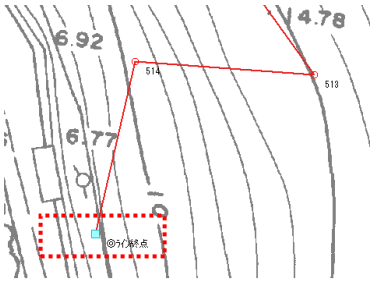
- レコード挿入：選択されているレコードの前に、空白の 1 行を挿入します。
- レコード削除：選択されているレコードを削除します。
- レコード複数行削除：複数のレコードを削除します。
- 全レコード一括削除：全てのレコードを削除します。
- 方位全レコード加算：入力されている全レコードの方位角に指定の数値を加算します。
- 高度全レコード加算：入力されている全レコードの高度角に指定の数値を加算します。
- 斜距離全レコード加算：入力されている全レコードの斜距離に指定の数値を加算します。
- 杭種一括変換：入力されている全レコードの杭種を指定した杭種に一括で変換します。
- 備考 1 一括変換：入力されている全レコードの備考 1 の内容を指定した内容に一括で変換します。
- 備考 2 一括変換：入力されている全レコードの備考 2 の内容を指定した内容に一括で変換します。
- 戻る：メニューから戻ります。
- コンパスデータインポート：Assist7・Assist8 または Advance・ARUQ のコンパスデータをインポートします。
- コンパスデータインポート CSV：CSV のコンパデータをインポートします。
- CSV エクスポート：コンパデータを CSV で出力します。方位角は磁北偏差を考慮した値になります。
  （入力値）を選択するとコンパステーブルに表示されている数値のまま出力します。

確認印刷

入力値を印刷します。

最終点

ラインの終点を指定します。



最後の行に移動

入力末尾の行がセルに表示されます。

VII.3. 新規コンパスの入力手順

手順

1)　［作成］－［ポイント］でコンパスの初点を画面上でヒットします。右ボタンで終了します。

注意 1　このときにはﾌﾟﾛｯﾄﾏｰｸ（杭種ﾏｰｸ）表示　にしてください。

注意 2　出発点が既にある場合は、この手順は必要ありません。

注意 3　公共座標値がわかっている場合は座標値を入力します



①コンパスの初点を画面上でヒット

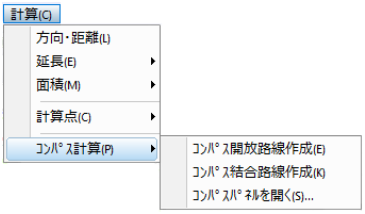
②そのまま右ボタンを押し、「座標入力」を選択

③座標値を入力する「ポイント指定」ウィンドウが開く

ここで表示されている値は、現在マークがある場所

※　［作成］－［ポイント］でカーソルが+になった状態でスペースキーを押しても「ポイント指定」ウィンドウが開きます。

2)　［計算］－［コンパス計算］－［コンパス開放路線作成］・［コンパス結合路線作成］かコンパス入力アイコンを押し、これから入力するコンパスの形式を選択します。



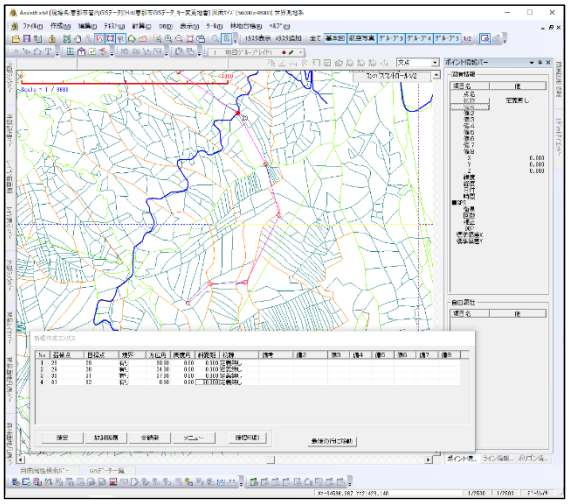
- コンパス開放路線作成：開放のコンパス路線を新規作成します。
- コンパス結合路線作成：結合または閉合のコンパス路線を新規作成します。
- コンパスパネルを開く：コンパスパネルが開き、新規コンパス入力、テーブル編集が可能になります。

3） マウスがポイント指示マウスに変わるので、先ほど作成したコンパスの初点をヒットします。

- 開放路線：初点のみ（マウス指示は 1 回）
- 結合路線：マウス指示 1 回目が初点・2 回目が終点。閉合路線は、初点と終点が同一点なので、同じ点を 2 回クリックします。

4） 野帳コンパスの入力ウィンドウが開くので、観測値を順次入力します。

入力行（ 1 レコード）改行毎に地図上に赤ラインで図形を表示します。

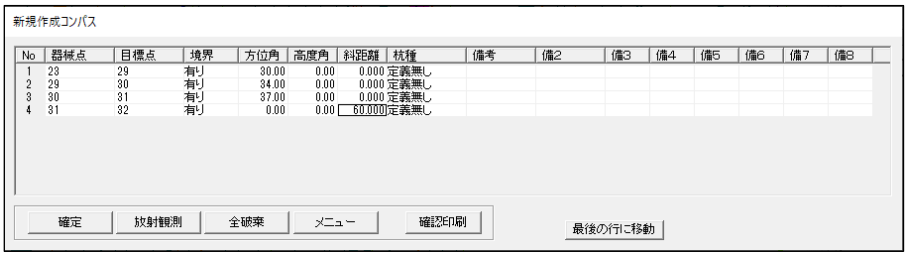


確認印刷を押すと入力途中でも、野帳の印刷が可能です。

5） 野帳入力の終了

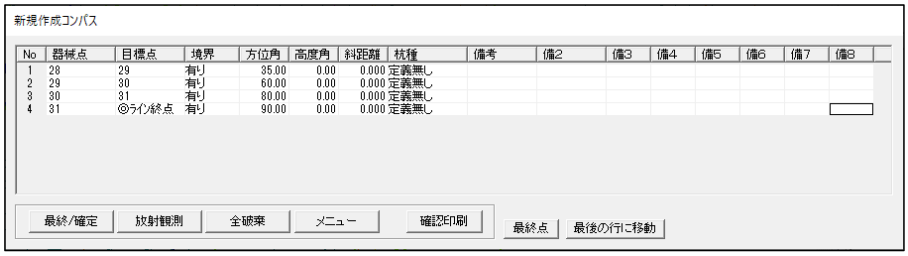
開放路線の場合

最終行で[確定]を押すと、確認メッセージが表示されます。
よければ［はい］を押すと、入力ウィンドウを閉じ、図形が確定されます。



結合路線の場合

最終行で［最終／確定］を押すと、◎ライン終点または◎画地終点と表示されます。



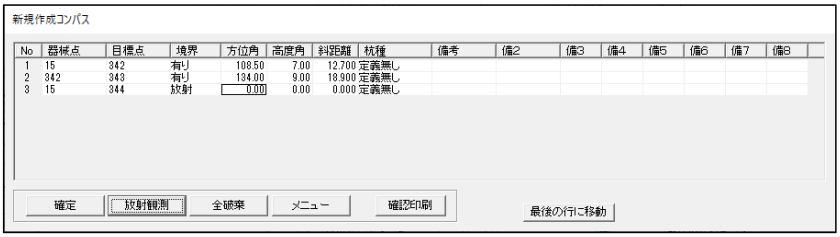
再度、［最終／確定］を押すと、路線長と閉合比を計算表示するので、よければ［はい］を押すと、
入力ウィンドウを閉じ、図形が確定されます。

VII.4. 放射観測

VII.4.1. 境界点では無い放射点

手順

1） 放射観測を押し、器械点を画面上でヒットします。自動で境界の種類が放射に変更されます。

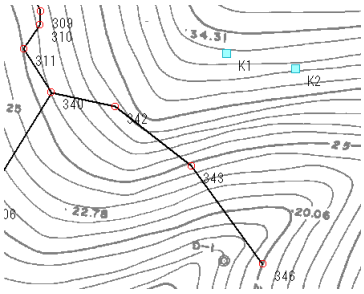


2） 観測値を入力し改行します。

3） 放射のモードが連続しますので、放射があれば続けて入力します。



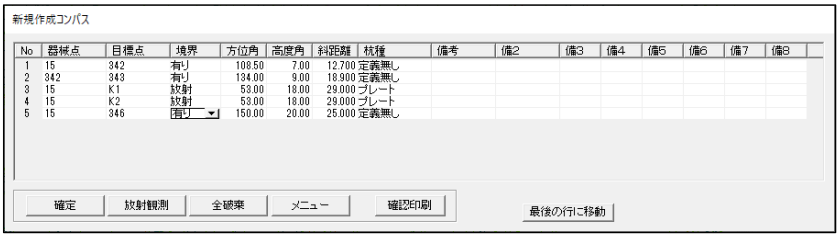
4） 境界路線に戻る場合は、境界欄を有りに戻して入力します。



左図･･･340～342～343～346　が境界路線
K1、K2 が放射点

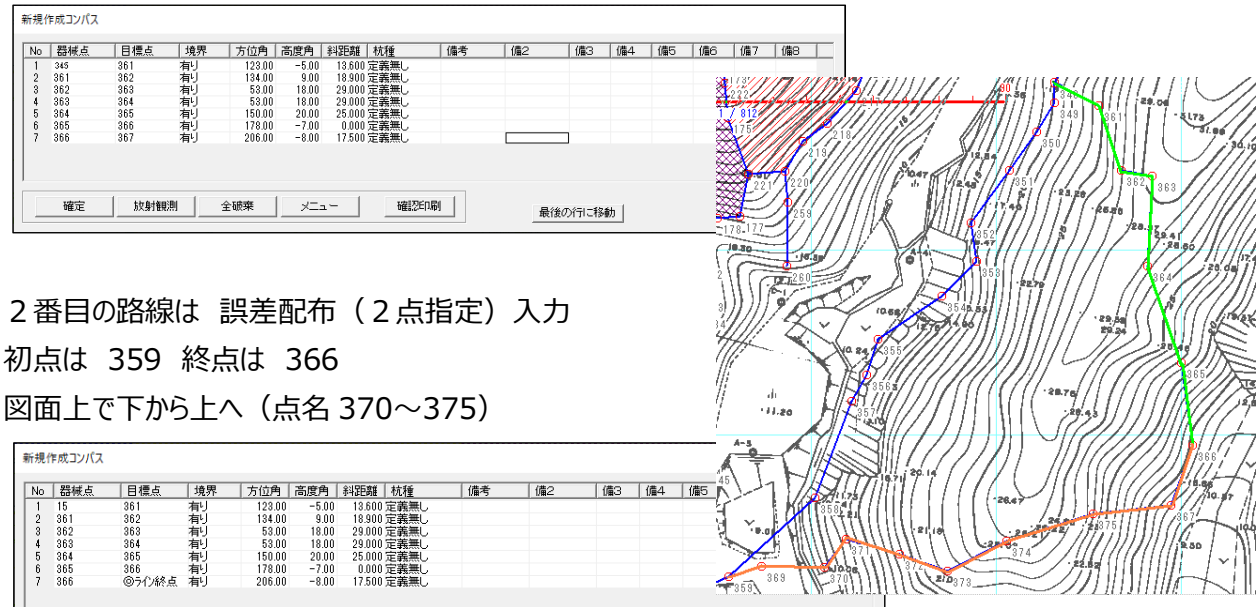
VII.4.2. 境界点では無い放射点

境界欄を有りで入力します。



VII.5. 2 方向から入力

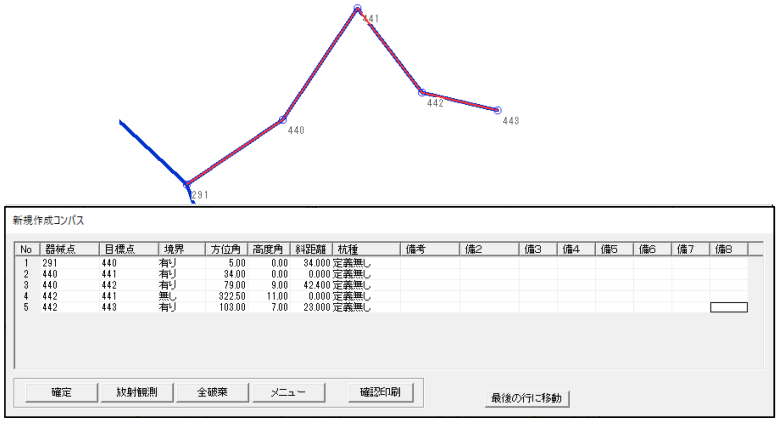
1 番目の路線は　開放ライン入力：図面上で上から下へ（点名 361～366）



2 番目の路線は　誤差配布（２点指定）入力
初点は　359　終点は　366
図面上で下から上へ（点名 370～375）

VII.6. 前方交会入力

441 は 440 と 442 から方位角のみ観測で距離なしの観測を行っています。



注意

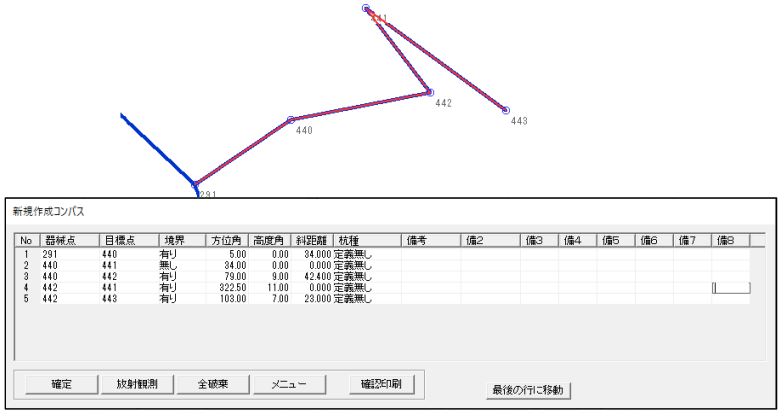
目標点　441 は 440 からと 442 からの 2 行入力される。

境界欄はどちらか一つが有りにします。

VII.7. チェックマークを付け替えると

前項の前方交会を例で説明します

２行目の境界欄を無し、４行目の境界欄を有り　に変更すると、下図になります。



境界のラインは、目標点の境界欄有りの順にラインを引きます。

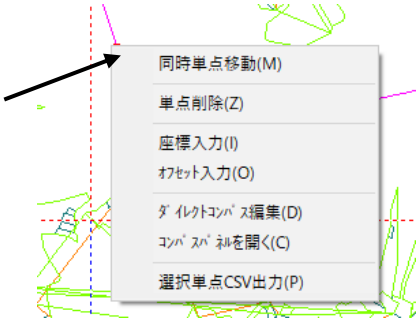
291～440～442～441～443 とラインを引きます。

VII.8. コンパス再編集

VII.8.1. ダイレクトコンパス編集

修正したいコンパス路線の構成点（始終点以外ならどこでも良い）を選択し、右ボタンを押し、

ダイレクトコンパス編集　を選択すると、入力セルがオープンする。

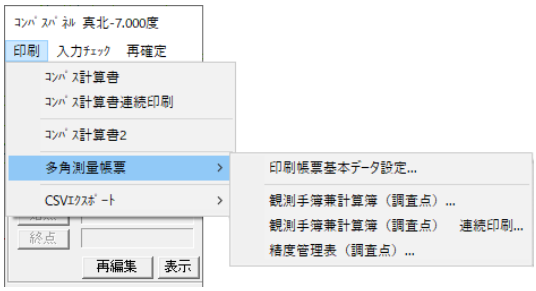


VII.8.2. コンパスパネルを開く

［計算］－［コンパス計算］－［コンパスパネルを開く］でコンパスパネルが開きます。

印刷

コンパスデータを印刷します。



コンパス計算書

選択したコンパスデータの座標と標高の計算書を印刷します。

コンパス計算書連続印刷

作成した全てのコンパスデータの座標と標高の計算書を印刷します。

コンパスデータが多いと印刷まで時間がかかることがあります。

コンパス計算書 2

選択したコンパスデータの座標と標高の計算書を印刷します。

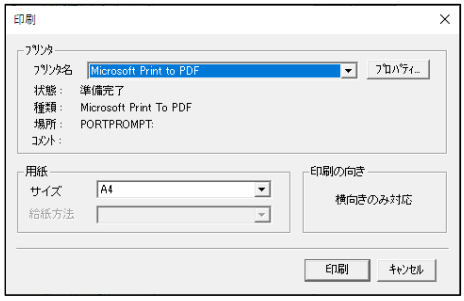
多角測量帳票

多角測量帳票を印刷します。

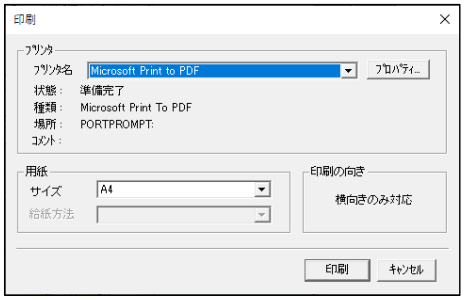
- 印刷帳票基本データ設定：印刷する帳票の基本データを設定します。



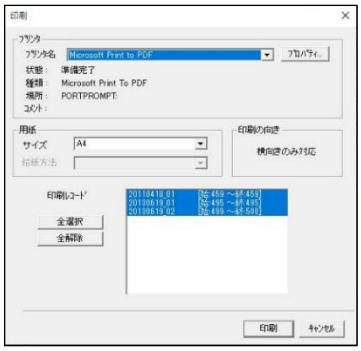
- 観察手簿兼計算簿（調査点）：観察手簿兼計算簿を印刷します。



- 観察手簿兼計算簿（調査点）連続印刷：観察手簿兼計算簿を連続印刷します。

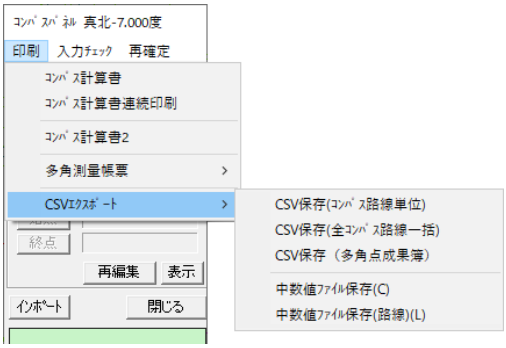


- 精度管理表（調査点）：コンパス調査点の精度を印刷します。



CSV エクスポート

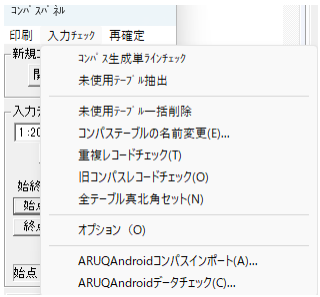
コンパスデータを CSV 出力します。



- CSV 保存（コンパス路線単位）：選択したコンパスデータを路線単位で出力します。
- CSV 保存（全コンパス路線一括）：全てのコンパスデータを路線単位で出力します。
- CSV 保存（多角点成果簿）：選択したコンパスデータの多角点を出力します。
- 中数値ファイル保存： 器械点と視準点の関係を出力します
- 中数値ファイル保存（路線）：路線ごとに器械点と視準点の関係を出力します。

入力チェック

既存のコンパスデータをチェックします。



コンパス生成単ラインチェック

作成したコンパスデータをチェックします。使用中のコンパスデータは図面上で強調表示され、

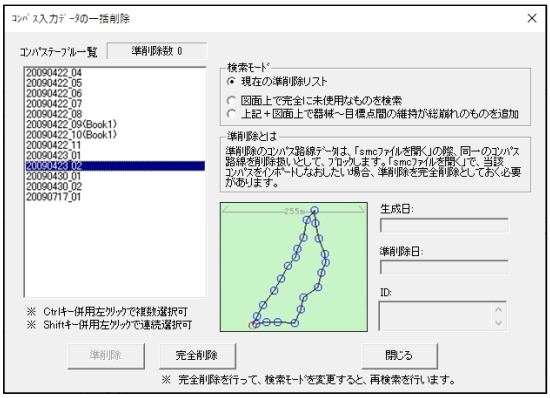
路線が赤く表示されます。

未使用テーブル抽出

図面上で未使用のコンパスデータ数をチェックします。

未使用テーブル一括削除

図面上で未使用のコンパスデータを一括で削除します。

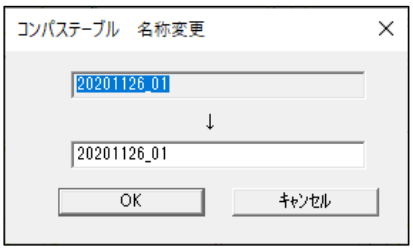


- コンパステーブル一覧：コンパステーブルの一覧を表示します。
- 検索モード：コンパステーブルの検索方法を選択します。
- 生成日：選択したコンパステーブルの作成日を表示します。
- 準削除日：選択したコンパステーブルの準削除日を表示します。
- ID：選択したコンパステーブルの ID を表示します。
- 準削除：選択したコンパスデータを準削除します。

  ※　準削除を行うと「ｓｍｃファイルを開く」を実行した際に削除したデータとして扱われます。
- 完全削除：選択したコンパステーブルを完全に削除します。
- 閉じる：　［コンパス入力データの一括削除］ウィンドウを閉じます。

コンパステーブルの名前変更

［コンパステーブルの名称変更］ウィンドウで名称を変更します。



重複レコードチェック

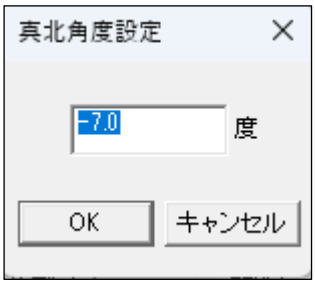
重複レコードがないかチェックします。

旧コンパスレコードチェック

登録されているコンパスデータから旧タイプのレコードを検出します。

全テーブル真北角セット

すべてのコンパステーブルの真北角をセットします。



オプション

コンパスの入力ウィンドウのオプション表示項目を選択します。



- 全選択：すべてのオプション項目を表示します。
- 全解除：全てのオプション項目を非表示にします。

ARUQAndroid コンパスインポート

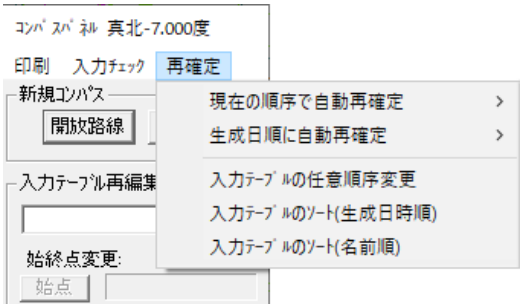
Assistcompsss 内で生成されたコンパスデータ（csv）を読み込みます。

ARUQAndroid データチェック

Assistcompsss 内で生成されたコンパスデータ（csv）のデータチェックを行います。

再確定

既存のコンパスデータを条件に合わせて再確定します。



現在の順序で自動再確定

現在の並びで自動再確定を実行します。

- すべての自動再確定（コンパス名を連番化）：コンパス名を連番化して自動で再確定します。
- すべての自動再確定（コンパス名を維持）：コンパス名を維持したまま自動で再確定します。
- 一筆の自動再確定（コンパス名を連番化）：一筆のコンパスデータのコンパス名を連番化して自動で再確定します。
- 一筆の自動再確定（コンパス名を維持）：一筆のコンパスデータのコンパス名を維持したまま自動で再確定します。

生成日順に自動再確定

生成日順に自動再確定を実行します。

- すべての生成順自動再確定（コンパス名を連番化）：コンパス名を連番化して自動で生成順に再確定します。
- すべての生成順自動再確定（コンパス名を維持）：コンパス名を維持したまま自動で生成順に再確定します。
- 一筆の生成順自動再確定（コンパス名を連番化）：一筆のコンパスデータのコンパス名を連番化して生成順に自動で再確定します。
- 一筆の生成順自動再確定（コンパス名を維持）：一筆のコンパスデータのコンパス名を維持したまま自動で生成順に再確定します。

※　自動再確定時に図面上に未使用のコンパスデータがあった場合はテキストデータが自動で開き、未使用のコンパスデータを表示します。

入力テーブルの任意順序変更

選択したテーブルを任意の順に移動します。

確定後続けて変更が出来ます。［終了］で変更終了します。

入力テーブルのソート（生成日時順）

入力テーブルを生成日時順に並び替えます。

入力テーブルのソート（名前順）

入力テーブルを名前順に並び替えます。

新規コンパス

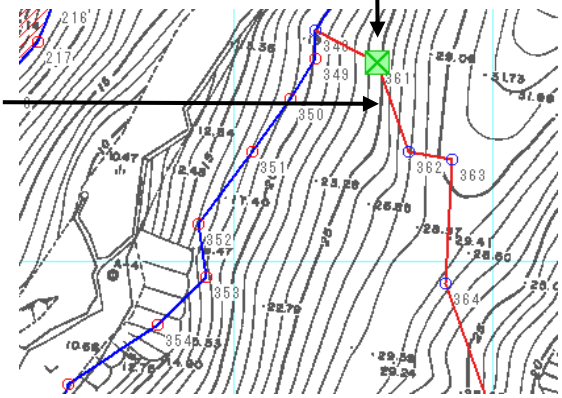
- 開放路線：開放のコンパス路線を新規入力します。
- 結合路線：結合または閉合のコンパス路線を新規入力します。

入力テーブル再編集

リストからすでに入力済みの路線を選択します。
選択すると、路線の全体図が下の BOX にサムネイル表示されます。
選択された路線が、地図上で見つけにくい時は、表示　を押すと、該当路線の 2 点目が地図上で強調表示され、観測値（誤差を配布しない）路線が赤く表示されます。

強調表示されたコンパスの 2 点目

赤く表示された観測値（誤差を配布しない）ライン





路線の出発点は赤丸で表示される。

- 詳細：入力、作成したコンパス情報の詳細を表示します。



該当路線の始点や終点を指示し直す場合は、始点　を押した後、画面上で出発点をヒットします。終点も同様です。
その後、再編集を押すと、入力セルが表示されます。



- インポート：次章をご覧ください。
- 閉じる：コンパスパネルを閉じます。

VII.9. CSV ファイルインポート

手順

1） コンパスパネルのインポートを押すと”CSV ファイルを開く”ダイアログが表示されます。

ここで CSV ファイルを選択します。

書式は下記の通り。（string は文字。Fvalue は小数付き数値。）

書式（１）

器械点，目標点，境界，方位角，高度角，斜距離，備考
string, string, -,　　Fvalue, Fvalue, Fvalue (,string)
string, string, V,　　Fvalue, Fvalue, Fvalue (,string)

	A	B	C	D	E	F
1	0	1	89	14	21.4	
2	1	2	74	33	24.3	
3	2	3	66	20	14.3	
4	3	4	99	−1	21.3	
5	4	5	114	2	16.5	
6	5	6	119	9	17.3	
7	6	7	96	6	17.7	
8	7	8	111	21	35.9	
9	8	9	112	13	21.5	
10	9	10	128	12	28.6	
11	10	11	128	17	19.1	
12	11	12	107	19	24.5	
13	12	13	120	16	16.9	
14	13	14	136	1	18	
15	14	15	149	−1	29.6	
16	15	16	134	−1	8	

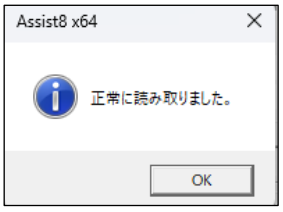
書式（２） 境界はすべてﾁｪｯｸされます。

器械点，目標点，方位角，高度角，斜距離，備考
string, string, Fvalue, Fvalue, Fvalue (,string)

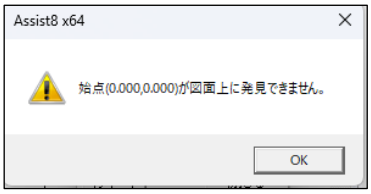
Ａ列が器械点、Ｂ列が目標点、Ｃ列が方位角、Ｄ列が高度角、Ｅ列が斜距離

2） 読込が正常に行われると、「正常に読み込まれました」と表示されます。

コンパスパネルのリストから、今読み込んだ路線ファイルを選択します。



3） 選択直後にメッセージが表示されますが新規の場合は［はい］や［ＯＫ］を押して先に進みます。





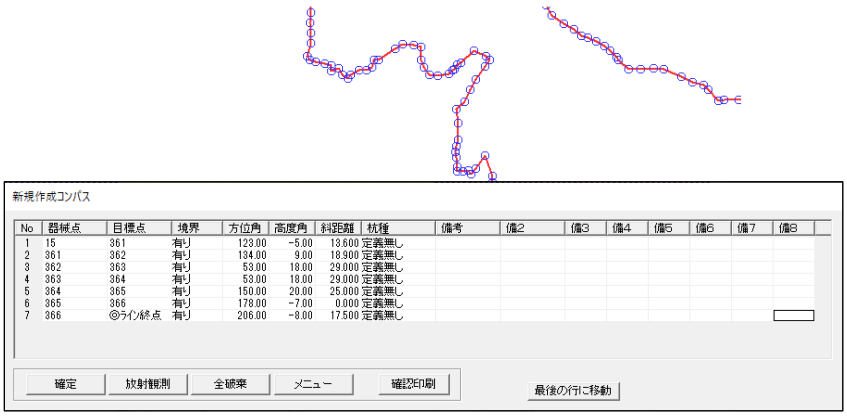
4） 路線の全体図がサムネイル表示されます。

5） 始点　を押し、該当路線の始点を画面上でヒットします。

6） 終点　を押し、該当路線の始点を画面上でヒットします。

7） その後、再編集を押すと、入力セルと路線が地図上に表示されます。

8） これ以降は、通常の新規入力と同様の処理を行います。



確認後、確定を押すと移行を完了します。

完了した路線は、作業した日付で記録されます。例　20090623_01

VIII. ファイルメニュー

ドキュメントを開いている時のファイルメニュー

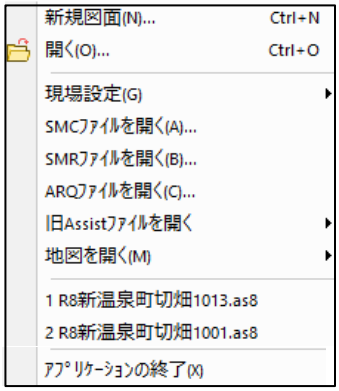


- 新規作成：新しい図面を定義してデータファイル作成。
- 開く：Assist8 ファイルを開く。
- 名前を付けて保存：現在作成中の図面を保存。
- 現場設定：現場を設定。
- ＰＤＡ入出力：詳細は**Ⅳ.PDA とのデータ転送**の章をご参照ください。
- ARUQAndroid 入出力：詳細は**Ⅴ.ARUQAndroid 入出力**の章をご参照ください。
- 新 ARUQ 入出力：詳細は**Ⅵ.新 ARUQ 入出力**の章をご参照ください。
- 地図を開く：ラスタまたはベクタを開きます。
- インポート：各種の図面ファイルをインポート。
- 外部出力：データを他のファイル形式に変換して保存。
- 図面印刷：図面を印刷。
- Assist 印刷：特定レイアウトの帳票を印刷。
- 各種印刷：測量野帳、測量地籍、路線測量を印刷。
- 境界明確化　各種印刷：境界明確化用の印刷。

- 山村境界基本調査：山村境界用の印刷をします。
- プリンタの設定：印刷するプリンタを設定します。
- 図面情報：図形、レイヤ情報等を表示します。
- 点名杭種情報：画地、点名、杭種情報等を表示します。
- 閉じる：現在開いている図面を閉じる。
  （データが変更されているときには必ず保存をするかしないか問う）
- 地理院地図から開く：地理院地図を任意の範囲で切り出しすることができます。

ドキュメントを開いていない時のファイルメニュー

新規作成、開く、現場設定、地図を開く、アプリケーションの終了については「ドキュメントを開いている時のファイルメニュー」をご参照ください。



- ＳＭＣファイルを開く：ＰＤＡ端末で保存されたデータを開きます。
  詳細は**Ⅳ.PDA とのデータ転送**をご参照ください。
- ＳＭＲファイルを開く：ARUQAndroid で保存されたデータを開きます。
- ＳＭＲファイルを開く：ARUQ V2 で保存されたデータを開きます。
- 旧 Assist ファイルを開く：旧 Assist ファイルを開きます。

VIII.1. ［ファイル］ – ［新規作成］

地図がない場合に新規図面を作成します。

［ファイル］ – ［新規作成］を選択すると、［新規作成　図面条件］ウィンドウが表示されます。



- 用紙：用紙サイズ、用紙方向を指定
- 図面長：図面の縦と横のサイズを入力
- 左下Ｘ座標･左下Ｙ座標：図面左下のＸ，Ｙ座標を入力
- 図面角度：図面の角度を入力
- 縮尺：図面の縮尺を入力

VIII.2. ［ファイル］ – ［開く］

Asist8 で保存した図面を開きます。

手順

1）　［ファイル］ – ［開く］を選択すると［開く］ウィンドウが表示されます。

2）　一覧から Assist8 形式（*.as8）のファイルを選択し［開く］ボタンをクリックするか、
　　開くファイルをダブルクリックすると図面が開きます。

※　現在開いている図面があって、そのデータが変更されているときには必ず保存の有無を問います。

VIII.3. ［ファイル］ – ［名前を付けて保存］

データに名前を付けて保存します。

背景地図を使用した場合は、背景地図のファイル名をデフォルトにします。保存ファイル名の変更が可能です。

（例　背景地図が　大島.tiff　だと　大島.as8 と自動的に付けます）

保存オプションで、データの最適化処理を行う、ラスタを保存、ベクタを保存が選択できます。

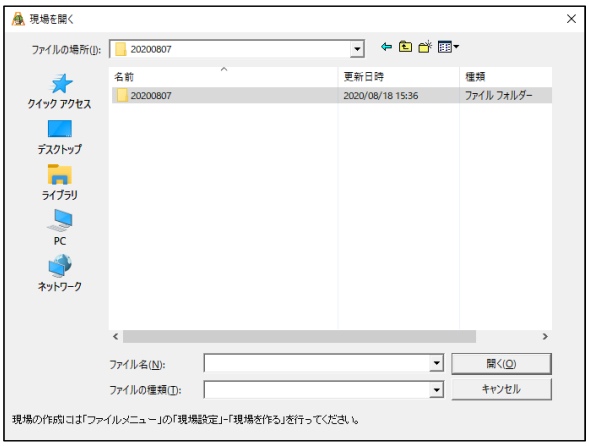
VIII.4. ［ファイル］ – ［現場設定］

VIII.4.1. 現場変更

地図データを保管する現場フォルダを指定します。

［ファイル］ – ［現場設定］ – ［現場変更］を選択すると、［現場を開く］ウィンドウが表示されます。

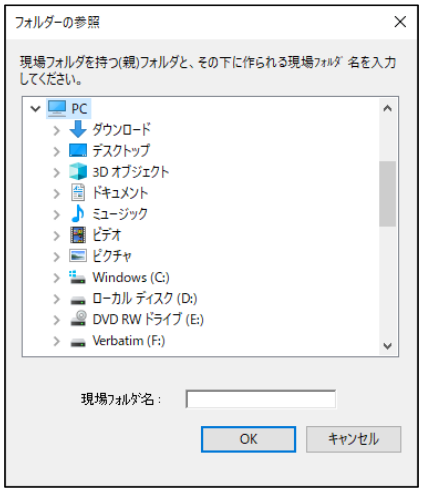
現場フォルダを選択し［開く］ボタンをクリックするか、開く現場フォルダをダブルクリックすると、現場フォルダが指定されます。



VIII.4.2. 現場を作る

地図データを保管する現場フォルダを作成します。

［ファイル］ – ［現場設定］ – ［現場をつくる］を選択すると、［フォルダの参照］ウィンドウが表示されます。



現場名をつけ、フォルダを作成します。

現場フォルダのデフォルト：標準インストールを行なった場合、現場は Assist8 環境設定フォルダの中に作成されます。

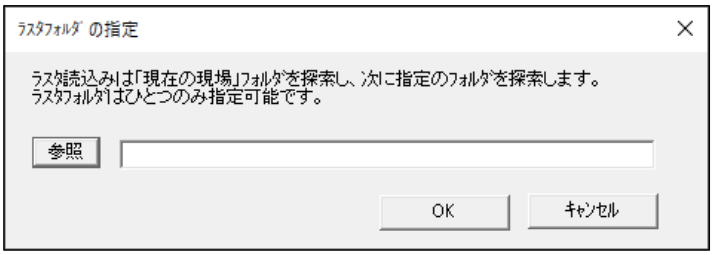
C　　Assist8 環境設定　── 現場 001
　平成 19 年度（例）

VIII.4.3. ラスタ読み込みフォルダ指定

ラスタを保存するフォルダを指定します。

［ファイル］ – ［現場設定］ – ［ラスタ読み込みフォルダ指定］を選択すると、［ラスタフォルダの指定］ウィンドウが表示されます。参照、または直接入力でフォルダを指定します。

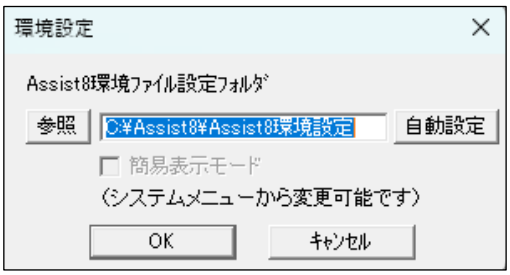
ラスタフォルダが現場フォルダ内にある場合は設定する必要はありません。



VIII.4.4. 環境設定保存フォルダの設定

環境設定を保存するフォルダを設定します。

［ファイル］ – ［現場設定］ – ［環境設定保存フォルダの設定］を選択すると、
［環境設定］ウィンドウが表示されます。



参照、または直接入力でフォルダを指定します。

※ ドキュメントを開いていない時に表示されるメニューです。

VIII.4.5. データベース最適化

所有者.mdb を最適化します。

［ファイル］ – ［現場設定］ – ［データベース最適化］を選択してしばらくすると、最適化終了の
メッセージウィンドウが表示されます。

※ ドキュメントを開いていない時に表示されるメニューです。

VIII.4.6. データベース最適化（参照）

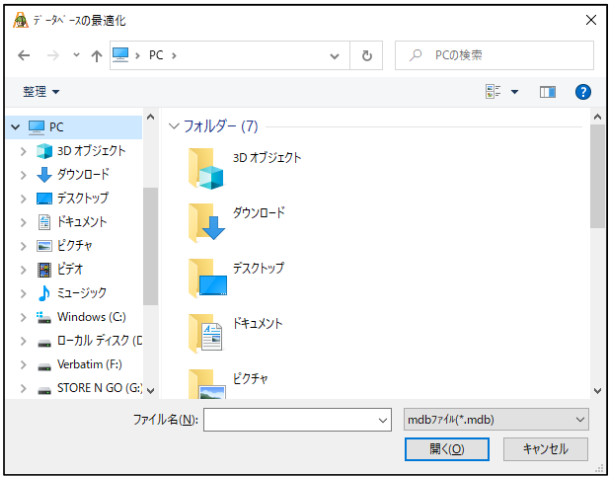
最適化するデータベースを選択します。

［ファイル］ – ［現場設定］ – ［データベース最適化（参照）］を選択すると、

［データベースの最適化］ウィンドウが表示されます。

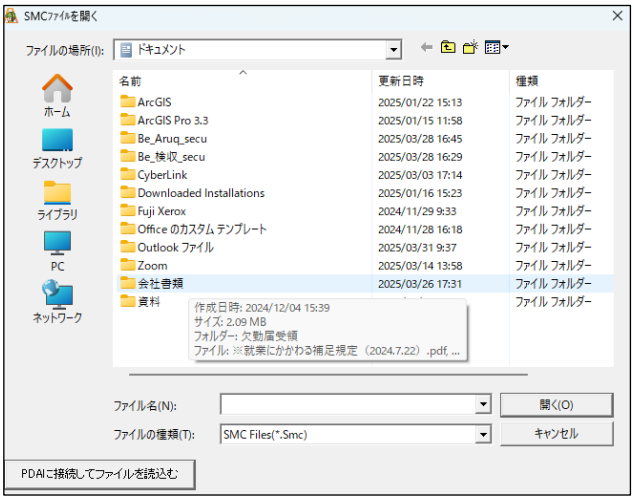
データベースを選択してしばらくすると、最適化終了のメッセージウィンドウが表示されます。

※　ドキュメントを開いていない時に表示されるメニューです。



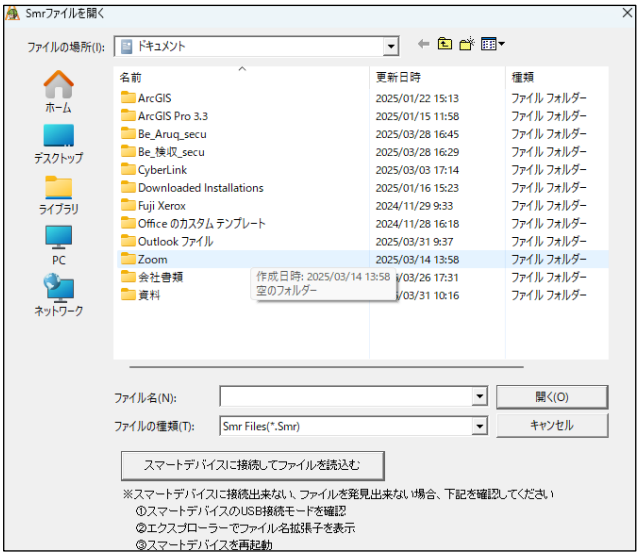
VIII.5. ［ファイル］ – ［SMC ファイルを開く］

（ドキュメントを開いていない時に表示されるメニューです）



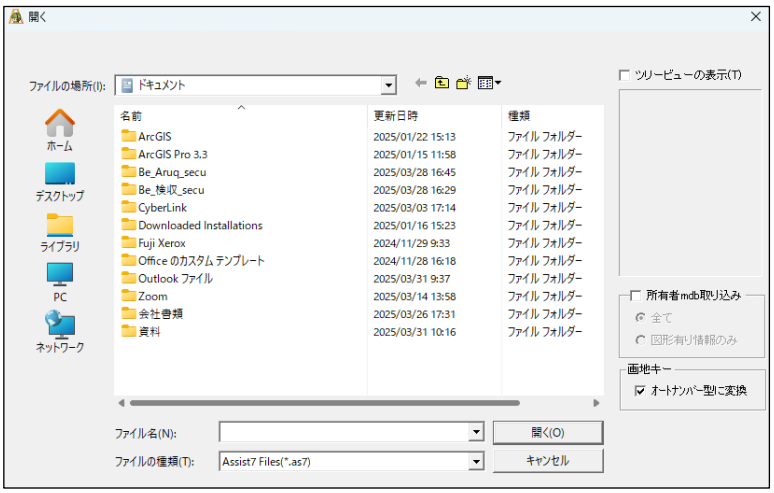
VIII.6. ［ファイル］ – ［SMR ファイルを開く］

（ドキュメントを開いていない時に表示されるメニューです）



VIII.7. ［ファイル］ – ［旧 Assist ファイルを開く］

（ドキュメントを開いていない時に表示されるメニューです）



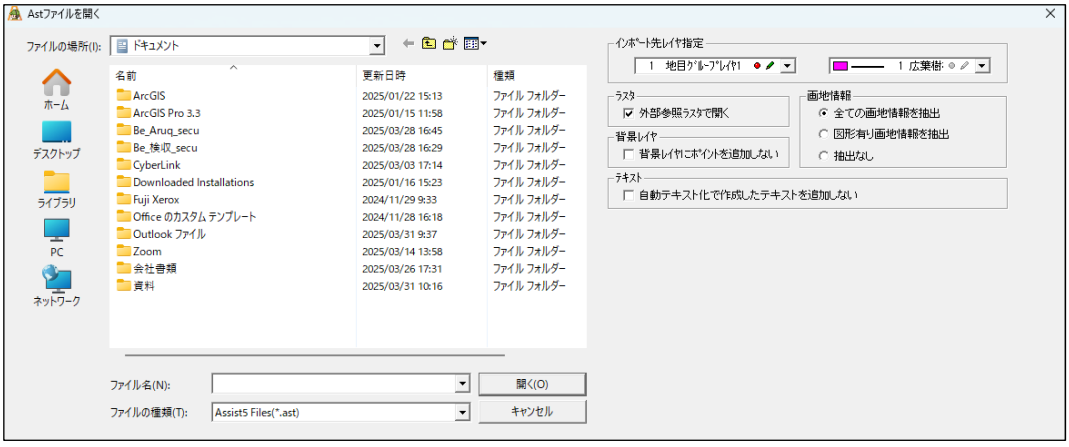
VIII.7.1. Assist7 / Assist6

旧 Assist ファイルの Assist7 または Assist6 データのみ開きます。
［ファイル］ – ［旧 Assist ファイルを開く］ – ［Assist7］または［Assist6］を選択すると、
［Ast ファイルを開く］ウィンドウが表示されます。

旧 Assist ファイルを選択し、開くボタンをクリックするか、旧 Assist ファイルをダブルクリックすると
旧 Assist ファイルのベクタデータが開きます。

VIII.7.2. Assist5

旧 Assist ファイルの Assist5 データのみ開きます。



- インポート先レイヤ指定：インポート先のグループレイヤとレイヤを指定できます。
（ラスタのみを開くの場合選択不可）
- ラスタ：外部参照ラスタで開きます。（ベクタのみを開くの場合選択不可）
- 背景レイヤ：背景レイヤにポイントを追加しない場合はチェックを入れます。
（ラスタのみを開くの場合選択不可）
- テキスト：自動テキスト化で作成したテキストを追加しない場合はチェックを入れます。
（ラスタのみを開くの場合選択不可）
- 画地情報：画地情報の抽出方法を選択します。（ラスタのみを開くの場合選択不可）

旧 Assist ファイルを選択し、［開く］ボタンをクリックするか、旧 Assist ファイルをダブルクリックすると
旧 Assist ファイルのベクタデータが開きます。

ベクタのみを開く

旧 Assist5 ファイルのベクタデータのみ開きます。
［ファイル］ – ［旧 Assist ファイルを開く］ – ［Assist5］ – ［ベクタのみを開く］を選択すると、
［Ast ファイルを開く］ウィンドウが表示されます。

開く

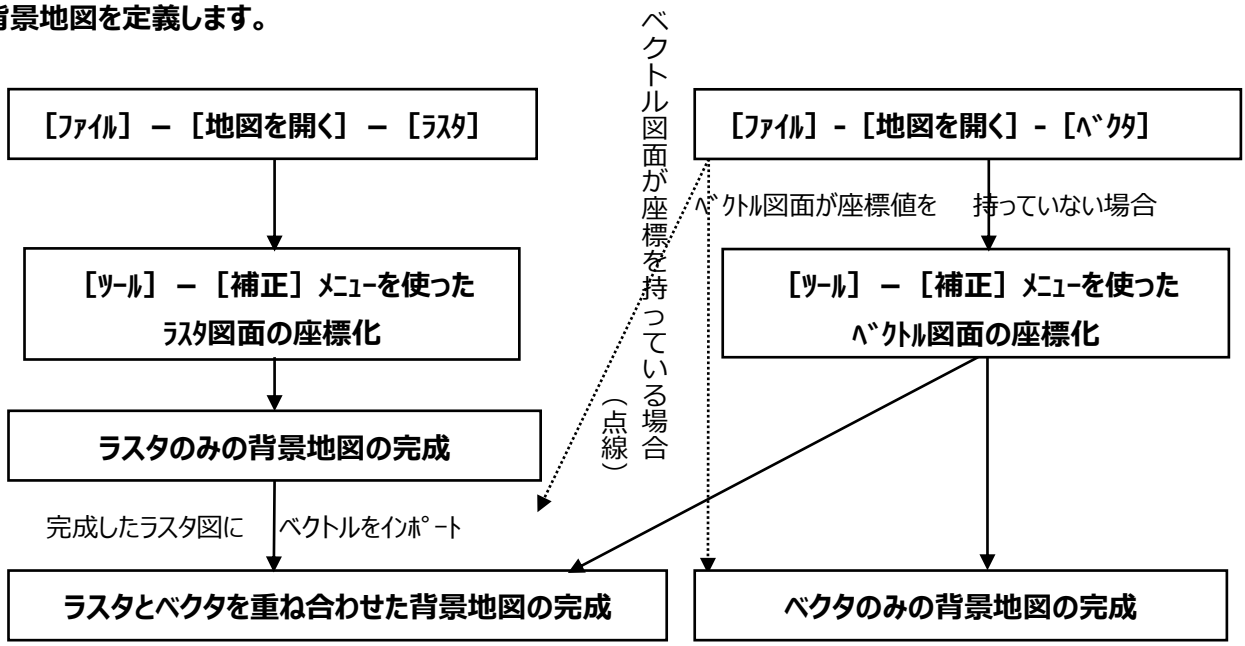
旧 Assist5 ファイルのベクタデータとラスタの両方を開きます。
［ファイル］ – ［旧 Assist ファイルを開く］ – ［Assist5］ – ［開く］を選択すると、
［Ast ファイルを開く］ウィンドウが表示されます。

ラスタのみを開く

旧 Assist5 ファイルのラスタデータのみ開きます。
［ファイル］ – ［旧 Assist ファイルを開く］ – ［Assist5］ – ［ラスタのみを開く］を選択すると、
［Ast ファイルを開く］ウィンドウが表示されます。

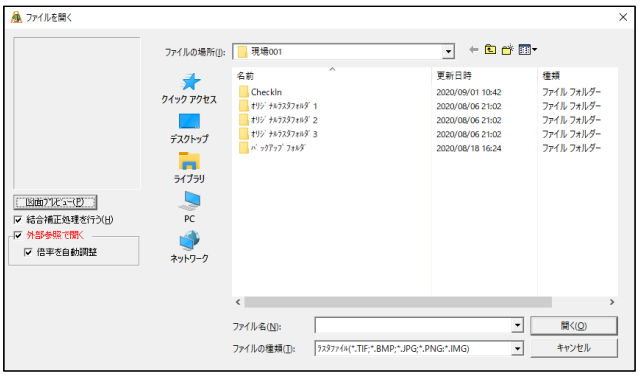
VIII.8. ［ファイル］ – ［地図を開く］

背景地図を定義します。



VIII.8.1. ［ファイル］ – ［地図を開く］ – ［ラスタ］ – ［ラスタファイル］

ラスタファイルを取り込みます。開く前に図面プレビューを押すとサムネイルで表示します。



読み込みが可能なラスタファイルの形式は TIF/TIFF/BMP/JPG/JPEG/PNG ファイルで、GeoTiff、World ファイルも読み込めます。サブフォーマットは、
TIFF LSB-CCITT G4・TIFF LSB-CCITT G3・TIFF LSB-Pack Bits・TIFF LSB-LZW・TIFF LSB-ハフマン圧縮・TIFFLSB-非圧縮・Windows ビットマップ(＊BMP)・JpegFiles(＊JPG)・
Windows ビットマップ
フルカラー(＊BMP)・Windows ビットマップ 256 色(＊BMP)・TIFF Files Pack Bits フルカラー(＊TIF)・TIFF Files Pack Bits256 色(＊TIF)・TIFF FilesLZW フルカラー(＊TIFF)・TIFF FilesLZW256 色(＊TIFF)・TIFF Files 非圧縮フルカラー(＊TIFF)・TIFF Files 非圧縮 256 色(＊TIFF)・Jpeg Files(＊JPG)
に対応しています。

もしも、現場フォルダに指定した図面ファイルが無い場合は右の注意が出るのでコピーして続行を押すと、強制的に、現在の現場フォルダにラスタファイルを、コピーします。
しばらくすると地図が表示されます。
※ ラスタを Assist8 ファイルに内蔵する場合、メッセージは表示されません。

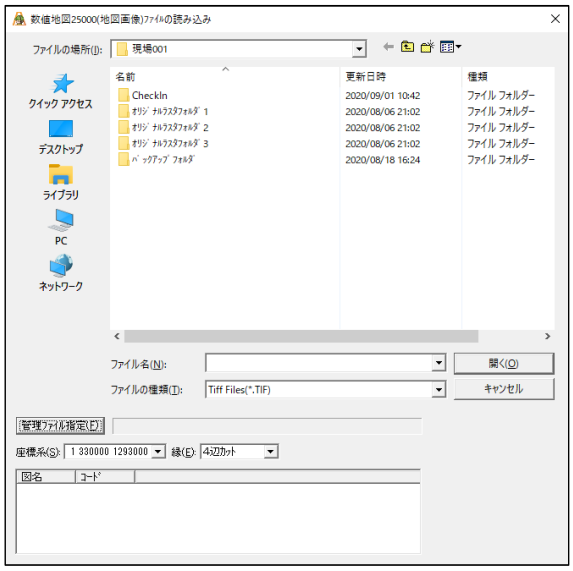
VIII.8.2. ［［ファイル］ – ［地図を開く］ – ［ラスタ］ – ［1/25000 地形図、 1/50000 地形図、1/200000 地形図］

国土地理院刊行の 1/25000・1/50000・1/200000 数値地図を読み込み、自動で 4 点補正座標を設定することができます。複数ファイルを指定すると自動で結合されます。数値地図のファイルは、地図画像（Ｔｉｆｆ）と管理ファイル（ｃｓｖ）で構成されています。ここでは数値地図 1/25000 を例に説明します。

手順

1） ［ファイル］ – ［地図を開く］ – ［ラスタ］ – ［1/25000 地形図］を選択します。

2） ［数値地図 25000（地図画像）ファイルの読み込み］ウィンドウが表示されます。



3） ［管理ファイル指定］ボタンを押すと［管理ファイル指定］ウィンドウが表示されます。
管理ファイル（ｃｓｖ）を選択しファイルの種類（日本測地系・世界測地系・新図郭地形図）を選択します。

4） 座標系、縁を選択します。
縁は結合後の図面の余白の処理選択です。
［そのまま］は余白を残して結合します。
［部分カット］は結合するファイルの結合面の余白をカットして結合します。
［４辺カット］は４辺の余白をカットして結合します。

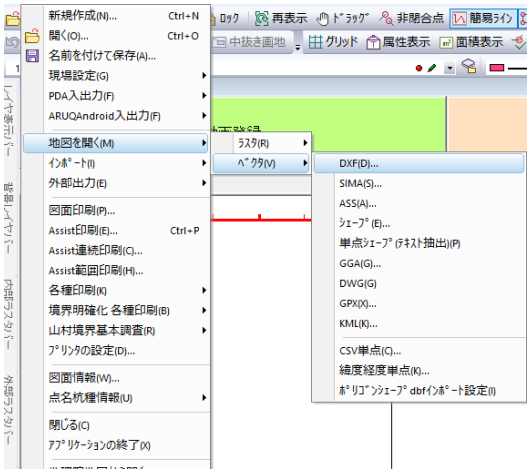
5） 読み込む地図画像（TIF たは TIFF）を選択します。

6） 設定終了後、［開く］ボタンをクリックすると、数値地図 25000（地図画像）が開きます。
複数ファイルを指定した場合は自動で座標結合して開きます。

VIII.8.3. ［ファイル］ – ［地図を開く］ – ［ベクタ］

ベクタファイルを取り込みます。

ベクタファイルの選択は１２種あります。



- DXF（一般に新規図面を定義）
- SIMA（一般に新規図面を定義）
- ASS
- ｼｪｰﾌﾟ（一般に新規図面を定義）
- 単点ｼｪｰﾌﾟ（テキスト抽出）
- GGA
- DWG
- GPX
- KML
- CSV 単点（一般に新規図面を定義）
- 緯度経度単点
- 法務省地図 XML

※DXF ファイルの場合

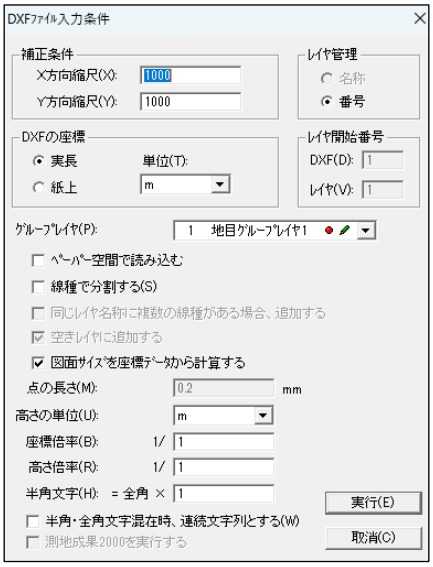
ファイルタイプを選択後、ファイルを指示します。

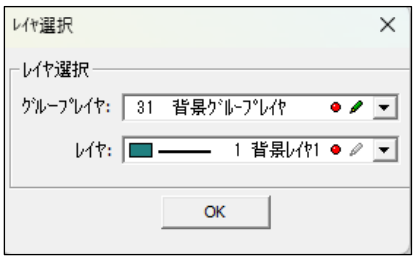
DXF ファイルの場合は、[DXF ファイル入力条件]が表示されます。

読み込まれる DXF の条件に合わせて［実行］を押します。

レイヤは、[DXF ファイル入力条件]の後に表示される［レイヤ選択］で設定します。

地目レイヤ・背景レイヤの全てから選択できます。





VIII.8.4. ［ファイル］ – ［地図を開く］ – ［ベクタ］ – ［DXF］、［SIMA］、［ASS］、［シェープ］、［単点シェープ（テキスト抽出）］、［GGA］、［DWG］、［GPX］、［KML］の選択

背景地図がベクトル化されていたり、前述のラスタ図面にベクトル図面を重ね合わせることができます。

VIII.8.5. ［ファイル］ – ［地図を開く］ – ［ベクタ］ – ［CSV 単点］

Excel 等で記述された単点データを開きます。

手順

1） ＣＳＶファイルを選択すると、［ＣＳＶファイル入力条件］が表示されます。

2） Ｘ、Ｙ方向縮尺を入力し、［実行］を押します。

3） ［インポートレイヤ選択］で単点をインポートするレイヤを選択します。

VIII.8.6. ［ファイル］ – ［地図を開く］ – ［ベクタ］ – ［緯度経度単点］

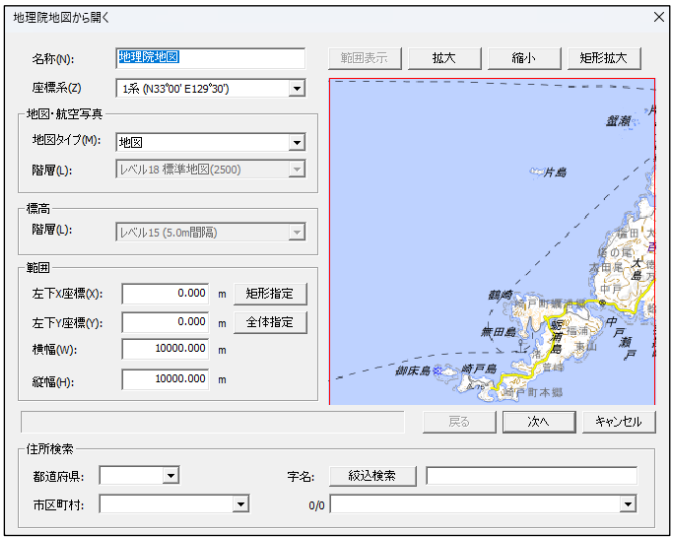
緯度経度の情報を持った単点データを開きます。

VIII.8.7. ［ファイル］ – ［地図を開く］ – ［ベクタ］ – ［法務省地図 XML］

法務局から提供される登記所備付地図データ（XML 形式）を開きます。

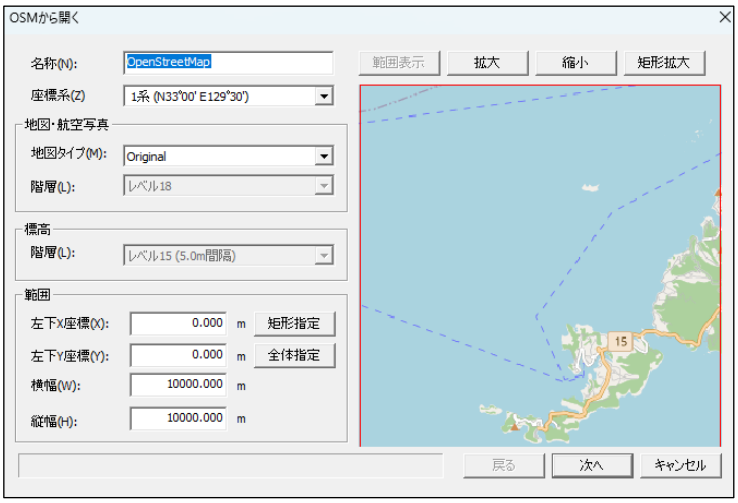
VIII.8.8. ［ファイル］ – ［地図を開く］ – ［地理院地図から開く］

地理院地図を任意の範囲で切り出しすることができます。



VIII.8.9. ［ファイル］ – ［地図を開く］ – ［OpenStreetMap から開く］

OpenStreetMap を任意の範囲で切り出しすることができます。



VIII.9. ［ファイル］ – ［インポート］

ポイント（点）を選択した場合の画面下記のような用途があります。
もし、同じ点名を自動的に上書きした場合は、［他の Assist8 ファイル（点名マッチング］を選択します。
（下記の注意をご参照ください。）

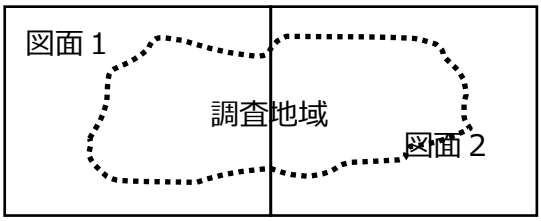
その１　調査地域の図面が複数枚に分かれているとき調査地域の内、図面１の地区を調査

1） 調査地区の内、図面２の地区現場を作成

2） 作成された図面２の現場に、図面１のデータを
　　インポートする。

その２　調査年度の全ての杭種別本数を算出するとき

その３　調査地域全体の地図を印刷するとき



VIII.9.1. 他の Assist8 ファイル

既存図面に別の Assist8 のファイルをインポートします。
手順

1） インポートレイヤ設定を行います。



- インポートレイヤ:
  - 全て：全てのレイヤを転送します
  - 地目レイヤのみ：地目レイヤのみをインポートします。背景は転送されません。
  - レイヤを選択：地目レイヤ、背景レイヤで転送するものを個別に選びます。
    また、転送先のレイヤも選択します。
- 地目・背景レイヤ設定:
  - 転送：チェックでインポート
  - 転送元グループ、転送元レイヤ：インポートするファイルのレイヤ（地目レイヤのみ）

- 転送先グループ、転送先レイヤ：現在の図面のどのレイヤに転送するか選択します（背景レイヤは転送先レイヤのみ）
- レイヤ名称引き継ぎ：チェックでインポートファイルのレイヤ名を引き継ぎます。インポートレイヤのモードでそれぞれ動作が異なります。
- 全て：全てのレイヤ名をインポート側のレイヤ名で上書きします。
- 地目のみ：地目レイヤのみインポート側のレイヤ名で上書きします
- レイヤを選択：転送にチェックをいれた転送元のレイヤ名を転送先のレイヤ名に上書きします
- 特殊レイヤ転送：チェックでグループレイヤ 32 の特殊レイヤも転送します

2） 自由属性のインポート設定を行います。

ポイント、ライン、ポリゴンの設定
FieldID、名前、Type、キーはインポート図面の自由属性になり、インポート先が現在の図面の自由属性になります。



- キーを新たに連番で振り直す：キーを AutoNo で結合します。現状の図面、インポート図面どちらが AutoNo の場合、チェックを外すことはできません。
- データを転送しない：チェックで自由属性をインポートしません。
- 全て新 ID に：インポート先を新たな FieldID を作成しその ID にインポートします。
- 優先：自由属性でキーが同一だった場合、どちらを優先するかの設定です。

VIII.9.2. 他の Assist8 ファイル（点名マッチング）

既存図面の点名とインポート図面の点名が同一の場合、既存図面の座標値をインポート図面の座標値に置き換えます。

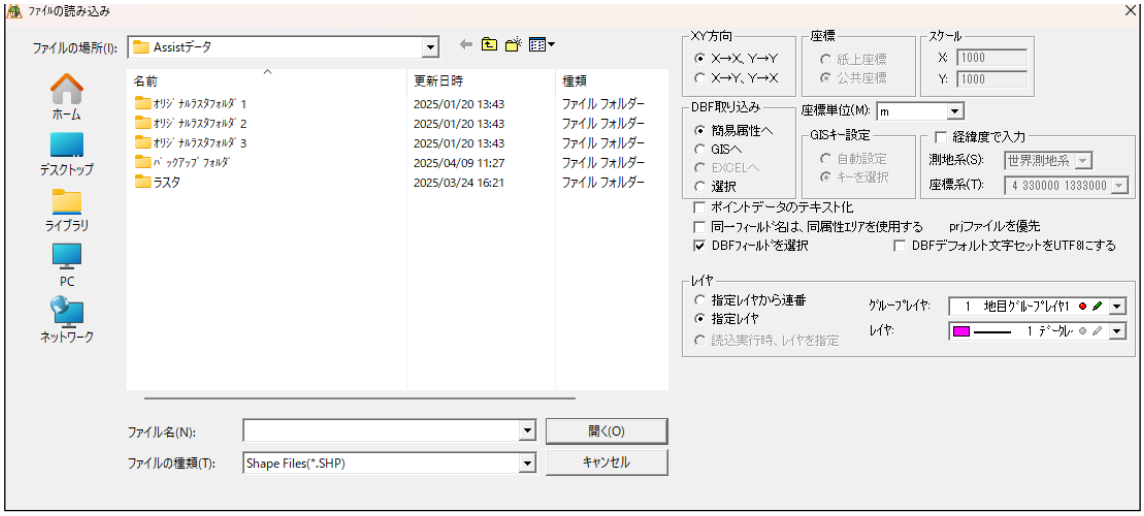
VIII.9.3. ＤＸＦ

既存図面にＤＸＦファイルをインポートします。

VIII.9.4. シェープ

既存図面にシェープファイルをインポートします。

＜シェープ新規・インポートで DBF を自由属性取り込む場合＞



1） DBF 取り込みの選択にチェックし、ファイルを選択します。



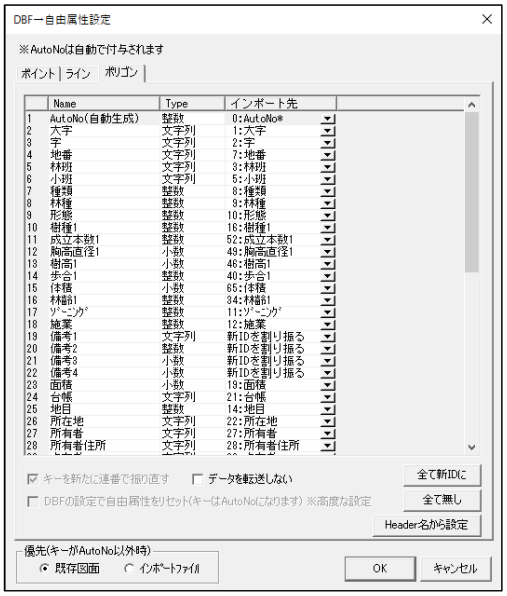
2） [はい]を選択します。

3） DBF→自由属性設定画面が表示されます。

Name は DBF のフィールド名、Type は DBF のフィールドの方になります

インポート先で自由属性のフィールドを指定します。

インポート先が[新 ID を割り振る]の場合、Name の欄でフィールド名を変更可能です。



- キーを新たに連番で振り直す：キーを AutoNo で結合します。現状の図面が AutoNo の場合、チェックを外すことはできません。
- データを転送しない：チェックで DBF データをインポートしません。
- DBF の設定で自由属性をリセット：自由属性設定を全て削除し DBF の設定で自由属性を作成します。
- 全て新 ID に：転送先の欄を全て[新 ID を割り振る]に変更します。
- 全て無し：転送先の欄を全て転送しないにします。
- Header 名から設定：DBF ヘッダー名から自由属性と同じ名前を探して転送先の欄を変更します。

VIII.9.5. SIMA

既存図面に SIMA ファイルをインポートします。
読み込みの際、レイヤを地目レイヤに設定して実行すると、杭種設定ダイアログが表示され、全てのポイントが選択した杭種に登録されます。

VIII.9.6. SIMA（点名マッチング）

既存図面の点名とインポート図面（SIMA ファイル）の点名が同一の場合、既存図面の座標値をインポート図面の座標値に置き換えます。

VIII.9.7. 単点シェープ（テキスト抽出）

シェープファイルの単点と結びついているＤＢＦのフィールドを指定し、テキストとしてインポートします。
範囲外の単点情報は削除されます。

VIII.9.8. GGA

既存図面にＧＧＡファイルをインポートします。

VIII.9.9. GPX

既存図面にＧＰＸファイルをインポートします。

VIII.9.10. KML

既存図面にＫＭＬファイルをインポートします。

VIII.9.11. CSV 単点

新規の座標点を Excel 等で記述し、ファイルで読み込みたい場合、この手法で杭種を定義します。
記述順は･･･ 点名、X 座標、Y 座標、Z 座標、杭 ID、備考１,備考２ （Z 座標、杭 ID、備考１,備考２ は記述が無くてもＯＫ）記述が無い場合は、Z 座標＝０、杭 ID＝０ と定義されます。

VIII.9.12. CSV 単点（点名マッチング）

座標が既知の点を Excel 等で、記述し、ファイルで読み込みたいときや、他社のシステムから Assist8 にデータを読み込んで一元管理する場合、SIMA には杭種の定義が無いので、この手法で杭種を定義します。

記述順は･･･点名、X 座標、Y 座標、Z 座標、杭 ID（Z 座標、杭 ID は記述が無くてもＯＫ）記述が無い場合は、Z 座標＝０、杭 ID＝０と定義されます。

＜他社のシステムから Assist8 にデータを読み込んで杭種を付与する手順＞

1） はじめに SIMA マッチングインポートを行って、座標値と結線情報を入力します。

2） 次に、CSV フォーマットでテキストファイルを記述し、CSV マッチングインポートを行うと、杭種が定義されます。

【注意】マッチングインポートされますので同一点名で座標値が異なる場合は、新たに読み込まれる CSV ファイルに記述されている座標値を優先します。

VIII.9.13. 緯度経度単点

新規の緯度経度、座標点を Excel 等で記述し読み込みます。

VIII.9.14. 検収データ CSV

北信州の CSV データを読み込みます。

VIII.9.15. 森発見 CSV

森発見の CSV データを読み込みます。

VIII.9.16. ［法務省］ – ［地図 XML］

法務局から提供される登記所備付地図データ（XML 形式）を読み込みます。

VIII.9.17. ［法務省］ – ［要約書 CSV］

法務局から提供される要約書データ（CSV 形式）を読み込みます。

VIII.9.18. ［旧 Assist ファイル］ – ［Assist7 ファイル、Assist7 ファイル（点名マッチング）、Assist6 ファイル、Assist6 ファイル（点名マッチング）、Assist5 ファイル、Assist5 ファイル（点名マッチング）］

既存図面に旧 Assist ファイルをインポートできます。

VIII.10. ［ファイル］ – ［外部出力］

調査図データを他のファイル形式に変換して保存します。

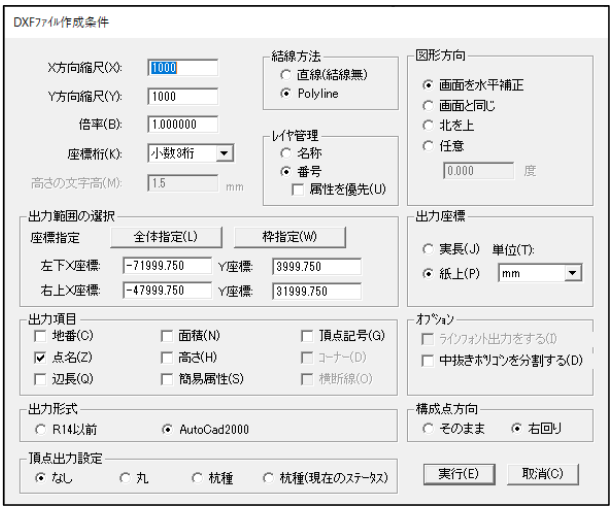
現在、Assist8 ではＤＸＦファイル（*.DXF）、ＳＸＦファイル（*SFC.）、ＳＩＭＡファイル（*.SIM）、ＡＳＳファイル（*.ASS）、シェープファイル（*.SHP／*.SHX／*.DBF）、DWG ファイル、GPX ファイル、KML・KMZ ファイル、テキストファイル（*.CSV）、多角指定出力、レイヤ指定出力、画面キャプチャ出力（*.TIF、*.BMP、*.JPG）箇所位置図出力（*.xlsx）、Excel 自由帳表出力（*.xlsx）に出力することができます。

VIII.10.1. ＤＸＦファイルへ出力

DXF ファイルを出力します。

手順

1） ［ファイル］ – ［外部出力］ – ［ＤＸＦ］を選択すると、［ＤＸＦファイル作成条件］ウィンドウが表示されます。ＤＸＦファイルの作成条件を入力します。



- X・Y方向縮尺：縮尺、倍率、座標桁を指定します。
- 結線方法：直線（ﾎﾟﾘﾗｲﾝ、またはﾎﾟﾘｺﾞﾝの情報を単線で出力）か Polyline（ﾎﾟﾘﾗｲﾝ、またはﾎﾟﾘｺﾞﾝの情報を連続線で出力）を選択します。
- レイヤ管理：レイヤの管理方法を選択します。
- 出力範囲の選択：下記のいずれかの出力範囲を指定します。
  - 全体指定：図面全体を出力
  - 枠指定：矩形で指定した範囲を出力
  - 左下Ｘ，Ｙ座標：全体指定または枠指定で指定した範囲の左下座標が表示
  - 右上Ｘ，Ｙ座標：全体指定または枠指定で指定した範囲の右上座標が表示
- 出力項目：出力する項目を選択します。
- 出力形式：ＤＸＦのバージョンを選択します。
- 頂点出力設定：出力する頂点の設定を選択します。

- なし：頂点出力を設定しません。
- 丸：頂点を丸で出力します。
- 杭種：頂点を設定されている杭種で出力します。
- 杭種（現在のステータス）：画面上に表示されている状態で頂点を出力します。

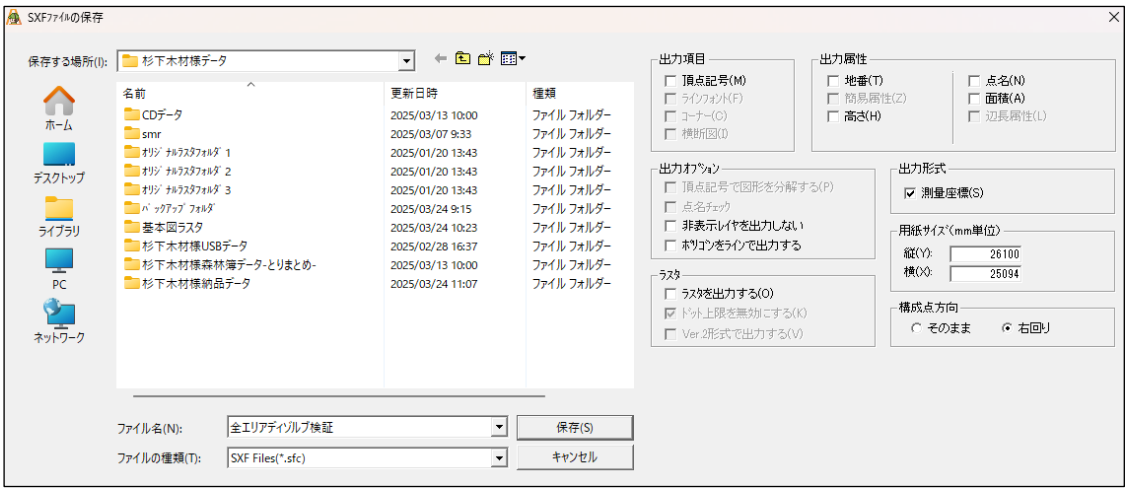
- 図形方向：出力時の図形の方向を選択（［任意］を選択した場合は角度を入力します。）
- 出力座標：［実長］・［紙上］を選択し、座標単位を選択します。
- オプション：オプションを選択します。
- 構成点方向：構成点の方向を選択します。

2) ［ＤＸＦファイルを保存］ウィンドウが表示されます。
ファイル名を入力し［保存］ボタンをクリックするとＤＸＦファイルに保存されます。

VIII.10.2. ＳＸＦファイルへ出力

SXF ファイルを出力します。

手順



1） ［ファイル］ – ［外部出力］ – ［ＳＸＦ］を選択すると、［ＳＸＦファイルの保存］ウィンドウが表示されます。

- 出力項目：出力する項目を選択します。
- 出力属性：出力する属性を選択します。
- 出力オプション：出力するオプションを選択します。
- 出力形式：測量座標で出力するかを選択します。
- ラスタ：ラスタを出力するかを選択します。
- 用紙サイズ：現在の用紙サイズが表示されます。サイズを変えるときはサイズを入力してください。
- 構成点方向：構成点の方向を選択します。

2） ファイル名を入力し［保存］ボタンをクリックするとＳＸＦファイルに保存されます。

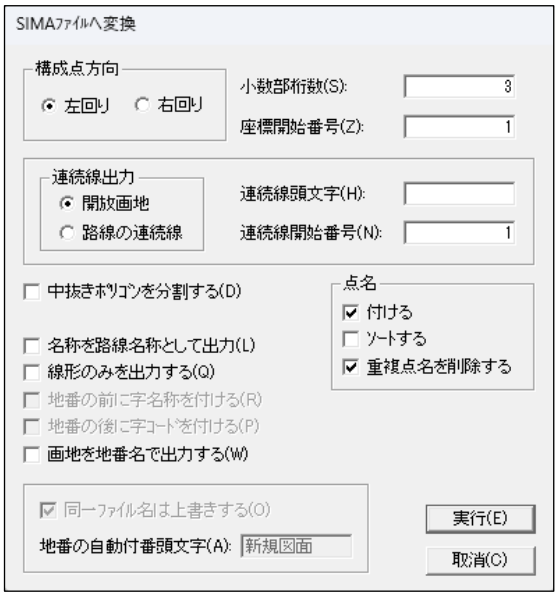
VIII.10.3. ＳＩＭＡ･ＡＳＳファイルへ出力

SIMA･ASS ファイルを出力します。

手順

1） ［ファイル］ – ［外部出力］ — ［ＳＩＭＡ］または［ＡＳＳ］を選択すると、［ＳＩＭＡファイルに名前を付けて保存］または［ＡＳＳファイルに名前を付けて保存］ウィンドウが表示されます。ファイル名を入力し［保存］ボタンをクリックします。

2） ［ＳＩＭＡファイルへ変換］ウィンドウが表示されます。



- 構成点方向：構成点の方向を選択（このファイルを受けるシステムで方向が固定の場合があります）
- 小数点桁数：座標値の小数点以下の桁数を設定（単位はデフォルトでメートル）
- 座標開始番号：ＳＩＭＡで管理している点名の開始番号を入力します。
- 連続線出力：連続線の出力方法を選択し、連続線頭文字と連続線開始番号を入力。
- 中抜きポリゴンを分割する：中抜きポリゴンの有無を選択します。
- 名称を路線名称として出力：名称を路線名称として出力します。
- 画地を地番名で出力する：画地単位でＳＩＭＡファイルに出力します。
  この場合、ファイル名は“地番．ｓｉｍ”です。
- 点名：点名の設定を選択
- 地番の自動付番頭文字：［画地を地番名で出力する］を選択した場合に、地番が入力されていない画地のファイル名を入力します。ファイル名は“地番頭文字（１）”です。（　）の中の数字は１から連番になります。

3)　［実行］ボタンをクリックするとＳＩＭＡファイルに保存されます。

VIII.10.4. シェープファイルへ出力

シェープファイルを出力します。シェープファイルは、ＥＳＲＩ社ソフトウエア互換のベクタ（バイナリ）フォーマットです。

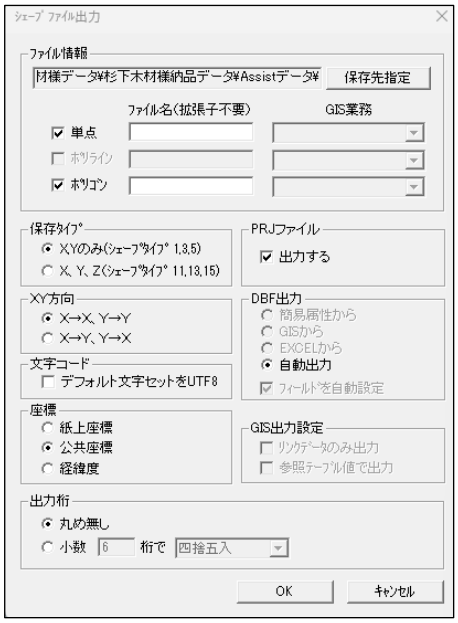
手順

1） ［ファイル］ – ［外部出力］ – ［シェープ］を選択すると、［シェープファイル出力］ウィンドウが表示されます。

2） ［保存先指定］ボタンをクリックして、［フォルダの参照］ウィンドウから保存先フォルダを指定します。

3） 出力する図形のチェックボックスを［ＯＮ］にして、ファイル名を入力します。

4） ファイル名を入力し［ＯＫ］ボタンをクリックするとシェープファイルに保存されます。



- 保存タイプ：ＸＹのみ：Ｘ，Ｙ座標のみ出力します。
- ＸＹＺ：Ｘ，Ｙ，Ｚ座標を出力します。
- PRJ ファイル：出力する場合はチェックを入れる。
- ＸＹ方向：Ｘ→Ｘ，Ｙ→Ｙ：ＸはＸ，ＹはＹ軸として出力します。
- Ｘ→Ｙ，Ｙ→Ｘ：ＸをＹ，ＹはＸ軸に変更して出力します。
- DBF 出力：［ＧＩＳから］を選択した場合は、ＧＩＳ業務を選択します。
- 文字コード：文字コード UTF8 を使用する場合はチェックを入れる。
- 座標：出力桁の丸めを設定します。
- 出力桁：出力桁の丸めを設定します。

5） ファイル名を入力し［ＯＫ］ボタンをクリックするとシェープファイルに保存されます。

VIII.10.5. DWG ファイルへ出力

DWG フォーマットファイルを出力します。

手順

1） ［ファイル］ – ［外部出力］ – ［DWG］を選択します。

2） ［DWG ファイル作成条件］ウィンドウが表示されます。



- X 方向縮尺：X 方向の縮尺を指定します。
- Y 方向縮尺：Y 方向の縮尺を指定します。
- 倍率：倍率を指定します。
- 座標桁：座標桁を選択します。
- ﾚｲﾔ管理：ﾚｲﾔ管理を名称、番号から選択します。
- 図形方向：図形の方向を選択します。
- 出力座標：出力座標を選択します。
- オプション：オプションを選択します。
- 出力項目：出力する項目を選択します。
- ﾗｽﾀの名称のみを、保存する：ﾗｽﾀの名称のみを保存するか選択します。
- 保存形式（ﾓﾉｸﾛ）：データをモノクロで保存する場合の形式を選択します。

- 保存形式（ｶﾗｰ）：データをカラーで保存する場合の形式を選択します。
- JPEG 保存：JPEG ファイルの保存先を選択します。
- 構成点方向：構成点方向を選択します。

3） ［ＯＫ］をクリックすると、［DWG ファイル作成条件］ウィンドウが開きます。
ＤWG ファイルの作成条件を入力します。

4） ［AutoCAD ファイルを保存］ウィンドウが表示されます。ファイル名を入力し［保存］ボタンをクリックするとＤWG ファイルに保存されます。

VIII.10.6. GPX ファイルへ出力

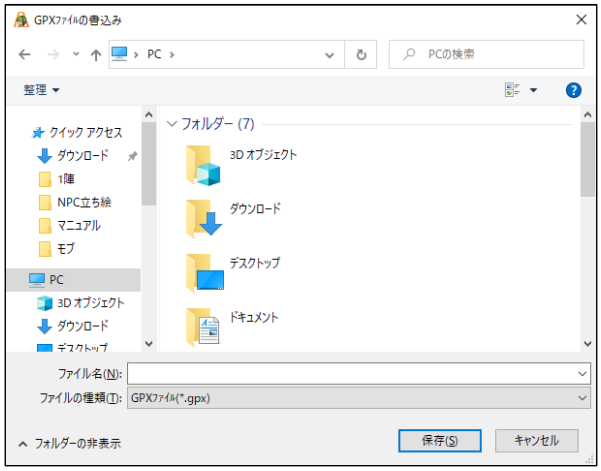
ＧＰＸファイルを出力します。

手順

1） ［ファイル］ – ［外部出力］ – ［ＧＰＸ］を選択します。

2） ［ＧＰＸファイルの書込み］ウィンドウが表示されます。

3） ファイル名を入力し［ＯＫ］ボタンをクリックすると保存されます。



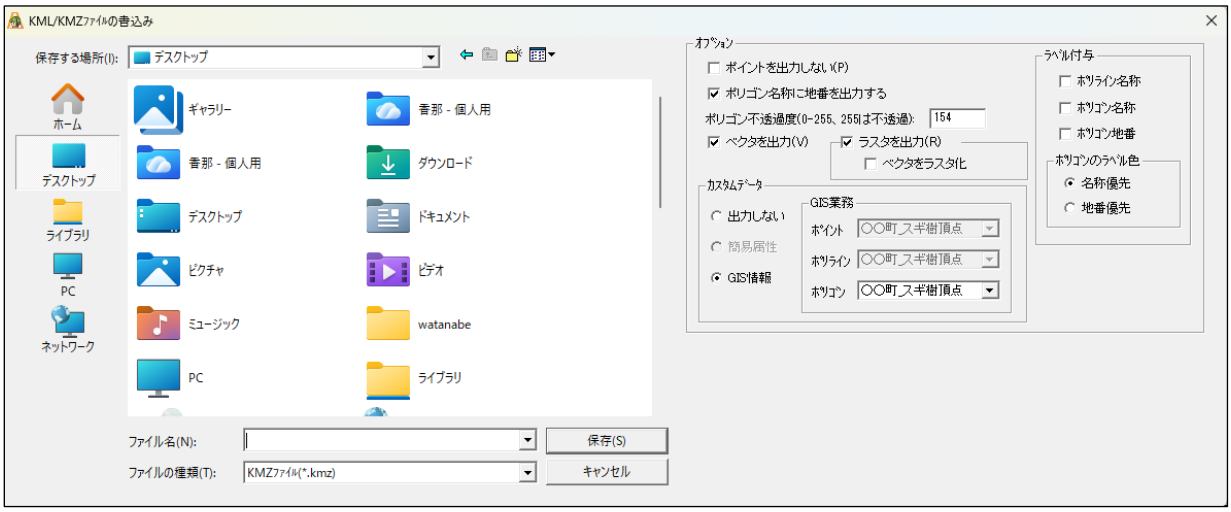
VIII.10.7. KML･KMZ ファイルへ出力

ＫＭＬファイルを出力します。

手順

1） ［ファイル］ – ［外部出力］ – ［ＫＭＬ･KMZ］ – ［全体］または［範囲指定］を選択します。

2） ［ＫＭＬ/KMZ ファイルの書込み］ウィンドウが表示されます。



- オプション：オプションを選択します。［ベクタを出力］［ラスタを出力］［ベクタをラスタ化］は範囲指定のみのオプションです。
- カスタムデータ：下の GIS 情報にチェックを入れることでポイントとポリラインの GIS 業務を選択することができます。
- ラベル付与：ラベルを付与とラベル色を選択します。

3） ファイル名を入力し［ＯＫ］ボタンをクリックすると保存されます。

VIII.10.8. テキストファイル（図形、頂点）へ出力

図形と頂点の情報を CSV ファイルで出力します。

手順

1） ［ファイル］－［外部出力］－［テキスト（図形、頂点）］を選択すると、
［ファイル名を付けてテキスト（ＣＳＶ）保存］ウィンドウが表示されます。

2） ファイル名を入力し［保存］ボタンをクリックするとテキストファイルに保存されます。

出力順は・・・図形種類（Ｐはポイント、Ｌはライン、Ａはエリア で、数字は連番）、種別（単点、ラインは－、ポリゴンは地番名）、点名、X 座標、Y 座標、高さ、作成日、作成時間、杭備考１～杭備考８

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	P1	単点	418	192.246	173.355	0	2002/10/26	11:13'31		
2	P2	単点	419	186.531	176.530	0	2002/10/26	11:13'32		
10	L10	-	418	192.246	173.355	0	2002/10/26	11:13'31		
11	L10	-	419	186.531	176.530	0	2002/10/26	11:13'32		
76	A19	433-2	371	169.810	182.351	0	2001/7/4	15:59'33		
77	A19	433-2	P-12	168.033	172.086	0	2001/7/4	16:47'45	宮下 梅田	織田信長
78	A19	433-2	P-11	178.877	165.885	0	2001/7/4	16:47'25		

※ 座標フォーマットで公共座標/緯度経度の選択ができます。

VIII.10.9. テキストファイル（頂点）へ出力

頂点の情報を CSV ファイルで出力します。（XY 座標）

手順

1） ［ファイル］－［外部出力］－［テキスト（頂点）］を選択すると、
［ファイル名を付けてテキスト（ＣＳＶ）保存］ウィンドウが表示されます。

2） ファイル名を入力し［保存］ボタンをクリックするとテキストファイルに保存されます。

出力順は：点名、X 座標、Y 座標、高さ、杭 ID、杭種、作成日、作成時間、杭備考 1～杭備考８

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	352	167.878	93.028	0	4	真鍮筆界基準鋲	2001/7/4	15:51		
2	353	171.291	99.06	0	3	白プラ杭	2001/7/4	15:53	北奈良 直川	明智光秀
3	354	174.308	104.616	0	3	白プラ杭	2001/7/4	15:53		
4	355	179.149	113.189	0	3	白プラ杭	2001/7/4	15:53		
5	356	180.499	116.046	0	2	鋲	2001/7/4	15:53		
6	357	185.658	124.301	0	2	鋲	2001/7/4	15:53		
7	358	182.959	125.174	0	2	鋲	2001/7/4	15:53		
8	359	195.659	140.256	0	3	白プラ杭	2001/7/4	15:54		
9	360	196.612	142.558	0	2	鋲	2001/7/4	15:54		
10	361	197.247	142.081	0	2	鋲	2001/7/4	15:54		

※ 座標フォーマットで公共座標/緯度経度の選択ができます。

VIII.10.10. テキストファイル（頂点：緯度経度）へ出力

頂点の情報を CSV ファイルで出力します。（緯度経度）

手順

1） ［ファイル］－［外部出力］－［テキスト（頂点：緯度経度）］を選択すると、
［名前を付けて保存］ウィンドウが表示されます。

2） ファイル名を入力し［保存］ボタンをクリックするとテキストファイルに保存されます。

出力順は：点名、X 座標、Y 座標、高さ、杭 ID

	A	B	C	D	E
1	1	1180751	967648.4	0	3
2	10	1180644	967812.8	0	1
3	100	1180666	967930	0	1
4	101	1180656	967928.4	0	2
5	102	1180650	967925.2	0	1
6	103	1180622	967942	0	3
7	104	1180622	967957	0	6

※ 緯度経度で 10 進数/60 進数（プロパティ準拠）の選択ができます。

VIII.10.11. テキストファイル（頂点：GPS 詳細）へ出力

頂点の情報を CSV ファイルで出力します。（GPS 詳細）

手順

1） ［ファイル］－［外部出力］－［テキスト（頂点：GPS 詳細）］を選択すると、
［名前を付けて保存］ウィンドウが表示されます。

2） ファイル名を入力し［保存］ボタンをクリックするとテキストファイルに保存されます。

出力順は：点名、X 座標、Y 座標、高さ、杭 ID、杭種、作成日、作成時間、杭備考 1～杭備考 8
緯度、経度、取得回数、衛星数、DOP 地、補正局

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	1	1180751	967648.4	0	3	プレート	2007/11/9	16:45'17	始点	重なり有り
2	10	1180644	967812.8	0	1	プラ杭	2007/11/30	10:34'46	特記事項なし	
3	100	1180666	967930	0	1	プラ杭	2007/11/30	10:46'33		76と同一地点
4	101	1180656	967928.4	0	2	鋲	2007/11/30	10:46'35		771と同一地点
5	102	1180650	967925.2	0	1	プラ杭	2007/11/30	10:46'40	特記事項なし	
6	103	1180622	967942	0	3	プレート	2007/11/30	10:46'52	特記事項なし	
7	104	1180622	967957	0	6	交点	2007/11/30	10:46'53	特記事項なし	

VIII.10.12. 多角指定出力で選択した図形をＳＩＭＡ・ＡＳＳファイルに出力

多角指定で選択した図形のみ SIMA･ASS ファイルへ出力します。

手順

1） ［ファイル］－［外部出力］－［多角指定出力］－［ＳＩＭＡ］または－
［ＡＳＳ］を選択すると、カーソルが＋に変わります。

2） 図形をかこむように場所をクリックします。

3） ［ＳＩＭＡファイルに名前をつけて保存］または［ＡＳＳファイルに名前をつけて保存］ウィンドウが表示されます。ファイル名を入力し［保存］ボタンをクリックします。

4） ［ＳＩＭＡファイルへ変換］ウィンドウが表示されます。

5） 詳細は**Ⅶ.10.3.ＳＩＭＡ・ＡＳＳファイルへ出力**をご参照ください。

6） 設定終了後、［実行］ボタンをクリックするとＳＩＭＡまたはＡＳＳファイルが保存されます。

VIII.10.13. 多角指定出力で選択した図形をシェープファイルに出力

多角指定で選択した図形のみシェープファイルへ出力します。

手順

1） ［ファイル］－［外部出力］－［多角指定出力］－［シェープ］を選択すると、
カーソルが＋に変わります。

2） 図形をかこむように場所をクリックします。

3） ［シェープファイル出力］ウィンドウが表示されます。

4） ［保存先指定］ボタンをクリックして、［フォルダの参照］ウィンドウから保存先フォルダを指定します。

5） 出力する図形のチェックボックスを［ＯＮ］にして、ファイル名を入力します。

6） 詳細は**Ⅶ.10.4.シェープファイルへ出力**をご参照ください。

7） 設定終了後、［ＯＫ］ボタンをクリックすると、選択した図形ごとにファイル
（ｓｈｐ／ｓｈｘ／ｄｂｆ）に出力します。

ただし、外部入力でシェープファイルを開く場合は、拡張子は「ｓｈｐ」のみ表示されます。

VIII.10.14. 多角指定出力で選択した図形を GPX ファイルに出力

多角指定で選択した図形のみＧＰＸファイルへ出力します。

手順

1） ［ファイル］－［外部出力］－［多角指定出力］－［GPX］を選択すると、

2） カーソルが＋に変わります。

3） 図形をかこむように場所をクリックします。

4） ［ＧＰＸファイルの書込み］ウィンドウが表示されます。

5） ファイル名を入力し［ＯＫ］ボタンをクリックすると保存されます。

VIII.10.15. 多角指定出力で選択した図形を杭備考ＣＳＶファイルに出力

多角指定で選択した図形のみ CSV ファイルへ出力します。

手順

1） ［ファイル］－［外部出力］－［多角指定出力］－［杭備考 CSV］を選択すると、
カーソルが＋に変わります。

2） 図形をかこむように場所をクリックします。

3） ［名前を付けて保存］ウィンドウが表示されます。

4） ファイル名を入力して［保存］ボタンをクリックすると杭備考がＣＳＶファイルに保存されます。

VIII.10.16. レイヤ指定出力で選択したレイヤをシェープファイルに出力

指定されたレイヤの図形のみシェープファイルへ出力します。

手順

1） ［ファイル］－［外部出力］－［レイヤ指定出力］－［シェープ］を選択します。

2） ［レイヤ選択］ウィンドウが表示されます。出力するレイヤを選択して[OK]をクリックします。

3） ［シェープファイル出力］ウィンドウが表示されます。

4） ［保存先指定］ボタンをクリックして、［フォルダの参照］ウィンドウから保存先フォルダを指定します。
出力する図形のチェックボックスを［ＯＮ］にして、ファイル名を入力します。

5） 詳細は**Ⅶ.10.4.シェープファイルへ出力**をご参照ください。

6） 設定終了後、［ＯＫ］ボタンをクリックすると、選択した図形ごとにファイル（ｓｈｐ／ｓｈｘ／ｄｂｆ）
に出力します。ただし、外部入力でシェープファイルを開く場合は、拡張子は「ｓｈｐ」のみ表示されます。

VIII.10.17. レイヤ指定出力で選択したレイヤを GPX ファイルへ出力

指定されたレイヤの図形のみ GPX ファイルへ出力します。

手順

1） ［ファイル］－［外部出力］－［レイヤ指定出力］－［GPX］を選択します。

2） ［レイヤ選択］ウィンドウが表示されます。出力するレイヤを選択して[OK]をクリックします。

3） ［ＧＰＸファイルの書込み］ウィンドウが表示されます。

4） ファイル名を入力し［ＯＫ］ボタンをクリックすると保存されます。

VIII.10.18. レイヤ指定出力で選択したレイヤを KML ファイルへ出力

指定されたレイヤの図形のみ KML ファイルへ出力します。

手順

1） ［ファイル］－［外部出力］－［レイヤ指定出力］－［KML］を選択します。

2） ［レイヤ選択］ウィンドウが表示されます。出力するレイヤを選択して[OK]をクリックします。

3） ［ＫＭＬ/KMZ ファイルの書込み］ウィンドウが表示されます。

4） ［保存先指定］ボタンをクリックして、［フォルダの参照］ウィンドウから保存先フォルダを指定します。
出力する図形のチェックボックスを［ＯＮ］にして、ファイル名を入力します。

5） 詳細は**Ⅶ.10.7.KML・KMZ ファイルへ出力**をご参照ください。

VIII.10.19. 画面キャプチャをファイルに出力

指定された範囲を World ファイル付きのラスタデータとして出力します。

出力可能な拡張子は TIF、ＢＭＰ、ＪＰＧです。

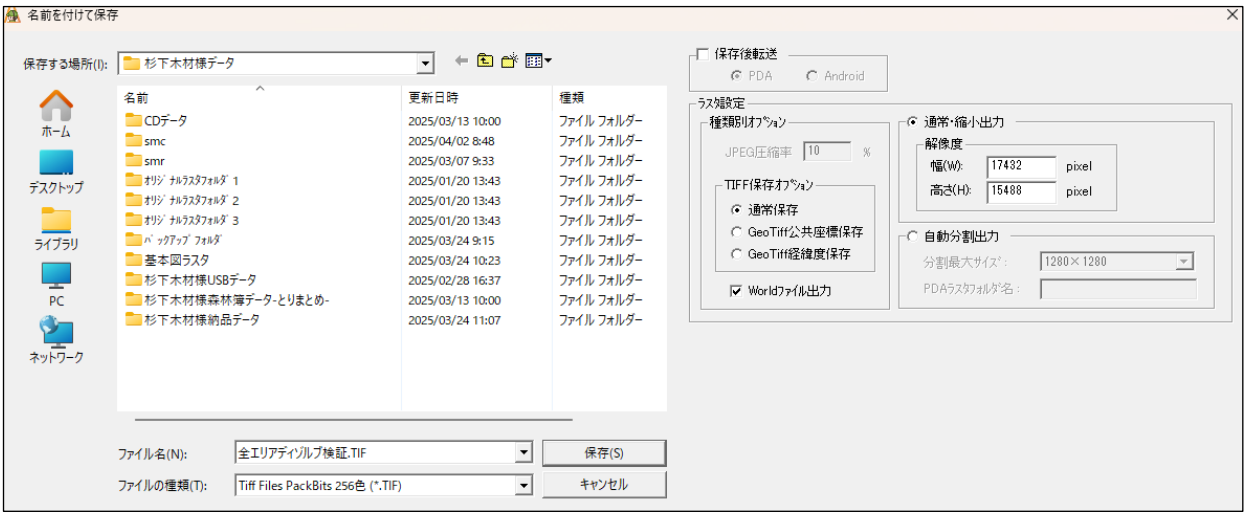
手順

1） ［ファイル］ – ［外部出力］ – ［画面キャプチャ出力］を選択します。

2） マウスカーソルが＋に変わります。

3） キャプチャしたい場所をクリックし、矩形で範囲指定します。

4） ［名前をつけて保存］ウィンドウが表示されます。



- 保存後転送： 保存後ＰＤＡまたは Android に転送します。
- ＪＰＥＧ圧縮率：圧縮率を指定します。
- ＴＩＦＦ保存オプション：通常保存・ＧｅｏＴｉｆｆ公共座標保存・ＧｅｏＴｉｆｆ経緯度保存から選択します。
- Ｗｏｒｌｄファイル出力：World ファイルを出力します。
- 通常・縮小出力：解像度を指定して出力します。
- 自動分割出力：ＰＤＡに転送する際、分割出力します。

6） ファイル名を入力し［保存］ボタンをクリックするとテキストファイルに保存されます。

VIII.10.20. 画面キャプチャ 2 をファイルに出力

縮尺とサイズを指定してラスタデータとして出力します。出力可能な拡張子は TIF、ＢＭＰ、ＪＰＧです。

手順

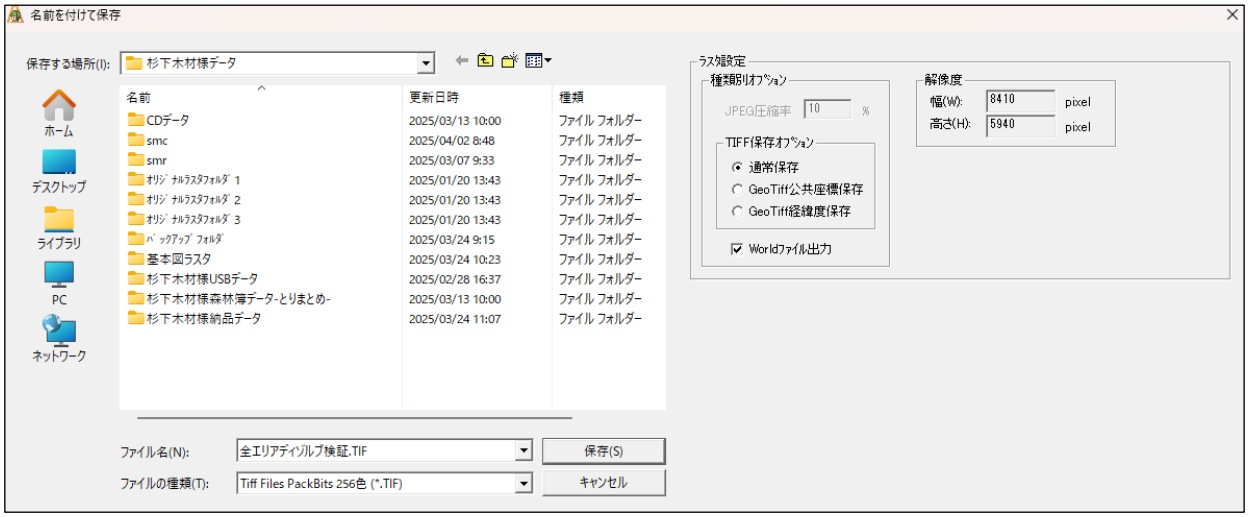
1） ［ファイル］ – ［外部出力］ – ［画面キャプチャ出力 2］を選択します。

2） 図面枠が表示され、［画面キャプチャ出力 2］ウィンドウが表示されます。



3） 縮尺、出力サイズを選択して［移動］をクリックして、キャプチャしたい場所を枠内にあわせます。

4） ［出力］をクリックすると、［名前をつけて保存］ウィンドウが表示されます。



- JPEG 圧縮率：ファイルの種類が JPEG の場合、変更可能です。
- ＴＩＦＦ保存オプション：通常保存・ＧｅｏＴｉｆｆ公共座標保存・
  ＧｅｏＴｉｆｆ経緯度保存から選択します。
- Ｗｏｒｌｄファイル出力：World ファイルを出力します。

5） ファイル名を入力し［保存］ボタンをクリックするとテキストファイルに保存されます。

VIII.10.21. 箇所位置図設定

箇所位置図出力の設定を行います。

手順

1） ［ファイル］ – ［外部出力］ – ［箇所位置図設定］を選択します。

2） ［Excel 帳票設定］ウィンドウが表示されます。



- 追加：行を追加します。
- 削除：行を削除します。
- Excel 起動：指定した Excel を起動します。
- セル取得：セルを取得します。

3） ［OK］ボタンを選択すると、入力した情報が登録されます。

VIII.10.22. 箇所位置図をファイルに出力

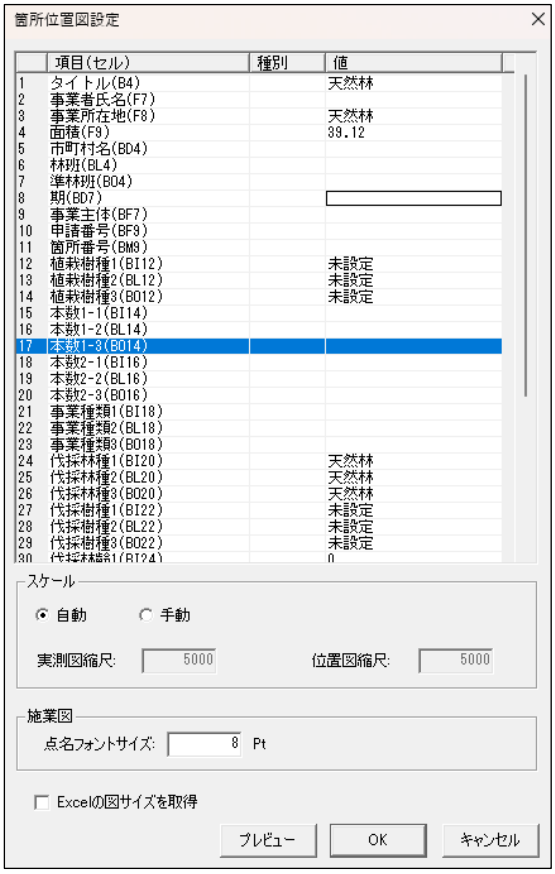
選択した画地を箇所位置図設定で設定したフォーマットで出力します。

手順

1） ［ファイル］ – ［外部出力］ – ［箇所位置図出力］を選択します。

2） 出力したい画地を選択します。最後の画地の時にダブルクリックをします。

3） ［箇所位置図設定］ウィンドウが表示されます。



- スケール：実測図と位置図の縮尺を自動か手動で選択することができます。
- 点名フォントサイズ：点名のフォントサイズを入力します。
- Excel の図サイズ取得：指定されている Excel のファイルから図が出力される該当のセルのサイズを取得します。
- プレビュー：印刷プレビューが表示されます。

4） [OK] ボタンをクリックすると帳票に情報が出力されます。

VIII.10.23. Excel 自由帳票設定

Excel 自由帳票設定出力の設定を行います。

手順

1) ［ファイル］ – ［外部出力］ – ［Excel 自由帳票設定］を選択します。

2) ［Excel 自由帳票設定］ウィンドウが表示されます。



- 帳票選択：既存の帳票がある場合選択します。
- 名前：帳票の名前を入力します。
- テンプレート：既存の帳票を選択します。
- ExcelSheet 名：ExcelSheet 名を選択します。既存の帳票の場合は参照で指定可能です。
- 追加：行を追加します。
- 削除：行を削除します。
- Excel 起動：指定した Excel を起動します。
- Excel 終了：指定した Excel を終了します。
- セル情報取得：セル情報を取得します。
- セル番号取得：セル番号を取得します。
- 帳票登録：現在の設定を保存します。
- 帳票削除：帳票を削除します。

3) ［帳票登録］ボタンを選択すると、入力した情報が登録されます。

VIII.10.24. Excel 自由帳票出力

選択した画地またはラインを Excel 自由帳票出力設定で設定したフォーマットで出力します。

手順

1） ［ファイル］ – ［外部出力］ – ［Excel 自由帳票出力］を選択します。

ラインまたは画地を指定します。[箇所位置図設定]ウィンドウが表示されます。



- スケール：スケールを設定します。
- 施業図：点名フォントサイズを設定します。
- Excel の図サイズ取得：指定されている Excel のファイルから図が出力される該当のセルのサイズを取得します。

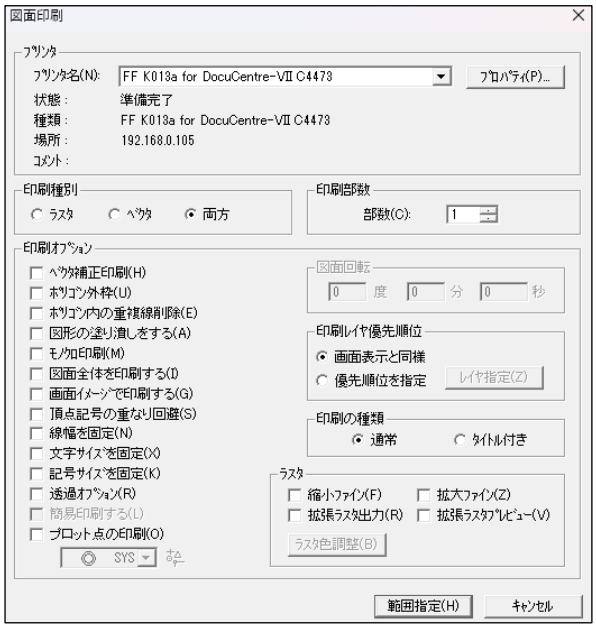
2） [OK] ボタンをクリックすると帳票に情報が出力されます。

VIII.11. ［ファイル］-［図面印刷］

通常の図面印刷

ラスタ・ベクタ別の印刷、配置指定をすると複数印刷も可能です。

［ファイル］ – ［図面印刷］を選択すると、［図面印刷］ウィンドウが表示されます。



- 印刷種別：
  - ラスタ：ラスタのみを印刷します。
  - ベクタ：ベクタのみを印刷します。
  - 両方：ラスタ・ベクタの両方を印刷します。
- 印刷オプション：
  - ベクタ補正印刷：ベクトルデータを基準点座標で補正して印刷します。
  - ポリゴン外枠：ポリゴンのベクタデータを印刷するときに、外枠のレイヤ線を印刷します。
  - ポリゴン内の重複線削除：隣接するポリゴンの重複線を 1 本の線で印刷します。
  - 図形の塗り潰しをする：図形を表示色で塗りつぶして印刷します。
  - モノクロ印刷：カラープリンタで印刷する場合に、モノクロで印刷します。
  - 図面全体を印刷する：［プリンタ］で設定した用紙サイズに合わせて図面全体を縮小して印刷します。
  - 画面イメージで印刷する：編集画面に表示されているイメージで印刷します。
  - 頂点記号の重なり回避：頂点記号に重なるポリラインを印刷しません。
  - 線幅を固定：縮尺を変えて印刷する場合に、［レイヤ選択バー］で指定した線幅のまま印刷します。
    線幅を固定しない場合に縮尺を変えて印刷すると、同比率で線幅も変更されます。
  - 文字サイズを固定：印刷縮尺を変更しても図形属性（地番・頂点名・面積・テキスト）の
    フォントサイズは変更されません。

- 記号サイズを固定：印刷縮尺を変更しても記号サイズは変更されません。
- 透過オプション：PDF 出力時にラスタが透過されます。
- 簡易印刷をする：カラーラスタを 8 ビット（256 色）に減色して印刷します。
  プリンタに等倍で印刷するため、通常の印刷時とサイズが異なります。
  内部カラーラスタが存在し、印刷種別はラスタまたは両方を選択、モノクロ印刷を選択していない場合のみ選択できます。
- プロット点の印刷：頂点を指定した頂点記号で印刷します。

- 印刷レイヤ優先順位：画面表示と同様の図形順に印刷します。
  図面上でレイヤ（ベクタ）が交差する部分に対して、印刷時のレイヤ優先順位を設定します。[優先順位を指定]にチェックを入れて、［レイヤ指定］ボタンをクリックすると、［レイヤの印刷順序］ウィンドウが表示されます。



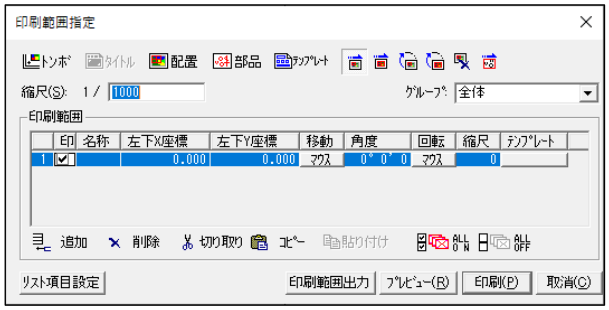
- 印刷種類：
  - 通常：タイトルを付けないで印刷します。
  - タイトル付き：図面タイトル、凡例、スケールを付けて印刷します。［範囲指定］ボタンで印刷範囲を指定するときにタイトルの設定をします。

  ※［印刷オプション］で［図面全体を印刷する］を選択した場合は、この機能は使用できません。

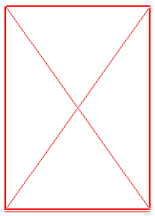
- ラスタ：ラスタ画質を指定します。
  ［縮小ファイン］は縮小時に高画質、［拡大ファイン］は拡大時に高画質で表示します。
  ［拡張ラスタ出力］拡張ラスタを印刷、［拡大ラスタプレビュー］は印刷プレビュー時に拡張ラスタを表示します。

●印刷範囲指定：印刷の範囲を指定します。

［印刷オプション］で［図面全体を印刷する］を選択した場合は、［印刷］ボタンが表示されます。
［印刷オプション］で［図面全体を印刷する］を選択しない場合は［範囲指定］ボタンが表示されます。
［範囲指定］ボタンをクリックすると［印刷範囲指定］ウィンドウが表示されます。
設定終了後、［印刷］ボタンをクリックすると印刷を開始します。



印刷する範囲を指定すると指定したサイズに合わせて印刷範囲指定枠を自動配置します。
配置は現在の［トンボ］の外枠の設定で配置されます。［配置］後、［トンボ］の外枠設定を変更しても反映されません。

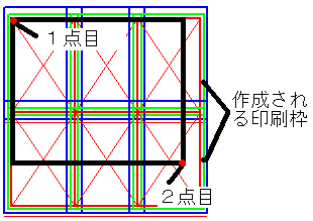


●トンボ：トンボ・外枠・内枠を設定します。
※詳細は、＜図枠・トンボ作成＞をご参照ください。

●タイトル：タイトル、凡例部品、スケール部品を設定します。
※この機能は、［図面印刷］ウィンドウ　－［印刷の種類］でタイトル付きを選択している場合のみ有効です。

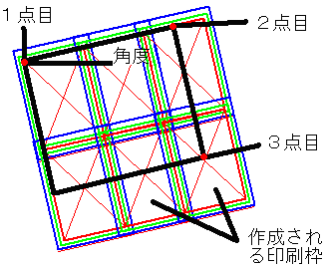
●配置：配置済みの印刷範囲はすべて削除されます。矩形で指定した範囲に、印刷範囲指定枠を自動配置し、［印刷範囲］へ表示されます。

矩形指示モード切換えは［Ｓｈｉｆｔ］＋［Ｔａｂ］キーで行ないます。



＜２点指示モード＞

マウスで２点指定による矩形エリアを確定させます。
確定したエリアの左上から印刷範囲（内枠、外枠幅考慮）にて
すべて納まるように印刷範囲を配置します。

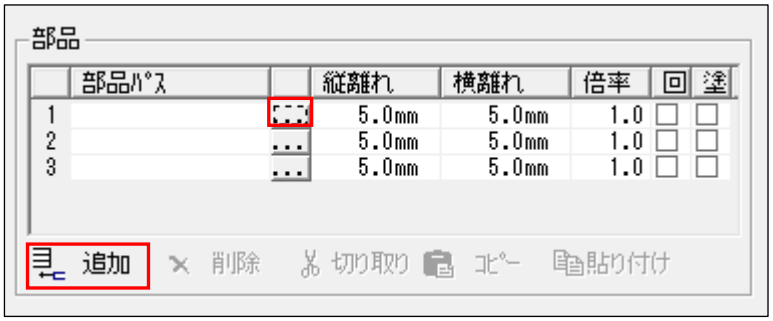


＜３点指示モード＞

マウスで３点指定による角度付きの長方形を確定させます。
確定した長方形の１点目、２点目の角度による傾きの長方形
で左上から印刷範囲（内枠、外枠幅考慮）にてすべて納まる
ように印刷範囲を配置します。

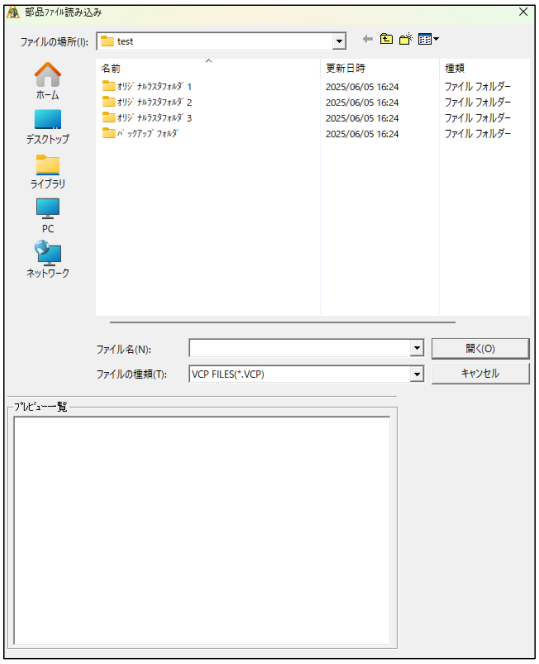
●部品：部品を取り込みます。

[縦離れ]、[横離れ]、[倍率]、[回転]、[塗潰]の設定ができます。



[追加]をクリックすると行が追加されます。

[部品パス]横の[・・・]タブをクリックするとファイルの選択ができます。

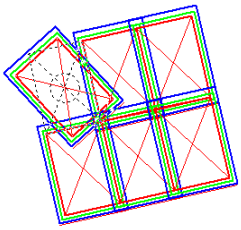


●テンプレート：テンプレートを設定・編集します。

テンプレートは、用紙サイズ・用紙向き毎にプリンタの設定が必要です。

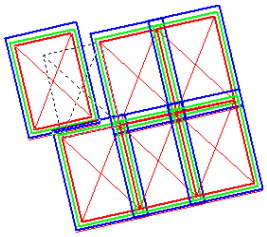
※詳細は、**<テンプレート詳細>**をご参照ください。

●単体移動：自動配置された印刷範囲指定枠を移動します。 



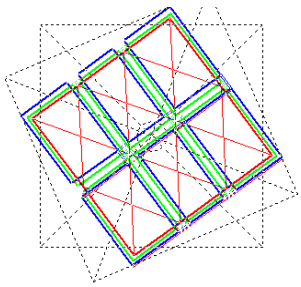
1．編　集画面の移動する印刷範囲指定枠をクリックします。
2．カーソルが▲に変わり基準点に移動します。
3．［Ｓｈｉｆｔ］＋［Ｔａｂ］キーにより、基準点が中心→
左下→右下→右上→左上の順に切り替わります。
4．移動する位置でマウスをクリックすると［印刷範囲指定枠］が移動します。

●全体移動：印刷範囲全体を移動します。 



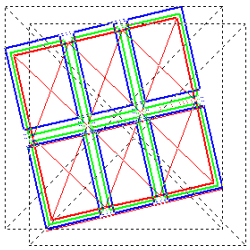
1．編集画面の印刷範囲をクリックします。
2．カーソルが▲に変わり基準点に移動します。
3．［Ｓｈｉｆｔ］＋［Ｔａｂ］キーにより、基準点が中心→左下→
右下→右上→左上の順に切り替わります。
4．移動する位置でマウスをクリックすると［印刷範囲指定枠］全体が移動します。

●単体回転：自動配置された印刷範囲指定枠を回転します。 



1．編集画面の回転させる印刷範囲指定枠をクリックします。
2．カーソルが▲に変わり基準点に移動します。
3．［Ｓｈｉｆｔ］＋［Ｔａｂ］キーにより、基準点が中心→
左下→右下→右上→左上の順に切り替わります。
4．回転する位置でマウスをクリックすると［印刷範囲指定枠］が回転します。

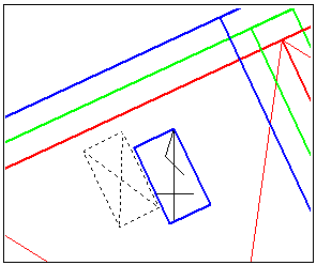
●全体回転：印刷範囲全体を回転します。 



1．編集画面の印刷範囲をクリックします。
2．カーソルが▲に変わり基準点に移動します。
3．［Ｓｈｉｆｔ］＋［Ｔａｂ］キーにより、基準点が中心→
左下→右下→右上→左上の順に切り替わります。
4．回転する位置でマウスをクリックすると［印刷範囲指定枠］
全体が回転します。

●単体削除：マウスで指定した印刷範囲指定枠を単体で削除します。 

１．編集画面から削除する印刷範囲指定枠をクリックします。
２．確認メッセージが表示されます。
３．［ＯＫ］ボタンをクリックすると削除されます。



●部品移動：［タイトル］で設定したタイトルを移動します。 

１．編集画面から移動する部品・タイトルをクリックします。
２．移動する位置でクリックすると移動します。

●縮尺：印刷範囲の縮尺を指定します。全印刷範囲に適用します。

●印刷範囲：印刷範囲を表示します。

印刷範囲は、［配置］・［単体移動］・［全体移動］・［単体回転］・
［全体回転］・［削除］・［部品移動］で指定したものが表示されます。

＜印刷＞

印刷対象を選択します。チェックボックスを［ＯＮ］にすると印刷します。

＜左下Ｘ座標＞

印刷範囲指定枠の左下原点のＸ座標です。（経緯度表示モードでは緯度）

＜左下Ｙ座標＞

印刷範囲指定枠の左下原点のＹ座標です。（経緯度表示モードでは経度）

＜移動＞

印刷範囲指定枠をマウスで移動します。マウスボタンをクリックすると編集画面の印刷範囲指定枠が移動します。
移動する位置をマウスで指定するか、［Ｓｈｉｆｔ］＋［Ｔａｂ］キーにより、中心→左下→右下→右上→左上の順に切換えて移動します。

＜角度＞

印刷範囲指定枠の角度です。水平が０度で、反時計回りに回転します。

＜回転＞

印刷範囲指定枠をマウスで回転します。マウスボタンをクリックすると編集画面の印刷範囲指定枠が回転します。
回転する位置をマウスで指定するか、［Ｓｈｉｆｔ］＋［Ｔａｂ］キーにより、中心→左下→右下→右上→左上の順に切換えて回転させます。

＜縮尺＞

印刷範囲指定枠の縮尺を入力します。０の場合、上部の縮尺値が適用されます。

<テンプレート>

テンプレートを設定します。

•追加：印刷範囲指定枠を追加します。

１．左下に印刷範囲指定枠が追加されます。

２．印刷範囲指定枠を移動してクリックします。

•削除：印刷範囲指定枠を削除します。

１．印刷範囲リストから削除する行をクリックします。

２．［削除］ボタンをクリックまたは［Delete］キーを押します。

３．確認メッセージが表示されます。

４．［ＯＫ］ボタンをクリックすると削除されます。

•切り取り：印刷範囲指定枠を切り取ります。

１．印刷範囲リストから切り取りする行をクリックします。

２．［切り取り］ボタンをクリックまたは［Ctrl＋Ｘ］を押します。

•コピー：印刷範囲指定枠をコピーします。

１．印刷範囲リストからコピーする行をクリックします。

２．［コピー］ボタンをクリックまたは［Ctrl＋Ｃ］を押します。

• 貼り付け…［切り取り］または［コピー］した印刷範囲指定枠を貼り付けます。

１．［貼り付け］ボタンをクリックまたは［Ctrl＋Ｖ］を押します。

２．［切り取り］または［コピー］した印刷範囲指定枠が貼り付けされます。

◆テンプレート詳細◆

印刷範囲の縮尺が“０”の場合、この縮尺が反映されます。



•テンプレート：テンプレートを編集します。

• 印刷範囲：

名称：印刷範囲指定枠の名称を入力します。

縮尺：印刷範囲指定枠の縮尺を入力します。０の場合、上部の縮尺値が適用されます。

•テンプレート：テンプレートを設定します。

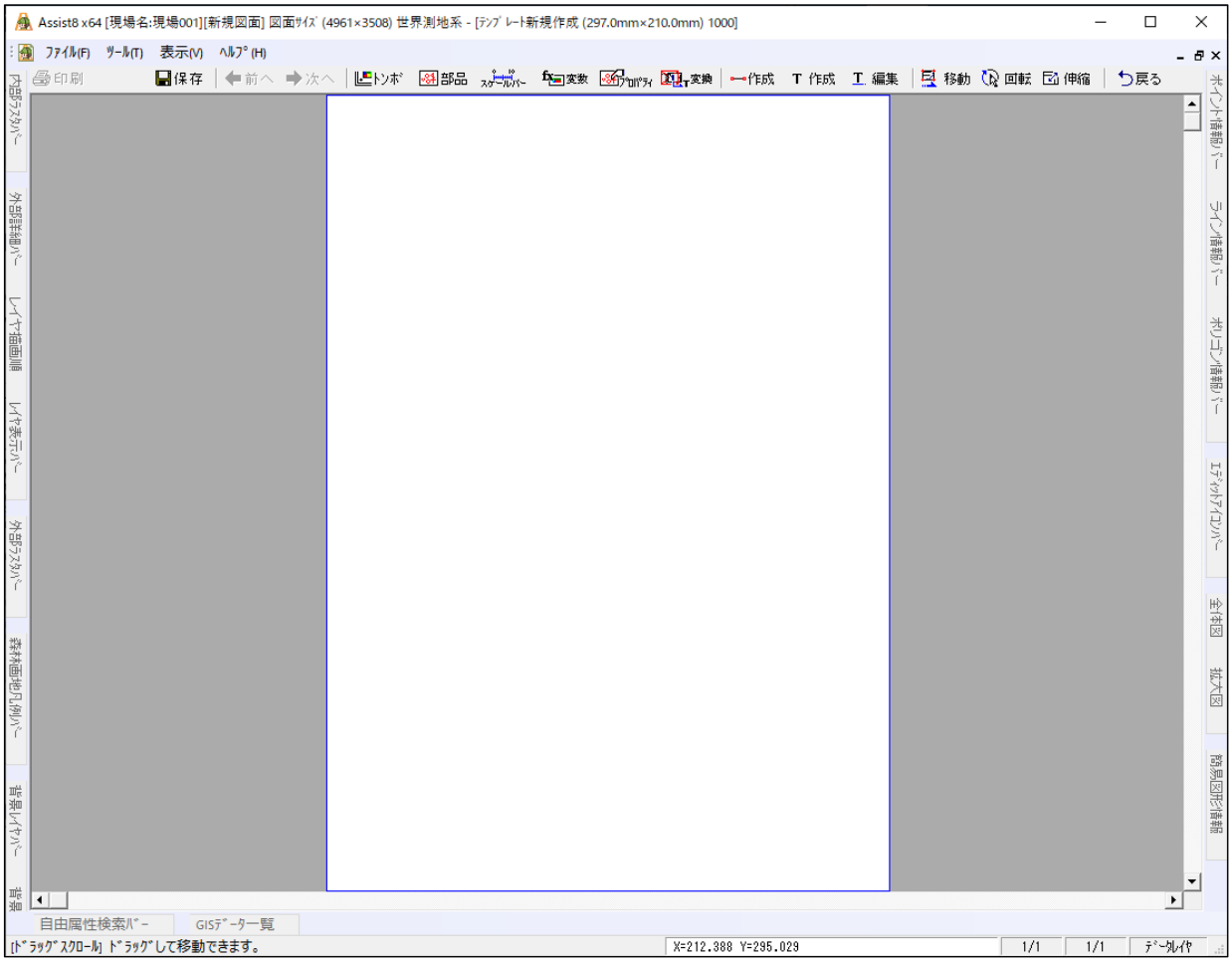
※現在、テンプレート編集機能は提供していません。

A3 横、A3 縦、A4 横、A4 縦のテンプレートを提供しています。

●プレビュー：テンプレートを設定している印刷範囲指定枠のプレビューを表示します。
プレビューされるのは、＜印刷＞にチェックがついていて、テンプレートを選択している印刷範囲のみです。

4） ［テンプレート］ボタンをクリックします。
テンプレート選択されている印刷範囲行を選択した状態で、［テンプレート］を選択すると、
そのテンプレートの編集になります。

5） テンプレート新規作成画面が表示されます。



保存：テンプレートを保存します。

前へ：複数のテンプレートがある場合、前のテンプレートを表示します。

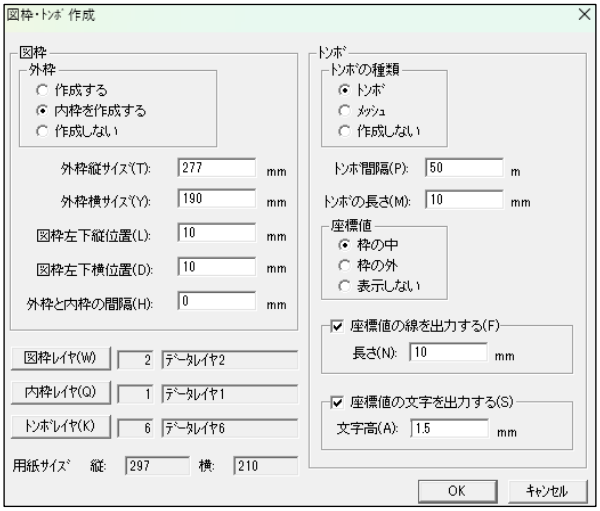
次へ：複数のテンプレートがある場合、次のテンプレートを表示します。

戻る：テンプレート画面を閉じます。

＜図枠・トンボ作成＞

手順

［図枠・トンボ作成］ウィンドウが表示されます。



図枠

図枠を作成します。

＜外枠＞

- 作成する：外枠を作成します。
- 内枠を作成する：外枠と内枠を作成します。
- 作成しない：図枠を作成しません。

- 外枠縦サイズ：外枠の縦のサイズを入力します。
- 外枠横サイズ：外枠の横のサイズを入力します。
- 図枠左下縦位置：図枠左下縦の位置を指定します。
- 図枠左下横位置：図枠左下横の位置を指定します。
- 外枠と内枠の間隔：外枠と内枠の間隔を指定します。
- 図枠レイヤ、内枠レイヤ、トンボレイヤ：それぞれのレイヤの場所を指定します。
- 用紙サイズ：用紙サイズを指定します。

トンボ

トンボを作成します。

＜トンボの種類＞

- トンボ：トンボを作成します。［トンボレイヤ］ボタンでトンボのレイヤを選択します。
- メッシュ：メッシュを作成します。［トンボレイヤ］ボタンでメッシュのレイヤを選択します。
- 作成しない：トンボ・メッシュを作成しません。

- トンボ間隔：トンボ・メッシュの作成間隔を入力します。
- トンボの長さ：トンボの長さを入力します。

＜座標値＞

- 枠の中：座標値を枠の中に表示します。
- 枠の外：座標値を枠の外に表示します。
- 表示しない：座標値を表示しません。

＜座標値の線を出力する＞

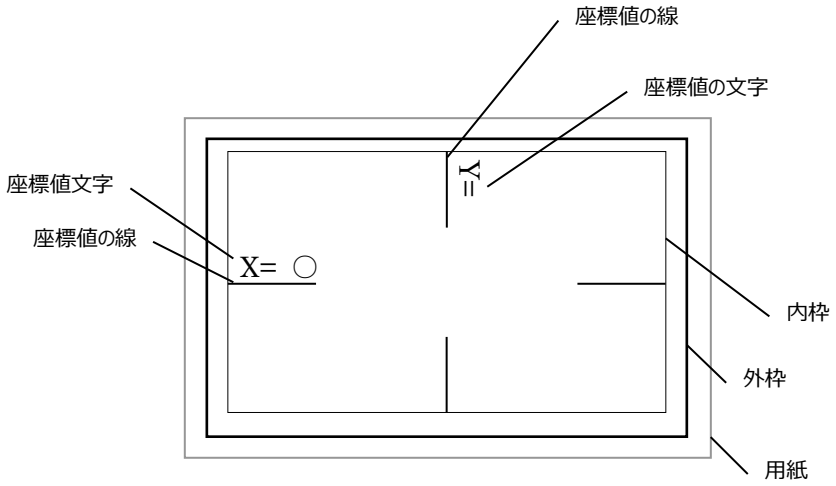
座標値の線を出力します。

＜座標値の文字を出力する＞

文字の高さを指定します。

6） 設定終了後、［ＯＫ］ボタンをクリックすると、［印刷範囲指定］ウィンドウに戻ります。

◆座標値作成◆



VIII.12. ［ファイル］-［Assist 印刷］

Assist の設定で図面印刷



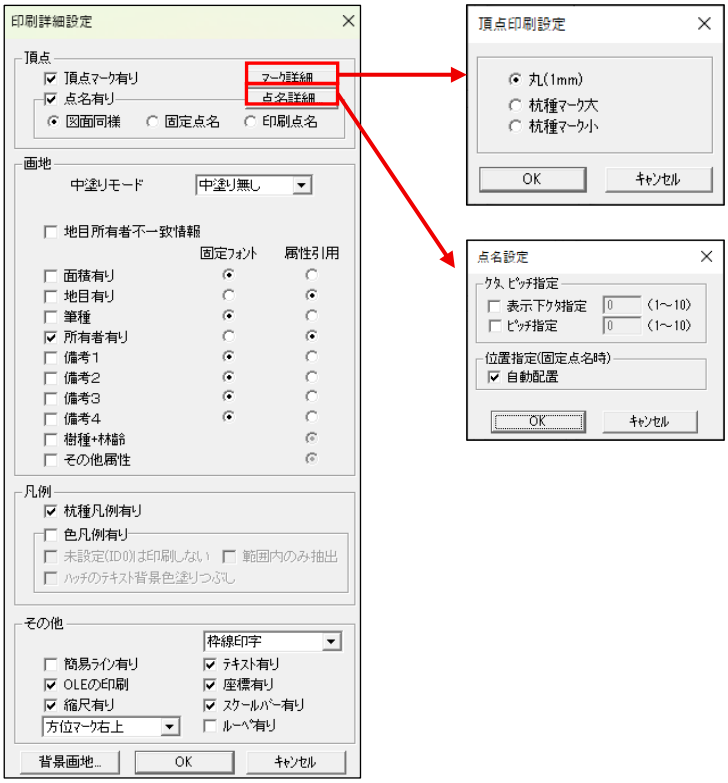
縮尺設定

- 印刷範囲マウス指定：画面上で印刷したい個所をマウスで指示。指示した場所が用紙に納まる最大縮尺と左下原点座標を自動計算し印刷する。
- 図面全体：用紙に納まる最大縮尺と左下原点座標を自動計算し印刷する。

印刷方式

- ラスタ背景あり：データに背景地図をオーバーラップして印刷します。
- ラスタ無し：データのみを印刷します。
- 現在の画地配色を使用する:地目一覧設定によって定義されているポリゴンカラーで印刷します。
- 現在の杭ステータスを使用する：画面上に表示されている杭種のみを印刷します。
- 選択画地以外も印刷：選択画地以外も印刷します。
- 「情報付加なし」と同等印刷：情報付加なしと同等の印刷をします。[図面表示同等印刷]も選択できます。
- ラスタ透過（電子ドキュメント用）：ラスタ透過も印刷します。

詳細設定



- 頂点:
  - 頂点マーク有り：頂点を表示させます。
  - 点名有り：点名を表示させます。
    図面同様、固定点名、印刷点名か選べます。

＜マーク詳細＞

- 丸（全て直径 1mm の丸）
- 杭種マーク（大）
- 杭種マーク（小）

＜点名詳細＞

- 表示下ケタ設定：点名の下から指示された桁数だけ印刷
- ピッチ指定：指示されたピッチで点名を飛ばして印刷
- 位置指定（固定点名時）：点名を重なり難い場所に自動判断して配置。
  固定点名を表示した状態でチェックを入れると、画面上の位置に配置され、
  チェックを外すと右下に配置されます。

- 画地:

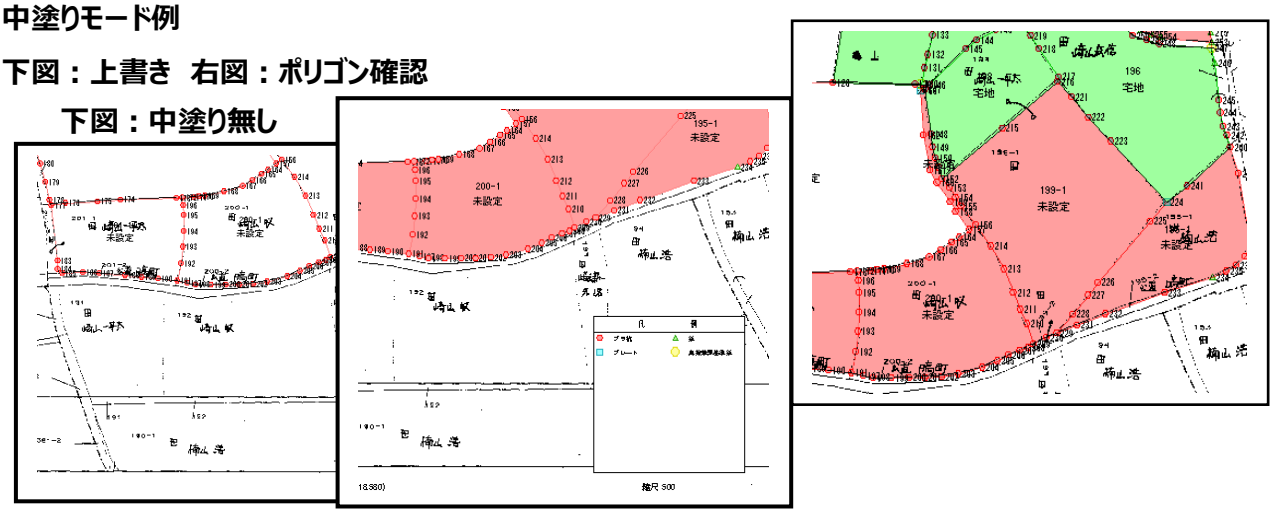
＜中塗りモード＞

- 中塗り無し：画地を塗りつぶさない
- 上書き：画地を塗り潰して、塗り潰された部分は背景地図が見えない。
- 透過：画地を塗り潰すが、塗り潰された部分の背景は透過する。
- ポリゴン確認：筆の網掛けを行って印刷、背景は透過する。

中塗りモード例

下図：上書き　右図：ポリゴン確認

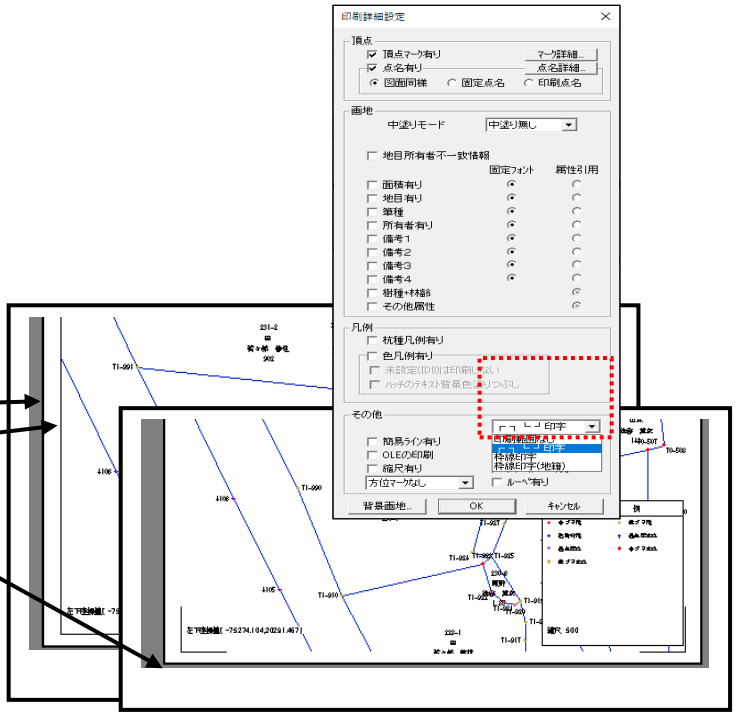
下図：中塗り無し



- 地目所有者不一致情報：所有者不一致情報を図面上に印刷する。
- 面積有り：面積（㎡）を図面上に印刷する。
- 地目有り：地目を図面上に印刷する。
- 筆種：筆種を図面上に印刷する。
- 所有者有り：所有者名を図面上に印刷する。
- 備考１～4：備考１～4 をそれぞれ図面上に印刷する。
- 樹種+林齢：樹種と林齢を図面上に印刷する。
- その他属性：その他の属性を図面上に印刷する。
- 固定フォント：Assist で設定された画地情報を印刷します。（面積～備考 4 まで）
- 属性引用：［テキスト］－［属性変換］で簡易属性に変換した画地情報を印刷します。
- （面積からその他属性まで）

- 凡例:
  - 杭種凡例有り：チェックを入れると現在の杭種の属性一覧を右下に印刷します。
  - 色凡例有り：チェックを入れると現在の画地カラーに従った属性一覧を右上に印刷します。
    - 未設定（ID0）は印刷しない：未設定（ID0）は印刷しません。
    - 範囲内のみ抽出：印刷範囲内の凡例のみ印刷します。
    - ハッチのテキスト背景色塗りつぶし：ハッチの凡例テキストの背景色が塗りつぶされます。

- その他:
  - 簡易ライン有り：簡易ラインモードで作成された、手書文字や線などを印刷します。
  - テキスト有り：［テキスト］－［作成］で画面上に作られた文字列を印刷します。
  - ＯＬＥの印刷：［編集］－［オブジェクト］によって図面上に貼り付けられているオブジェクトを印刷します。
  - 座標有り：右上、左下の座標を印刷します。
  - 縮尺有り：右下に縮尺を印刷します。
  - スケールバー有り：右下にスケールバーを印刷します。
  - 方位マーク：マークなし、右上、右下、左上、左下に方位マークを印刷するから選択できます。
  - ルーペあり：ルーペ機能で作成したルーペを印刷します。



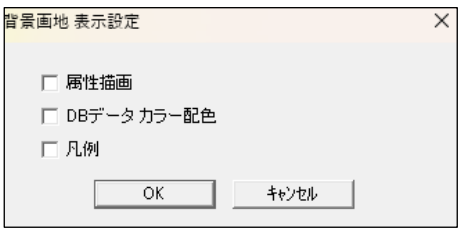
枠印刷には４種あります。

- **印刷範囲なし（枠を印刷しない）**
- **枠線印字（全体に枠を印刷）**
- **枠線印字（地籍）**
- **┌ ┐ └ ┘ 印字**

（４隅に長さ２ｃｍくらいの印刷）

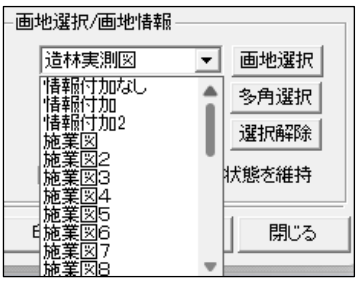
大きいサイズのプリンタを持って
いない場合、A3 等のサイズで印字して
紙を張り合わせることを容易にしました。

- 背景画地：
  - 属性描写：属性を表示させます。
  - DB データ　カラー色：画地の色を表示させます。
  - 凡例：表示されている GIS 配色設定の凡例を表示させます。



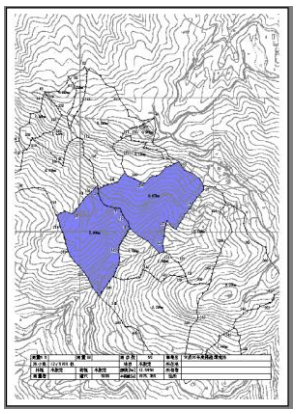
画地選択／画地情報

印刷する書式と画地を選択します。書式はプルダウンの中から選択できます。

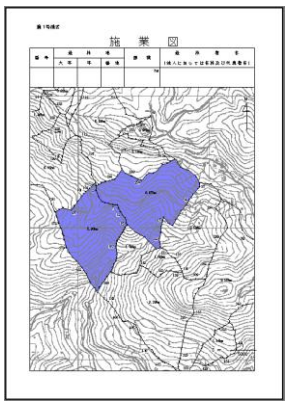


- 画地選択: 詳細な情報を印刷する画地を図面上で選択できます。
  マウスで複数ヒットできます。最後の画地選択でダブルクリックすると再度、印刷のウィンドウが表示されます。

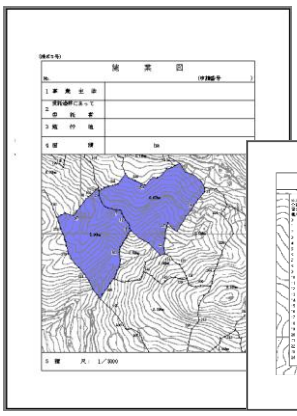
【情報付加】



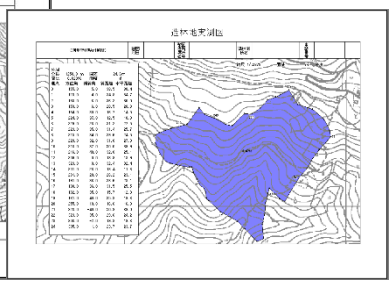
【施業図】



【施業図２】



【造林地実測図】



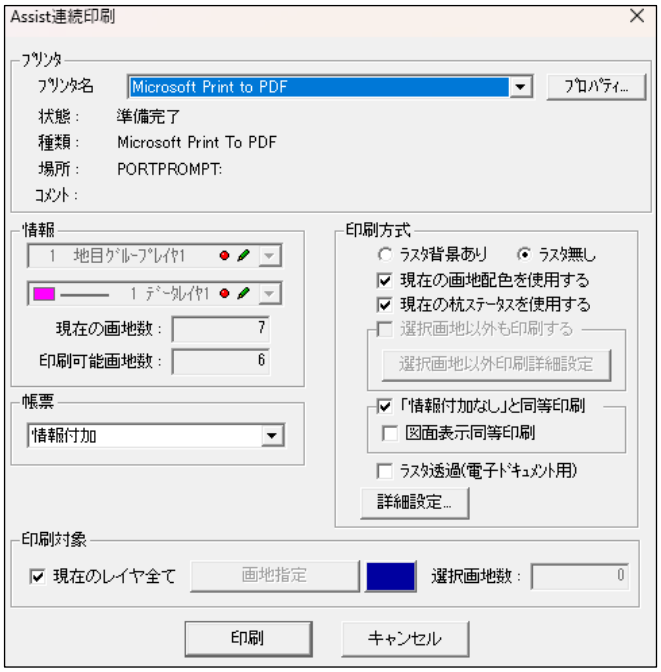
- 多角選択：多角指定でポリゴンを選択できます。
- 選択解除:選択している画地を解除できます。
- 印字項目:各々印刷欄に自由な文字を記入し印刷することができます。
- 使用帳票設定：使用する帳票の表示、順番を並び替えることができます。
- 再選択時、画地選択状態を維持：帳票を変更しても前回選択した画地を維持できます。

選択図形を測量野帳へ

画地を選択した状態で押すと測量野帳印刷画面に切り替わります。

測量野帳印刷につきましては**Ⅶ.14.1.測量野帳印刷**をご参照ください。

VIII.13. ［ファイル］-［Assist 連続印刷］



情報

現在表示されているレイヤグループとレイヤ名が表示されます。

またレイヤ内の画地数と印刷可能画地数を表示します。

帳票

出力する帳票が選択できます。

印刷対象

印刷対象を選択します。

- 現在のレイヤ全て：レイヤ内のすべての図形が印刷される
- 画地指定：ボタンを押した後に画面上で画地を選択します。

  最後の画地のところでダブルクリックをする。横の選択画地数で選択されている数を確認できます。

印刷方式

印刷方式につきましては**Ⅶ.12.Assist 印刷**の詳細設定をご参照ください。

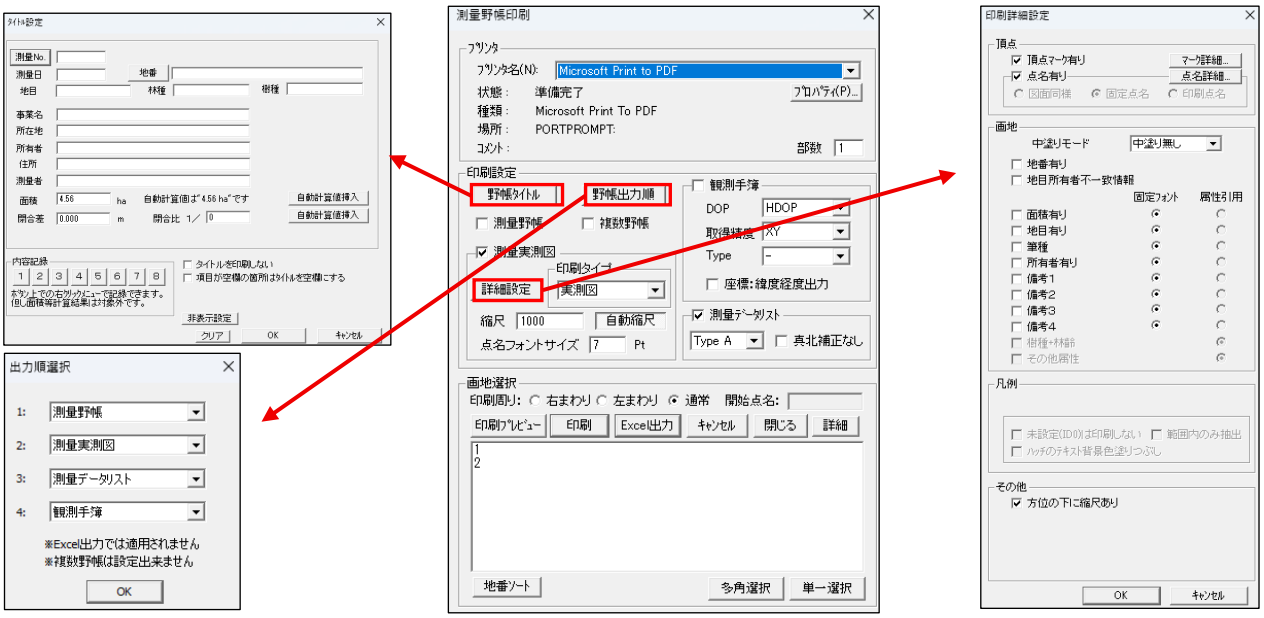
VIII.14. ［ファイル］-［各種印刷］

VIII.14.1. 測量野帳印刷

野帳印刷の印刷を行います。

図面上で印刷したい筆を選択後、右クリック[測量野帳印刷]で印刷対象が選択された状態でも印刷できます。

打ち出したい帳票にチェックマークを入れて打ち出したい地番を選択します。



印刷設定

野帳タイトル：タイトルに表示させたい内容を入力できます。ここには、ポリゴン情報で入力された項目を表示します。

未入力部分は　測量 NO、測量日、測量者　です

- 野帳出力順：野帳の出力の順番を変更できます。
- 測量野帳：測量野帳を出力します。
- 複数野帳：連続した測量野帳の様式で出力します。
- 測量実測図：選択された図形を出力します。印刷タイプは[実測図][出来形図][測量結果図]です。
- 詳細設定：詳細設定につきましては**Ⅶ.12.Assist 印刷**の詳細設定をご参照ください。

  その他で方位の下に縮尺を表示させるか選べます。
- 縮尺：[自動縮尺]押された状態では、印刷対象の筆が用紙に納まる最大縮尺を 1/250、1/500、1/1000、1/2500、1/5000、1/10000 の順に自動決定します。任意縮尺で印刷する場合は、[自動縮尺]を OFF の状態で、縮尺欄に縮尺を入力します。

  [自動縮尺]の ON/OFF はボタンを押す毎に切り替わります
- 点名フォントサイズ：点名のフォントサイズを指定できます。

観測手簿：

ＧＰＳ観測状態を出力します。

- DOP：HDOP と PDOP から選択できます。
- 取得制度：XY、RMS、2DRMS から選択できます。
- Type:なし、観測日時、XYZ、XYZ2 から選択できます。
- 座標：緯度経度出力:緯度経度が出力されます。

測量データリスト

測量データリストを出力します。

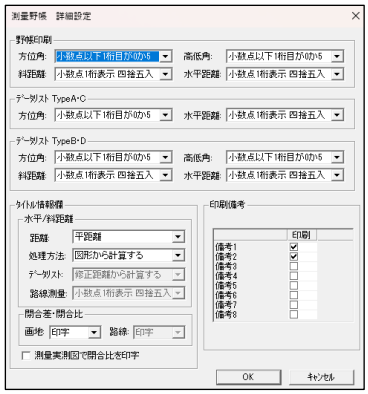
- Type　A：水平距離・水平角で高度角の表示なし
- Type　B：斜距離・高度角で高度角のコンパス形式
- Type　C：水平距離・水平角で標高ありの緯度経度
- Type　D：水平距離・水平角で標高なしの緯度経度
- 真北補正なし：真北補正なしで出力します。

画地選択

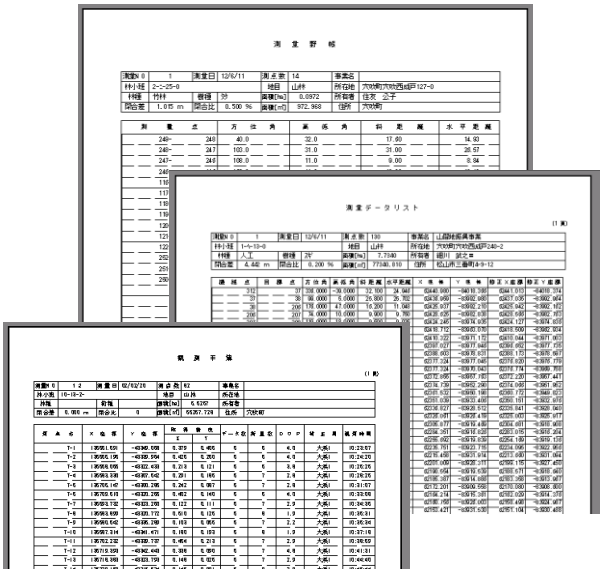
表示されている画地の一覧から選択された画地を印刷対象にします。

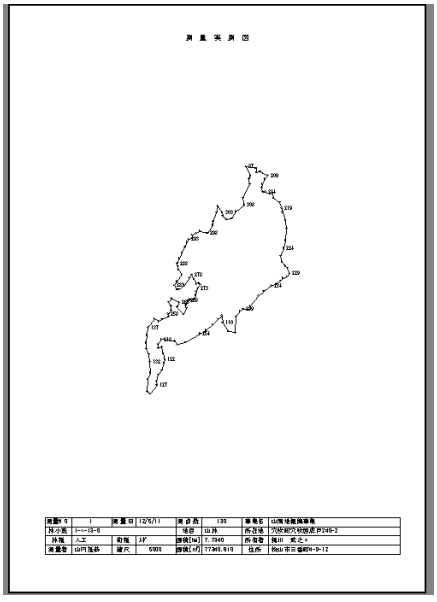
- 印刷周り：測量野帳、観測手薄の測量点の並び順を、右回り、左回り、通常、開始点名（点名を指定する）から選択します。
- 印刷プレビュー：印刷プレビューを表示します。
- 印刷：印刷します。
- Excel 出力：Excel に出力します。
- キャンセル：設定をキャンセルし、測量野帳印刷を終了します。
- 閉じる：測量野帳印刷を終了します。
- 地番ソート：地番でソートをかけ、画地選択一覧の並び順を変更します。
- 多角選択：図面上で選択したい画地の範囲を囲んで選択します。
- 単一選択：図面上で画地単体をクリックしながら選択します。（複数選択可）

詳細



- 野帳印刷：方位角、高低角、斜距離、水平距離の数値の表記設定を行います。
- データリスト　TypeA･C：方位角、水平距離の数値の表記設定を行います。
- データリスト　TypeB･D：方位角、高低角、斜距離、水平距離の数値の表記設定を行います。
- タイトル情報欄：
  - 水平／斜距離：
    - 距離：平距離か斜距離か選択できます。
    - 処理方法：実測図または図形から計算します。
    - データリスト：実測値または修正距離から計算します。
    - 路線測量：数値の表記設定を行います。
- 閉合差･閉合比：画地と路線の閉合差と閉合比を印字するか空欄か選択できます。
- 測量実測図で閉合比を印字：測量実測図にも閉合差と閉合比を印刷します。（通常は野帳のみ）
- 印刷備考：備考欄に表示させる内容を設定します。頂点情報の備考 1～8 から選択できます。
  複数選択の場合はスペース区切りで表示されます。





VIII.14.2. 測量地籍印刷

一筆図面や面積計算書の印刷、一筆毎に印刷する機能です。

［ファイル］－［各種印刷］－［測量地籍印刷］で測量地籍印刷ウィンドウが表示されますので、
リストから印刷したい地番を選択します。帳票の種類は 3 種類です。



備考

- 従来・引用：備考 1、2 に記入する内容を選択できます。

  従来を選択すると備考欄で入力された内容が反映されます。

  引用を選択するとプルダウンで選んだ 2 項目が自由属性に入力されている内容で反映されます。

一筆図

図形を出力します。

- 縮尺：[自動縮尺]押された状態では、印刷対象の筆が用紙に納まる最大縮尺を 1/250、1/500、1/1000、1/2500、1/5000、1/10000 の順に自動決定します。任意縮尺で印刷する場合は、[自動縮尺]を OFF の状態で、縮尺欄に縮尺を入力します。[自動縮尺]の ON/OFF はボタンを押す毎に切り替わります
- 詳細設定：詳細設定につきましては「Ⅶ.12　Assist 印刷」の詳細設定をご参照ください。

  その他で方位の下に縮尺を表示させるか選べます。

観測手簿

ＧＰＳ観測状態を出力します。

- DOP：HDOP と PDOP から選択できます。

座標：緯度経度出力:緯度経度が出力されます。

面積計算書

狭角や距離などの表示をします。

従来、直角座標から選択できます。

画地選択

表示されている画地の一覧から選択された画地を印刷対象にします。

- 印刷周り：測量野帳、観測手薄の測量点の並び順を、右回り、左回り、通常、開始点名（点名を指定する）から選択します。
- 印刷プレビュー：印刷プレビューを表示します。
- 印刷：印刷します。
- Excel 出力：Excel に出力します。
- キャンセル：設定をキャンセルし、測量野帳印刷を終了します。
- 閉じる：測量野帳印刷を終了します。
- 地番ソート：地番でソートをかけ、画地選択一覧の並び順を変更します。
- 画地多角選択：図面上で選択したい画地の範囲を囲んで選択します。
- ＋地番の場合、先頭地番＋他と印字：連続地番の場合の表示方法を選択できます。

地番	1431-1		地目	田	所有者	古田忠夫		
点数	28	距離	112.414	面積	539.029	坪	163.056	
縮尺	250	備考１						
備考２								

・・・一筆図

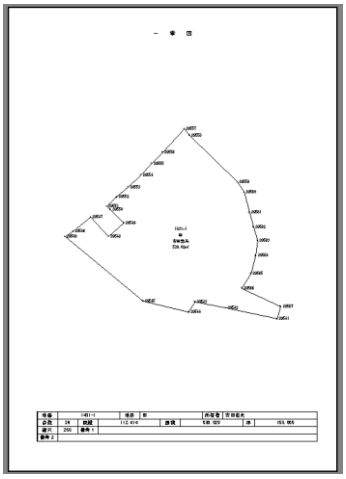
地番	1431-1		地目	田	所有者	古田忠夫		
点数	28	距離	112.414	面積	539.029	坪	163.056	
備考１								
備考２								

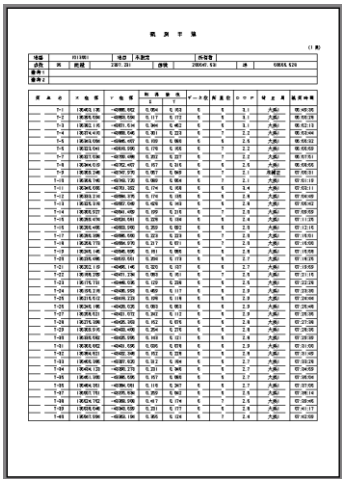
・・・観測手簿

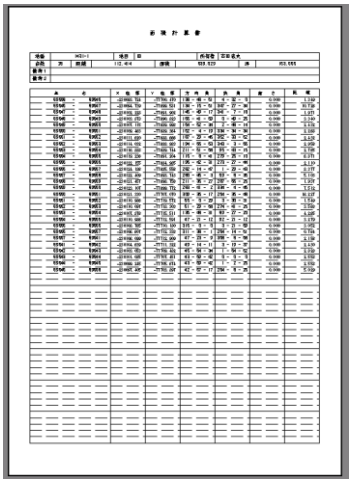
・・・面積計算書

一筆図に印刷したい属性の種別は、詳細設定　を押すと表示されます。

ウィンドウで設定します。



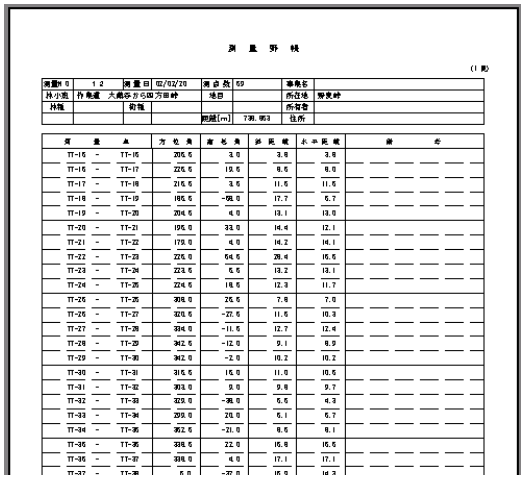


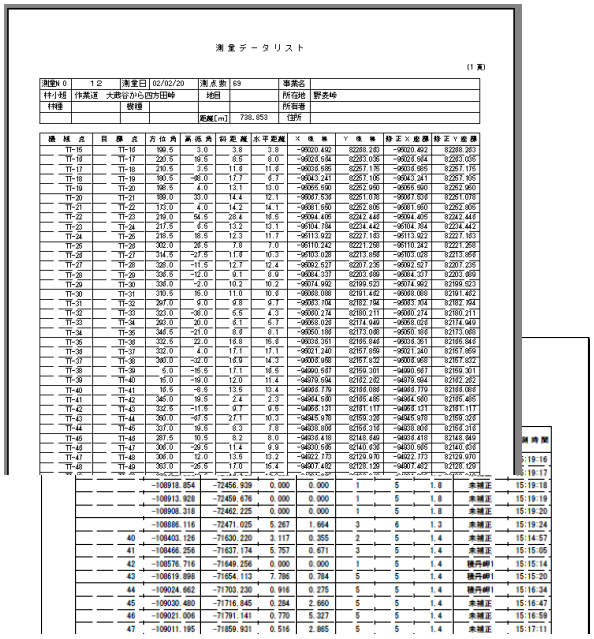


VIII.14.3. 路線測量印刷

路線の帳票印刷を行います。

［ファイル］－［各種印刷］－［路線測量印刷］で路線測量印刷ウィンドウが表示されますので、
打ち出したい帳票にチェックマークを入れて打ち出したい路線名を選択します。
印刷設定につきましてはⅦ.14.1.測量野帳印刷の印刷設定をご参照ください。





VIII.14.4. 路線測量印刷（コンパス選択）

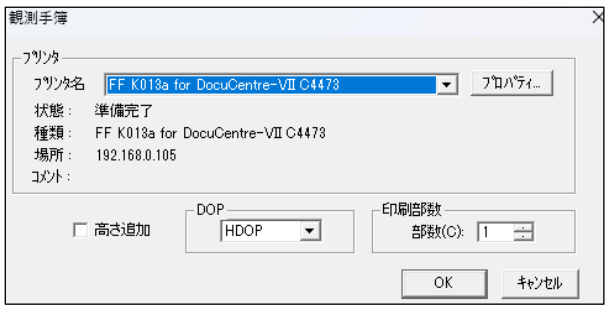
コンパス入力で作成された路線の帳票印刷を行います。

［ファイル］－［各種印刷］－［路線測量印刷（コンパス選択）］で路線測量印刷ウィンドウが
表示されますので、打ち出したい帳票にチェックマークを入れて打ち出したいコンパス路線名を選択します。
印刷設定につきましてはⅦ.14.1.測量野帳印刷の印刷設定をご参照ください。

VIII.14.5. GNSS 観測手簿

GPS 観測データの帳票印刷を行います。GPS 観測データを印刷する機能です。

［ファイル］－［各種印刷］－［GNSS 観測手簿］で印刷ウィンドウが表示されます。
高さの追加（Z 値）と DOP を HOOP、PDOP から選択できます。



VIII.14.6. GNSS 観測手簿（多角指定）

GPS 観測データの帳票印刷を行います。GPS 観測データを印刷する機能です。

［ファイル］－［各種印刷］－［GNSS 観測手簿（多角指定）］でカーソルが＋に変わります。

出力範囲を多角で指定すると、印刷ウィンドウが表示されます。

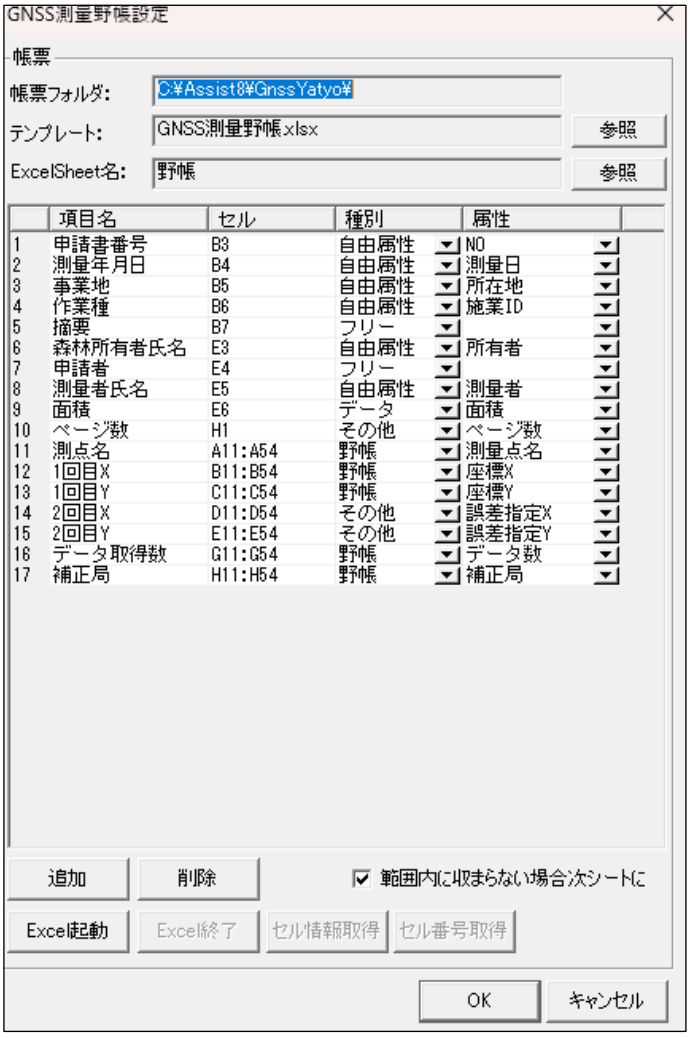
高さの追加（Z 値）と DOP を HOOP、PDOP から選択できます。

VIII.14.7. GNSS 測量野帳

GPS 観測データの帳票印刷を行います。GPS 観測データを印刷する機能です。

［ファイル］－［各種印刷］－［GNSS 測量野帳］で印刷ウィンドウが表示されます。

ご使用のプリンタの設定に合わせて印刷します。GPS 測量観測手簿が印刷されます。

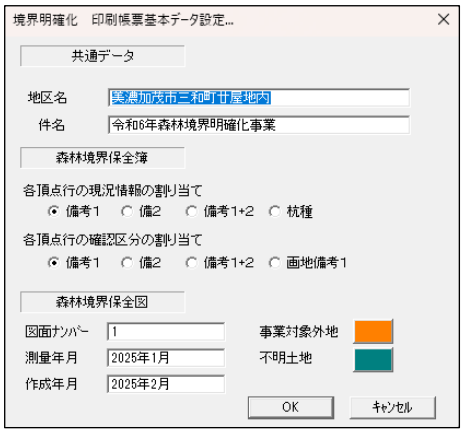


VIII.15. ［ファイル］ – ［境界明確化　各種印刷］

境界明確化の各種帳票を印刷します。

VIII.15.1. 印刷帳票基本データ設定

全ての印刷帳票の基本データを設定します。



手順

1)　［ファイル］ – ［境界明確化　各種印刷］ – ［印刷帳票基本データ設定］を選択します。

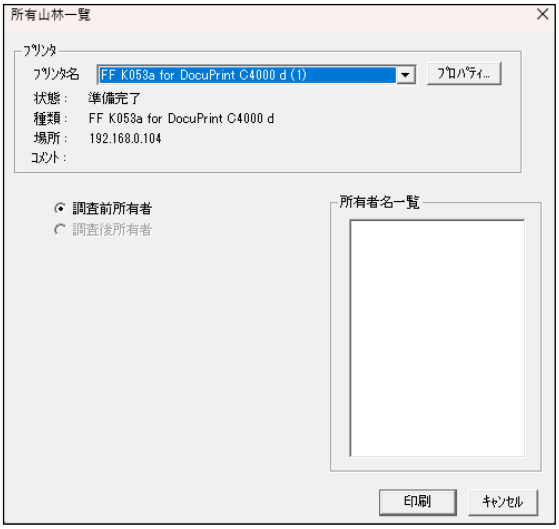
2)　［境界明確化　印刷帳票基本データ設定］ウィンドウが表示されます。

- 地区名:地区名を入力します。
- 件名:件名を入力します。
- 各頂点行の現況情報の割り当て:各頂点行の現況情報に備考１、備考２、備考１・２のいずれかを割り当てます。
- 各頂点行の確認区分の割り当て:各頂点行の確認区分に備考１、備考２、備考１・２、画地備考１のいずれかを割り当てます。
- 図面ナンバー:図面ナンバーを入力します。
- 測量年月:測量年月を入力します。
- 作成年月:作成年月を入力します。
- 事業対象外地:事業対象外の土地の色を設定します。
- 不明土地:不明土地の色を設定します。

3)　［OK］ボタンをクリックすると印刷帳票基本データが設定されます。

VIII.15.2. 所有山林一覧

所有している山林の一覧を印刷します。



手順

1） ［ファイル］ – ［境界明確化　各種印刷］ – ［所有山林一覧］を選択します。

2） ［所有山林一覧］ウィンドウが表示されます。

- プリンタ：印刷に使用するプリンタを選択します。
  印刷の詳細についてはご使用のプリンタの説明書をご参照ください。
- 調査前所有者：調査前の所有者一覧を印刷します。
- 所有者名一覧：調査前の所有者一覧を表示します。個別で選択できます。

3） 設定終了後、［印刷］ボタンをクリックすると所有山林一覧が印刷されます。

VIII.15.3. 所有山林一覧（自署）

所有している山林の一覧で自署入りのものを印刷します。

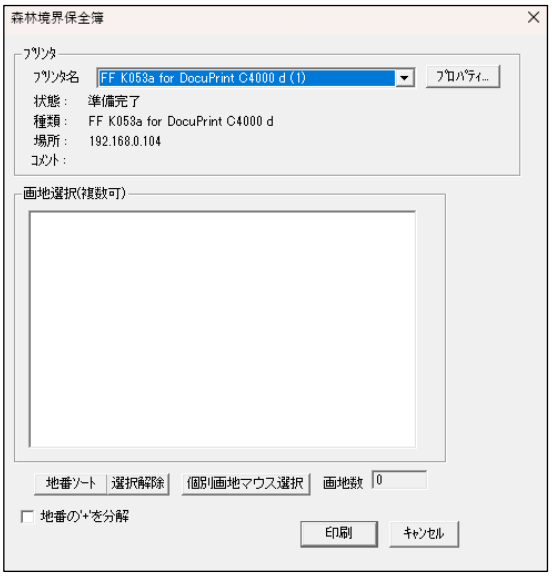
手順

1） ［ファイル］ – ［境界明確化　各種印刷］ – ［所有山林一覧（自署）］を選択します。

2） ［所有山林一覧（自署）］ウィンドウが表示されます。詳細はⅧ.15.2 所有山林一覧をご参照ください。

VIII.15.4. 森林境界保全簿

森林境界保全簿を印刷します。



手順

1） ［ファイル］ – ［境界明確化　各種印刷］ – ［森林境界保全簿］を選択します。

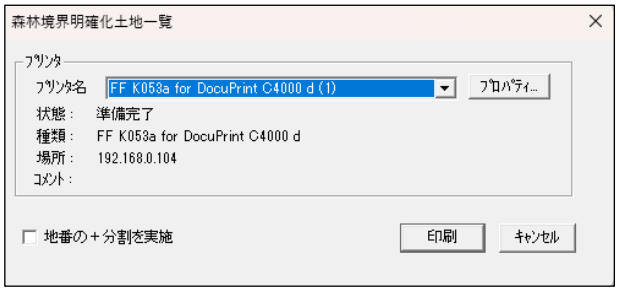
2） ［森林境界保全簿］ウィンドウが表示されます。

- プリンタ：印刷に使用するプリンタを選択します。印刷の詳細についてはご使用のプリンタの説明書をご参照ください。
- 画地選択：印刷対象の画地を選択します。SHIFT キーを押しながら複数の画地を選択できます。
- 地番ソート：地番でソートします。
- 選択解除：選択した画地を解除します。
- 個別画地マウス選択：画地をマウスで直接選択します。
- 画地数：選択可能な画地数を表示します。
- 地番の'+'を分解：地番の+を分解します。

3） 設定終了後、［印刷］ボタンをクリックすると森林境界保全簿が印刷されます。

VIII.15.5. 森林境界明確化土地一覧

森林境界明確化土地一覧を印刷します。



手順

1） ［ファイル］ – ［境界明確化　各種印刷］ – ［森林境界明確化土地一覧］を選択します。

2） ［森林境界明確化土地一覧］ウィンドウが表示されます。

- プリンタ:印刷に使用するプリンタを選択します。印刷の詳細については
  ご使用のプリンタの説明書をご参照ください。
- 地番の‘＋’を分解:地番の+を分解します。

3） 設定終了後、［印刷］ボタンをクリックすると森林境界明確化土地一覧が印刷されます。

VIII.15.6. 森林境界明確化土地確認書

森林境界明確化土地確認書を印刷します。

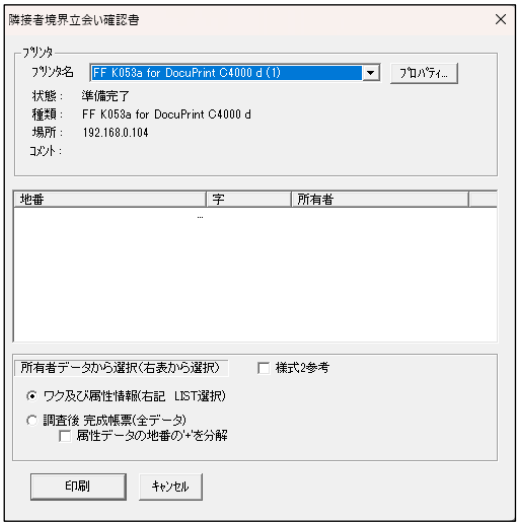
手順

1） ［ファイル］ – ［境界明確化　各種印刷］ – ［森林境界明確化土地確認書］を選択します。

2） ［森林境界明確化土地一覧］ウィンドウが表示されます。
詳細は**Ⅶ.15.5 森林境界明確化土地一覧**をご参照ください。

VIII.15.7. 隣接者教会立会い確認書

隣接者境界立会い確認書を印刷します。



手順

1)　［ファイル］ – ［境界明確化　各種印刷］ – ［隣接者境界立会い確認書］を選択します。

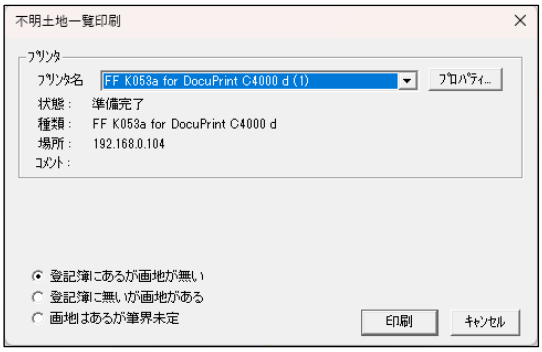
2)　［隣接者境界立会い確認書］ウィンドウが表示されます。

- プリンタ：印刷に使用するプリンタを選択します。
  印刷の詳細についてはご使用のプリンタの説明書をご参照ください。
- ワク及び属性情報（右記　ＬＩＳＴ選択）：所有者データから印刷対象を選択し、
  チェックを入れるとワク及び属性情報を印刷します。
- 調査後　完成帳票（全データ）:チェックを入れると全データの調査後の完成帳票を印刷します。
- 属性データの地番の'+'を分解:属性データの地番の+を分解します。

3)　設定終了後、［印刷］ボタンをクリックすると隣接者境界立会い確認書が印刷されます。

VIII.15.8. 不明土地一覧

不明土地一覧を印刷します。



手順

1） ［ファイル］ – ［境界明確化　各種印刷］ – ［不明土地一覧］を選択します。

2） ［不明土地一覧］ウィンドウが表示されます。

- 登記簿にある画地が無い:登記簿があり、画地が無いデータを印刷対象にします。
- 登記簿に無いが画地がある:画地があり、登記簿が無いデータを印刷対象にします。
- 画地はあるが筆界未定:画地があり、筆界未定のデータを印刷対象にします。

3） 設定終了後、［印刷］ボタンをクリックすると不明土地一覧が印刷されます。

VIII.15.9. 森林境界保全図

森林境界保全図を印刷します。

手順

1） ［ファイル］ – ［境界明確化　各種印刷］ – ［森林境界保全図］を選択します。

2） ［印刷］ウィンドウが表示されます。詳細は**Ⅶ.12.Assist 印刷**をご参照ください。

3） 画地選択/画地情報で森林境界保全図を選択し、［印刷］ボタンをクリックすると森林境界保全図が印刷されます。

VIII.16. ［ファイル］ – ［山村境界基本調査］

山村境界基本調査の各種帳票を印刷します。

VIII.17. ［ファイル］ – ［プリンタの設定］

印刷時に使用するプリンタを設定します。

VIII.18. ［ファイル］ – ［図面情報］

図面情報

現在開いている図面の情報を表示。

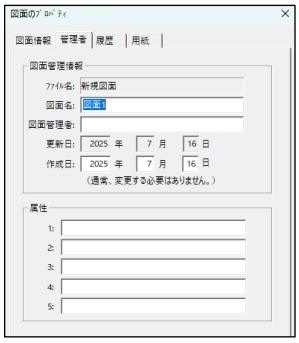
現在開いている図面（図面管理情報・図面属性・各図形情報など）の図面情報をレイヤ別に一覧表を表示します。



- 全図形数：図面の全図形数を表示します。
- 全頂点数：図面の全頂点数を表示します
- 各種図形情報：［グループ・レイヤ選択］で指定したレイヤの各種図形数を表示します。
- レイヤ選択：レイヤを個別に選択します。
- 一覧表示：レイヤ別の図形情報を表示します。

管理者

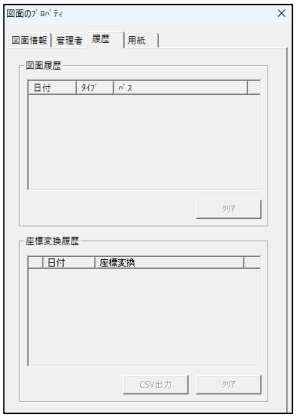
図面管理情報・属性を設定します。



- 図面管理情報：図面の管理情報を確認・編集します。
- 属性：図面に属性を入力します。

履歴

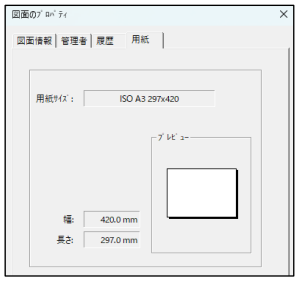
図面、座標変換の履歴情報を表示します。



- 図面履歴：図面の履歴を表示します。
- 座標変換履歴：座標の変換履歴を表示します。

用紙

図面の用紙サイズの情報を表示します。

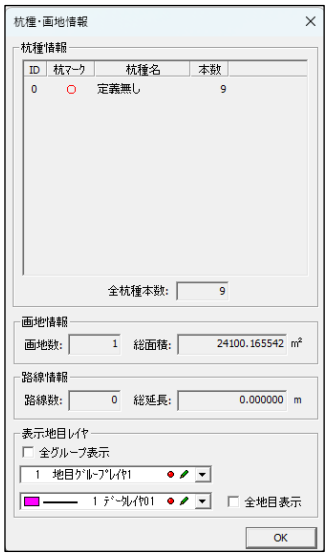


VIII.19. ［ファイル］ – ［点名杭種情報］

点名、杭種、杭種別座標一覧等の情報を表示します。

VIII.19.1. 画地面積･杭種本数一覧

レイヤ別の杭種別本数や画地面積等の情報を確認することができます。

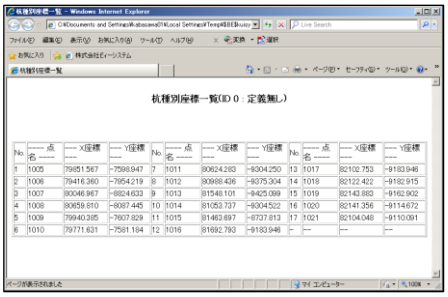


- 杭種情報：設定されている各杭種の本数が表示されます。
- 全杭種本数：全ての杭種の本数が表示されます。
- 画地数：画地数が表示されます。
- 総面積：全ての画地を合計した総面積が表示されます。
- 表示地目レイヤ：表示する地目レイヤを選択します。
- 全地目表示：チェックで全ての地目レイヤを表示します。

VIII.19.2. 杭種別座標リスト

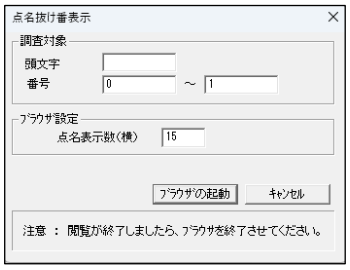
杭種別に座標を表示します。杭種を選択し、［ブラウザの起動］ボタンを押すと、［杭種別座標一覧］ブラウザが起動し、選択した杭種のＸ，Ｙ座標を表示します。

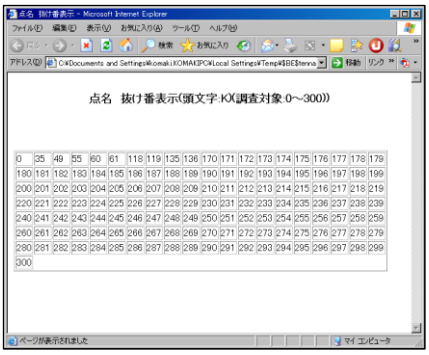




VIII.19.3. 点名の抜番表示

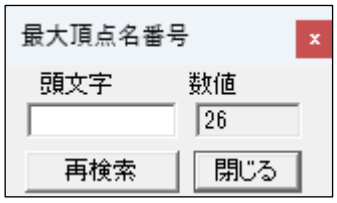
点名頭文字の抜け番を表示します。頭文字を入力し、調査対象番号を入力します。
［点名表示数］で表の横列の数を設定できます。
［ブラウザの起動］ボタンを押すと、［点名　抜け番表示］ブラウザが起動し、点名の抜け番を表示します。





VIII.19.4. 最大番号の表示

頂点名番号の最大値を表示します。
最初の表示では頭文字のない最大値を表示します。
頭文字を入力し、再検索ボタンをクリックすると、頭文字のある頂点名番号の最大値を表示します。



VIII.20. ［ファイル］ – ［閉じる］

現在開いている図面を閉じます。
［ファイル］ – ［閉じる］を選択すると、現在編集中のファイルを閉じます。
※　現在のデータが変更されているときには必ず保存の有無を問われます。

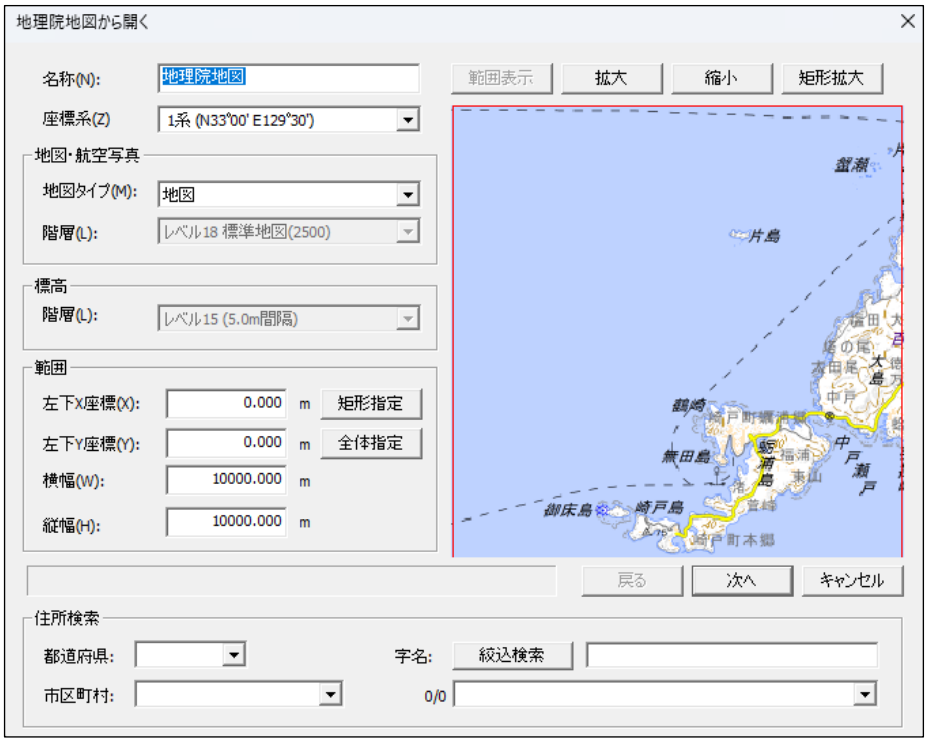
VIII.21. ［ファイル］ – ［アプリケーションの終了］

Assist8 を終了します。
［ファイル］ – ［アプリケーションの終了］を選択すると、Assist8 を終了します。

VIII.22. ［ファイル］ – ［地理院地図から開く］

地理院地図を開きます。

地図タイプを選択し、矩形指定または全体指定で範囲指定後、地理院地図を内部ラスタとして取り込みを行います。住所からの検索も可能です。



IX.　作成

IX.1. ［作成］－［ポイント］ 

ポイントを作成します。

手順

1） ［作成］－［ポイント］を選択すると、マウスカーソルが＋に変わります。

2） 任意の場所をクリックしてポイントを作成します。

3） ポイント作成後、右クリックするとポイントの作成を終了します。

IX.2. ［作成］－［ポリライン］

ポリラインを作成します。

手順

1） ［作成］―［ポリライン］を選択すると、マウスカーソルが＋に変わります。

2） 任意の場所をクリックしてポリラインを作成します。

既存のポイントをポリラインに含めたい場合は Shift キーを押しながら、またはスナップバーの頂点をオンにしてからカーソルをポイントに近づけるとそのポイントをスナップすることができます。

図形作成中に右クリックすると直前のポイントを削除します。

3） ダブルクリックすると終点が確定し、ポリラインが作成されます。

4） ポリラインの作成後、右クリックするとポリラインの作成を終了します。

IX.3. ［作成］－［ポリゴン］

ポリゴンを作成します。

手順

1） ［作成］－［ポリゴン］を選択すると、マウスカーソルが＋に変わります。

2） 任意の場所をクリックしてポリゴンを作成します。

ポイントのスナップ、直前のポイントの削除についてはポリラインと同様です。

3） ダブルクリックすると、ダブルクリックした位置と始点が自動的に結合され、ポリゴンが作成されます。

4） ポリゴンの作成後、右クリックするとポリゴンの作成を終了します。

IX.4. ［作成］－［ライン上ポイント］



ライン上にポイントを作成します。

手順

1） ［作成］－［ライン上ポイント］を選択すると、マウスカーソルが＋に変わります。

2） 単点を作成したい、ライン上をクリックすると、ライン上に単点が作成されます。

3） マウスの右ボタンをクリックするとライン上ポイントの作成を終了します。

IX.5. ［作成］－［オフセットポイント］



基準になる頂点からの移動量を表示し、ポイントを作成します。

手順

1） ［作成］－［オフセットポイント］を選択すると、マウスカーソルが＋に変わります。

2） 基準になる頂点を選択後、マウスを移動すると移動量（現地距離）が表示されます。
作成したい位置でクリックすると、単点が作成されます。

3） マウスの右ボタンをクリックするとオフセットポイントの作成を終了します。

IX.6. ［作成］－［重心ポイント］

基準になる頂点からの移動量を表示し、ポイントを作成します。

手順

1） ［作成］－［重心ポイント］を選択すると、マウスカーソルが▲に変わります。

2） 重心ポイントを作成したい図形を選択すると、重心ポイントが作成されます。

IX.7. ［作成］ – ［頂点上ライン］



基準になる頂点からラインとポイントを作成します。

手順

1） ［作成］ – ［頂点上ライン］を選択すると、マウスカーソルが＋カーソルに変わります。

2） 既存点をクリックし、その後は作成したい箇所でクリックすることで連続してポイントと同時にラインを作成します。

3） ダブルクリックで作成を終了します。エディットツールバーの［CANCEL］ですべて終了です。

IX.8. ［作成］ – ［頂点上ライン R］



既存点から既存点の間にラインを作成します。

手順

1） ［作成］ – ［頂点上ライン R ］を選択すると、マウスカーソルが＋カーソルに変わります。

2） 既存点と既存点をクリックすることで連続してラインを作成し、右ボタンクリックで新しいポイントを作成します。

3） ダブルクリックで作成を終了します。エディットツールバーの［CANCEL］ですべて終了です。

IX.9. ［作成］ – ［角度･距離指定ライン］

角度、距離を指定してラインを作成します。

手順

1） ［作成］ – ［角度･距離指定ライン］を選択すると、マウスカーソルが＋カーソルに変わります。

2） 単点を作成する位置でクリックすると、[角度･線分指定]ウィンドウが表示されます



3） 方向角と距離を入力し、[次へ]を選択します。

4） ３点目、４点目を入力しラインを作成します。

5） [確定]を選択して終了します。

IX.10. ［作成］－［円］

円を作成します。

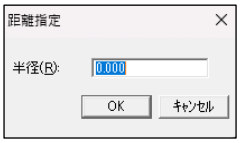
手順

1） 作成］－［円］－［中心･半径］･［直径２点］･［3 点］･［楕円］を選択すると、
マウスカーソルが＋カーソルに変わります。

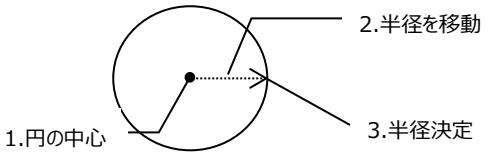
中心･半径

円の中心と半径を指定して円を作成します。

スペースキーを押すと[距離指定]ボックスが表示され、半径の距離指定が可能です。



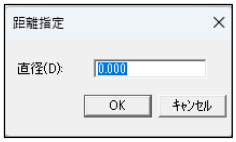
＜図例＞



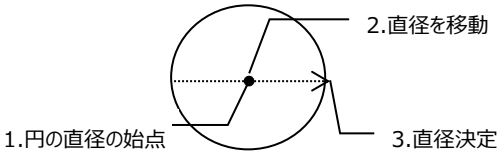
直径２点

円の直径を指定して円を作成します。

スペースキーを押すと[距離指定]ボックスが表示され、直径の距離指定が可能です。



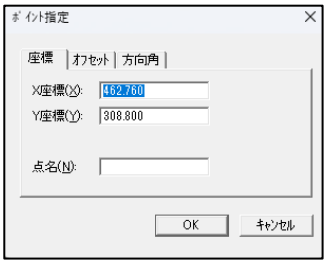
＜図例＞



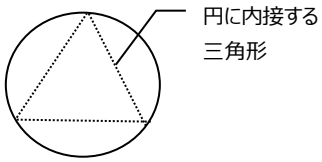
３点

円に内接する３点から円を作成します。

スペースキーを押すと[ポイント指定]ボックスが表示され、座標、オフセット、方向角の指定が可能です。



＜図例＞



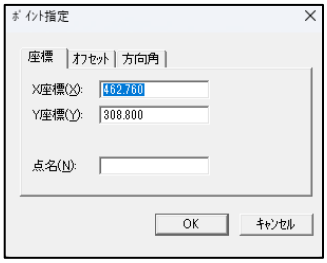
楕円

楕円を作成します。

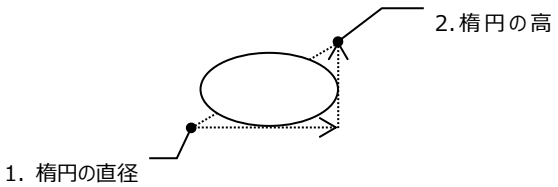


- 楕円弧作成オプション
  - 直径指定：直径を指定して楕円を作成します。
  - 半径指定：半径を指定して楕円を作成します。

スペースキーを押すと[ポイント指定]ボックスが表示され、座標、オフセット、方向角の指定が可能です。



＜図例＞



2)　円を作成したい箇所に左クリックし、右クリックで作成を終了します。

エディットツールバーの［CANCEL］でも終了します。

IX.11. ［作成］－［円弧］

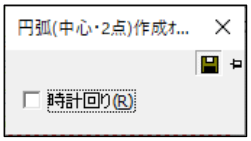
円弧を作成します。

手順

1)　［作成］－［円弧］－［中心・２点］・［３点］・［２点・半径］・［楕円弧］を選択すると、
マウスカーソルが＋カーソルに変わります。

中心・２点

円弧の中心・半径・終点を指定して円弧を作成します。

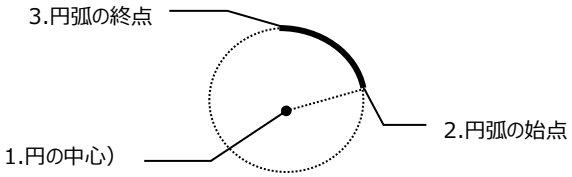


[円弧（中心・２点）作成オプション]にチェックを入れると、時計回りに作成できます。

スペースキーを押すと[ポイント指定]ボックスが表示され、座標、オフセット、角度、中心角の指定が可能です。

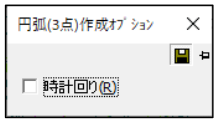


＜図例＞



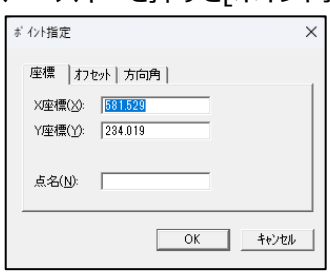
３点

円に内接する指定した３点を通過する円弧を作成します。

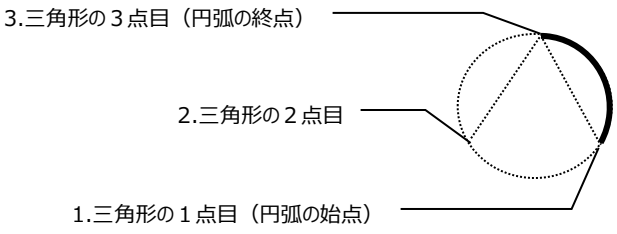


[円弧（３点）作成オプション]にチェックを入れると、時計回りに作成できます。

スペースキーを押すと[ポイント指定]ボックスが表示され、座標、オフセット、方向角の指定が可能です。

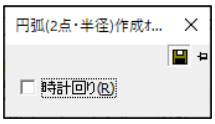


＜図例＞



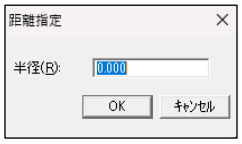
２点･半径

円弧の起点と終点を指定してから半径を調整して円弧を作成します。

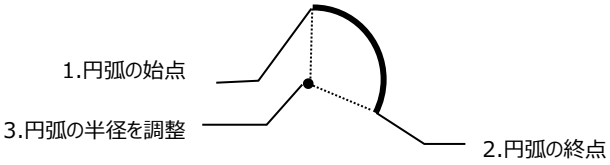


[円弧（２点･半径）作成オプション]にチェックを入れると、時計回りに作成できます。

スペースキーを押すと[距離指定]ボックスが表示され、半径の距離指定が可能です。



＜図例＞



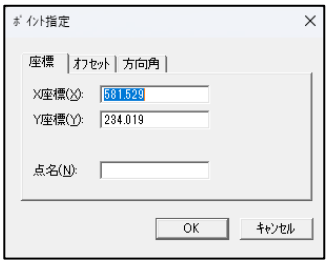
楕円弧

矩形指定で楕円を作成し、始点角指定で楕円弧を作成します。

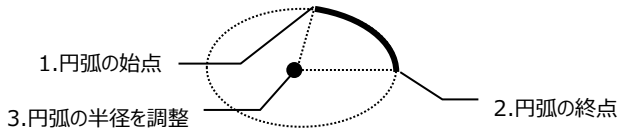


- 楕円弧作成オプション
  - 直径指定：直径を指定して楕円弧を作成します。
  - 半径指定：半径を指定して楕円弧を作成します。
  - 時計回り：楕円弧を時計回りに作成します。

スペースキーを押すと[ポイント指定]ボックスが表示され、座標、オフセット、方向角の指定が可能です。



＜図例＞



2） 円を作成したい箇所に左クリックし、右クリックで作成を終了します。
エディットツールバーの［CANCEL］でも終了します。

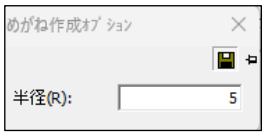
IX.12. ［作成］ – ［めがね］

丸つきの円弧を作成します。

手順

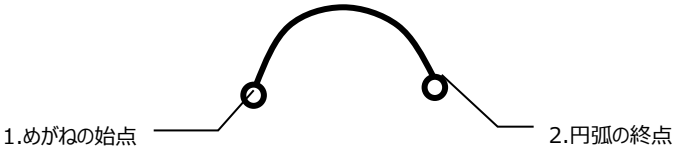
1)　［作成］ – ［めがね］を選択すると、マウスカーソルが　カーソルに変わります。

2)　[めがね作成オプション]で半径の大きさを指定します。



3)　めがねを作成したい箇所に左クリックし、右クリックで作成を終了します。

エディットツールバーの［CANCEL］でも終了します。



IX.13. ［作成］ – ［自動ポリゴン化］



データ内の全ての閉図形をサーチし、ポリゴンを作ります。

手順

1)　［作成］ – ［自動ポリゴン化］を選択すると、[自動ポリゴン化]ウィンドウが表示されます。



- ポリゴン化の範囲
  - 全体：自動ポリゴン化の対象が図面全体
  - 多角指定：多角で囲まれた場所
  - 矩形指定：矩形で囲まれた場所
- ポリゴン化の詳細：　［図形のバックアップ］にチェックを入れると、ポリゴン化前の状態のバックアップデータを作成します。

2)　多角指定と矩形指定の場合は、マウスカーソルが＋に変わりますから、対象とするエリアをヒットし、最後はダブルクリックで範囲を確定します。

3)　選択した範囲内でポリゴン化を行います。

【注意】
画地の形状によって、まれに正しく閉図形が構成されているにもかかわらず［全体指定］で
自動認識されない場合があります。その場合は、画地を［多角指定］で囲んで自動ポリゴン化を行ってください。
画面上で閉図形が構成されているように見えてもポリゴン化が行えない場合は、［表示］－［チェック］－
［非閉合点チェック］を行えば、容易にポリゴンの境界点になっていない杭を探し出すことができます。

X.　　編集

X.1. ［編集］－［元に戻す］ 

一つ前の操作を取り消します。

X.2. ［編集］－［やり直し］ 

[元に戻す]で取り消した操作を復活します。

X.3. ［編集］－［頂点］

頂点を修正します。

X.3.1. ［編集］－［頂点］－［移動］ 

頂点を移動します。

手順

1） ［編集］－［頂点］－［移動］を選択します。

2） 移動したい点をマウスの左ボタンでクリックし、移動対象の点を選択します。

3） 再度マウスの左ボタンをクリックした位置に点が移動されます。

X.3.2. ［編集］－［頂点］－［辺移動］

複数図形の辺を移動します。

手順

1） ［編集］－［頂点］－［辺移動］を選択します。

2） カーソルが△になり、［辺移動オプション］ウィンドウが表示されます。



- 選択タイプ
  - 辺指定：辺を指定します。辺と隣接する点、ラインが移動します。
    移動させたい位置にカーソルを置いてクリックで決定します。
  - ルート指定：移動させたい辺の頂点と頂点を選択します。
    ダブルクリックで辺指定を確定し、移動させたい位置にカーソルを置いてクリックで決定します。
- ライン固定：選択したラインの前後のラインを固定します。
- 全点をスナップ対象：全てのポイントをスナップの対象にします。

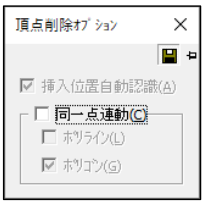
X.3.3. ［編集］－［頂点］－［削除］

指定した図形の頂点を削除します。

手順

1） ［編集］－［頂点］－［削除］を選択します。

2） カーソルが▲に変わり［頂点削除オプション］ウィンドウが表示されます。



- 同一点連動：隣接するポリライン、またはポリゴンを削除します。

3） 頂点を削除する図形をクリックすると、カーソルが＋に変わります。削除する頂点をクリックし頂点を削除します。

X.3.4. ［編集］－［頂点］－［範囲削除］

指定した範囲の頂点を削除します。

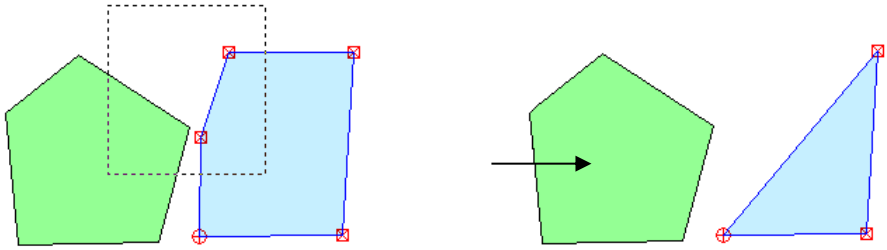
手順

1） ［編集］－［頂点］－［範囲削除］の［矩形］または［多角］を選択します。

2） カーソルが＋に変わるので、範囲を矩形または多角で指定すると指定した範囲内の図形の頂点が削除されます。

※ 図形を選択してメニューバーの［編集］－［頂点］－［範囲削除］－［矩形］または［多角］を選択した場合は、選択した図形の範囲内の頂点のみが削除されます。

＜図例＞



図形を選択し、範囲を選択します。　　選択した図形の頂点のみ削除されます。

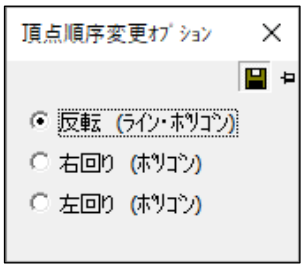
X.3.5. ［編集］－［頂点］－［順序変更］

頂点の順番を変更します。

手順

1） ［編集］－［頂点］－［順序変更］を選択します。

2） カーソルが▲に変わり［頂点順序変更オプション］ウィンドウが表示されます。



- 反転：指定したラインまたはポリゴンの順序を反転させます。
- 右回り：指定したポリゴンの順序を右回りに変更します。
- 左回り：指定したポリゴンの順序を左回りに変更します。

X.4. ［編集］ – ［画地］

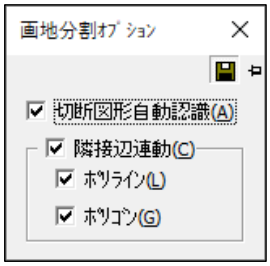
X.4.1. ［編集］ – ［分割］

画地を修正します。

手順

1） ［編集］ – ［画地］ – ［分割］を選択します。

2） ［画地分割オプション］ウィンドウが表示されます。

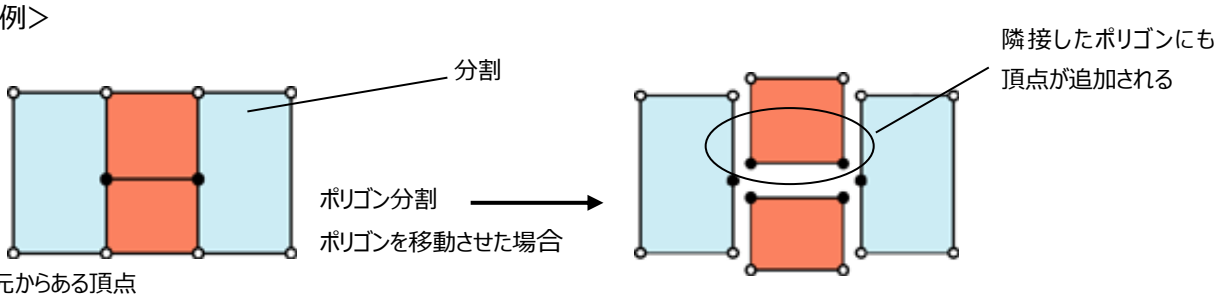


- 切断図形自動認識：切り離す起点をクリックすると対象ポリゴンを自動で認識します。
- 隣接辺連動：隣接する辺の頂点を同時に追加します。
  - ポリライン：隣接するポリラインに頂点を追加します。
  - ポリゴン：隣接するポリゴンに頂点を追加します。

3） カーソルが＋に変わります。

4） 切離す起点と終点をクリックすると指定したポリゴンが分割されます。

＜図例＞



○・・元からある頂点

●・・ポリゴン分割によって追加された頂点

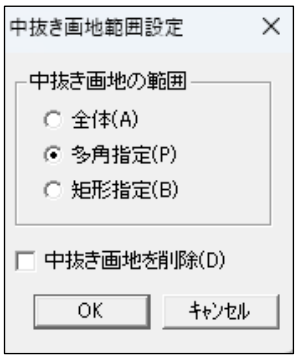
X.4.2. ［編集］－［画地］－［中抜きポリゴン］－［範囲選択］

指定した範囲内の図形を中抜きポリゴンに変換します。

手順

1） ［編集］－［画地］－［中抜きポリゴン］－［範囲選択］を選択します。

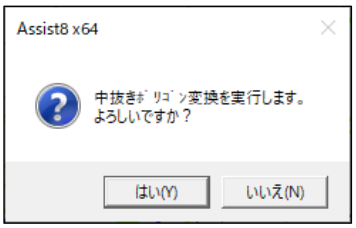
2） ［中抜き画地範囲指定］ウィンドウが表示されます。



- 中抜き画地の範囲
  - 全体：図面全体を選択します。
  - 多角指定：多角で図形を囲んで範囲指定します。
  - 矩形指定：矩形で範囲指定します。
- 中抜き画地を削除：中抜きポリゴンを作成した際、中抜きの画地を削除します。

3） 設定終了後、［ＯＫ］ボタンをクリックすると、全体を選択した場合は確認メッセージが表示されます。
多角指定、矩形指定を選択した場合はカーソルが＋に変わるので、図形を囲むようにクリックします。

4） 確認メッセージが表示され、［はい］ボタンをクリックすると変換されます。



X.4.3. ［編集］－［画地］－［中抜きポリゴン］－［図形選択］

選択した図形を中抜きポリゴンに変換します。

手順

1） ［編集］－［画地］－［中抜きポリゴン］－［図形選択］を選択します。

2） カーソルが△１に変わるので、図形１（外側の大きいポリゴン）を選択します。

3） カーソルが△２に変わるので、中抜きする図形２（内側のポリゴン）を選択します。

4） カーソルが ✛ に変わります。図形１と図形２で中抜き線を作成するポイントを選択します。

5） 図形が中抜きポリゴンに変換されます。

X.4.4. ［編集］－［画地］－［中抜き線変更］

中抜きポリゴンの中抜き線を変更します。

手順

1） ［編集］－［画地］－［中抜き線変更］を選択します。

2） カーソルが▲に変わるので、図形を選択します。

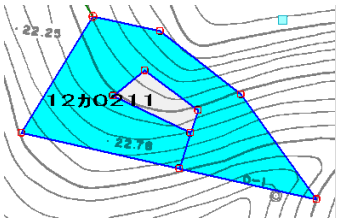
3） カーソルが△に変わるので、変更する中抜きする線を選択します。

4） カーソルが△１に変わるので、中抜き線を作成する内側のポリゴンの頂点を選択します。

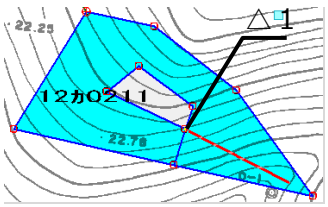
5） カーソルが△２に変わるので、中抜き線を作成する外側のポリゴンの頂点を選択します。

6） 中抜き線が変更されます。

図形を選択



△１を選択



△２を選択で中抜き線変更



X.4.5. ［編集］－［画地］－［始終点変更］

画地の始終点を変更します。

手順

1） ［編集］－［画地］－［始終点変更］を選択します。

2） カーソルが▲に変わるので、図形を選択します。

3） カーソルが△に変わるので、始終点を変更したいポイントを選択します。

4） 始終点は変更されます。

X.4.6. ［編集］－［画地］－［面積分割］

画地の始終点を変更します。

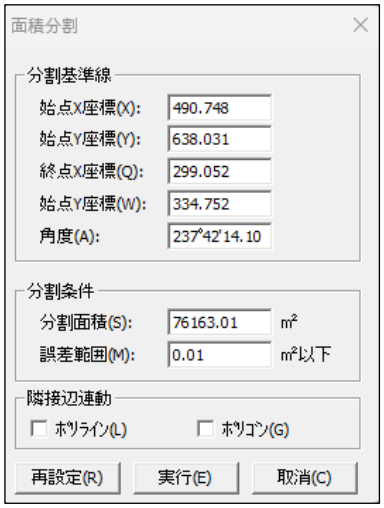
手順

1） ［編集］－［画地］－［面積分割］を選択します。

2） カーソルが▲に変わるので、ポリゴンを選択します。

カーソルが＋に変わります。切離す起点と終点をクリックすると指定します。

3） ［面積分割］ウィンドウが表示されます。



4） 分割面積、誤差範囲、隣接辺連動を入力します。

隣接辺連動（ポリライン、ポリゴン）も選択します。

5） 実行を選択すると面積分割が行なわれます。

X.4.7. ［編集］－［画地］－［合成］

指定したポリゴンを合成します。

手順

1） ［編集］－［画地］－［合成］を選択します。

2） カーソルがに変わるので、ポリゴンを選択します。

3） カーソルが変わるので、合成したいポリゴンを選択します。

4） 図形が合成されます。

X.4.8. ［編集］－［画地］－［外周線・印刷地番色］

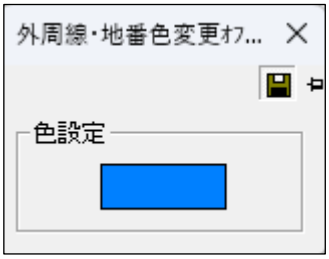
指定したポリゴンの外周線と印刷地番色を変更します。

1） ［編集］－［画地］－［外周線・印刷地番色］を選択します。

2） カーソルが▲に変わるので、ポリゴンを選択します。

[外周線・地番色変更]ウィンドウに表示されている色にポリゴンと地番の文字色が変わります。

色を変更する場合は[色変更]の色をタップして変更します



X.5. ［編集］ – ［テキスト］

X.5.1. ［編集］ – ［テキスト］ – ［編集］

テキストを修正します。

手順

1） ［編集］ – ［テキスト］ – ［編集］を選択します。

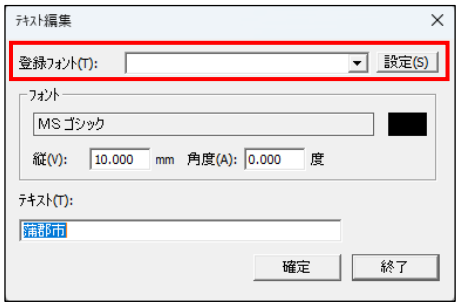
2） カーソルが▲になり、［テキスト編集］ウィンドウが表示されます。

テキストを選択し、フォント、色、文字サイズ、テキスト内容を変更し、［確定］をクリックします。

そのまま他のテキストを選択し、編集できます。テキストをダブルクリックしても同じ操作が行えます。

あらかじめ登録しておいたフォントを使用することも可能です。

フォントの登録は登録フォント横の[設定]から行ってください。



3） 変更終了後、［終了］ボタンをクリックします。

X.5.2. ［編集］－［テキスト］－［矩形］

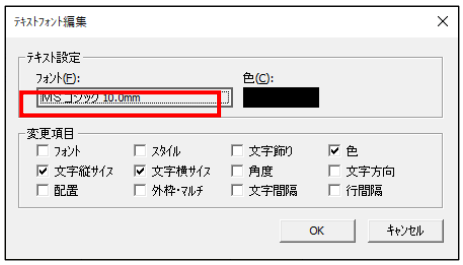
矩形で指定した範囲内のテキストを一括で変更します。変更しない項目の設定は維持されます。

手順

1） ［編集］－［テキスト］－［矩形］を選択します。

2） カーソルが＋に変わるので、変更するテキストの範囲を矩形で指定します。

3） ［テキストフォント編集］ウィンドウが表示されます。



- テキスト設定：サイズ・角度・スタイル・フォント・色・文字飾りを指定します。

  フォントの下のタブをクリックするとフォントの指定パネルが開きます。



- 変更項目：テキスト設定の内容で変更する項目を選択します。

4） 設定終了後、［ＯＫ］ボタンをクリックすると指定した範囲のテキストを変更します。

X.5.3. ［編集］－［テキスト］－［多角］

多角で指定した範囲内のテキストを一括で変更します。変更しない項目の設定は維持されます。

手順

［編集］－［テキスト］－［多角］を選択します。

前述**IX.5.2［編集］－［テキスト］－［矩形］**同様、テキストを編集します。

X.5.4. ［編集］－［テキスト］－［レイヤ］

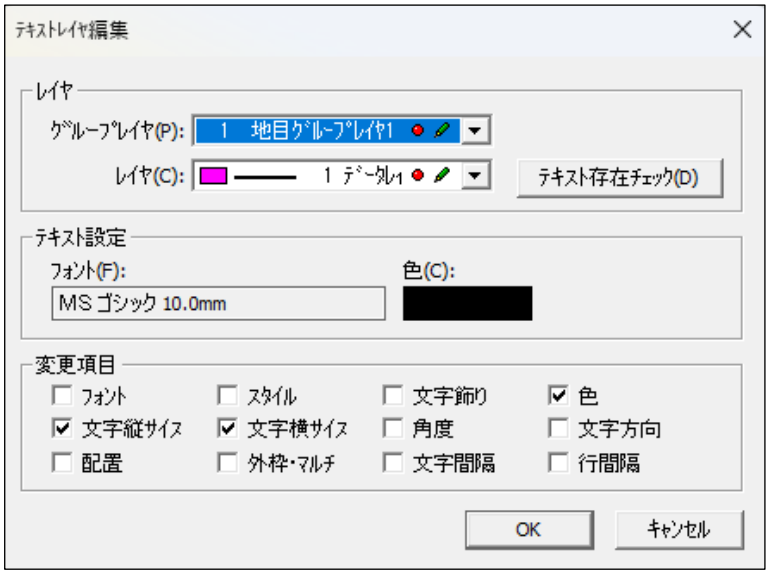
指定したレイヤのテキストの設定を一括で変更します。

手順

1)　［編集］－［テキスト］－［レイヤ］を選択します。

2)　［テキストレイヤ編集］ウィンドウが表示されます。

レイヤを選択し、フォント、色、文字サイズ、テキスト内容を変更します。



- グループレイヤ：編集するテキストのグループレイヤを指定します。
- レイヤ：デフォルトのレイヤが表示されます。レイヤを指定します。
- テキスト存在チェック：指定したレイヤ内の編集可能なテキストの存在チェックをします。
  存在する場合は件数を表示します。
  ※ 指定しているレイヤが非表示、又は編集不可の場合は編集不可ですので、
  編集可能なテキストは存在しない事となります。
- テキスト設定：サイズ・角度・スタイル・フォント・色・文字飾りを指定します。
- 変更項目：テキスト設定の内容で変更する項目を選択します。

3)　設定終了後、［ＯＫ］ボタンをクリックすると指定したレイヤのテキストを変更します。

X.5.5. ［編集］－［テキスト］－［多角指定テキスト移動］

選択図形を編集します。

手順

1） ［編集］－［テキスト］－［多角指定テキスト］を選択します。

2） カーソルが＋に変わるので、範囲を多角で指定すると指定した範囲内のテキストが移動されます。

X.6. ［編集］ – ［ルーペ］

作成したルーペを編集することができます。

X.6.1. ［編集］ – ［ルーペ］ – ［編集］

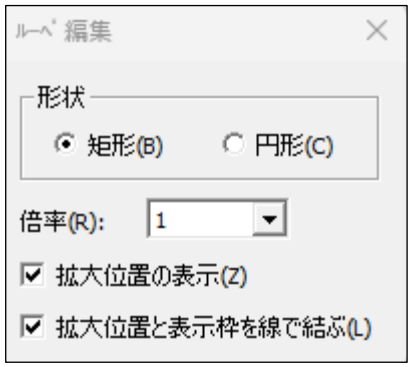
XIII.4.［表示］ – ［ルーペ機能］で作成したルーペの詳細を変更できます。

手順

1） ［編集］ – ［ルーペ］ – ［編集］を選択します。

2） マウスカーソルが▲になります。編集したいルーペを選択します。

3） [ルーペ編集]ウィンドウが表示されます。変更したい項目を変更します。



4） 変更が終わったら×で閉じます。左クリックで編集を終了します。

X.6.2. ［編集］ – ［ルーペ］ – ［拡大位置移動］

拡大する位置を変更することができます。

手順

1） ［編集］ – ［ルーペ］ – ［拡大位置移動］を選択します。

2） マウスカーソルが▲になります。編集したいルーペを選択します。

3） マウスカーソルが△になったら、今度は拡大位置を選択して変更したい位置に移動します。

4） 編集を終了する場合は右クリックを 2 回して、通常のカーソルに戻ったら左クリックで終了します。

X.7. ［編集］ – ［円・円弧］

X.7.1. ［編集］ – ［円・円弧］ – ［多角指定コピー］

円・円弧をコピーします。

手順

1） ［編集］ – ［円・円弧］ – ［多角指定コピー］を選択します。

2） カーソルが＋に変わるので、範囲を多角で指定すると指定した範囲内の円・円弧が選択されます。

3） 基準点座標を選択します。

4） 基準点座標を中心に円・円弧がコピーされます。

5） 「オペレーションを続けますか？」というメッセージが表示されるので、さらにコピーする場合は[はい]をクリックし、終了する場合は[いいえ]をクリックします。

X.7.2. ［編集］ – ［円・円弧］ – ［多角指定移動］

円・円弧を移動します。

手順

1） ［編集］ – ［円・円弧］ – ［多角指定移動］を選択します。

2） カーソルが＋に変わるので、範囲を多角で指定すると指定した範囲内の円・円弧が選択されます。

3） 基準点座標を選択します。

4） 基準点座標を中心に円・円弧が移動されます。

X.8. ［編集］－［選択図形］

選択図形を編集します。

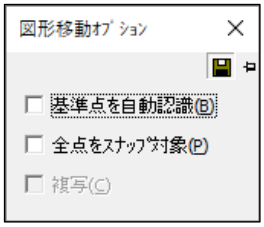
X.8.1. ［編集］－［選択図形］－［図形移動］

指定した図形を移動します。

手順

1） ［編集］－［選択図形］－［図形移動］を選択します。

2） マウスカーソルが▲に変わり、［図形移動オプション］ウィンドウが表示されます。



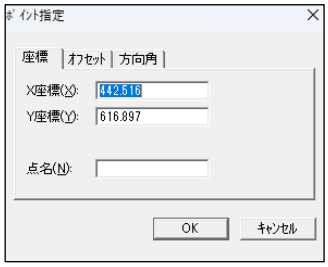
- 基準点を自動認識：基準点を自動で認識します。
- 全点をスナップ対象：全てのポイントをスナップの対象にします。

3） 移動する図形をクリックします。カーソルが△に変わります。

4） 移動する基準点をクリックするとカーソルに図形が表示されます。

5） 移動する位置でクリックまたはカーソルを移動して図形の移動方向を決定します。

6） 数値入力での移動をする場合は、キーボードの［スペースキー］を押します。
［ポイント指定］ウィンドウが表示されます。



7） ［ＯＫ］ボタンをクリックすると、指定した距離分図形が移動します。

X.8.2. ［編集］－［選択図形］－［図形拡大・縮小］

指定した図形を拡大・縮小します。

手順

1） ［編集］－［選択図形］－［図形拡大・縮小］を選択します。

2） マウスカーソルが▲に変わり、［図形拡大・縮小オプション］ウィンドウが表示されます。



- 縦：横：拡大・縮小の縦比率を入力します。
- 対象：テキストフォント、引出線パラメータ、寸法線パラメータにチェックを入れると、併せて拡大・縮小します。

3） 拡大・縮小する図形をクリックすると、カーソルが＋に変わります。

4） 拡大・縮小する基準点をクリックし、カーソルを移動して図形を拡大・縮小します。クリックすると図形の大きさが決定します。

5） 倍率を数値入力で変更する場合は［スペースキー］を押します。
［倍率の入力］ウィンドウが表示されるので、縦、横倍率を入力します。

6） ［ＯＫ］ボタンをクリックすると、拡大・縮小が決定します。

X.8.3. ［編集］－［選択図形］－［図形回転］

指定した図形・テキストを自由な支点で回転させます。

手順

1） ［編集］－［選択図形］－［図形回転］を選択します。

2） マウスカーソルが▲に変わるので、回転する図形・テキストをクリックします。

3） カーソルが＋に変わるので、回転する図形の軸となるポイントをクリックします。

4） 回転させる支点をクリックします。選択した図形以外の位置にも支点を指定できます。
また、［スナップバー］の［頂点］機能を使って図形の頂点、中心に支点を指定できます。

5） カーソルが に変わるので、マウスで回転させ、クリックすると図形・テキストが回転します。

X.9. ［編集］ – ［削除］

図形を削除します。

X.9.1. ［編集］ – ［削除］ – ［図形削除］

図形を削除します。
削除したい図形をマウスの左ボタンでクリックすると削除されます。ポリゴン、ライン削除の場合は構成点が残ります。ポリゴン、ラインの構成点を削除した時は、残りの構成点でポリゴン・ラインが残ります。

X.9.2. ［編集］ – ［削除］ – ［ポイント削除］



ポイントを削除します。
削除したい点をマウスの左ボタンでクリックすると削除されます。この時に、削除された点がポリゴンの構成点の場合も、ポリゴンは残ります。

X.9.3. ［編集］ – ［削除］ – ［一辺削除］

選択した地目レイヤの線を削除します。
削除したい線をマウスの左ボタンでクリックすると削除されます。この時に、削除された線がポリゴンの構成線の場合は、ポリゴン状態が解除されます。

X.9.4. ［編集］ – ［削除］ – ［一辺削除 2］

選択した地目レイヤと編集可能な背景レイヤの線を削除します。
操作方法等は上記IX.9.3［編集］ – ［削除］ – ［一辺削除］と同じです。

X.10. ［編集］ – ［多角指定図形削除］

指定した多角形内の図形を削除します。
手順

1） ［編集］ – ［多角指定図形削除］を選択します。
2） マウスカーソルが＋に変わります。
3） 削除したい場所をクリックし、最後はダブルクリックすると、多角形が決定され範囲内のデータが削除されます。

X.11. ［編集］－［多角指定コピー］

指定した多角形内の図形をコピーします。コピーした点名は２種類の方法で自動作成します。

手順

1） ［編集］－［多角指定コピー］を選択します。

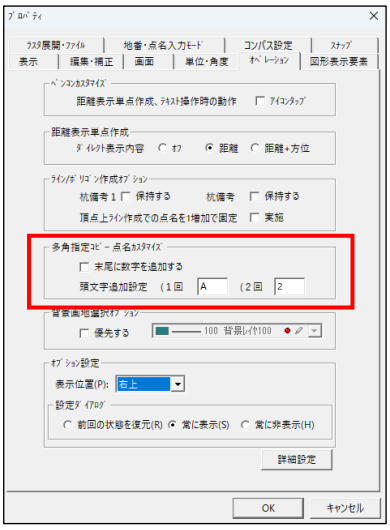
2） マウスカーソルが＋に変わります。

3） コピーしたい図形を囲むように場所をクリックし、最後はダブルクリックすると、コピー範囲が決定されます。

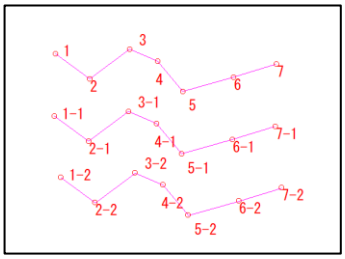
4） 移動基準になる場所をクリックし、移動先を再度クリックすると、コピー図形を表示します。

5） 続けてコピーを行う場合は、移動先を再度クリックします。

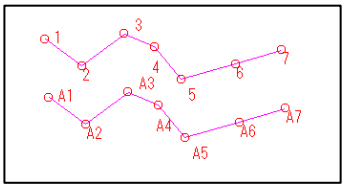
末尾に数字を追加する動作と頭文字を追加する動作の２種あります。設定はメニューバー［ツール］－［プロパティ］－［オペレーション］で行います。



例①末尾に数字を追加



例②頭文字を追加



- 末尾に数字を追加：１回目のアクションで、元点名に－１を２回目のアクションで－２を自動でつける。
  例①では１回目のアクションで　ニ 705　→　ニ 705-1
  ２回目のアクションで　ニ 705　→　ニ 705-2　その後も順番に数字が追加される。
- 頭文字を追加：１回目のアクションで、元点名の頭に　例②では A をつける。
  手順は　前述の末尾に数字を追加　と同じです。
  アクションが３回以上になる場合は１回目→2 回目→1 回目→2 回目と
  設定がループするようになります。

【注意】このアクション終了時には、同一名称チェックは行われません。
1 回のアクションしかない場合も２回目の頭文字欄には記入が必要です

X.12. ［編集］－［多角指定移動］

指定した多角形内の図形を移動します。

手順

1） ［編集］－［多角指定移動］を選択します。

2） マウスカーソルが＋に変わります。

3） 移動したい図形を囲むように場所をクリックし、最後はダブルクリックすると、移動範囲が決定されます。

4） 移動基準になる場所をクリックし、移動先を再度クリックすると、移動範囲内の全ての図形が移動します。

X.13. ［編集］－［多角指定回転］

指定した多角形内の図形を移動します。

手順

1） ［編集］－［多角指定回転］を選択します。

2） マウスカーソルが＋に変わります。

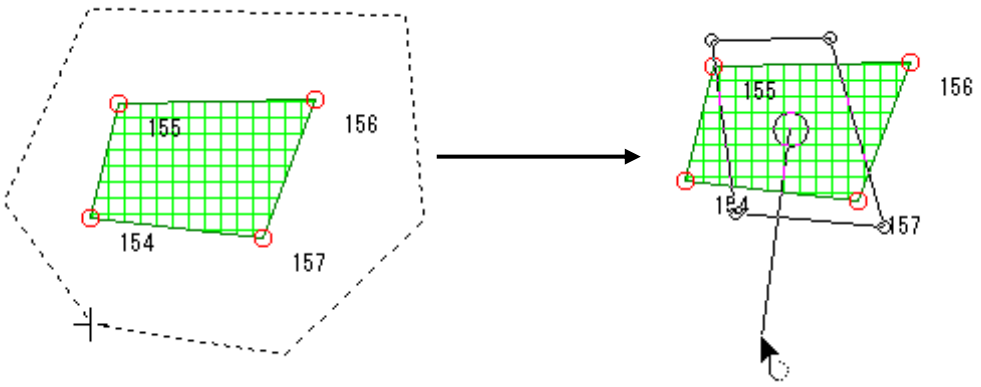
3） 移動したい図形を囲むように場所をクリックし、最後にダブルクリックすると、回転範囲が決定されます。

4） 回転する図形の軸となる位置をクリックします。

5） 回転させる支点をクリックします。選択した図形以外の位置にも支点を指定できます。
また、［スナップバー］の［頂点］機能を使って図形の頂点、中心に支点を指定できます。

6） カーソルが に変わるので、マウスで回転させ、クリックすると多角指定した図形箇所が回転します。

＜図例＞



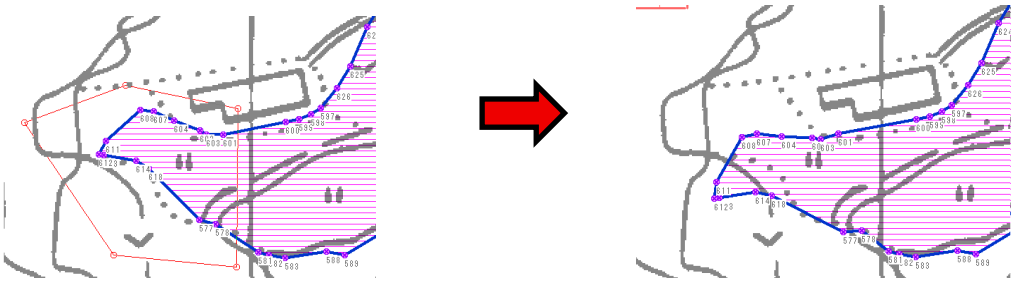
範囲を選択します。　　軸となる位置を指定し、マウスで回転させます。

X.14. ［編集］－［多角指定二点］

指定した多角形内の図形を移動します。
移動元、移動先を各々２点指示することによって、拡大･縮小･回転も可能です。
手順

1） ［編集］－［多角指定二点］を選択します。
2） マウスカーソルが＋に変わります。
3） 移動したい図形を囲むように場所をクリックし、最後はダブルクリックすると、移動範囲が決定されます。
4） １点目の移動基準になる場所をクリックし、移動先を再度クリックし、続けて２点目の移動基準になる場所をクリックし、移動先を再度クリックすると、移動範囲内の全ての点が基準となる２点にしたがって、回転や拡大縮小を行います。

下図の例は、１点目の移動元、移動先は固定し、２点目の移動元と移動先を与えることで図形回転を行った。



X.15. ［編集］－［多角指定移動２］

指定した多角形内のすべての図形（編集可、不可にかかわらず）を移動します。
移動元、移動先を各々２点指示することによって、拡大･縮小･回転も可能です。
手順

1） ［編集］－［多角指定移動２］を選択します。
2） マウスカーソルが＋に変わります。
3） 移動したい図形を囲むように場所をクリックし、最後はダブルクリックすると、移動範囲が決定されます。
4） １点目の移動基準になる場所をクリックし、移動先を再度クリックすると移動範囲内の全ての点が移動します。

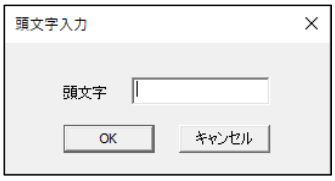
X.16. ［編集］－［全頂点頭文字追加］

全頂点の頭文字を変更いたします。

手順

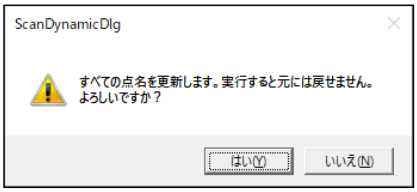
1） ［編集］－［全頂点頭文字追加］を選択します。

2） ［頭文字入力］ウィンドウが表示されます。



3） 追加したい点名を入力し、ＯＫを選択します。

4） ［ScanDynamicDlg］ウィンドウが表示されます。



5） [はい]を選択すると全頂点の頭文字が変更されます。

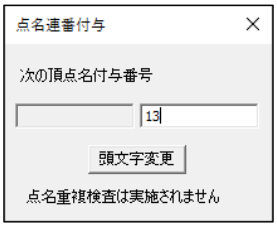
X.17. ［編集］－［点名連番付与］

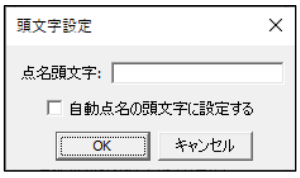
頂点をクリックして点名に連番を付与します。

手順

1） ［編集］－［点名連番付与］を選択します。

2） ［点名連番付与］ウィンドウが表示されます。





- 頭文字変更：頭文字の変更を行います。
- 自動頭文字に設定する：頭文字を［ツール］－［プロパティ］の「杭番号頭文字」に設定します。

3） 点名を入力し、頂点をクリックすると点名が変更されます。

X.18. ［編集］－［画地・ライン点名連番付与］

画地、ラインに点名を連番で付与します。

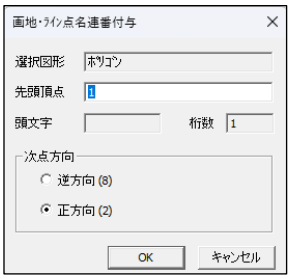
手順

1） ［編集］－［画地・ライン点名連番付与］を選択します。

2） マウスカーソルが▲になります。画地もしくはラインを選択します。

3） マウスカーソルが△になります。開始頂点を選択します。

4） ［画地・ライン点名連番付与］ウィンドウが表示されます。



5） 開始頂点を入力し、連番回転方向を選択し、［ＯＫ］を選択します。

X.19. ［編集］－［点名重複チェック］

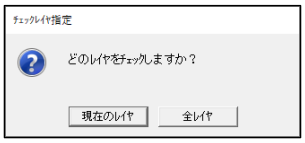
点名の重複チェックをします。

手順

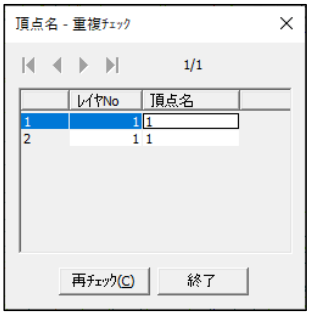
1） ［編集］－［点名重複チェック］を選択します。

2） ［チェックレイヤ指定］ウィンドウが表示されます。

3） チェックしたいレイヤを選択します。



4） ［頂点名－重複チェック］ウィンドウが表示され、重複している点名が表示されます。



X.20. ［編集］－［描画順序交換］

選択した２つの図形の描画順序を入れ替えます。

手順

1） ［編集］－［描画順序交換］を選択します。

2） マウスカーソルが△1 になります。画地を選択します。

3） マウスカーソルが△2 になります。もうひとつの画地を選択します。

4） 選択した画地の描画順序が入れ替わります。

X.21. ［編集］－［図形正視化］

選択した図形の形を変更します。

手順

1） ［編集］－［図形正視化］を選択します。

マウスカーソルが▲になります。画地もしくはラインを選択します。

[正視化]ウィンドウが表示されます。モードを選択します。



- 按分：選択した範囲の頂点を均等に振り分けます。
- 垂直重視：選択した範囲の頂点を垂直重視で配置します。

2） 頂点を選択します。ダブルクリックで確定します。

3） 選択した範囲の頂点が移動し、図形もそれにあわせて変形します。

X.22. ［編集］－［オブジェクト］

オブジェクトを作成、編集します。

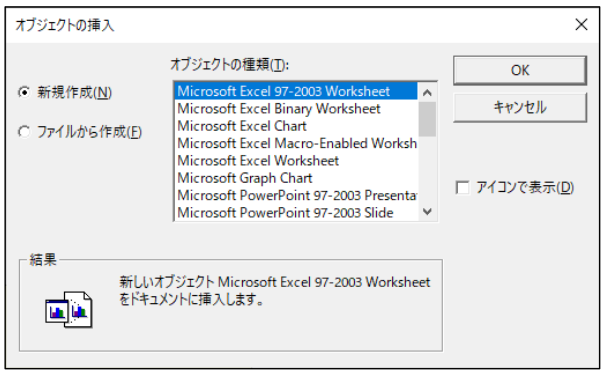
X.22.1. ［編集］－［オブジェクト］－［オブジェクトの作成と貼り付け］

選択したファイル内容をオブジェクトとして貼り付けます。

手順

1） ［編集］－［オブジェクト］－［オブジェクトの作成と貼り付け］を選択します。

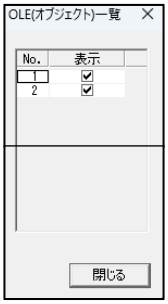
2） オブジェクトの挿入ウィンドウが開くので、新規で作成する場合は［新規作成］にチェックを入れ、
オブジェクトの種類を選んでデータを作成します。作成されたデータは画面の左上に貼り付けられます。
データ入力済みのオブジェクト（他アプリケーションのファイル）を貼り付ける場合は［ファイルから作成］に
チェックを入れ、オブジェクトとして貼り付けたいデータを選択し［OK］をクリックします。
その際、［リンク］にチェックを入れると元データが変更された場合、貼り付けたデータも変更されます。
また、［アイコンで表示］にチェックを入れると、画面上のデータがアイコンで表示になります。



X.22.2. ［編集］－［オブジェクト］－［OLE 一覧］

1） ［編集］－［オブジェクト］－［OLE 一覧］を選択します。

2） OLE（オブジェクト）一覧ウィンドウが開くので、一覧からオブジェクトを選択します。
表示のチェックを入り切りすることで表示／非表示の切り替えができます。



X.22.3. ［編集］ – ［オブジェクト］ – ［リンクの設定］

リンク付のオブジェクトを貼り付けたときに、リンク先の起動・リンクの更新・リンク先の変更を行います。

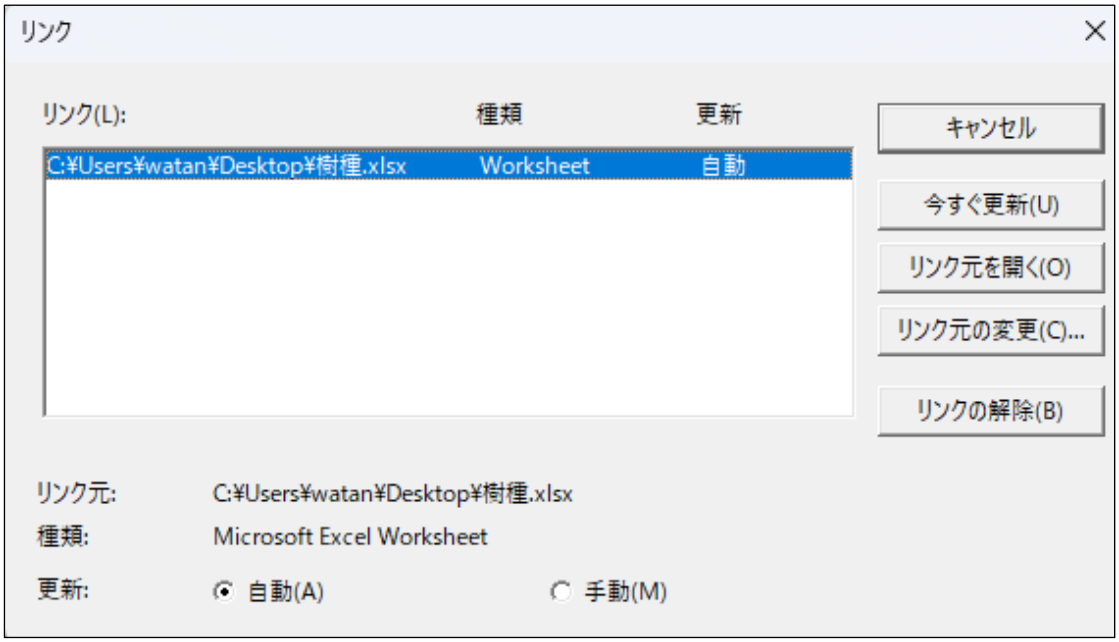
手順

1） ［編集］ – ［オブジェクト］ – ［リンクの設定］を選択します。

2） リンクウィンドウが開くので、一覧からオブジェクトを選択します。

- 今すぐ更新：リンク先から更新します。
- リンク元を開く：設定されているリンク元を開きます。
- リンク元の変更：リンク元を変更します。［リンク元の変更］ウィンドウが表示されますのでリンク元を選択し［開く］ボタンをクリックします。
- リンクの解除：リンクを解除します。
- 更新：リンク元のファイルを変更した時の更新方法を選択します。
  - ［自動］を選択すると、リンクされているファイルを変更したときに自動で更新します。
  - ［手動］を選択すると、［今すぐ更新］ボタンをクリックしたときに更新します。

3） ［キャンセル］ボタンをクリックすると終了します。



X.22.4. ［編集］ – ［オブジェクト］ – ［オブジェクト］

貼り付けたオブジェクトを編集します。

手順

1） オブジェクトを選択し、［編集］ – ［オブジェクト］ – ［オブジェクト］を選択します。

2） 貼り付けたオブジェクトのアプリケーションが起動します。

3） オブジェクトを編集します。

X.22.5. ［編集］ – ［オブジェクト］ – ［ＯＬＥクリア］

貼り付けたオブジェクトを編集します。

手順

1） 削除するオブジェクトを選択します。

2） ［編集］ – ［オブジェクト］ – ［ＯＬＥクリア］を選択します。

3） オブジェクトが削除されます。

X.23. ［編集］－［コピー(クリップボード)(1)］

指定範囲を PC のクリップボードにコピーします。

手順

1） ［編集］－［コピー(クリップボード)(1)］を選択します。

2） マウスカーソルが に変わります。

3） コピーしたい図形を囲むように選択すると、クリップボードに選択範囲がコピーされます。
PC のクリップボードを開いて確認してください。

X.24. ［編集］－［ライン指示編集］

ラインを指定し線種、色などを変更します。

手順

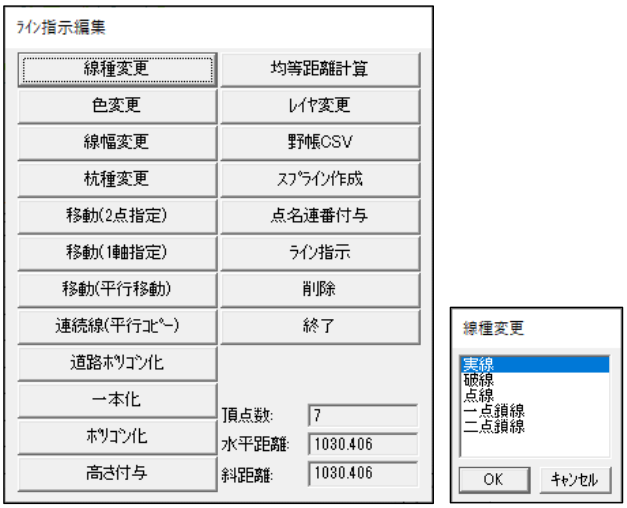
1） ［編集］－［ライン指示編集］を選択します。

2） マウスカーソルが頂点選択カーソルに変わります。

3） 2 点以上の頂点を選択し、1 点目の次の点をクリックしてラインを決定します。

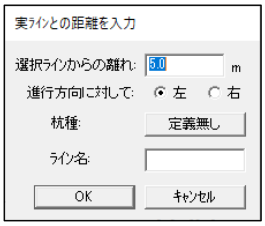
4） 選択した頂点から頂点までのラインが強調され、ライン指示編集ウィンドウが開きます。

5） 編集内容を選択し、変更終了後、終了ボタンをクリックします。

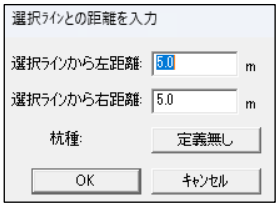


- 線種変更：ラインの種類を変更します。
- 色変更：ラインの色を変更します。
- 線幅変更：ラインの幅を変更します。
- 杭種変更：杭の種類を変更します。

- 移動（２点指定）：１点目に移動基準になる場所を指定し、２点目に移動先を
  再度クリックすると、基準となる２点目にしたがってラインが回転や拡大縮小します。
- 移動（１軸指定）：回転の軸になる場所をクリックし、続けて角度基準になる場所をクリック、
  移動先を再度クリックすると、基準となる軸にしたがって、ラインが回転します。
- 移動（平行移動）：１点目から２点目にかけて平行に移動させたい位置をクリックすると、
  基準となる方向、距離にラインが平行移動します。
- 連続線（平行コピー）：距離、杭種を入力するウィンドウが表示され、数値を入力すると
  選択したラインから入力した距離のところに平行線が作成されます。



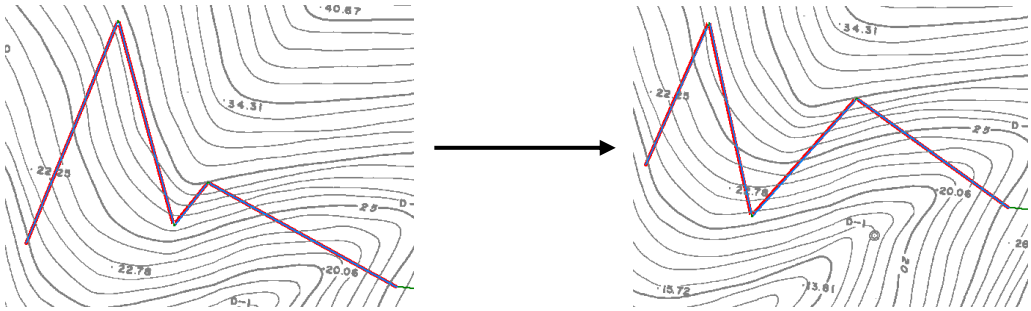
- 道路ポリゴン化：１点目から２点目にかけて道路（ポリゴン）を作成します。
  ラインからの左右の距離と杭種を指定することができます。



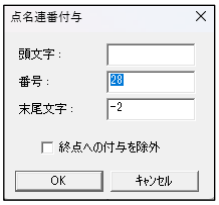
- 一本化：選択したラインを一本化します。
- ポリゴン化：始終点が同じポイントの場合ポリゴン化します。
- 高さ付与：ラインに高さを設定します。始点と終点に高さを入力します。
  間の頂点は自動的に高さ計算されます。



- 均等距離計算：選択したラインの頂点間の距離を均等にします。



- レイヤ変更：選択したラインのレイヤを変更します。
- 野帳 CSV：選択したラインのデータを CSV 出力します。
- スプライン作成：スプライン曲線を作成します。
- 点名連番付与：点名のあとの枝番を設定することができます。



- ライン指示：マウスカーソルが頂点選択カーソルに変わり、ラインを選択しなおせます。
- 削除：選択したラインを削除します
- 終了：ライン指示編集を終え、通常のデータ作成モードに戻ります。

X.25. ［編集］－［多角指定編集］

複数のラインを指定し線種、色などを変更します。

手順

1） ［編集］－［多角指定編集］を選択します。

2） マウスカーソルが＋に変わります。

3） 編集したいラインを囲むように場所をクリックし、最後はダブルクリックすると、編集範囲が決定されます。

4） 選択した範囲のラインが強調され、多角指定編集ウィンドウが開きます。

5） 編集内容を選択し、変更終了後、終了ボタンをクリックします。



- 線種変更：選択したラインの線種を変更します。
- 色変更：選択したラインの色を変更します。
- 線幅変更：選択したラインの線幅を変更します。
- 杭種変更：選択したラインの杭種を変更します。
- 備考変更：選択したラインの備考欄の内容を変更します。
- 多角再指示：マウスカーソルが＋に変わり、指定箇所の変更ができます。
- 終了：多角指定編集を終え、通常のデータ作成モードに戻ります。

X.26. ［編集］－［背景画地選択］

背景レイヤバーでレイヤを選択しなくても、背景画地を選択することができます

手順

1） ［編集］－［背景画地選択］を選択します。

2） マウスカーソルが▲に変わります。選択したい背景画地を選択します。

Shift キーを押しながら選択すると複数選択することが可能です。

X.27. ［編集］－［図形多角選択］

選択した範囲の中から対象図形のみ選択します。

手順

1） ［編集］－［図形多角編集］を選択します。

2） マウスカーソルが＋に変わります。

多角選択オプションウィンドウが表示されますので対象の図形を選択します。



3） 編集したい範囲を囲むように場所をクリックし、最後はダブルクリックすると編集範囲が決定されます。

4） 選択した範囲の中から対象図形のみ選択されます。

X.28. ［編集］－［線種変更］

線種を実線、点線で切り替えます。

変更したい線をマウスの左ボタンでクリックすると実線を点線に切り替えます。線の種類は線種変更バーで切り替えできます。

※ 線種変更バーは［表示］－［ツールバー］－［線種変更バー］で表示・非表示にできます。

X.29. ［編集］－［多角指定杭種一括設定］

指定した多角形内の杭種を一括で変更します。

手順

1） ［編集］－［多角指定杭種一括設定］を選択します。

2） カーソルが＋に変わります。

図形を囲むように場所をクリックし、最後はダブルクリックすると編集範囲が決定されます。

3） 選択リストが表示されるので、杭種を選択します。

4） ［ＯＫ］ボタンをクリックすると、選択範囲内の杭種が一括で変更されます。

X.30. ［編集］－［多角指定備考一括設定］

指定した多角形内の備考を一括で変更します。

手順

1） ［編集］－［多角指定備考一括設定］を選択します。

2） カーソルが＋に変わります。

図形を囲むように場所をクリックし、最後はダブルクリックすると編集範囲が決定されます。

3） 備考一括設定ウィンドウが表示されるので、備考欄に記入します。

4） ［ＯＫ］ボタンをクリックすると、選択範囲内の備考が一括で変更されます。

XI. テキスト

XI.1. ［テキスト］ – ［作成］

テキストを作成します。

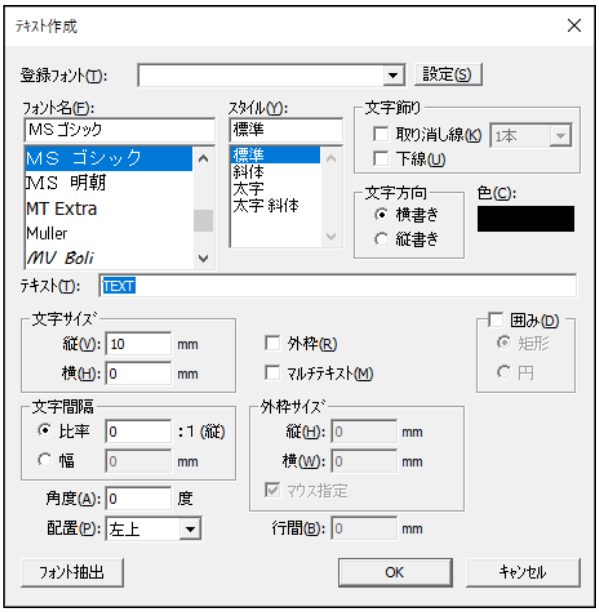
XI.1.1. ［テキスト］ – ［作成］ – ［テキスト］

通常のテキストを作成します。

手順

1） ［テキスト］ – ［作成］ – ［テキスト］を選択します。

2） ［テキスト作成］ウィンドウが表示されます。



- 登録フォント：登録されているフォントを選択できます。
- フォント名：フォントの種類を選択します。
- スタイル：文字のスタイルを選択します。
- 文字飾り：作成する文字に文字飾りをつけるときに選択します。
- 文字方向：横書きか縦書きか選択します。
- 色：テキストの色を選択します。
- テキスト：文字を入力します。
- 文字サイズ：文字の縦・横のサイズを入力します。
- 外枠：作成する文字に外枠をつけるときに選択します。

- マルチテキスト：マルチテキストを作成することができます。
- 囲み：作成する文字に矩形または円をつけるときに選択します。
- 文字間隔：文字間の間隔を入力します。
- 外枠サイズ：外枠のサイズを選択します。
- 角度：文字の角度を入力します。

  ※ツール［ユーザー定義］ – ［単位・角度］で指定した文字の角度を０度とします。
- 配置：文字の表示場所を選択します。
- 行間：行間の入力を行ないます。
- フォント抽出：既存のテキストを選択することで選択したテキストのフォントを抽出する。

3） 設定終了後、［ＯＫ］ボタンをクリックすると、テキストが作成されます。

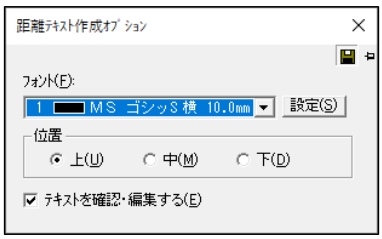
XI.1.2. ［テキスト］ – ［作成］ – ［距離テキスト作成］

距離テキストを作成します。

手順

1） ［テキスト］ – ［作成］ – ［距離テキスト作成］ – ［辺指定］または［２点指定］を選択します。

2） ［距離テキスト作成オプション］ウィンドウが表示されます。



3） マウスカーソルが▲、もしくは＋に変わるので、距離テキストを作成したい辺もしくは２点を指定します。

4） ［入力］ウィンドウが表示されます。表示させたい数値を入力します。



5） 入力後、［ＯＫ］ボタンをクリックすると、テキストが作成されます。

XI.2. ［テキスト］－［個別選択編集］

個別で選択したテキストを編集します。

手順

1） ［テキスト］－［個別選択編集］を選択します。

2） マウスカーソルが▲に変わるので、編集するテキストを選択します。

3） [テキスト編集]ウィンドウが表示されます。



- 移動：テキストを移動します。
- 回転：テキストを回転します。
- 削除：テキストを削除します。
- ｺﾋﾟｰ：テキストをコピーします
- 引出し線：テキストに引出し線を追加します。
- 引出し線削除：テキストの引き出し線を削除します。
- 引出し線カスタム色変更：テキストの引き出し線の色をカスタム色に変更します。
- 引出し線カスタム色削除：テキストの引き出し線の色をレイヤ色に変更します。
- 再編集：テキストの再編集を行ないます。
- 他ﾚｲﾔへｺﾋﾟｰ：テキストを他レイヤにコピーします。
- 他ﾚｲﾔへ移動：テキストを他レイヤに移動します。
- 任意ﾃｷｽﾄへ変換：選択したテキストを変換します。
- 終了：個別選択編集を終了します。

XI.3. ［テキスト］－［多角指定選択編集］

多角指定し選択したテキストを編集します。

手順

1） ［テキスト］－［多角指定選択編集］を選択します。

2） マウスカーソルが＋に変わるので、図形を囲むように場所をクリックします。

3） 編集するテキストを選択します。

4） [テキスト編集]ウィンドウが表示されます。

[テキスト編集]ウィンドウの詳細は上記**X.2［テキスト］－［個別選択編集］**をご参照ください。
要素テキストのみの場合と任意テキストのみの場合、また要素と任意が混ざっている場合で使える機能は変わります。それぞれの[テキスト編集]画面は下記の通りです。

要素テキストのみの場合



任意テキストのみの場合



要素と任意が混ざっている場合



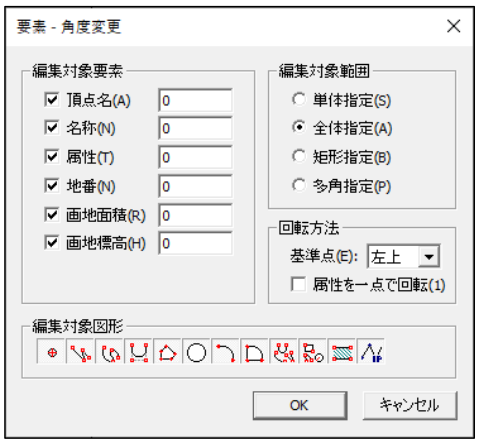
XI.4. ［テキスト］－［角度変更］

多角指定し選択したテキストを編集します。

手順

1） ［テキスト］－［角度変更］を選択します。

2） ［要素－角度変更］ウィンドウが表示されます。



- 編集対象要素：編集対象要素を選択し、角度を入力します。
- 編集対象範囲：編集対象範囲を選択します。
  - 単体指定：［ＯＫ］ボタンをクリックするとカーソルが▲に変わります。
    編集する図形をクリックし表示角度を変更します。
  - 全体指定：［ＯＫ］ボタンをクリックすると図面全体の図形の表示角度が変更されます。
  - 矩形指定、多角指定：［ＯＫ］ボタンをクリックするとカーソルが＋に変わります。
    範囲を指定すると範囲内にある図形の表示角度が変更されます。
- 回転方法：属性表示回転の方法を選択します。
- 基準点：左上、右上、右下、左下中心から選択できます。ここで選択した点が回転基準点になります。
- 属性を一点で回転：属性の回転基準矩形が属性全体の外接矩形となり、属性全体を回転します。
- 編集対象図形：編集対象図形を選択します。

3） 設定終了後、［ＯＫ］ボタンをクリックすると、文字位置を変更します。

XI.5. ［テキスト］－［位置変更］

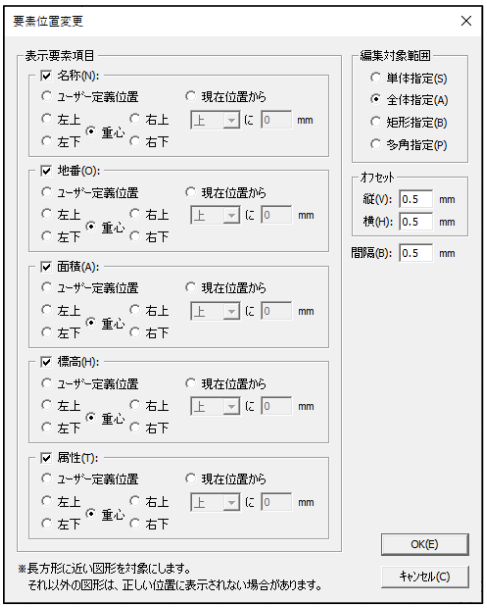
文字の表示位置を変更します。

長方形に近い図形を対象にします。それ以外の図形は、正しい位置に表示されない場合があります。

手順

1） ［テキスト］－［位置変更］を選択します。

2） ［要素位置変更］ウィンドウが表示されます。



- 表示要素項目：表示位置を変更する項目のチェックボックスをＯＮにし、表示位置を選択します。
  表示位置はユーザー定義位置と画地の頂点４つと重心（画地の真中）と
  現在位置から指定した位置を選択します。
- 編集対象範囲：編集対象範囲を選択します。
  - 単体指定：［ＯＫ］ボタンをクリックするとカーソルが▲に変わります。
    編集する図形をクリックし表示位置を変更します。
  - 全体指定：［ＯＫ］ボタンをクリックすると図面全体の図形の表示位置が変更されます。
  - 矩形指定、多角指定：［ＯＫ］ボタンをクリックするとカーソルが＋に変わります。
    範囲を指定すると範囲内にある図形の表示位置が変更されます。
- オフセット：指定した位置からのオフセット値を指定します。
- 間隔：画地の重心からの間隔を指定します。

3） 設定終了後、［ＯＫ］ボタンをクリックすると、文字位置を変更します。

XI.6. ［テキスト］－［引出し線］

引出し線の作成や編集を行います。

XI.6.1. ［テキスト］－［引き出し線］－［作成］

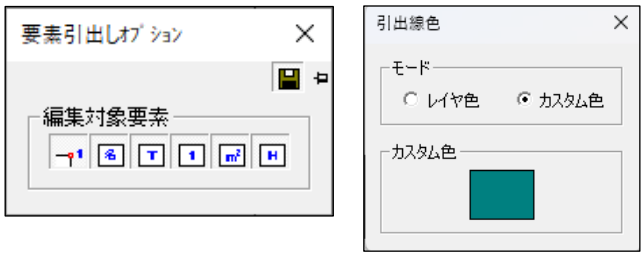
文字に引出し線を作成します。

手順

1） ［テキスト］－［引出し線］－［作成］を選択します。

2） カーソルが▲に変わります。

3） ［要素引出しオプション］ウィンドウが表示されます。編集対象要素を指定します。
同時に［引出線色］ウィンドウも表示されます。引き出し線の色を指定します。



4） 引出し線を設定する文字をクリックします。

5） カーソルが＋に変わります。

6） 引出し線をポリラインで作成すると、文字が移動します。

XI.6.2. ［テキスト］－［引き出し線］－［削除］

文字に引出し線を削除します。

手順

1） ［テキスト］－［引出し線］－［削除］を選択します。

2） カーソルが▲に変わります。

3） 削除する引き出し線上に表示させている要素の上をクリックすると引き出し線が消え、
要素は元のテキストの位置に戻ります。

XI.6.3. ［テキスト］ – ［引き出し線］ – ［カスタム色設定］

引出し線の色を変更します。

手順

1） ［テキスト］ – ［引出し線］ – ［カスタム色設定］を選択します。

2） カーソルが▲に変わります。

3） ［引出線色］ウィンドウも表示されます。引き出し線の色を指定します。



4） 対象の要素の上をクリックすると要素を引き出している引き出し線の色が指定した色に変わります。

XI.6.4. ［テキスト］ – ［引き出し線］ – ［カスタム色削除］

引出し線の色を変更します。

手順

1） ［テキスト］ – ［引出し線］ – ［カスタム色削除］を選択します。

2） カーソルが▲に変わります。

3） 対象の要素の上をクリックすると要素を引き出している引き出し線の色がレイヤ色に変わります。

XI.7. ［テキスト］－［自動配置］

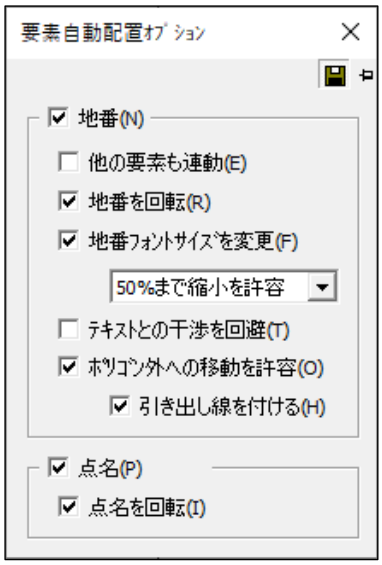
地番・点名が図形のラインと重ならないように自動配置します。

手順

1） ［テキスト］－［自動配置］を選択します。

2） ［要素自動配置オプション］ウィンドウが表示されます。

3） カーソルが▲に変わるので、図形をクリックまたは矩形で範囲指定します。



- 地番：地番を自動配置の対象にします。
  - 他の要素も連動：地番以外の要素も連動します。
  - 地番を回転：図形ラインとの重なりを避けて回転します。
  - 地番フォントサイズを変更：50～90%までのフォントの縮小サイズを選択します。
  - テキストとの干渉を回避：テキストとの重なりを回避します。
  - ポリゴン外への移動を許容：ポリゴン内から外への移動を許容します。
  - 引き出し線を付ける：ポリゴン外へ移動したときに引き出し線をつけます。
- 点名：点名を自動配置の対象にします。
- 点名を回転：図形ラインとの重なりを避けて回転します。

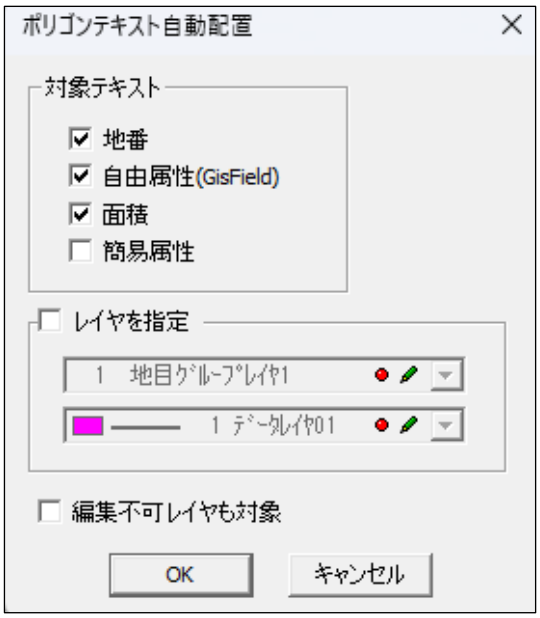
XI.8. ［テキスト］－［ポリゴンテキスト自動配置］

ポリゴンテキストが図形やテキストと重ならないように自動配置します。

手順

1） ［テキスト］－［ポリゴンテキスト自動配置］を選択します。

2） ［ポリゴンテキスト自動配置］ウィンドウが表示されます。



- 対象テキスト：地番、自由属性、面積、簡易属性の中から自動配置するテキストにチェックを入れます。
- レイヤ指定：特定のレイヤのみを対象とする場合にチェックを入れます。
- 編集不可レイヤも対象：チェックを入れると編集不可レイヤ内のテキストも自動配置されます。

3） 設定終了後、［ＯＫ］ボタンをクリックすると、テキストが自動配置されます。

XI.9. ［テキスト］－［要素フォント･配置初期化］

個別編集した要素のテキストを元のフォントと配置に戻します。

手順

1） ［テキスト］－［要素フォント配置初期化］を選択します。

2） カーソルが▲に変わるので、図形をクリックまたは矩形で範囲指定します。

3） 対象の要素が元のフォントと配置に戻ります。

XI.10. ［テキスト］－［テキスト重なりチェック］

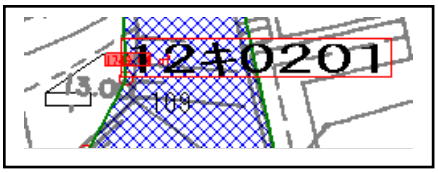
テキストの重なりをチェックします。

手順

1) ［テキスト］－［テキスト重なりチェック］を選択します。

2) ［正規化］ウィンドウが表示され、重なり合っているテキストの数が表示されます。





…次または前の重なったテキストに移動します。

…最初または最後の重なったテキストに移動します。

3) 重なったテキストを移動先でクリックします。
重なりが解消された状態で再正規化をクリックすると再度重なりをチェックします。

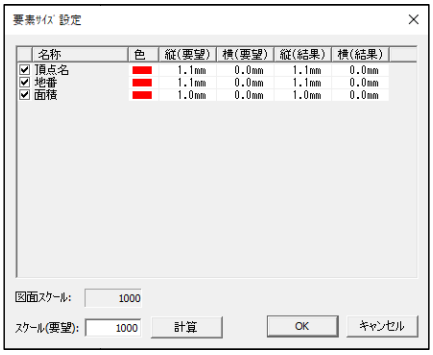
XI.11. ［テキスト］－［文字サイズ変更（スケール指定）］

文字のサイズ、色変更します。

手順

1) ［テキスト］－［文字サイズ変更（スケール指定）］を選択します。

2) ［要素サイズ設定］ウィンドウが表示されます。
サイズ変更する項目にチェックを入れます。



- 色：文字の色を変更します。
- 縦（要望）：縦のサイズを入力します。
- 横（要望）：横のサイズを入力します。

- 縦（結果）：スケール計算後の縦のサイズを表示します。
- 横（結果）：スケール計算後の横のサイズを表示します。
- スケール（要望）：スケールを入力します。
- 計算：入力したスケールにあわせて文字の縦横サイズを計算します。

3） 設定終了後、［ＯＫ］ボタンをクリックすると、文字のサイズ、色が変更されます。

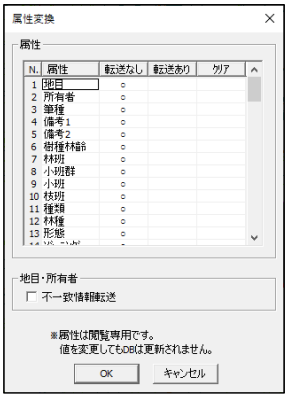
XI.12. ［テキスト］－［旧属性変換］

自由属性の値を簡易属性に変換します。属性表示からポリゴン上に値を表示することができます。

手順

1） ［テキスト］－［属性変換］を選択します。

2） ［属性変換］ウィンドウが表示されます。



- 転送あり：選択した項目を属性に変換します。
- 転送なし：選択した項目を属性に変換しません。
- クリア：属性に変換した項目をクリアします。
- 不一致情報転送：地目・所有者の不一致情報を属性に変換します。

3） ［ＯＫ］をクリックすると、確認のメッセージが表示されます。

続けて［ＯＫ］をクリックすると、選択した項目が属性に変換されます。

※ 属性は閲覧専用です。値を変換しても元のデータは更新されません。

XI.13. ［テキスト］－［自由属性変換］

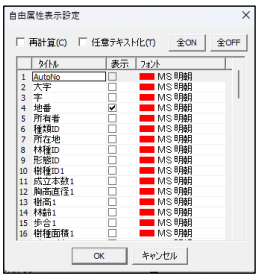
自由属性の表示設定を行います。

手順

1） ［テキスト］－［自由属性変換］を選択します。

2） ［自由属性表示設定］ウィンドウが表示されます。

表示させたい属性にチェックをいれて、フォントの設定を行います。



- 再計算：デフォルト位置や、フォントでの位置を再計算します。
- 任意テキスト化：チェックと入れた属性の表示をテキスト化します。

3） ［ＯＫ］をクリックすると、選択した項目が変換されます。

XI.14. ［テキスト］－［GIS フィールド表示設定］

DB 内の GIS フィールドの表示設定を行います。

手順

1） ［テキスト］－［GIS フィールド表示設定］を選択します。

2） ［GIS フィールド表示設定］ウィンドウが表示されます。

表示させたい属性にチェックをいれて、フォントの設定を行います。



- 再計算：デフォルト位置や、フォントでの位置を再計算します。

3） ［ＯＫ］をクリックすると、選択した項目が変換されます。

XI.15. ［テキスト］－［要素］

図形要素の入力や要素間のコピー、図形要素の入力チェックについて説明します。

XI.15.1. ［テキスト］－［要素］－［頂点名］－［編集］

頂点名の位置を移動します。要素の入力、回転をすることもできます。

手順

1） ［テキスト］－［要素］－［頂点名］－［編集］を選択します。

2） 頂点名が青い枠で表示され、カーソルが▲に変わります。

3） 青い枠の左上の四角を選択し、移動先でクリックします。

4） 右クリックで編集を終了します。

XI.15.2. ［テキスト］－［要素］－［頂点名］－［角度］

頂点名の角度を変更します。

手順

1） ［テキスト］－［要素］－［頂点名］－［角度］を選択します。

2） ［要素－角度変更］ウィンドウが表示されます。



- 編集対象要素：頂点名の角度を入力します。
- 編集対象範囲：編集対象範囲を選択します。
  - 単体指定：指定した図形の頂点名を編集します。
    ［ＯＫ］ボタンをクリックするとカーソルが▲に変わります。
    図形をクリックすると頂点名の角度が変更します。
  - 全体指定：図面全体にある頂点名を編集します。
    ［ＯＫ］ボタンをクリックすると頂点名の角度が変更します。
  - 矩形指定：矩形で指定した範囲内にある図形の頂点名を編集します。
    ［ＯＫ］ボタンをクリックするとカーソルが＋に変わります。矩形範囲を指定します。
    指定範囲内にある図形の頂点名の角度が変更します。

- 多角指定：多角で指定した範囲内にある図形の頂点名を編集します。
  ［ＯＫ］ボタンをクリックするとカーソルが＋に変わります。
  多角範囲を指定します。指定範囲内にある図形の頂点名の角度が変更します。
- 回転方法：編集対象の回転方法を選択します。
- 編集対象図形：編集対象の図形を選択します。

3)　［ＯＫ］をクリックすると、選択した項目が変換されます。

XI.15.3. ［テキスト］－［要素］－［頂点名］－［テキストへ］

頂点名をテキストに変換します。

手順

1)　［要素］－［頂点名］－［テキストへ］を選択します。

2)　［対象レイヤ選択］ウィンドウが表示されます。



- テキスト出力レイヤ：テキストに変換するレイヤを選択します。
  - 図形レイヤ：図形のレイヤでテキストを作成します。
  - 選択レイヤ：選択したレイヤでテキストを作成します。
    ［選択レイヤ］を選択した場合のみ、レイヤ設定を行います。
  - グループレイヤ：グループレイヤを指定します。
  - レイヤ：レイヤを指定します。

3)　設定終了後、［確定］ボタンをクリックすると点名をテキストに変換します。
※　テキストの色は点名の色と同じです。

XI.15.4. ［テキスト］－［要素］－［頂点名］－［引出し線］

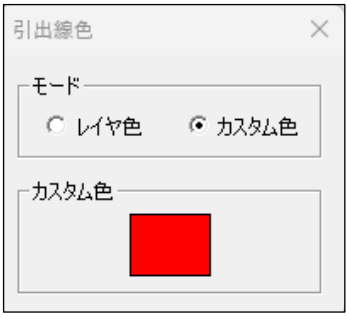
頂点名に引出し線を作成します。

手順

1） ［要素］－［頂点名］－［引出し線］を選択します。

2） カーソルが▲に変わります。

3） ［引出線色］ウィンドウも表示されます。引き出し線の色を指定します。



4） 引出し線を作成する頂点名を選択します。

5） カーソルが＋に変わります。

6） 引出し線をラインまたはポリラインで作成すると引出し線が作成され頂点名が移動します。
※引出し線の色は対象図形のレイヤと同じです。

7） 右クリックで編集を終了します。

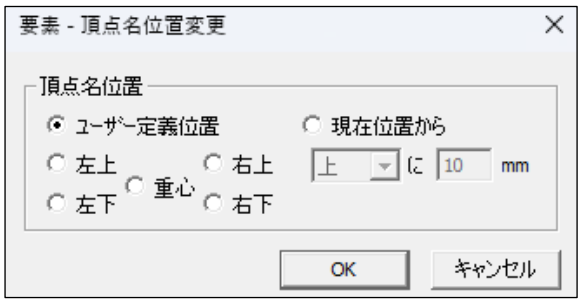
XI.15.5. ［テキスト］－［要素］－［頂点名］－［位置変更］

頂点名の位置を変更します。

手順

1） ［要素］－［頂点名］－［位置変更］を選択します。

2） ［要素―頂点名位置変更］ウィンドウも表示されます。
頂点名を移動させたい位置を選択し、［OK］ボタンをクリックすると頂点名の位置が変更されます。



XI.15.6. ［テキスト］－［要素］－［地番］－［編集］

頂点名に引出し線を作成します。

手順

1） ［テキスト］－［要素］－［地番］－［編集］を選択します。

2） 地番が青い枠で表示され、カーソルが▲に変わります。

この時に[地番-印刷]にしておく必要があります。

3） 青い枠の左上の四角を選択し、移動先でクリックします。

4） 右クリックで編集を終了します。

XI.15.7. ［テキスト］－［要素］－［地番］－［地番・点名→テキストへ］

地番をテキストに変換します。

手順

1） ［テキスト］－［要素］－［地番］－［地番・点名→テキスト］を選択します。

2） ［対象レイヤ選択］ウィンドウが表示されます。



- テキスト出力レイヤ：テキストに変換するレイヤを選択します。
  - 図形レイヤ：図形のレイヤでテキストを作成します。
  - 選択レイヤ：選択したレイヤでテキストを作成します。
- グループレイヤ：グループレイヤを選択します。
- レイヤ：レイヤを選択します。

3） 設定終了後、［確定］ボタンをクリックするとメッセージが表示されます。

［はい］ボタンをクリックします。

XI.15.8. ［テキスト］－［要素］－［地番］－［引出し線］

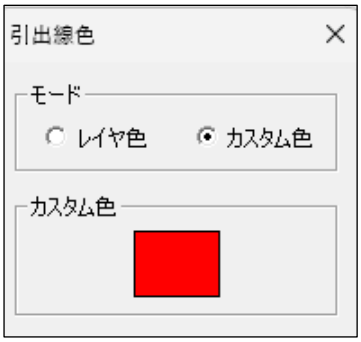
地番・点名に引出し線を作成します。

手順

1） ［テキスト］－［要素］－［地番］－［引出し線］を選択します。

2） カーソルが▲に変わります。

［引出線色］ウィンドウも表示されます。引き出し線の色を指定します。



3） 引出し線を設定する地番・点名をクリックします。

4） カーソルが＋に変わります。

5） 引出し線をポリラインで作成すると、地番・点名が移動します。

6） 右クリックで編集を終了します。

XI.15.9. ［テキスト］－［要素］－［画地面積］－［位置編集］

面積の位置を移動します。面積の入力、回転をすることもできます。

手順

1） ［テキスト］－［要素］－［画地面積］－［位置編集］を選択します。

2） 面積が青い枠で表示され、カーソルが▲に変わります。

3） 青い枠の左上の四角を選択し、移動先でクリックします。

4） 右クリックで編集を終了します。

XI.15.10. ［テキスト］－［要素］－［画地面積］－［面積→テキスト］

面積の位置を移動します。面積の入力、回転をすることもできます。

手順

1) ［テキスト］－［要素］－［画地面積］－［面積→テキスト］を選択します。

2) ［対象レイヤ選択］ウィンドウが表示されます。



- テキスト出力レイヤ：テキストに変換するレイヤを選択します。
  - 図形レイヤ：図形のレイヤでテキストを作成します。
  - 選択レイヤ：選択したレイヤでテキストを作成します。
- グループレイヤ：グループレイヤを選択します。
- レイヤ：レイヤを選択します。

3) 設定終了後、［確定］ボタンをクリックすると、メッセージが表示されます。
［はい］ボタンをクリックすると面積がテキストに変換されます。

※ テキストの色は、プロパティで設定した画地面積の色す。

XI.15.11. ［テキスト］－［要素］－［画地面積］－［引出し線］

面積に引出し線を作成します。

手順

1) ［テキスト］－［要素］－［画地面積］－［引出し線］を選択します。

2) 操作方法は、［テキスト］－［要素］－［地番］－［引出し線］をご参照ください。

XI.15.12. ［テキスト］－［要素］－［属性］－［位置編集］

簡易属性の表示位置を移動します。

手順

1) ［テキスト］－［要素］－［属性］－［位置編集］を選択します。

2) 操作方法は、**X.15.9.［テキスト］－［要素］－［画地面積］－［位置編集］**をご参照ください。

XI.15.13. ［テキスト］－［要素］－［属性］－［引出し線］

簡易属性に引出し線を作成します。

手順

1） ［要素］－［画地属性］－［引出し線］を選択します。

2） 操作方法は、**X.15.11.［テキスト］－［要素］－［画地面積］－［引出し線］**をご参照ください。

XI.15.14. ［テキスト］－［要素］－［編集］

要素の位置を移動します。要素の入力、回転をすることもできます。

手順

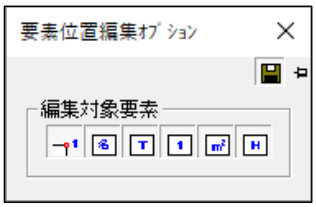
1） ［要素］－［編集］を選択します。

2） 要素が青い枠で表示され、カーソルが▲に変わります。

3） 青い枠の左上の四角を選択し、移動先でクリックします。

4） 右クリックで編集を終了します。

[要素位置編集オプション]
編集対象要素…編集対象要素を指定します。



XI.15.15. ［テキスト］－［要素］－［個別文字設定］

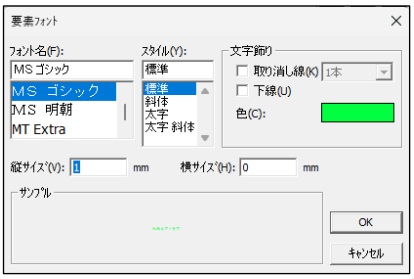
要素を個別にフォント設定します。

手順

1） ［テキスト］－［要素］－［個別文字設定］を選択します。

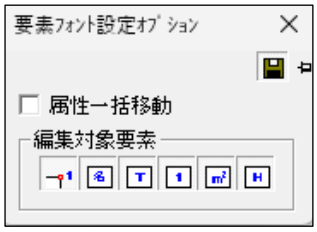
2） マウスカーソルが▲になりますので、要素を選択します。

3） ［要素フォント］ウィンドウが表示されますのでフォントを変更し、［ＯＫ］を選択します。



[要素位置編集オプション]

編集対象要素…編集対象要素を指定します。



4） 右クリックで編集を終了します。

XI.15.16. ［テキスト］－［要素］－［個別文字設定解除］

要素の個別にフォントを変更設定していたものを解除します。

手順

1） ［テキスト］－［要素］－［個別文字設定解除］を選択します。

2） マウスカーソルが▲になりますので、要素を選択します。

3） フォントがデフォルトのフォントに戻ります。

4） 右クリックで編集を終了します。

XI.15.17. ［テキスト］－［要素］－［属性設定］

簡易属性のタイトルを設定します。

手順

1） ［テキスト］－［要素］－［属性設定］を選択します。

2） ［属性タイトル］ウィンドウが表示されます。



- タイトル：タイトルを入力します。
- 表示：属性を編集画面上や［簡易図形情報］ウィンドウに表示します。
  ［表示］のチェックボックスを［ＯＮ］にします。
  ※チェックボックスを［ＯＮ］にしても編集画面上に簡易属性が表示されない場合は
  メニューバーの［表示］－［ユーザー定義］－［属性］を選択してください。
- フォント：タイトル別にフォントを指定します。フォント色部分をクリックして［属性フォント］ウィンドウで
  フォントを設定します。
- 描画色：レイヤ依存かポリゴンレイヤ依存かで選択できます。
- 再計算：属性表示位置を中心に戻します。
- デフォルト設定：デフォルトのフォント設定等を行います。

3） 設定終了後、［ＯＫ］をクリックします。

XI.15.18. ［テキスト］－［要素］－［レイヤ指定テキスト化］

要素の表示をテキストに変換します。

手順

1） ［テキスト］－［要素］－［レイヤ指定テキスト化］を選択します。

2） ［テキスト変換］ウィンドウが表示されます。



- 対象要素：対象となる要素を選択します。
- 対象レイヤ：対象となるレイヤを選択します。
- 作成レイヤ：テキストを作成するレイヤを選択します。

3） 設定終了後、［ＯＫ］をクリックします。

XII.　計算

XII.1. ［計算］－［方向･距離］

ポリラインで指定した起点から終点までの方向と距離を表示します。

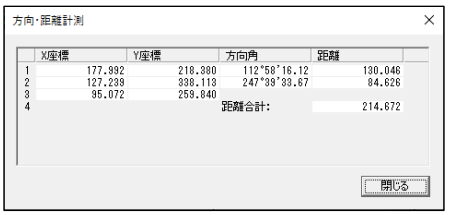
手順

1） ［計算］－［方向･距離］を選択します。

2） カーソルが＋に変わります。

3） 方向･距離を計算する起点から終点まで通過するポイントをクリックします。
頂点スナップがオンの状態、または Shift キーを押しながら単点をクリックすると頂点をスナップします。

4） 終点でダブルクリックすると、［方向･距離計測］ウィンドウに計算結果（頂点の座標･次の頂点への方向角･距離･距離合計）が表示されます。



XII.2. ［計算］－［延長］

延長合計を表示します。

XII.2.1. ［計算］－［延長］－［図形指定］

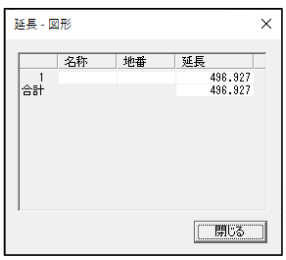
指定したポリライン･ポリゴンの延長合計を表示します。

手順

1） ［計算］－［延長］－［図形指定］を選択します。

2） カーソルが▲に変わります。

3） 延長合計を表示する図形を複数クリックし、最後の図形でダブルクリックすると［延長－図形］ウィンドウに計算結果（個々の名称･地番･延長）が表示されます。



XII.2.2. ［計算］－［延長］－［辺指定］

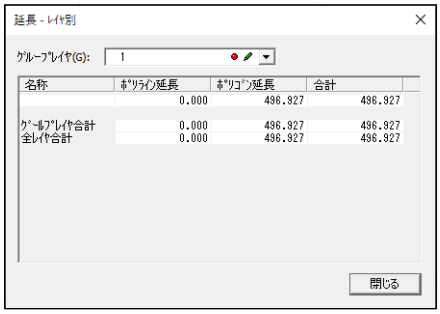
指定した辺の延長合計を表示します。

手順

1） ［計算］－［延長］－［辺指定］を選択します。

2） カーソルが▲に変わります。

3） 延長合計を表示する辺をクリックすると、［延長－辺］ウィンドウに計算結果（合計延長・個々の延長）が表示されます。［Ｓｈｉｆｔ］キーを押しながらクリックするか、矩形選択すると、複数の辺が選択できます。



XII.2.3. ［計算］－［延長］－［レイヤ別］

レイヤ別に図面全体のポリライン・ポリゴンの延長合計を表示します。

手順

1） ［計算］－［延長］－［レイヤ別］を選択します。

2） ［延長－レイヤ別］ウィンドウが表示され、延長合計が表示されます。

3） ［閉じる］ボタンをクリックすると終了します。



XII.2.4. ［計算］－［延長］－［全延長計算］

レイヤ別に図面全体のポリライン・ポリゴンの延長合計を表示します。

手順

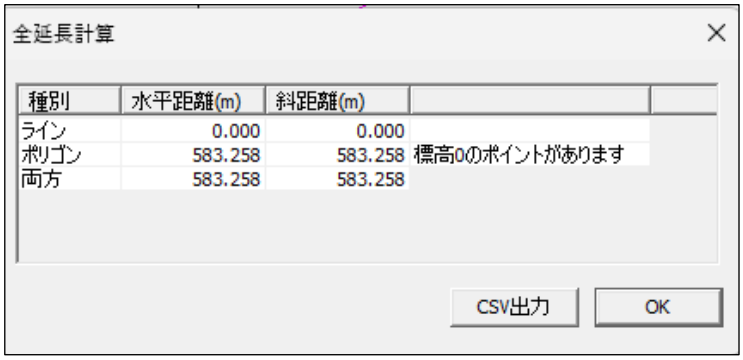
1） ［計算］－［延長］－［全延長計算］を選択します。

2） カーソルが＋に変わります。

3） 全延長を計算する起点から終点まで通過するポイントをクリックします。

4） 終点でダブルクリックすると、［方向・距離計測］ウィンドウに計算結果（頂点の座標・次の頂点への方向角・距離・距離合計）が表示されます。
CSV データを出力することもできます。

5） ［閉じる］ボタンをクリックすると終了します。



XII.3. ［計算］－［面積］

面積を表示します。

XII.3.1. ［計算］－［面積］－［点指定］

点で指定した範囲の面積を表示します。

手順

1） ［計算］－［面積］－［点指定］を選択します。

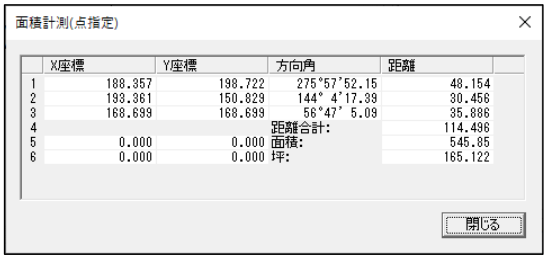
2） カーソルが＋に変わります。

3） 面積を計算する範囲を多角で指定します。
［スナップバー］の頂点を選択するか、［Ｓｈｉｆｔ］キーを押しながらクリックすると最寄りの頂点に摺り付けされます。

4） 終点でダブルクリックすると、［面積計測（点指定）］ウィンドウに計算結果（指定範囲内の個々の座標・次の頂点への方向角・距離・合計距離・合計面積・坪）が表示されます。

5） ［閉じる］ボタンをクリックすると 2.に戻ります。

6） 右クリックで作業を終了します。



XII.3.2. ［計算］－［面積］－［ポリゴン合計］

指定したポリゴンの合計面積を表示します。

手順

1） ［計算］－［面積］－［ポリゴン合計］を選択します。

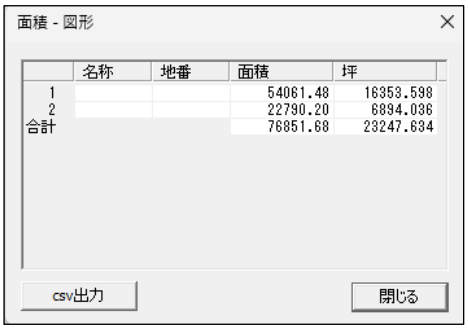
2） カーソルが▲に変わります。

3） 面積を計算するポリゴンを複数クリックし、最後のポリゴンでダブルクリックします。

4） ［面積－図形］ウィンドウに計算結果（個々の地番・面積・坪・合計面積・合計坪）が表示されます。

5） ［閉じる］ボタンをクリックすると 2. に戻ります。CSV データを出力することもできます。

6） 右クリックで作業を終了します。



XII.3.3. ［計算］－［面積］－［範囲合計］

指定した範囲の図形面積を表示します。

手順

1） ［計算］－［面積］－［範囲合計］－［矩形］または［多角］を選択します。

2） カーソルが＋に変わります。

3） 面積を表示する範囲を指定します。
［面積－図形］ウィンドウに計算結果（個々の地番・面積・坪・合計面積・合計坪）が表示されます。

4） ［閉じる］ボタンをクリックすると 2.に戻ります。

5） 右クリックで作業を終了します。



XII.3.4. ［計算］－［面積］－［レイヤ別］

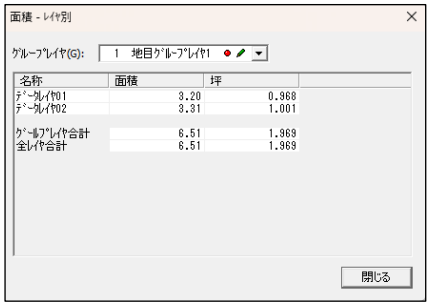
編集中の図面で使用しているグループレイヤ・レイヤ別の面積をリスト表示します。

手順

1） ［計算］－［面積］－［レイヤ別］を選択します。

2） ［面積－レイヤ別］ウィンドウが表示されます。
レイヤの名称・面積・坪数・全レイヤ合計が表示されます。

3） ［閉じる］ボタンをクリックすると終了します。



XII.3.5. ［計算］－［面積］－［ラインバッファ検索］

指定したライン間の幅員（任意指定）で計算した面積を表示します。

手順

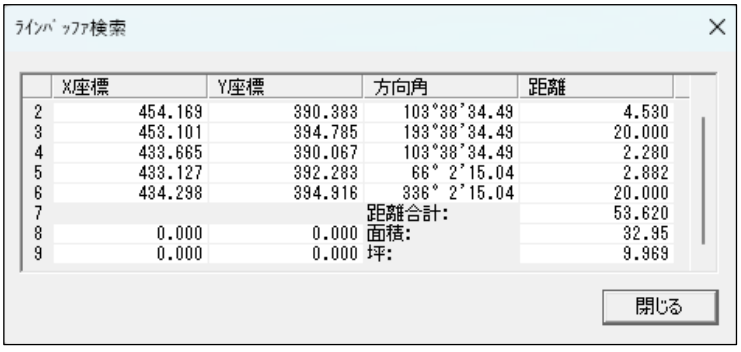
1） ［計算］－［面積］－［ラインバッファ検索］を選択します。

2） カーソルが＋に変わります。
［ラインバッファ検索オプション］ウィンドウも表示されます。左右の幅員を指定できます。

3） 始点、中間座標をクリックで指定し、ダブルクリックで確定します。

4） ［ラインバッファ検索］ウィンドウに計算結果
（X 座標・Y 座標・方向角・距離・合計距離・合計面積・合計坪）が表示されます。

5） ［閉じる］ボタンをクリックすると終了します。



XII.4. ［計算］－［計算点］

選択した図形に計算点を追加･作成します。

XII.4.1. ［計算］－［計算点］－［交点］

選択した２本の線分が延長線上で交わる位置に交点を追加します。

手順

1） ［計算］－［計算点］－［交点］を選択します。

2） カーソルが△１に変わります。

3） 交点計算する線分をクリックします。

4） カーソルが△2 に変わります。

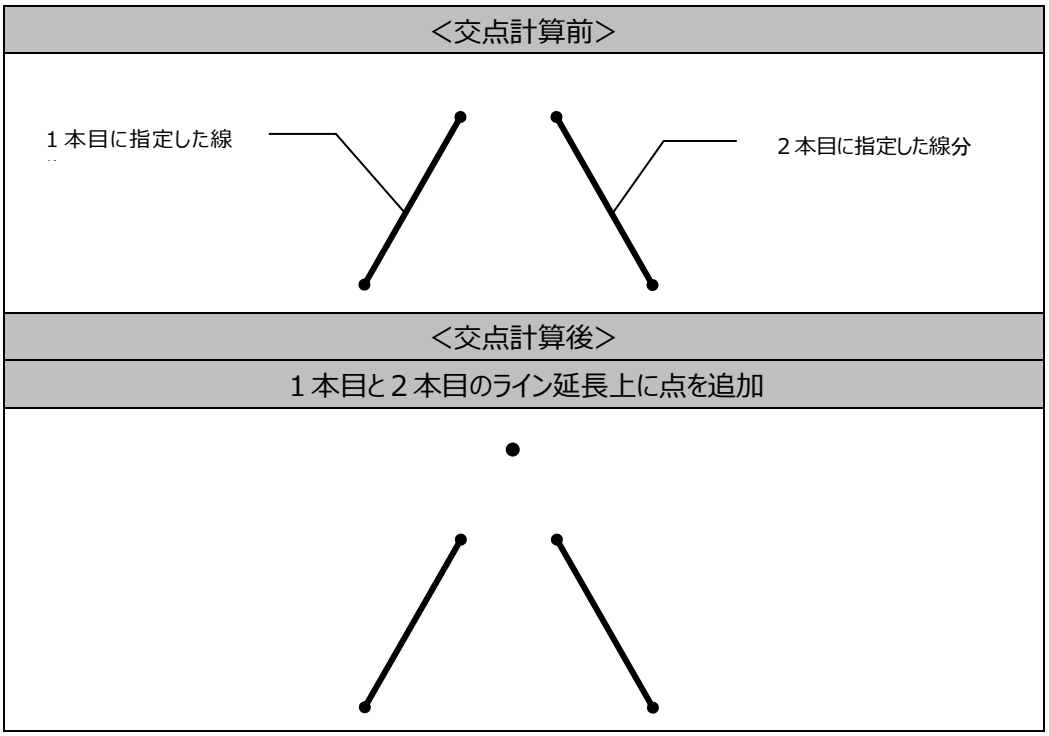
5） 3.で指定した線分に対して交点計算を行う線分をクリックします。

6） １本目と２本目の延長線上に点が追加されます。

7） 右クリックで作業を終了します。

※ 詳細は、**＜図解：交点計算＞**をご参照ください。

＜図解：交点計算＞



XII.4.2. ［計算］－［計算点］－［交点（確認有）］

選択した２本の線分が延長線上で交わる位置に交点を追加します。交点の追加場所を指定できます。

手順

1） ［計算］－［計算点］－［交点］を選択します。

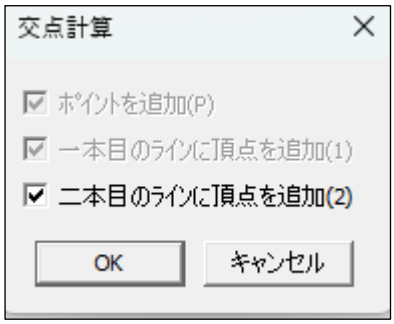
2） カーソルが△１に変わります。

3） 交点計算する線分をクリックします。

4） カーソルが△2 に変わります。

［交点計算］ウィンドウが表示されます。交点を追加する場所を指定します。

※ラインが交わっていない場合は[ポイントを追加]しか選択できません。



5） 3.で指定した線分に対して交点計算を行う線分をクリックします。

6） １本目と２本目の延長線上に、または指定した場所（1 本目もしくは 2 本目のライン上）に点が追加されます。

7） 右クリックで作業を終了します。

XII.4.3. ［計算］－［計算点］－［４点交点(ライン上単点)］

指定した４点が交わる箇所に単点を作成します。

手順

1） ［計算］－［計算点］－［４点交点］を選択します。

2） カーソルが＋に変わります。

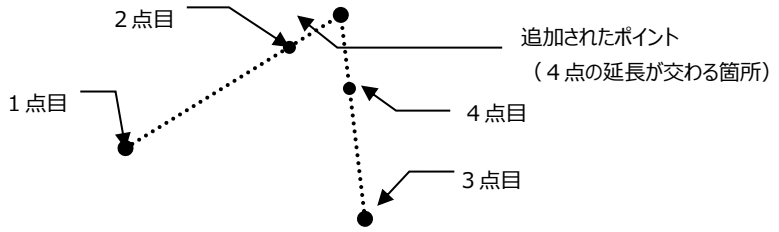
3） 1 点目、2 点目と 3 点目、4 点目の延長が交差するような 4 点を指定します。

4） 4 点が交わる箇所に単点が作成されます。

5） 右クリックで作業を終了します。

※ 詳細は、**＜図解：４点交点＞**をご参照ください。

＜図解：４点交点＞



XII.4.4. ［計算］－［計算点］－［直交交点］

指定した始点から指定したポリラインに対し、垂直に交わる単点を追加します。

手順

1） ［計算］－［計算点］－［直交交点］を選択します。

2） カーソルが＋に変わるので、始点をクリックします。

3） カーソルが▲変わるので、交点を追加するポリラインをクリックします。

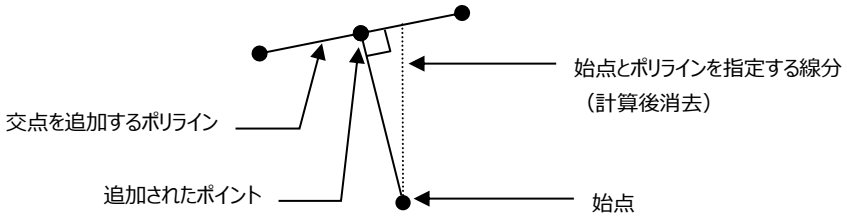
4） 単点が追加されます。

5） 右クリックで作業を終了します。

※ 詳細は、**＜図解：直交交点＞**をご参照ください。

＜図解：直交交点＞

始点と指定したポリラインが垂直に交わる位置（交点）にポイントが追加されます。



XII.4.5. ［計算］－［計算点］－［３円交点］

基準となる３点目標点までの距離の平均から座標値を表示します。

手順

1） ［計算］－［計算点］－［３円交点］を選択します。

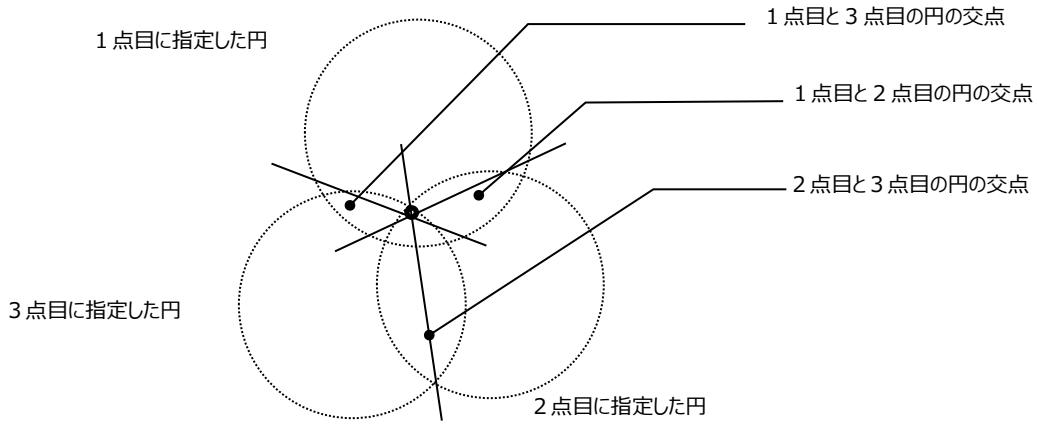
2） カーソルが＋に変わります。

3） 基準点から目標点までの半径をもつ円を作成します。（３点分）

4） ３円交点上に単点が作成されます。各円の交点座標の平均から目標点の座標値が表示されます。
［誤差］は、交点座標から目標点の座標までの距離の誤差です。

5） 右クリックで作業を終了します。

6）



XII.4.6. ［計算］－［計算点］－［中間点］

補助線を作成し、補助線の始点からの距離を指定して補助線上に単点を作成します。

既存ポリゴンに中間点を作成する場合は、単点または頂点を作成します。

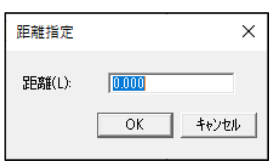
手順

1） ［計算］－［計算点］－［中間点］を選択します。

2） カーソルが＋に変わります。

3） 補助線を作成します。既存のポリライン・ポリゴン上に中間点を作成する場合は、
＜既存図形上に中間点を作成する場合＞をご参照ください。

4） ［距離指定］ウィンドウが表示されるので、補助線の始点からの距離を入力します。



5） ［ＯＫ］ボタンをクリックすると、指定した位置に単点が作成されます。
　　指定した距離が補助線よりも長い場合は、延長線上に単点が作成されます。

6） 右クリックで作業を終了します。

＜既存図形上に中間点を作成する場合＞

1） ［計算］－［計算点］－［中間点］を選択します。

2） カーソルが＋に変わります。

3） ［スナップ］バーの［頂点］ボタンをクリックします。

4） 補助線を作成します。

5） ［距離指定］ウィンドウが表示されます。

6） 補助線の始点からの距離を入力し［OK］ボタンをクリックします。

7） 単点が追加されます。

8） 2.に戻ります。右クリックで作業を終了します。

XII.4.7. ［計算］－［計算点］－［等間隔点］

等間隔点を作成します。

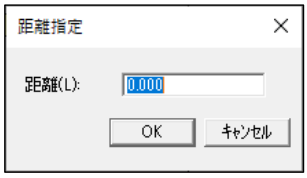
手順

1） ［計算］－［計算点］－［等間隔点］を選択します。

2） カーソルが＋に変わります。

3） 始点・終点をクリックします。

4） ［距離指定］ウィンドウが表示されるので、距離を指定します。



5） ［ＯＫ］ボタンをクリックすると、指定した距離間隔で単点が作成されます。

6） 右クリックで作業を終了します。

XII.4.8. ［計算］－［計算点］－［等分点］

等間隔点を作成します。

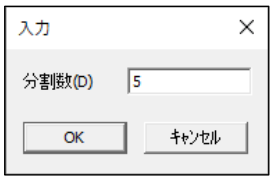
手順

1） ［計算］－［計算点］－［等分点］を選択します。

2） カーソルが＋に変わります。

3） 始点・終点をクリックします。

4） ［入力］ウィンドウが表示されるので、分割数を入力します。



5） ［ＯＫ］ボタンをクリックすると、指定した分割数で単点が作成されます。

6） 右クリックで作業を終了します。

XII.4.9. ［計算］－［計算点］－［延長点］

線分の延長上に単点を作成します。

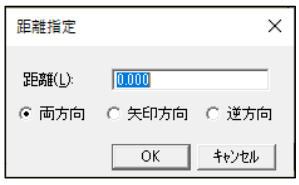
手順

1） ［計算］－［計算点］－［延長点］を選択します。

2） カーソルが▲に変わります。

3） 延長計算する線分を選択します。

4） ［距離指定］ウィンドウが表示されるので、距離を入力し、両方向、矢印方向、逆方向を選択します。



5） ［ＯＫ］ボタンをクリックすると、線分の延長上に単点が作成されます。

6） 右クリックで作業を終了します。

XII.4.10. ［計算］－［計算点］－［平行点］

指定した線分の起終点と平行になる単点を作成します。

※　詳細は、**＜図解：平行点＞**をご参照ください。

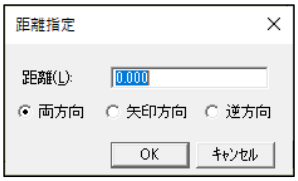
手順

1)　［計算］－［計算点］－［平行点］を選択します。

2)　カーソルが▲に変わります。

3)　線分を指定します。

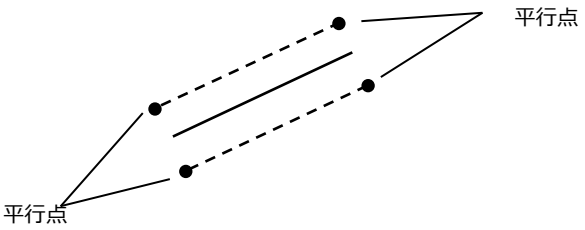
4)　［距離指定］ウィンドウが表示されるので、距離を入力し、両方向、矢印方向、逆方向を選択します。



5)　［ＯＫ］ボタンをクリックすると、線分の起終点に平行線の単点が作成されます。

6)　右クリックで作業を終了します。

＜図解：平行点＞



XII.4.11. ［計算］－［計算点］－［オフセット点］

指定した点からオフセット点を作成します。

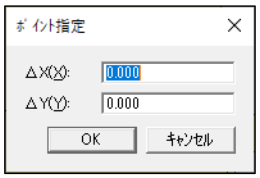
手順

1） ［計算］－［計算点］－［オフセット点］を選択します。

2） カーソルが▲に変わります。

3） 基準頂点またはポイントを指定します。

4） ［ポイント指定］ウィンドウが表示されるので、ΔX、ΔY の座標値を入力します。



5） ［ＯＫ］ボタンをクリックすると、オフセット点が作成されます。

6） 右クリックで作業を終了します。

XII.4.12. ［計算］－［計算点］－［平均点］

指定した２点以上の重心に単点を作成します。

手順

1） ［計算］－［計算点］－［平均点］を選択します。

2） カーソルが▲に変わります。

3） ２点以上のポイントを左クリックで指定します。

4） 平均点が作成されます。右クリックで選択した点が解除されます。
ダブルクリックで単点が確定し、２.に戻ります。

5） 右クリックで作業を終了します。

XII.5. ［計算］－［コンパス計算］

コンパス開放路線、コンパス結合路線を作成・編集します。

XII.5.1. ［計算］－［コンパス計算］－［コンパス開放路線作成］

コンパス開放路線を作成します。

［計算］－［コンパス計算］－［コンパス開放路線作成］を選択すると、コンパスパネルが開きます。

前述**VI.3.新規コンパスの入力手順の[開放路線の場合]**をご参照ください。

XII.5.2. ［計算］－［コンパス計算］－［コンパス結合路線作成］

コンパス結合路線を作成します。

［計算］－［コンパス計算］－［コンパス結合路線作成］を選択すると、コンパスパネルが開きます。

前述**VI.3.新規コンパスの入力手順の[結合路線の場合]**をご参照ください。

XII.5.3. ［計算］－［コンパス計算］－［コンパスパネルを開く］

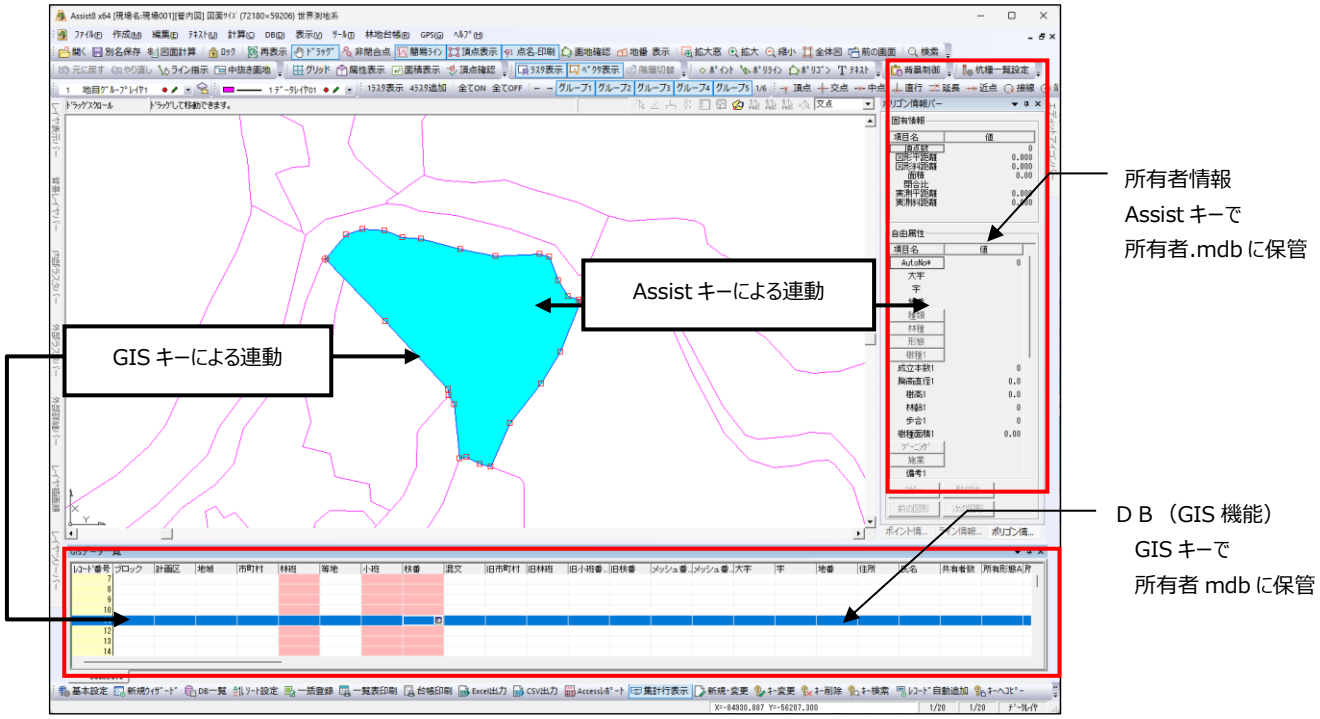
登録済みのコンパスを修正します。

［計算］－［コンパス計算］－［コンパスパネルを開く］を選択すると、コンパスパネルが開きます。

前述**VI.8.コンパス再編集**をご参照ください。

XIII.　DB（オプション）

XIII.1. DB オプションの基本



Assist キー

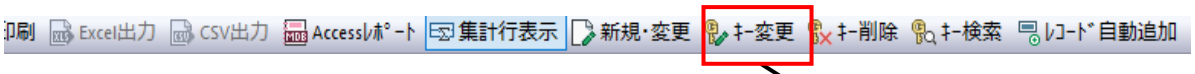
画地をクリックして所有者情報を入力しますが、この情報はエディットのフォーカスが移動する瞬間に（赤ワクとなっているキー項目部は地番でのフォーカス移動の瞬間に）所有者.mdb を更新しています。この機能は GIS 機能（以下、GIS 機能と呼ぶ）と関わらず動作しています。

一方で GIS 機能と間接的にかかわりを持たせています。

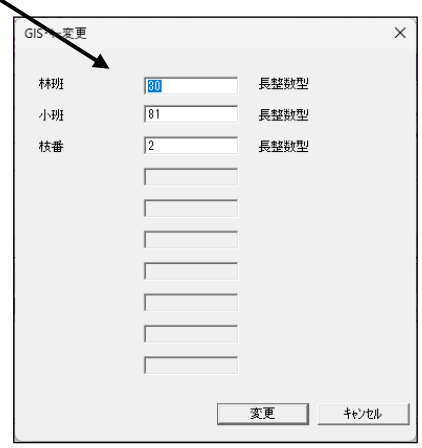
Assist8 DB オプションでは DB の割り当てを、レイヤ 1 ～99 に「所有者 mdb」として設定済みです。これにより、例えば DB 検索によって画地の位置特定するような機能も動作させることができます。

Assist8 では、DB オプションのありなしや地籍、森林を問わず、画地と所有者.mdb レコードをリンク付けるのはプロパティ「Assist キー」タブの、キーになることができる 7 項目の組み合わせです。（大字、字、林班、小班、小班群、枝班、地番）この 7 つの項目のキーを ON にしたものは画地ベクタの中にキーとして保管され、これらにぶら下がるデータを所有者 MDB の中に入れています。（このキーを Assist キーと呼びます）

XIII.1.1. GIS キー



右図の GIS キーは「Assist キー」と同一の項目が
表示されます。
GIS キーも画地の中に保存し、GIS 機能の DB レコード
とリンクさせていますが、こちらは GIS 機能専用領域
のため、Assist キーと別な領域で持っています。
Assist8 はプロパティの「Assist キー」を変更した場合に、
この GIS キーも自動で更新し、GIS 機能が動作するよう
内部を調節しています。
※「GIS キー」は背景画地と背景 MDB の相互のリンク
状態を持つものであり、所有者.mdb との連動は別な設定で行います。



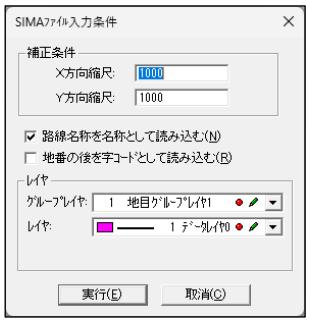
背景画地と背景レイヤ DB のリンク方法

SIMA の例で説明します。

1） ［ファイル］ – ［地図を開く］ – ［ベクタ］ – ［SIMA］を選択します。

2） ［SIMA ファイルの読み込み］ウィンドウが開かれるので、データを選択します。

3） ［SIMA ファイル入力条件］ウィンドウが開かれます。



- 補正条件：X、Y 方向の縮尺を入力します。
- 路線名を名称として読み込む：ライン名を名称として読み込みます。
- 地番の後を字コードとして読み込む：地番の後ろにある文字列を字コードとして読み込みます。
- レイヤ：レイヤを選択します。背景 DB とリンクさせる場合は背景レイヤを選択してください。

4） [実行]で SIMA データが読み込まれます。

5） ［DB］ –[GIS 設定］ –[GIS 基本設定]を選択し、DB を設定します。

DB 詳細タブで使用 DB を追加し、キーを設定します。

レイヤ連結はデフォルトでは地目レイヤになっているので、読み込み時に設定した背景レイヤに[結び付け]で変更してください。

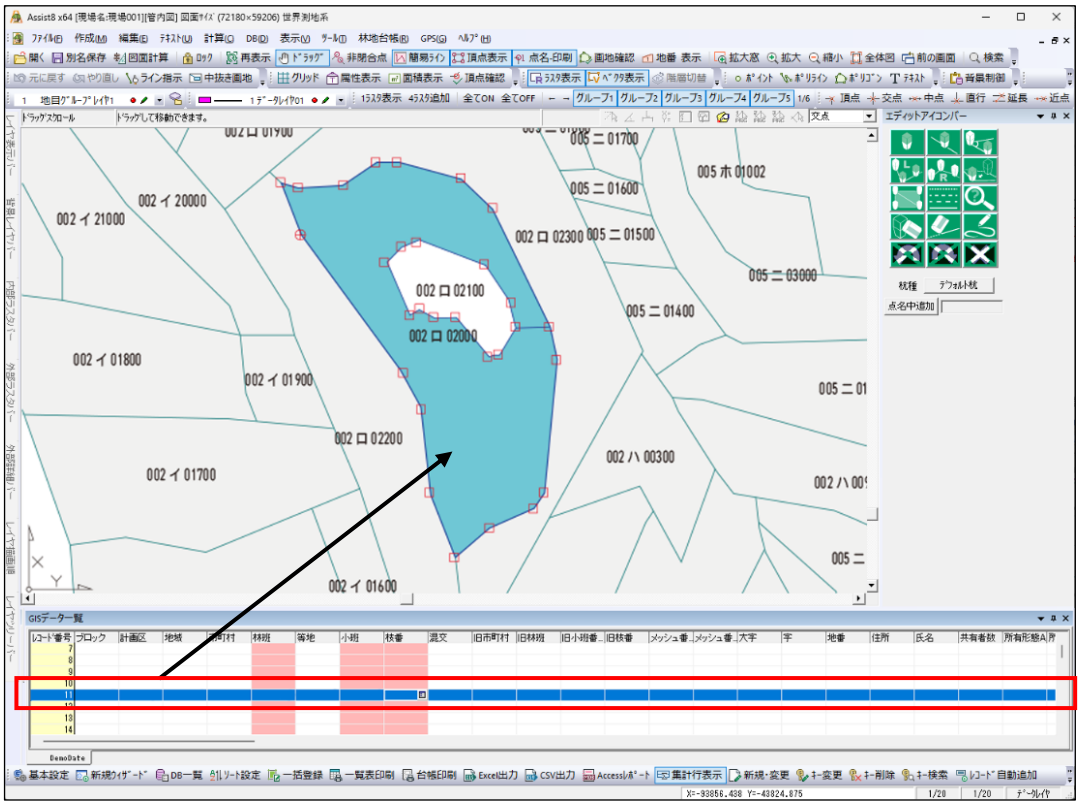
詳細は後述**XII.7.1.［DB］ –［GIS 設定］ –［ＧＩＳ基本設定］**をご参照ください。



6） ［DB］ – ［操作パネル］を選択し、DB を表示します。

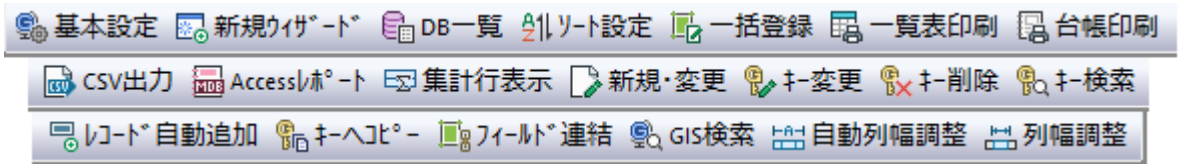
7） 背景画地と DB がリンクされます。

8)



また、背景レイヤタブに追加した DB 名が表示されます。既存の所有者 MDB は左側に表示されます。

XIII.1.2. GIS 機能アイコン



- 基本設定：GIS の基本となる設定をします。
- 新規ウィザード：GIS 基本設定の業務設定を行います。
- DB 一覧：GIS 基本設定で設定した業務レコードを表示し、編集・確認します。
- ソート設定：一覧表形式フォームのデータを並び替えます。
- 一括登録：複数のレコードに同じ値を一括で登録します。
- 一覧表印刷：一覧表形式フォームのデータを印刷します。
- 台帳印刷：データベースを検索し、図形とレコードを同時に印刷します。
- Excel 出力：一覧表形式フォームのデータを Excel 出力します。
- CSV 出力：一覧表形式フォームのデータを CSV 出力します。
- Access レポート：MicrosoftAccess を起動してレポートを作成します。
- 集計行表示：［集計設定］で設定した新規フィールド・集計結果を表示します。
- 新規・変更：業務と結びついたレイヤ内図形とレコードを結び付けます。
- キー変更：図形の GIS キーを変更します。
- キー削除：図形の GIS キーを削除します。
- キー検索：図形の GIS キーを検索します。
- レコード自動追加：データベースとリンクしていない図形を対象に自動でレコードを追加しリンクします。
- GIS キーヘコピー：図形情報（地番・点名）と［一覧表形式フォーム］のキーが一致するレコードと図形を結び付けます。
- フィールド連結：他の DB フィールドを指定して結合します。
- GIS 検索：入力した条件に該当する図形、レコードを検索します。検索結果は［一覧表形式フォーム］に表示されます。
- 自動列幅調整：［一覧表形式フォーム］のデータ読み込み時にフィールド・フィールド名の文字数に合わせて列の幅を自動で調整します。
- 列幅調整：フィールド、フィールド名の文字数に合わせて列の幅を調整します。

XIII.2. ［DB］－［DB 一覧表示］

［GIS 基本設定］で設定した業務のレコードを［一覧表形式フォーム］に表示し、データ編集・確認をします。［更新］を実行しない場合は、編集したデータは DB に保存されません。

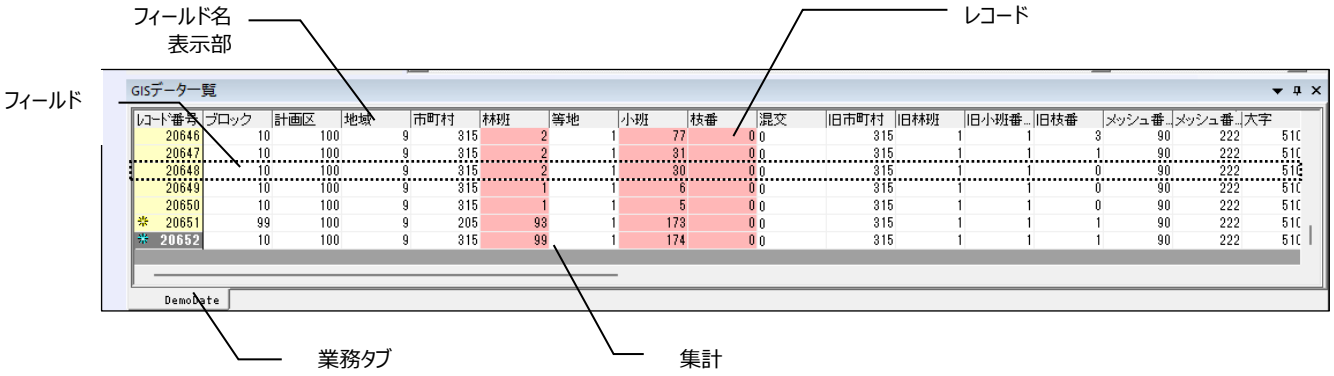
手順

1） ［DB］－［DB 一覧表示］を選択します。

2） ［一覧表形式フォーム］が表示されます。

右クリックすると、右メニューが表示され［一覧表形式フォーム］の編集ができます。

右メニューの［全選択］を選択すると、図形と結びついたレコードを色で確認することができます。



一覧表形式フォーム

- フィールド名表示部：フィールド名表示部をクリックすると、レコードが昇降順に並び替わります。
  並び替えをした場合に［ファイル］－［上書き保存］または［名前を付けて保存］を実行すると表示状態のままで保存されます。
- フィールド：列がフィールドです。各フィールドの色で状態を確認します。
  ［GIS 基本設定］－［DB 詳細］でキーに設定したフィールド、［表示項目］でセルボタン設定をしたフィールドにはセルボタンが表示されます。
  設定方法は、**XII.7.1. ［DB］－［GIS 設定］－［ＧＩＳ基本設定］**をご参照ください。
  - 桃色：DB キー（編集不可）、参照テーブルの結合フィールド（編集不可）
  - 白色：編集可能のフィールド
  - 黄色：編集不可のフィールド
  - 桃色：新規集計フィールド（集計設定で設定、編集不可）
- レコード：行がレコードです。
  レコードを選択することにより、レコード番号フィールドの色・表示アイコン等でレコードの状態を表示します。
- レコード番号フィールドが黄色：図形と結び付いているレコード

- レコード番号フィールドが灰色：図形と結び付いていないレコード
  - （黄色）：修正したレコードのレコード番号フィールドに表示されます。
  - （水色）：新規作成レコードのレコード番号フィールドに表示されます。
    また、新規レコードの文字は青色で表示されます。
  - 黄緑色：集計行（集計設定で設定、編集不可）
- 集計：集計結果は黄緑色・新規フィールドは桃色で表示されます。
  集計結果を選択すると、計算フィールドが点滅します。
  集計名をクリックすると、集計名リストが表示されます。
  集計名リストから集計設定を選択すると、最新データで集計をします。
  集計を非表示にして再度、表示にすると最後に実行した集計設定で最新データの集計を行います。
- 業務タブ：［GIS 基本設定］ – ［使用 DB 一覧］で設定した業務ごとにタブが作成されます。
  タブを選択すると、業務のデータ切り替えができます。
  検索結果のみ表示されている場合、また更新されていないデータがある場合は、業務タブに
  アイコンが表示されます。
  - : 検索結果が表示されています。
    データを再読込すると通常の表示モードに戻ります。
  - : レコードの修正後、データを更新していない状態です。
    データを更新するとアイコンが消えます。

再読込

選択した DB を再度読み込みます。

［DB］－［DB 一覧表示］で再読込した場合は、選択した図形と結び付いたレコードのみ表示されます。
［一覧表形式フォーム］内の右メニューで再読込を実行した場合は、現在の選択とは関係なくレコードが表示されます。

手順

1） ［一覧表形式フォーム］内で右クリックし、右メニューから［再読込］を選択します。

2） DB の再読込を実行します。

検索結果が表示されている場合は、再読込を実行すると通常の表示モードに戻ります。

レコード修正後に更新してない場合は、［グリッドの内容は変更されています。更新しますか？］という確認メッセージが表示されます。

［はい］ボタンをクリックすると、データを更新して再読込を実行します。

［いいえ］ボタンをクリックするとレコードの修正をキャンセルし、最後に更新された状態のデータで再読込を実行します。

新規入力

新規レコードを追加します。

手順

1） ［一覧表形式フォーム］内で右クリックし、右メニューから［新規入力］を選択します。

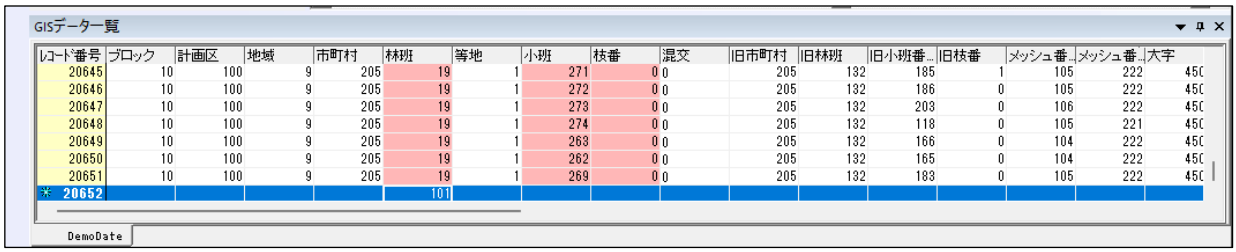
2） 新規レコードが最終行に追加されます。

3） レコード番号フィールドに新規アイコン（水色）が表示されます。

4） データを入力します。

5） データ入力後、更新すると新規レコードが DB 内に追加されます。

キーが設定されているフィールドにデータが入力されていない場合は、更新できません。



変更

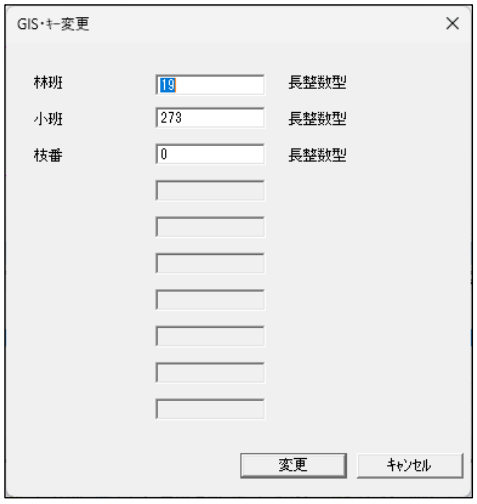
選択したレコードと結び付いている図形の GIS キーを変更し、結び付きを解除します。

手順

1） ［一覧表形式フォーム］内のレコードを選択します。

2） 右クリックし、右メニューから［変更］を選択します。

3） ［GIS・キー変更］ウィンドウが表示されます。



4） GIS キーを入力し、［変更］ボタンをクリックします。

既に図形と結び付いている GIS キーは入力できません。

5） GIS キーが変更され、図形とレコードの結び付けが解除されます。

入力した GIS キーが DB に存在した場合は、新たにそのレコードと結び付きます。

削除

選択したレコード・GIS キーを削除します。

手順

1） ［一覧表形式フォーム］内で削除するレコードを選択します。

2） ［一覧表形式フォーム］内で右クリックし右メニューから［削除］ – ［GIS キー］・［一覧表レコード］・［DB レコード］のいずれかを選択します。

- GIS キー：図形の GIS キーを削除し、レコードの結び付けを解除します。
  ［図面の GIS キーを削除しますか？］という確認メッセージが表示されます。
  ［はい］ボタンをクリックすると、図形の GIS キーが削除されます。

- 一覧表レコード：［一覧表形式フォーム］からレコードを削除します。（DB からは削除されません。）
  ［一覧表形式フォーム］の再読込を実行すると、削除前の状態に戻ります。
  ［図面の GIS キーを削除しますか？］という確認メッセージが表示されます。
  ［はい］ボタンをクリックすると、図形の GIS キーを削除し、［一覧表形式フォーム］からレコードを削除します。
  ［いいえ］ボタンをクリックすると、図形の GIS キーは削除されず、
  ［一覧表形式フォーム］からレコードのみ削除します。
- DB レコード：DB と［一覧表形式フォーム］からレコードを削除します。
  ［テーブルのレコードを削除します。元に戻せなくなりますがよろしいですか？］という確認メッセージが表示されます。
  ［はい］ボタンをクリックすると、DB と［一覧表形式フォーム］からレコードを削除します。
  ［図面の GIS キーを削除しますか？］という確認メッセージが表示されます。
  ［はい］ボタンをクリックすると、図形の GIS キーも削除されます。
  ［いいえ］ボタンをクリックすると、図形の GIS キーは削除されません。

結び付け

選択したレコードを図形と結び付けます。

更新前の新規レコードと集計レコードは図形と結び付けられません。

手順

1） ［一覧表形式フォーム］内で図形と結び付けるレコードを選択します。

2） ［一覧表形式フォーム］内で右クリックし、右メニューから［結び付け］を選択します。

3） カーソルが▲に変わります。

4） 図形をクリックします。

5） 既にレコードと結び付いている図形をクリックした場合は、［選択した図形は既にキーと結び付いています。上書きしますか？］という確認メッセージが表示されます。
［はい］ボタンをクリックすると、図形とレコードの結び付けが上書きされます。

キー編集

キーフィールドの数値を更新します。

1） ［一覧表形式フォーム］内で図形と結び付けるレコードを選択します。

2） ［一覧表形式フォーム］内で右クリックし、右メニューから［キー編集］を選択します。

3） ［GIS-キー編集]パネルが表示されます。更新値を入力して［OK］を選択します。



全選択

［一覧表形式フォーム］に表示されているレコードをすべて選択します。

手順

1） ［一覧表形式フォーム］内で右クリックし、右メニューから［全選択］を選択します。

2） 表示されているレコードをすべて選択します。

列幅調整

フィールド、フィールド名の文字数に合わせて列の幅を調整します。

手順

1） ［一覧表形式フォーム］内で右クリックし、右メニューから［列幅調整］を選択します。

2） フィールド、フィールド名の文字数に合わせて列の幅を調整します。

更新

［一覧表形式フォーム］に表示されている情報を DB へ更新します。更新を取り消すことはできません。

手順

1） ［一覧表形式フォーム］内で右クリックし、右メニューから［更新］ – ［全体］を選択するか、
［一覧表形式フォーム］内で更新するレコードを選択し、右クリックして右メニューから
［更新］ – ［選択］を選択します。

2） 全体または選択したレコードの情報を DB へ更新します。

図面内データ

［図面内データ］にチェックをいれることで、データベースと図面が結びついたレコードのみ表示します。
チェックの ON/OFF を変更したあとは、再読み込みが必要となります。

集計行表示

［集計設定］で設定した新規フィールド･集計結果を表示します。

手順

1） ［一覧表形式フォーム］内で右クリックし、右メニューから［集計行表示］を選択します。

2） 集計結果を表示します。

再度、［一覧表形式フォーム］内で右クリックし、右メニューから［集計行表示］を選択すると、集計行を表示しません。

自動列幅調整

［一覧表形式フォーム］のデータ読み込み時にフィールド･フィールド名の文字数に合わせて列の幅を自動で調整します。

手順

1） ［一覧表形式フォーム］内で右クリックし、右メニューから［自動列幅調整］を選択します。

2） ［一覧表形式フォーム］のデータ読み込み時にフィールド、フィールド名の文字数に合わせて列の幅を自動で調整します。

メモリ解放

［一覧表形式フォーム］を閉じると読み込んだデータをメモリ内から消去します。

［一覧表形式フォーム］を開くときにデータを再読込します。

手順

1） ［一覧表形式フォーム］内で右クリックし、右メニューから［メモリ開放］を選択します。

2） ［一覧表形式フォーム］を閉じると、読み込んだデータをメモリ内から消去します。

自動ズーム

データベースを選択した際、自動でズームします。

集計設定

［一覧表形式フォーム］内データの集計方法を設定します。

表示／非表示は［集計行表示］で設定します。

手順

1） ［一覧表形式フォーム］内で右クリックし、右メニューから［集計設定］を選択します。

2） ［集計設定］ウィンドウが表示されます。

- 集計名：集計名を入力します。
  - 設定フィールド：集計方法を設定します。
  - 表示位置：集計値を表示するフィールドを選択します。
  - 計算方法：フィールドの計算方法を選択します。
  - なし：計算しません。
  - 合計：フィールドの合計値を集計
  - 平均：フィールドの平均値を計算
  - 最大：フィールドの最大値を表示
  - 最小：フィールドの最小値を表示
  - 件数：フィールドの件数を集計
  - 計算フィールド：計算するフィールドを選択します。

集計

- 追加：集計設定を追加します。現在、選択している業務名が集計名に表示されます。
- 削除：集計設定を削除します。集計名で選択している集計設定が削除されます。

新規フィールド：フィールドを新規で作成します。［集計行表示］を表示に設定した場合のみ、
［一覧表形式フォーム］に表示されます。

- 追加：新規フィールドを追加します。
  追加方法は、**＜新規フィールド追加＞**をご参照ください。
- 削除：新規フィールドを削除します。設定フィールドで削除するフィールドを選択し、
  ［削除］ボタンをクリックします。
- 編集：新規フィールドを編集します。設定フィールドで編集するフィールドを選択し、
  ［編集］ボタンをクリックすると、［フィールドプロパティ］ウィンドウが表示されます。

編集方法は、**＜新規フィールド追加＞**をご参照ください。

3） ［更新］ボタンをクリックし、集計設定を更新します。

4） ［実行］ボタンをクリックすると、［一覧表形式フォーム］に戻ります。

5） ［一覧表形式フォーム］に集計結果が表示されます。

＜新規フィールド追加＞

手順

1） ［新規フィールド追加］ウィンドウが表示されます。



- フィールド名：フィールド名を入力します。
- データ型：データ型を表示します。
- フィールドサイズ：フィールドサイズを選択します。

2） ［任意式作成］ボタンをクリックすると、［任意式作成］ウィンドウが表示されます。

3） 計算式を作成します。

［フィールド選択］ボタンをクリックすると、フィールドリストが表示されます。

フィールドを選択し、各ボタンをクリックして式を作成します。

［BS］ボタンでカーソルの左、［DEL］ボタンで右の文字を削除します。

カーソルで複数の文字を選択し、［BS］・［DEL］ボタンをクリックすると、選択した範囲が削除されます。



4） ［決定］ボタンをクリックすると、［新規フィールド追加］ウィンドウに戻ります。

5） ［更新］ボタンをクリックすると、新規フィールドを作成します。

簡易集計

［一覧表形式フォーム］で選択したレコードを簡易集計します。

手順

1） ［一覧表形式フォーム］から集計をするレコードを複数選択します。

2） ［一覧表形式フォーム］内で右クリックし、右メニューから［簡易集計］を選択します。



3） ［集計結果］ウィンドウが表示されます。

4） ［演算種類］を選択し、集計する項目のチェックボックスを［ON］にします。

5） ［印刷］ボタンをクリックすると、計算結果を印刷します。

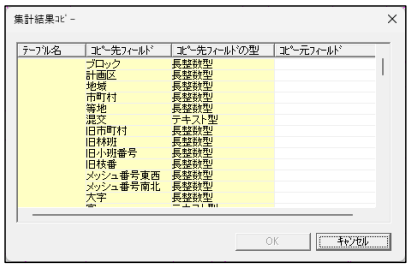
結果コピー

［集計設定］の新規フィールドの集計を別のフィールドに表示し、DB へコピーします。
先に[集計設定]で新規フィールを作成する必要があります。

手順

1） ［一覧表形式フォーム］内で右クリックし、右メニューから［結果コピー］を選択します。

2） ［集計結果コピー］ウィンドウが表示されます。



3） コピー先フィールドを選択し、コピー元フィールドを選択します。

4） ［OK］ボタンをクリックすると、［一覧表形式フォーム］のコピー先フィールドにコピー元フィールドが表示されます。

5） DB へコピーする場合は、［一覧表形式フォーム］内で右クリックし、右メニューから［更新］を選択すると DB へコピーされます。

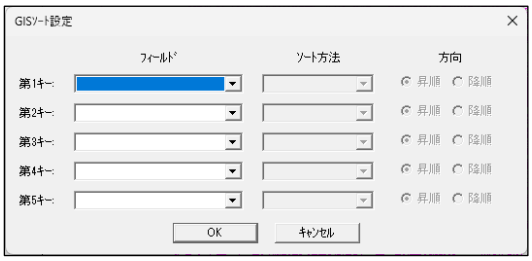
XIII.3. ［DB］ – ［ソート設定］

［一覧表形式フォーム］内のデータ並び替えの設定を行います。ソートキーを最大５個まで設定し、その設定によるソートができます。

手順

1） ［DB］ – ［ソート設定］を選択します。

2） ［GIS ソート設定］ウィンドウが表示されます。



- フィールド：ソートするフィールドを選択します。連結済み図形を選択すると、レコードに図形が結び付いているか否かでソートします。
- 方向：ソート方向を昇順、降順から選択します。

3） 設定終了後、［OK］ボタンをクリックします。

4） 設定したフィールドをクリックするとソートが実行されます。

※ ［一覧表形式フォーム］のヘッダー部をクリックした場合、ソート設定の第１～第５キーに設定されているフィールドの場合は、設定内容にてソートします。それ以外のフィールドの場合は、指定フィールドのみをキーとしてソートします。この場合、２回目以降は、昇順、降順を反転します。

※ ［一覧表形式フォーム］内のソートキーは１種類のみの設定となります。

XIII.4. ［DB］－［検索］

入力した条件に該当する図形、レコードを検索します。検索結果は［一覧表形式フォーム］に表示されます。

手順

1） ［DB］－［検索］を選択します。

2） ［GIS 検索］ウィンドウが表示されます。



- 登録条件：検索条件をリストから選択します。＜新規作成＞を選択すると、［検索条件］の設定が解除されすべての項目が空白になります。
  検索条件の登録・変更する場合は、［変更］ボタンをクリックします。
  詳細は、**＜検索条件設定＞**をご参照ください。
- 検索条件：検索条件を指定します。（複数指定可）
  - フィールド名：フィールド名を選択します。
  - 条件：［値］との検索時の比較条件を選択します。［＊含む］を選択した場合は、ワイルドカードが対応になります。
    ワイルドカードについては、**＜ワイルドカード設定方法一覧＞**をご参照ください。

- 値：検索時の基準値を入力します。

  1. ［参照］ボタンをクリックすると、［参照］ウィンドウが表示されます。



  2. 指定した［フィールド名］に該当する検索条件が表示されます。

  3. ソート順に検索条件を表示する場合は、［ソートフィールド］で
  フィールドを選択します。

  4. ［選択］ボタンをクリックすると、選択したデータが［値］に入力されます。

- 参照：２番目の［参照］ボタンをクリックすると、１番目の条件で絞り込んだデータが表示され、選択することができます。
- 継続：検索条件を複数指定する場合に検索方法を指定します。
  ［AND］を選択すると、現在の検索条件とその次に設定した検索条件を満たすレコードを検索します。
  ［OR］を選択すると、現在の検索条件または次に設定した検索条件のどちらかを満たすレコードを検索します。［空欄］を選択すると、次の検索条件を設定しません。
- 検索対象
  - 一覧表内：［一覧表形式フォーム］内のレコードを検索します。
  - DB 全体：DB 詳細で設定している DB 内のすべてのレコードを検索します。
  - 図面内データ：図形と結びついているレコードから検索します。
- 範囲条件
  - 範囲方法：全て・矩形・円を選択します。
- レイヤ条件：検索するレイヤを選択します。
  - グループレイヤ：グループレイヤを選択します。
  - レイヤ：レイヤを選択します。
    すべてのレイヤを選択すると、選択したグループレイヤ内のすべてのレイヤを検索します。
  - 対象レイヤ：レイヤの種類を選択します。

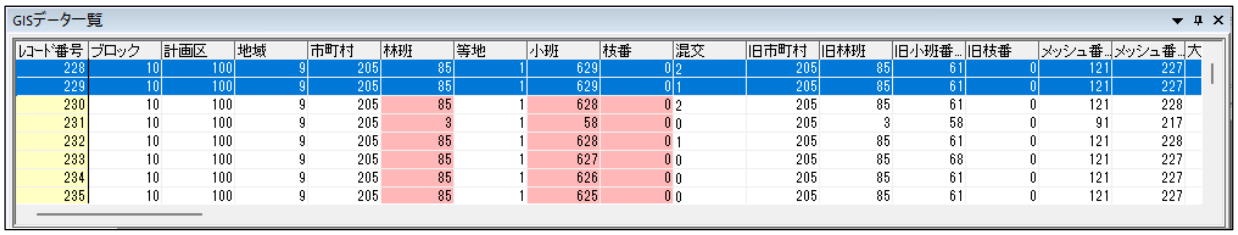
- 表示
  - 検索結果のみ表示：検索条件に該当する図形のレコードのみを［一覧表形式フォーム］に表示します。
- カスタム検索：検索結果をまとめて変更することができます。

  ［カスタム検索］ボタンをクリックすると、［GIS 検索画地編集］ウィンドウが表示されます。



  - レイヤ（地目・背景共通）：レイヤをコピー又は移動します。
  - レイヤ（背景）：レイヤをコピー又は移動し、DB 情報もコピーします。
  - 配色設定：画地ごとの配色を変更します。
- 検索：検索を開始します。
- 複数検索：複数検索を開始します。登録条件が複数設定されている場合のみ検索できます。

  詳細は、**＜複数検索＞**をご参照ください。



レコード番号	ブロック	計画区	地域	市町村	林班	等地	小班	枝番	混交	旧市町村	旧林班	旧小班番...	旧枝番	メッシュ番...	メッシュ番...	大
228	10	100	9	205	85	1	629	0	2	205	85	61	0	121	227	
229	10	100	9	205	85	1	629	0	1	205	85	61	0	121	227	
230	10	100	9	205	85	1	628	0	2	205	85	61	0	121	228	
231	10	100	9	205	3	1	58	0	0	205	3	58	0	91	217	
232	10	100	9	205	85	1	628	0	1	205	85	61	0	121	228	
233	10	100	9	205	85	1	627	0	0	205	85	68	0	121	227	
234	10	100	9	205	85	1	626	0	0	205	85	61	0	121	227	
235	10	100	9	205	85	1	625	0	0	205	85	61	0	121	227	

3） 設定終了後、［検索］ボタンをクリックします。

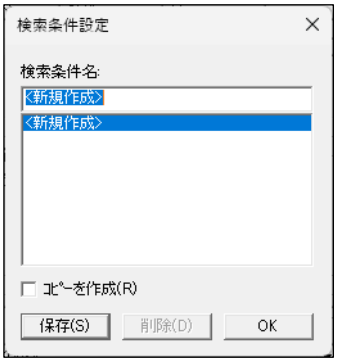
4） ［一覧表形式フォーム］に検索条件に該当するレコードが表示されます。

検索した情報が表示されているときには、［一覧表形式フォーム］の業務タブに検索アイコンが表示されます（「検索結果のみ表示」にチェックが入っている場合）。

＜検索条件設定＞

手順

1） ［検索条件設定］ウィンドウが表示されます。



- 検索条件名：検索条件名を入力します。
  ［登録条件］で＜新規設定＞を選択した場合の入力または既存の検索条件名を変更します。
- コピーを作成：検索条件名一覧から選択した検索条件をコピーします。
  検索条件一覧から検索条件を選択して［検索条件名］を入力します。

2） ［保存］ボタンをクリックすると、［GIS 検索］ウィンドウに表示されている検索条件が保存されます。

＜ワイルドカード設定方法一覧＞

記号	機能・設定方法	使用例
＊	０以上の一文字 文字の前後に入力	*あ・・・・最後に「あ」を含むデータ 例 （あ、ＡＡあ、Ａあ） あ*あ・・・・最初と最後に「あ」を含む２文字以上のデータ 例 （ああ、あＡＡＡあ、あＡあ）
［－］	範囲指定（英数字のみ） Ａ－Ｚ、０－９のように昇順で入力 複数の範囲を［］内に指定することも可能	＊［０－３］・・・・最後に０から３までの数字を含むデータ 例 （０、３１１、７３００、５６.００） ［Ａ－Ｚ０－９］*・・・・最初に英数字を含むデータ 例 （Ａあ、１Ａ、９９９、Ｂああ）
？	任意の一文字 文字の前後に指定文字数だけ入力	？？あ・・・・最後に「あ」を含む３文字のデータ 例 （ＡＡあ、あああ、１ああ） あ？あ・・・・最初と最後に「あ」を含む３文字のデータ 例 （あああ、あＡあ）
［！］	［］内の文字を否定 文字の前に入力	［!あ］*・・・・最初に「あ」を含まないデータ 例 （Ａあ、ＡＡ、ＢＡＡＡ） ？［!０－２］・・・・最後に０～２までの数字を含まない２文字のデータ 例 （１３、２Ａ、ＡＡ）

[]	[] 内を 1 文字として認識 [] 内に文字を入力	［あい］*・・・・最初に「あ」「い」の文字を含むデータ 例　（あ 1 、いＡ Ａ、あい） ＊［－］？・・・・「－」の後が 1 文字の、全部で 2 文字以上のデータ 例　（１００－２、１－２、－１）

＜複数検索＞

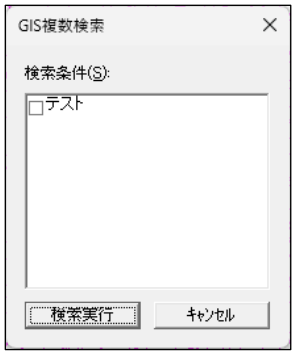
複数の登録条件を同時に検索します。

手順

1） ［GIS 検索］ウィンドウで検索条件を設定し、登録条件の［変更］ボタンをクリックして条件を登録します。

2） ［複数検索］ボタンをクリックします。

3） ［GIS 複数検索］ウィンドウが表示されます。



4） 登録条件が表示されます。実行する検索条件を選択します。

5） ［検索実行］ボタンをクリックします。

6） 選択した検索条件をリストの上から順番に実行します。

※［GIS 検索］ウィンドウの検索対象は反映されません。常に DB 全体から検索します。

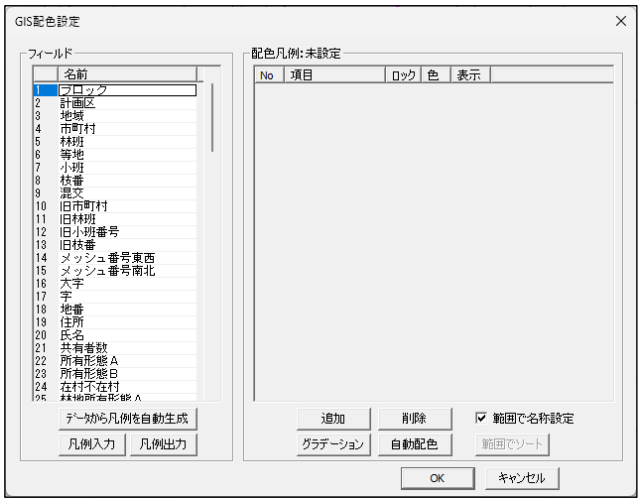
XIII.5. ［DB］ – ［GIS 配色設定］

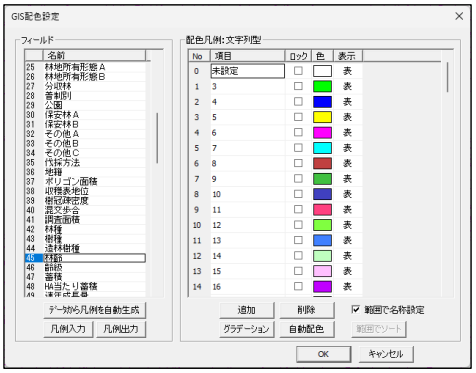
入力した条件に該当する図形、レコードを検索します。検索結果は［一覧表形式フォーム］に表示されます。

手順

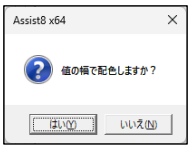
1） ［DB］ – ［GIS 配色設定］を選択します。

2） ［GIS 配色設定］ウィンドウが表示されます。





- フィールド
  - データから凡例を自動生成：選択したフィールドのデータから配色凡例を自動生成します。
    レイヤの分類方法が数値の場合、確認ウィンドウが表示されます。
    ※小数点がつく場合、確認ウィンドウは表示されません。



  - 凡例入力：CSV ファイルから凡例データを作成します。
  - 凡例出力：凡例データから CSV ファイルを出力します。
- 配色凡例
  - グラデーション：ロックをかけた 2 箇所間の色をグラデーションに変更します。
  - 自動配色：自動で配色します。
  - 範囲でソート：Min と Max を変更した、[範囲をソート]をクリックすることで Min を参照に順序を変更します。
  - 範囲で名称設定：Min と Max の値で名称を設定します。

XIII.6. ［DB］ – ［印刷･出力］

XIII.6.1. ［DB］ – ［印刷･出力］ – ［一覧表印刷］

［一覧表形式フォーム］のデータを印刷します。

手順

1） ［DB］ – ［印刷･出力］ – ［一覧表印刷］を選択します。

2） ［GIS 印刷］ウィンドウが表示されます。



- 単票：フォーム形式でレコードを印刷します。オブジェクト･ボタン･グリッドは印刷しません。
- 一覧表：一覧表形式でレコードを印刷します。
- 図表付き単票：フォーム形式でレコードと、レコードに結び付いた図形を印刷します。
  ページごとに図形を印刷します。オブジェクト･ボタン･グリッドは印刷しません。
- 印刷：［印刷］ウィンドウが表示されます。
- プレビュー：プレビューを表示します。

3） 設定終了後、[印刷]ボタンをクリックすると［印刷］ウィンドウが表示されます。

4） 設定終了後、［OK］ボタンをクリックすると［一覧表形式フォーム］内のデータを一覧表形式で印刷します。

※ 印刷の設定詳細についてはご使用のプリンタのマニュアルをご参照ください。

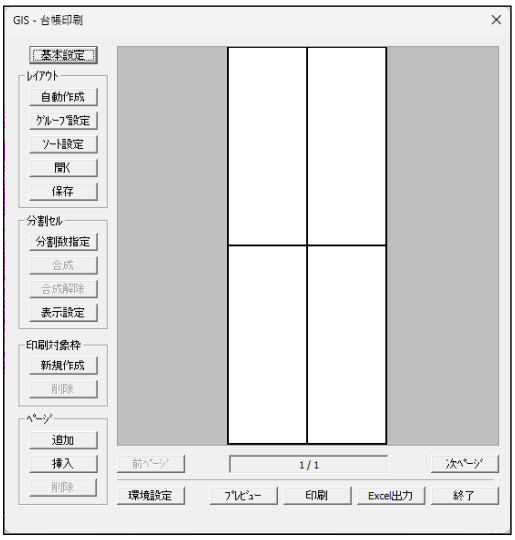
XIII.6.2. ［DB］ – ［印刷・出力］ – ［台帳印刷］

［一覧表形式フォーム］のデータを印刷します。

手順

1） ［DB］ – ［印刷・出力］ – ［台帳印刷］を選択します

2） ［GIS – 台帳印刷］ウィンドウが表示されます。



- 基本設定：台帳印刷時の印刷設定をします。設定方法は **<基本設定>** をご参照ください。
- レイアウト：印刷レイアウトを作成します。
  - 自動作成：レイアウトを自動で作成します。設定方法は **<レイアウト編集>** をご参照ください。
  - グループ設定：グループの設定を行います。
  - ソート設定：ソートの設定を行います。
  - 開く：保存したレイアウトを開きます。［開く］ボタンをクリックすると［GIS レイアウトを開く］ウィンドウが表示されますので、レイアウトを選択して開きます。
  - 保存：設定したレイアウトを保存します。［保存］ボタンをクリックすると［GIS レイアウトを保存］ウィンドウが表示されますので、ファイル名を入力して保存します。
- 分割セル：セルの編集や表示の設定をします。
  - 分割数指定：セルの分割数を変更します。
    ［分割数指定］ボタンをクリックすると［GIS – 台帳印刷　枠数指定］ウィンドウが表示されます。分割数を入力して［ＯＫ］ボタンをクリックするとセルを分割します
  - 合成：セルを合成します。合成するセルをマウスでドラッグするとセルの枠を赤で表示します。
    ［合成］ボタンをクリックするとセルを合成します。
  - 合成解除：合成したセルを解除します。合成したセルをクリックするとセルの枠が赤で表示されます。
    ［合成解除］ボタンをクリックすると合成を解除します。
  - 表示設定：セルの表示内容を設定します。設定方法は **<表示設定>** をご参照ください。
- 印刷対象枠：［印刷対象枠］の作成・削除を行います。

［印刷対象枠］は図面上に赤枠で表示されます。

- 新規作成：印刷対象とする範囲に［印刷対象枠］を作成します。
  ［新規作成］ボタンをクリックするとマウスカーソルが＋に変わります。
  範囲を矩形指定すると［印刷対象枠］が追加できます。
- 削除：［印刷対象枠］を削除します。［削除］ボタンをクリックし［印刷対象枠］をクリックすると削除します。

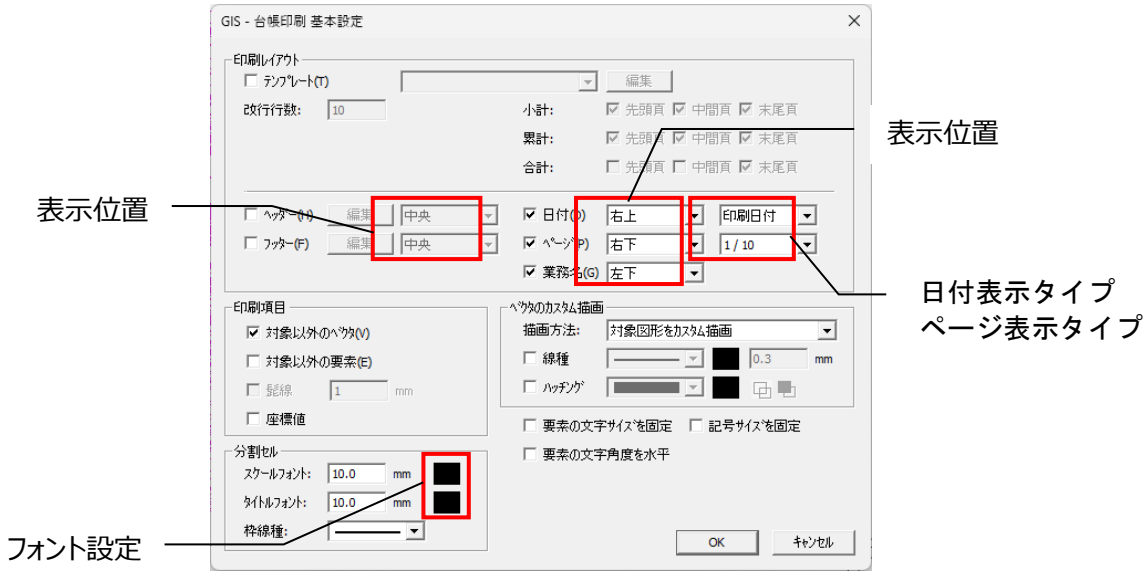
- ページ：ページの追加・挿入・削除を行います。
  - 追加：［追加］ボタンをクリックすると最終ページに１ページ追加します。
  - 挿入：［挿入］ボタンをクリックすると表示しているページの前に１ページ挿入します。
  - 削除：［削除］ボタンをクリックすると表示しているページを削除します。
- 前ページ：前のページへ移動します。
- 次ページ：次のページへ移動します。
- 環境設定：起動時の初期値等の設定を行います。設定方法は**＜環境設定＞**をご参照ください。
- プレビュー：印刷プレビューを表示します。
- EXCEL 出力：EXCEL 出力します。

3） 設定終了後、［印刷］ボタンをクリックします。台帳が印刷されます。

＜基本設定＞

手順

1） ［GIS－台帳印刷　基本設定］ウィンドウが表示されます。



＜印刷レイアウト＞

- テンプレート：台帳印刷で使用するテンプレートを選択します。
  コンボボックスより使用するテンプレートを選択します。
  テンプレートを選択し、［編集］を選択すると、テンプレートの編集ができます。
  なにも選択せずに、［編集］を選択すると、新規にテンプレートを作成します。
- 改行行数：テンプレート１ページに、表示するレコード数を設定します。
- 小計：テンプレートで設定した“小計”を表示するページを選択します。
- 累計：テンプレートで設定した“累計”を表示するページを選択します。
- 合計：テンプレートで設定した“合計”を表示するページを選択します。
- ヘッダー・フッター：（帳票の上部）、フッダー（帳票の下部）を印刷します。
  （ヘッダー・フッダーは表形式になります。）
  設定方法は**＜レイアウト編集＞**をご参照ください。
- 日付：日付の表示位置を設定します。
- ページ：ページの表示位置を設定します。
- 業務名：業務名の表示位置を設定します。

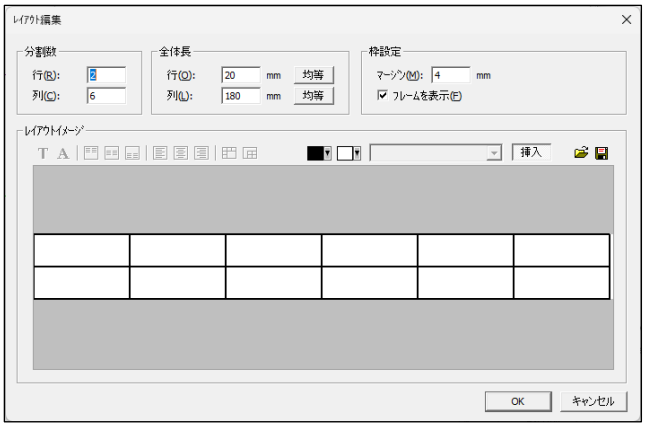
- 印刷項目
  - 対象以外のベクタ：選択画地の周囲のベクタデータを印刷します。
  - 対象以外の要素：選択画地の周囲のベクタデータ要素を印刷します。
  - 髭線設定：髭線を指定します。
  - 座標値：座標の数値を指定します。
- ベクタのカスタム描画
  - 描画方法：設定する図形を選択します。
  - 線種：図形の線種／色／線幅を選択します。［色選択］ボタンをクリックすると［色設定］ウィンドウが表示されますので色を指定します。
  - ハッチング：図形のハッチングパターンを選択します。［色選択］ボタンをクリックすると［色設定］ウィンドウが表示されますので色を指定します。
- 分割セル：スケール／タイトル／枠の線種を設定します。
  - スケールフォント：表示するスケールのフォントを設定します。［フォント設定］ボタンをクリックすると［スケール表示フォントの選択］ウィンドウが表示されますのでフォントの設定を行います。
  - タイトルフォント：表示するタイトルのフォントを設定します。［フォント設定］ボタンをクリックすると［タイトル表示フォントの選択］ウィンドウが表示されますのでフォントの設定を行います。
  - 枠線種：台帳に印刷する枠の線種を指定します。
- 要素の文字サイズを固定する：表示要素の文字サイズを縮尺に関わらず、固定します。
- 要素の文字角度を水平にする：図形を回転しても表示要素の角度を帳票の水平にします。
- 記号サイズを固定：記号サイズを縮尺に関わらず固定します。

2） 設定終了後、［ＯＫ］ボタンをクリックします。

＜レイアウト編集＞

手順

1） ヘッダー・フッダーの［編集］をクリックすると、［レイアウト編集］ウィンドウが表示されます。
レイアウトイメージの各セルの罫線をクリックすると、行・列の高さ・幅を変更できます。



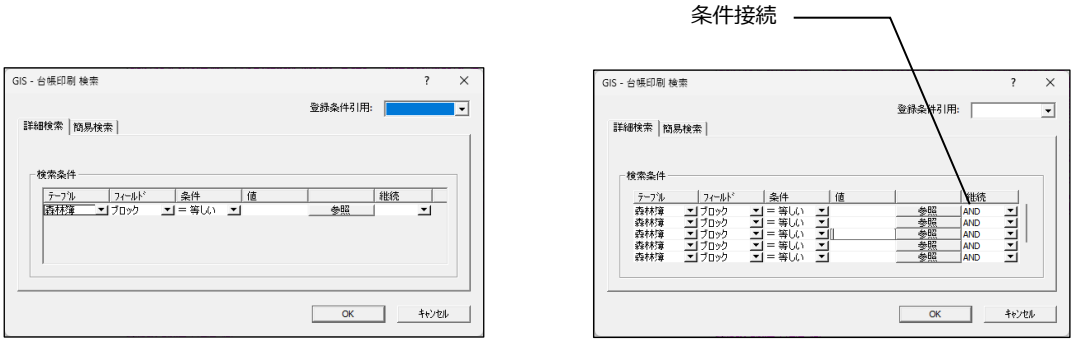
- 分割数：表の行・列の分割数を設定します。
- 全体長：表の行列の全体の長さを入力します。
  - 均等：全体長で、セルの高さ・幅を分割数で均等割りします。
- 枠設定：枠の余白を設定します。
  - マージン：ヘッダー・フッダーと帳票部分の余白を設定します。
  - フレームを表示：表罫線の印刷をします。
- T テキスト編集：選択セルのテキストを編集します。
- A フォント：選択セルのフォントを編集します。
- 上寄せ：テキストをセルの上側に合わせます。
- 縦中央：テキストをセルの縦中央に合わせます。
- 下寄せ：テキストをセルの下側に合わせます。
- 左寄せ：テキストをセルの左側に合わせます。
- 横中央：テキストをセルの横中央に合わせます。
- 右寄せ：テキストをセルの右側に合わせます。
- セルを合成：複数選択したセルを合成します。
- セル合成を解除：合成されたセルを解除します。
- 色設定：左側が、フォントの色設定、右側が、セルの背景色設定になります。
- 挿入 挿入：セルに項目が入力された状態で、［挿入］ボタンを押し（薄い灰色の状態）、
  DB の項目を選択すると、セルに項目が挿入できます。

2） 設定終了後、［ＯＫ］ボタンをクリックします。

<レイアウト自動作成>

手順

1） ［GIS – 台帳印刷　検索］ウィンドウが表示されます。



- 登録条件引用：［DB］ – ［検索］で保存した登録条件を引用できます。
- 検索条件：データベースを検索する条件を指定します。チェックボックスを［ON］にすると条件が設定可能となります。［接続条件］で接続方法を選択します。
- 簡易検索：条件が 5 つまでの場合検索可能です
- 詳細検索： 5 つ以上の検索項目を指定し検索が可能です。

2） 設定終了後、［ＯＫ］ボタンをクリックします。設定条件でデータベースを検索し、自動で印刷対象枠を作成しセルに表示します。

＜表示設定＞

手順

1） ［GIS – 台帳印刷　セル設定］ウィンドウが表示されます。



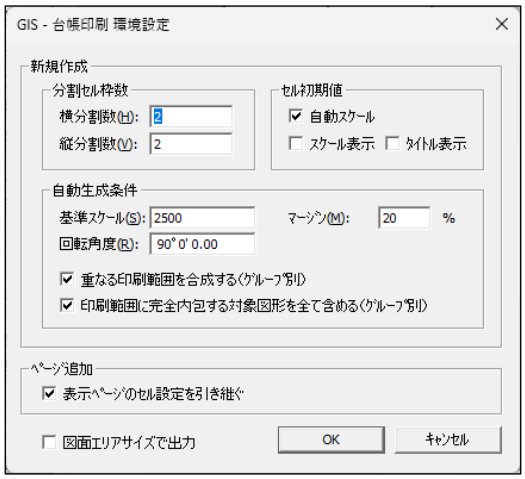
- セル一覧：表示中のページ内のセル情報が表示されます。
- スケール：スケールを表示します。［自動］のチェックボックスを［OFF］にすると任意のスケールを入力できます。
- 自動：チェックボックスを［ON］にすると対象セルのサイズに合わせてスケールを自動調整します。
  チェックボックスを［OFF］にすると［スケール］に任意のスケールを入力できます
- 表示：チェックボックスを［ON］にするとセルにスケールを表示します。
- タイトル：セルのタイトルを入力します。
- 表示：チェックボックスを［ON］にするとセルにタイトルを表示します。

2） 設定終了後、［OK］ボタンをクリックします。

＜環境設定＞

手順

1） ［GIS – 台帳印刷　環境設定］ウィンドウが表示されます。



- 新規作成：新規作成時の条件設定を行います。
  - 分割セル枠数：セルの分割数を設定します。
- セル初期値：セル表示の初期値を設定します。
  - 自動スケール：チェックボックスを［ON］にすると自動スケールが初期値になります。
  - スケール表示：チェックボックスを［ON］にするとスケール表示が初期値になります。
  - タイトル表示：チェックボックスを［ON］にするとタイトル表示が初期値になります。
- 自動生成条件：セルの自動生成条件を設定します
  - 基準スケール：スケールを設定します。
  - マージン：余白の割合を設定します。
  - 回転角度：回転角度を設定します。
  - 重なる印刷範囲を連結：印刷範囲が重なっている個所を連結します。
  - 印刷範囲に完全内包する対象図形を全て含める（グループ別）：印刷範囲に内包されている図形のみ対象とするか設定します。
- ページ追加：ページを追加する際の条件を設定します。
  - 表示ページのセル設定を引き継ぐ：チェックボックスを［ON］にするとページ追加の際に表示中のセルの設定内容が引き継がれます。
- 図面エリアサイズで出力：図面エリアのサイズで出力します。

2） 設定終了後、［ＯＫ］ボタンをクリックします。

XIII.6.3. ［DB］ – ［印刷・出力］ – ［Excel 出力］

［一覧表形式フォーム］のデータを Excel に出力します。

手順

1） ［一覧表形式フォーム］から出力したいレコードを選択します。

2） ［DB］ – ［印刷・出力］ – ［Excel 出力］を選択します。

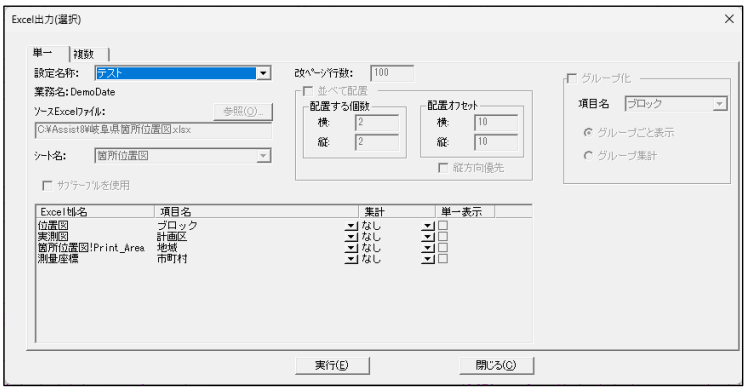
3） ［Excel 出力（選択）］ウィンドウが表示されます。

4） ［設定名称］で出力をする Excel 出力設定を選択します。

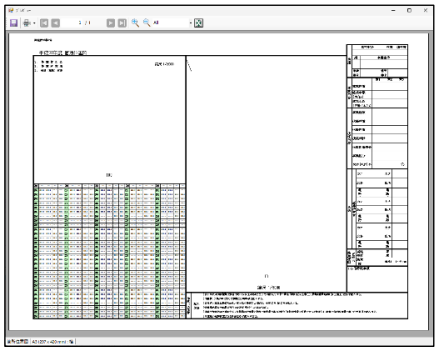
5） 各項目の出力設定方法は、

XII.7.1. ［DB］ – ［GIS 設定］ – ［ＧＩＳ基本設定］ – ［Excel］をご参照ください。

※［一覧表形式フォーム］で［集計行の表示］を選択している場合は、レコードの最終行に集計結果が出力されます。



6） ［実行］ボタンをクリックすると、［Excel 出力プレビュー］ウィンドウが表示されます。



- 保存：Excel ファイルへ保存します。［Excel ファイルへの保存］でファイル名を入力して保存します。
- 印刷：プレビューされている内容を印刷します。メニューバーの［印刷］ – ［印刷］を選択します。
- 前ページ・次ページ：ページを移動します。

7） ［Excel 出力プレビュー］ウィンドウの ☒ をクリックすると 2.に戻ります。

XIII.6.4. ［DB］ – ［印刷・出力］ – ［CSV 出力］

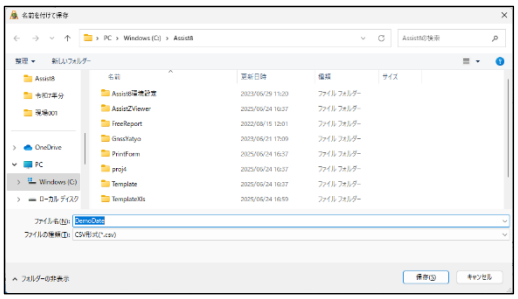
［一覧表形式フォーム］のデータを選択し、CSV ファイルに出力します。

手順

1） ［DB］ – ［印刷・出力］ – ［CSV 出力］を選択します。

2） レコード件数の確認メッセージが表示されます。

3） ［はい］ボタンをクリックすると、［名前を付けて保存］ウィンドウが表示されます。



4） ファイル名を入力して、［保存］ボタンをクリックすると選択したレコードを CSV ファイルで出力します。

XIII.7. ［DB］－［GIS 設定］

XIII.7.1. ［DB］－［GIS 設定］－［ＧＩＳ基本設定］

［業務設定］でデータベース・各フォーム・Ｅｘｃｅｌ出力方法等のＧＩＳ構築の基本となる設定を行い、［基本項目設定］で［一覧表形式フォーム］の表示・読み込み設定を行います

業務設定

手順

1） ［DB］－［GIS 設定］－［ＧＩＳ基本設定］を選択します。

2） ［ＧＩＳ基本設定］ウィンドウが表示されます。



3） ［使用 DB 一覧］で業務を選択し、各タブで業務を設定します。
設定方法は、各タブの設定方法をご参照ください。

4） 設定終了後、［適用］ボタンをクリックします。

使用 DB 一覧

図面に関連付けるデータベース・テーブルを業務として登録します。

登録した業務は▲▼ボタンで順番を変更できます。

先頭の業務がＧＩＳ構築ツール操作時のデフォルトとして設定されます。



- 追加：業務を追加します。設定方法は、［DB 詳細］をご参照ください。
- 変更：業務を変更します。業務一覧から業務を選択し、［変更］ボタンをクリックします。
  設定方法は、［DB詳細］をご参照ください。
- コピー：業務をコピーします。業務一覧から業務を選択し、［コピー］ボタンをクリックします。
- 削除：業務を削除します。業務一覧から業務を選択し、［削除］ボタンをクリックします。
- DB編集：DBを編集します。詳細は、**＜DB編集＞**をご参照ください。
  ※　Accessデータベースのみ編集できます。
- 基本登録：選択した業務を定義テーブル上に登録します。
- 基本引用：基本登録で登録した業務を引用します。

1．新たに［ＧＩＳ基本登録設定］ウィンドウが表示されます。
2．［一覧表］・［フォーム］・［表示項目］・［Ｅｘｃｅｌ］・［レイアウト］の各タブをクリックすると、定義テーブル上に登録した業務の編集ができます。
［使用DB一覧］の［追加］・［変更］ボタンをクリックすると、［DB詳細］タブの編集ができます。各タブの設定方法は、それぞれの説明をご参照ください。
3．［引用実行］ボタンをクリックすると、業務を引用します。
4．［閉じる］ボタンをクリックすると、元のウィンドウに戻ります。

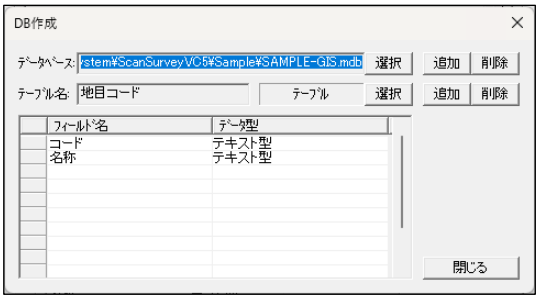
＜DB 編集＞

DB・テーブル・フィールドの追加と削除、フィールド名・データ型の変更を行います。

手順

1） ［ＧＩＳ基本設定］ウィンドウ– ［使用 DB 一覧］から編集する DB を選択し、［DB 編集］ボタンをクリックします。

2） ［DB 作成］ウィンドウが表示されます。



- データベース
  - 選択：編集する DB を選択します。［保存場所と DB 名の指定］ウィンドウから DB を選択します。
  - 追加：新規 DB を作成します。
    ［保存場所と DB 名の指定］ウィンドウから保存場所を指定し、DB 名を入力します。
  - 削除：表示されている DB を削除します。
    ［削除します。よろしいですか？］という確認メッセージが表示されます。
    ［はい］ボタンをクリックすると DB を削除します。
- テーブル名
  - 選択：編集するテーブルを選択します。
    ［テーブル選択］ウィンドウが表示されますのでテーブルを選択します。
  - 追加：新規テーブルを作成します。
    ［テーブル追加］ウィンドウでテーブル名を入力し、［実行］ボタンをクリックします。
  - 削除：表示されているテーブルを削除します。
    ［テーブルを削除します。よろしいですか？］という確認メッセージが表示されます。
    ［はい］ボタンをクリックするとテーブルを削除します。
- フィールド名：フィールド名が表示されます。
  ダブルクリックすると、フィールド名を変更できます。新規フィールドを作成する場合は、空白にフィールド名を入力します。削除する場合は、フィールドを選択し、［Ｄｅｌ］キーを押すと、
  ［フィールドを削除します。よろしいですか？］という確認メッセージが表示されます。
  ［はい］ボタンをクリックすると選択したフィールドが削除されます。
- データ型：データ型が表示されます。データ型をクリックすると変更できます。

3） 設定終了後、［閉じる］ボタンをクリックすると［ＧＩＳ基本設定］ウィンドウに戻ります。

DB 詳細

新規業務の設定、［使用 DB 一覧］で選択した業務を変更します。
関連付けるデータベース・テーブル・キー・Access フォームを設定します。

1） ［GIS 基本設定］ウィンドウの［DB 詳細］タブを選択します。



- 名称：名称を入力します。
- データベース：データベースファイルを選択します。データベース入力部をクリックすると、他の業務で設定した DB を選択できます。［Access DB 選択］ボタンをクリックすると自動的に選択されます。また、［DB 選択］ボタンをクリックすると DB を参照できます。
- テーブル：テーブルを選択します。［テーブル選択］ボタンをクリックし、［テーブル選択］ウィンドウからテーブルまたはクエリーを選択して［OK］ボタンをクリックします。
- Accessフォーム：Accessフォームを選択します。［フォーム選択］ボタンをクリックして、［フォーム選択］ウィンドウからAccessフォームを選択し、［OK］ボタンをクリックします。
- キー：図形と結び付けるキーを選択します。
  - 追加：キーを追加します。［キー選択］ウィンドウからキーを選択し、［OK］ボタンをクリックします。
  - 挿入：指定した位置に新規キーが挿入されます。
    ［キー選択］ウィンドウからキーを選択し、［OK］ボタンをクリックします。
  - 変更：選択したキーを変更します。［キー選択］ウィンドウからキーを選択し、［OK］ボタンをクリックします。
  - 削除：選択したキーを削除します。削除するキーを選択し、［削除］ボタンをクリックします。

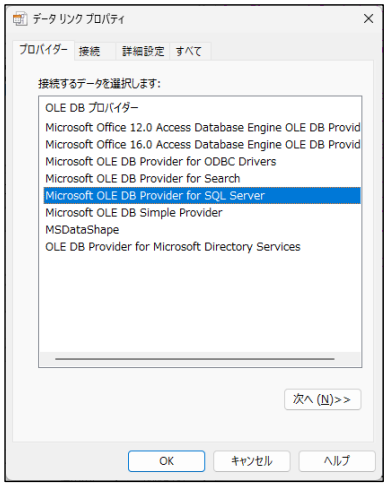
2） ［DB 詳細］タブ内の［適用］ボタンをクリックすると、設定が反映されます。

＜DB の選択＞

手順

1） ［GIS 基本設定］ウィンドウ – ［使用 DB 一覧］から編集する DB を選択し、［変更］ボタンをクリックします。[DB 詳細]タブの[DB 選択]ボタンをクリックします。

2） ［データリンクプロパティ］ウィンドウが表示されます。

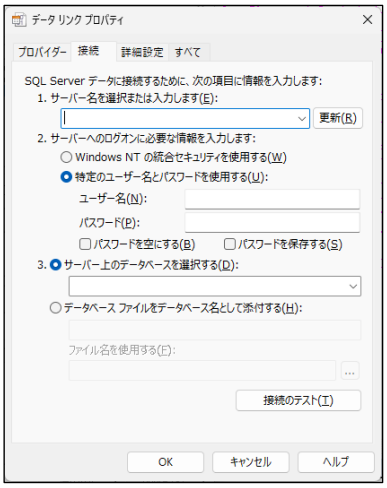


3） 接続するデータを選択します。選択したデータによって、以下の操作は異なります。

ここでは Access データベースへの接続について説明します。

Microsoft Jet 4.0 OLE DB Provider を選択して、［次へ］ボタンをクリックします。

4） ［接続］タブが選択されます。



5） データベース名入力部横の［更新］ボタンをクリックします。

6） ［Access データベースの選択］ウィンドウが表示されます。

7） データベースをダブルクリックするか、データベースを選択し、［開く］ボタンをクリックします。

8） ［データリンクプロパティ］ウィンドウの［OK］ボタンをクリックすると選択されます。

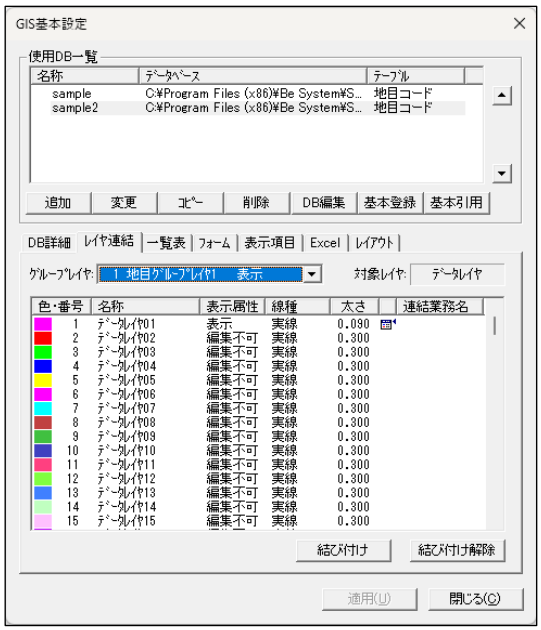
レイヤ連結

業務と結び付けるレイヤを選択します。

現在、編集画面で選択されているレイヤにはデフォルトアイコン が表示されます。

手順

1） ［ＧＩＳ基本設定］ウィンドウの［レイヤ連結］タブを選択します。



- グループレイヤ：グループレイヤを選択します。
- 対象レイヤ：レイヤの種類（データ内レイヤ・システムレイヤ）を表示します。
- 結び付け：レイヤを業務に結び付けます。

  レイヤを選択し［結び付け］ボタンをクリックするか、ダブルクリックします。
- 結び付け解除：レイヤと業務の結び付けを解除します。

  レイヤを選択し［結び付け解除］ボタンをクリックするか、ダブルクリックします。

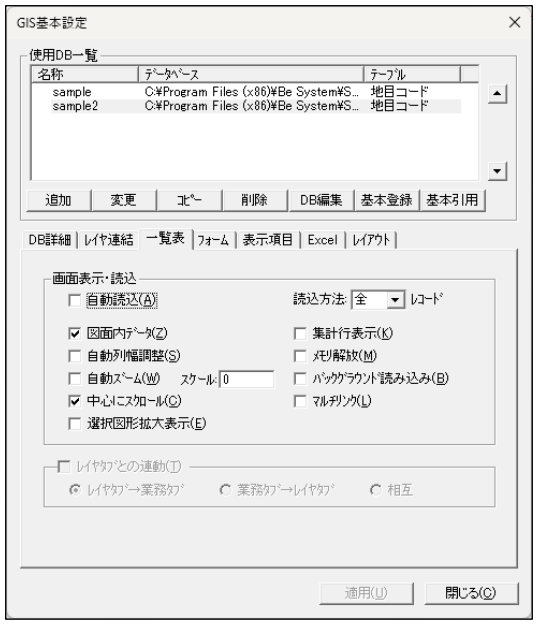
2） レイヤと結び付いた業務には連結アイコン が表示されます。

また、業務と結び付いたレイヤは［連結業務名］に業務名が表示されます。

一覧表

［一覧表形式フォーム］に表示させる方法を設定します。
また、レイヤ表示切替えタブと［一覧表形式フォーム］の業務タブを連動させる設定をします。

1） ［ＧＩＳ基本設定］ウィンドウの［一覧表］タブを選択します。



- 画面表示・読込：［一覧表形式フォーム］に表示させる方法を設定します。
  - 自動読込：図面を開いた時に自動的に最新のデータを読み込み表示します。
  - 読込方法：［一覧表形式フォーム］を表示する時に読み込むレコード件数を設定します。
    件数が少ないほど［一覧表形式フォーム］の表示が高速化されます。
    ・全て：全てのレコードを一度に読み込みます。
    完全に読み込みが終了するまで一部の機能は使用できません。
    ・５０～５０００:一度に読み込む件数を選択します。設定した件数より DB のレコードが
    多い場合は、設定した件数を読み込むと一旦読み込みを終了します。
    ［一覧表形式フォーム］をスクロールさせると再び読み込みを開始します。
  - 図面内データ：図形と結び付いているレコードのみ表示します。
    チェックを外すと、DB 内の全てのデータを表示します。
  - 集計行表示：集計設定で設定した新規フィールド、集計結果を表示します。
  - 自動列幅調整：データ読み込み時にフィールド、フィールド名の文字数に合わせて列の幅を
    自動で調整します。
  - メモリ開放：［一覧表形式フォーム］を閉じると、読み込んだデータをメモリ内から消去します。
    ［一覧表形式フォーム］を開くとき、データの再読み込みを行います。

- 自動ズーム：［一覧表形式フォーム］で選択したレコードと結び付いた図形を拡大表示します。複数選択した場合、先頭の図形が拡大表示します。
  ※ 編集画面を全体図表示している場合のみ有効です。
  - スケール：スケールを設定します。
  - バックグラウンド読み込み：バックグラウンド読み込み設定をします。
  - 中心にスクロール：中心にスクロールします。
  - マルチリンク：データベースレコード：１に対して、図形を複数結びつけることができます。
    ［マルチリンク］にチェックを付けて、ＧＩＳ図形結びつけで複数選択することができます。
- 選択図形拡大表示：選択図形を拡大表示します。複数選択した場合、選択図形が全て収まるように拡大表示します。
- レイヤタブとの連動：編集画面下に表示されているレイヤ表示切替えタブと［一覧表形式フォーム］の業務タブを連動させます。
  - レイヤタブ→業務タブ：選択したタブのレイヤと連結した業務の業務タブが選択されます。
  - 業務タブ→レイヤタブ：選択した業務タブの業務と連結したレイヤのタブが選択されます。
  - 相互：タブと業務タブを相互に連動させます。タブを選択すると、タブのレイヤと連結した業務の業務タブ、業務タブを選択すると、業務と連結したレイヤのタブが選択されます。

フォーム

業務ごとに［フォーム］を設定します。

［表示項目］で設定した内容でフォームを作成します。

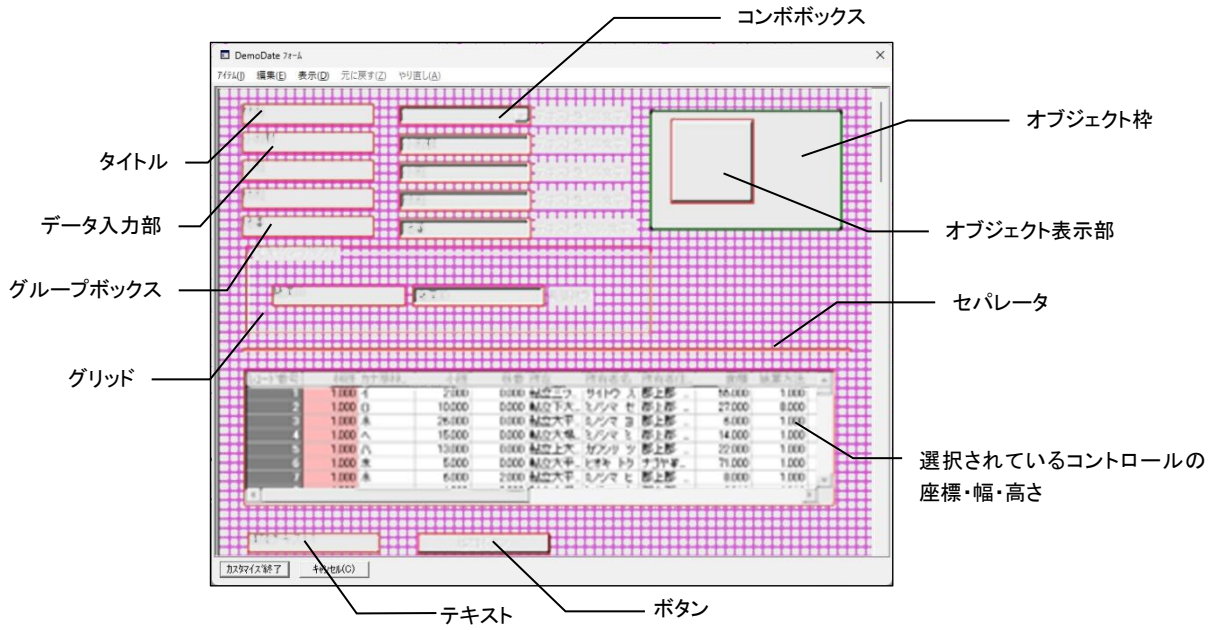
手順

1） ［ＧＩＳ基本設定］ウィンドウの［フォーム］タブを選択します。



- 表示
  - オブジェクト貼り付け：［フォーム］にオブジェクトを貼り付けます。［表示項目］の編集方法で［画像］を選択している場合は、指定できません。
  - データの型：［フォーム］にフィールドのデータ型を表示します。
  - テキスト枠：［フォーム］にテキスト枠を表示します。
  - メッシュ：［フォーム］にメッシュを表示します。
- サイズ：［フォーム］のサイズを確認します。
- フォーム表示方法
  - GIS フォーム：GIS 構築ツールで作成したフォームを表示します。
  - Access フォーム：Access で作成したフォームを表示します。

2） ［コントロールの位置・大きさをカスタマイズ］ボタンをクリックすると、カスタマイズモードの［フォーム］が表示されます。



- タイトル：タイトルが表示されます。デフォルトはフィールド名が表示されます。
  ダブルクリックすると、［フォーム］に表示されるフィールドのタイトルを入力できます。
  マウスで大きさの変更・移動ができます。
- データ入力部：マウスで大きさの変更、マウスと矢印キーで移動ができます。
  ※　コンボボックスの高さは変更できません。
- オブジェクト表示部：［表示項目］の編集方法で［画像］を選択している場合や、［フォーム］
  タブの表示で［オブジェクト貼り付け］を指定している場合に表示されます。
- オブジェクト枠：［表示項目］の編集方法で［画像］を選択している場合に表示されます。
  マウスで枠サイズの変更、マウスと矢印キーで移動ができます。

3） カスタマイズモードの［フォーム］でタイトル・データ入力部を選択し、［Del］キーを押すと、
非表示に切り替わります。

4） メニューバーから項目を選択して編集します。

<テキスト>

- 追加：テキストを作成します。
  1．［テキスト］ – ［追加］を選択します。
  2．テキスト枠が表示されます。
  3．テキスト枠をクリックすると、任意の場所にテキスト枠が配置されます。
  4．ダブルクリックし、テキストを入力します。

- 削除：テキストを削除します。
  削除するテキストを選択し、［テキスト］ – ［削除］を選択するか、［Del］キーを押します。

- ボタン
  - 追加：ボタンを作成します。詳細は、**＜ボタン設定＞**をご参照ください。
  - 削除：ボタンを削除します。削除するボタンを選択し、［ボタン］ – ［削除］を選択するか、［Del］キーを押します。
- グリッド
  - 追加：グリッドを作成します。詳細は、**＜グリッド＞**をご参照ください。
  - 削除：グリッドを削除します。削除するグリットを選択し、［グリット］ – ［削除］を選択するか、［Del］キーを押します。
- グループボックス
  - 追加：グループボックスを作成します。
    1．［グループボックス］ – ［追加］を選択します。
    2．グループボックスが表示されます。グループボックスをクリックすると、任意の場所にグループボックスが配置されます。
    3．ダブルクリックすると、［名称変更］ウィンドウが表示されます。
    4．名称を入力し、［OK］ボタンをクリックします。
  - 削除：グループボックスを削除します。削除するグループボックスを選択し、［グループボックス］ – ［削除］を選択するか、［Del］キーを押します。
- セパレータ
- 横追加：横セパレータを追加します。
  1．［セパレータ］ – ［横追加］を選択します。
  2．セパレータが表示されます。
  3．セパレータをクリックすると、任意の場所にセパレータが配置されます。
  - 縦追加：縦セパレータを追加します。
    1．［セパレータ］ – ［縦追加］を選択します。
    2．セパレータが表示されます。
    3．セパレータをクリックすると、任意の場所にセパレータが配置されます。
  - 削除：セパレータを削除します。削除するセパレータを選択し、［セパレータ］ – ［削除］を選択するか、［Del］キーを押します。
- タブ
  - 追加：タブを追加します。詳細は、**＜タブ＞**をご参照ください。
  - 削除：タブを削除します。削除するタブを選択し、［タブ］ – ［削除］を選択します。
- 編集：コントロールの表示を編集します。コントロールの位置・大きさを複数選択した場合は、最後に選択したコントロールに揃えます。

＜編集＞

- フォント設定：表示文字を編集します。
  1．コントロールを選択し、メニューバーの［編集］ – ［フォント設定］を選択します。
  2．［フォント設定］ウィンドウが表示されます。
  3．フォント名・スタイル・サイズ・前景色（文字色）・背景色（コントロールの背景色）を指定します。
  4．設定終了後、［OK］ボタンをクリックすると［フォーム］に反映されます。

- 左端揃え：コントロールの左端を揃えます。
  コントロールを選択し、［編集］ – ［左端揃え］を選択します。
- 右端揃え：コントロールの右端を揃えます。
  コントロールを選択し、［編集］ – ［右端揃え］を選択します。
- 幅揃え：コントロールの幅を揃えます。
  コントロールを選択し、［編集］ – ［幅揃え］を選択します。
- 高さ揃え：コントロールの高さを揃えます。
  コントロールを選択し、［編集］ – ［高さ揃え］を選択します。

＜表示＞

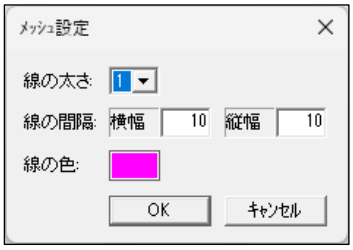
メニューバーの［表示］を選択したときにメニュー項目のチェックが［ＯＮ］になっているのが表示されます。

- フィールドの型：［フォーム］にフィールドのデータ型を表示します。
  ［表示］ – ［フィールドの型］を選択します。
- テキスト枠：［フォーム］にテキスト枠を表示します。
  ［表示］ – ［テキスト枠］を選択します。
- メッシュ：［フォーム］にメッシュを表示します。
  ［表示］ – ［メッシュ］を選択します。
  メッシュが表示されている場合、コントロールを選択して移動すると、メッシュ左上へコントロールがスナップされます。

- メッシュ設定：メッシュを設定します。

1．［表示］－［メッシュ］を選択します。

2．［メッシュ設定］ウィンドウが表示されます。



3．線の太さ・線の間隔・線の色を指定します。

4．設定終了後、［OK］ボタンをクリックします。

＜元に戻す＞

［フォーム］を１つ前の状態に戻します。［元に戻す］を選択します。

＜やり直し＞

［元に戻す］で行った操作を１つ復帰します。［やり直し］を選択します。

5）　［カスタマイズ終了］ボタンをクリックすると、カスタマイズ設定を保存して［ＧＩＳ基本設定］ウィンドウに戻ります。

＜ボタン設定＞

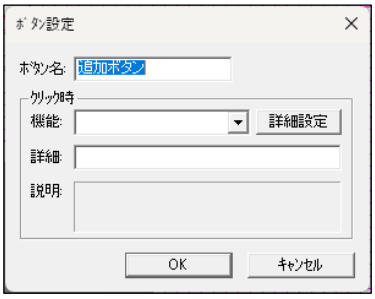
Excel 出力・Access レポート・一覧表印刷・オブジェクト実行・塗潰しレイヤ設定・図形情報表示・GIS 検索・ポリゴン色分け・Access フォーム起動・サブフォーム起動のボタン設定を行います。

［フォーム］でボタンをクリックすると、設定した機能が実行されます。

1） ［ボタン］ – ［追加］を選択すると、ボタンが表示されます。

2） ボタンを配置する場所をクリックします。

3） 追加したボタンをダブルクリックすると、［ボタン設定］ウィンドウが表示されます。



- ボタン名：ボタン名を入力します。
- クリック時：
  - 機能：ボタンをクリックしたときに実行する機能を選択します。
  - 詳細設定：Excel 出力・Access レポート・一覧表印刷・GIS 検索・ポリゴン色分けを選択した場合に、［詳細設定］ボタンをクリックし、［業務名選択］ウィンドウから業務名を選択します。
    オブジェクト実行を選択した場合は、［ファイルを開く］ウィンドウが表示されますので、表示するオブジェクトを選択します。
    サブフォーム起動を選択した場合は、[サブフォーム抽出条件]ウィンドウが表示されます。
    詳細は、＜サブフォーム＞をご参照ください。
  - 詳細：Excel 出力・Access レポート・一覧表印刷・GIS 検索・ポリゴン色分け・Access フォーム起動・サブフォーム起動を選択した場合は、業務名が表示されます。オブジェクト実行を選択した場合は、設定したファイルパスが表示され、ファイルパスの編集ができます。
  - 説明：機能の説明が表示されます。

4） 設定終了後、［OK］ボタンをクリックするとボタンが設定されます。

<グリッド>

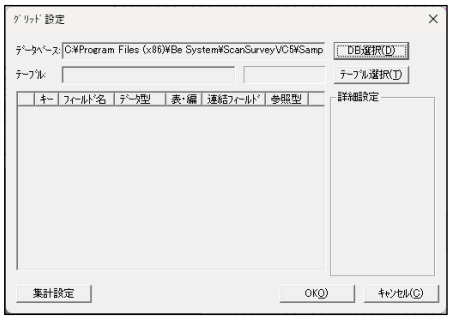
［フォーム］に表示するグリッドを設定します。

［フォーム］上に表示されたレコードと連結フィールド名で指定したフィールドが一致するレコードがグリッド内に表示されます。

1） ［グリッド］ – ［追加］を選択すると、グリッドが表示されます。

2） グリッドを配置する場所をクリックします。

3） グリッド内でダブルクリックすると、［グリッド設定］ウィンドウが表示されます。



- データベース：DB を選択します。［DB 選択］ボタンをクリックすると、DB を参照できます。
  選択方法は、［DB 詳細］ – ＜DB の選択＞をご参照ください。
- テーブル：テーブルを選択します。［テーブル選択］ボタンをクリックし、［テーブル選択］ウィンドウからテーブルを選択します。
- キー：グリッド内のレコードを更新する場合に使用するキーを選択します。
  キーに設定したフィールドにはキーアイコン が表示されます。
  キーに設定したフィールドは、［フォーム］上に赤色で表示され編集できません。
- フィールド名：選択したテーブル内のフィールドが表示されます。
- データ型：データ型が表示されます。
- 表･編：［フォーム］での編集モードを選択します。
  設定方法は、［表示項目］をご参照ください。
- 連結フィールド名：［フォーム］上に表示されたレコードとグリッド内レコードで連結させるフィールドを選択します。選択したフィールド値と同一のレコードがグリッド内に表示されます。
  連結フィールドに設定したフィールドは、［フォーム］上に桃色で表示され編集できません。
- 編集型：データの編集方法を選択します。設定方法は、［表示項目］をご参照ください。
- セルボタン：［フォーム］に表示するボタンの種類を選択します。
  設定方法は、［表示項目］をご参照ください。

4） 設定終了後、［OK］ボタンをクリックすると［フォーム］上に表示されたレコードと連結したレコードがグリッドに表示されます。［フォーム］上に表示されたレコードはグリットには表示されません。

＜タブ＞

［フォーム］に表示するタブを設定します。

［フォーム］上に表示されたレコードと連結フィールド名で指定したフィールドが一致するレコードが、タブ形式で表示されます。表示されるタブは、連結先業務のフォームになります。

1） ［タブ］ – ［追加］を選択すると、タブが表示されます。

2） タブを配置する場所をクリックします。

3） タブ内でマウス右クリックし、［プロパティ］を選択すると［タブ設定］ウィンドウが表示されます。



- 配置設定：本業務内でタブを配置します。
- 業務設定:他ＧＩＳ業務で設定したフォームをタブ配置します。
- 配置設定
  - 追加：タブを追加します。名前を入力します。
  - 削除：タブを削除します。

    タブ作成後、フィールド（タイトル・テキスト）をタブ内に移動するとタブに表示します。

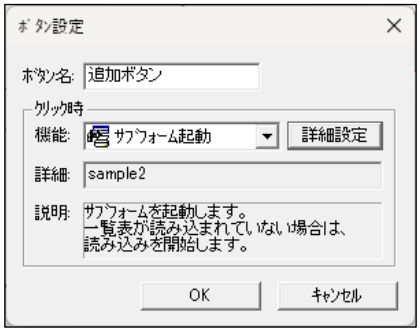
＜業務設定＞

- 連結先業務：連結先業務を選択します。ＧＩＳ業務設定されている業務を選択します。
  （表示されるフォームになります。）
- 連結フィールド：連結するフィールドを選択します。
  ［対象フィールド］・・・表示しているフォームの連結するフィールドを選択します。
  ［比較フィールド］・・・連結先業務の連結するフィールドを選択します。
- 追加：連結フィールドを追加します。
- 削除：連結フィールドを削除します。

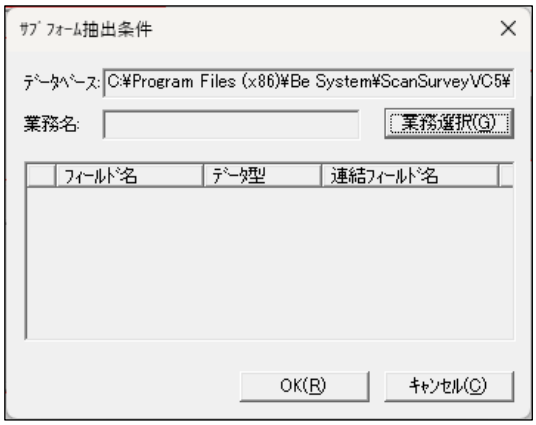
<サブフォーム>

[ボタン設定]ウィンドウ－[機能]でサブフォーム起動を選択したときの詳細設定をします。

1） [ボタン設定]ウィンドウ－[機能]で［サブフォーム起動］を選択し、［詳細設定］ボタンを
クリックします。



2） ［サブフォーム抽出条件］ウィンドウが表示されます。



- データベース：現在選択している業務の DB を表示します。
- 業務名：サブフォームに表示する業務を選択します。
  ［業務選択］ボタンをクリックし、［業務名選択］ウィンドウから業務を選択します。
- フィールド名：選択した業務内のキーフィールドが表示されます。
- データ型：データ型を表示します。
- 連結フィールド名：サブフォームのキーと連結させるフィールドを選択します。
  選択したフィールドと同一の値を持つサブフォームを表示します。

3） ［OK］ボタンをクリックします。設定終了後、フォームのカスタマイズを終了します。

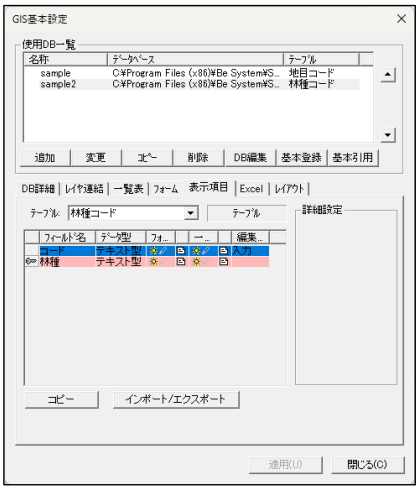
4） ［フォーム］を表示し、サブフォーム起動を設定したボタンをクリックすると、サブフォームが起動します。［フォーム］を閉じるとサブフォームも閉じます。

※ サブフォーム表示中のカスタマイズ、サブフォームの編集はできません。

表示項目

業務ごとに、［フォーム］・［一覧表形式フォーム］に表示させる項目の設定・データの参照方法を設定します。

1） ［ＧＩＳ基本設定］ウィンドウの［表示項目］タブを選択します。



- テーブル：［DB 詳細］で選択した業務のテーブル名が表示されます。
  - フィールド名：フィールドが表示されます。
    キーに設定されているフィールドにはキーアイコン が表示されます。
  - データ型：データ型が表示されます。
  - フォーム：［フォーム］での編集モード、印刷時の表示設定をします。
    フィールドは複数選択が可能で、同時に編集モードの変更ができます。
    非表示のフィールドは印刷できません。フォームまたは一覧で非表示の場合は、それぞれ印刷不可となります。
    （表示）・・・・・・・フィールドの編集可
    （非表示）・・・・・フィールドが非表示
    （編集不可）・・・フィールドの編集不可
    （印刷）・・・・・・・フィールドの印刷可
    （印刷不可）・・・フィールドの印刷不可
  - 一覧：［一覧表形式フォーム］での編集モード、印刷時の表示設定をします。
    設定方法は、<フォーム>と同じです。
  - 編集型：データの編集方法を選択します。
    入力・・・・データを直接入力します。
    参照・・・・他のフィールドを参照し、［フォーム］・［一覧表形式フォーム］にコンボボックスで項目が表示されます。
    画像・・・・選択したフィールドに画像パスを入力すると、［フォーム］に画像が表示されます。

- 詳細設定：データ型や編集方法によって、設定内容が変わります。
  ＜編集方法＞で［入力］を選択した場合は、小数桁とセルボタンを設定します。
  ［参照］を選択した場合は、参照テーブル・結合フィールド・表示フィールド・テーブル表示を設定します。
  - 小数桁：データ型が単精度浮動小数点型・倍精度浮動小数点型の場合、通貨型の場合は表示する桁数を選択します。
    ［設定無し］・・・・・・・・小数をすべて表示します。
    0は表示しません。（１→１、１．１２３０→１．１２３）
    ［０］・・・・・・・・・・・・・・小数を表示しません。（１→１、１．１２３０→１）
    ［その他の数字］・・・・指定した桁まで小数を表示します。
    ２桁に設定した場合（１→１．００、１．１２３０→１．１２）

  - セルボタン：［一覧表形式フォーム］に表示するボタンの種類を選択します。
    セルボタンを設定した場合は、［一覧表形式フォーム］でのフィールド編集ができなくなります。
    キーに設定されたフィールドには自動的に［フォーム表示］ボタンが設定されます。
    なし・・・・・・・・・・・・・・セルボタンを表示しません。
     フォーム表示・・・・・・選択したレコードの［フォーム］を表示します。
     Excel 出力・・・・・・［Excel 出力（選択）］ウィンドウが表示され、Excel 出力ができます。
     オブジェクト実行・・・・ファイルパスが入力されている場合にファイルを開きます。
     オブジェクト設定・・・・クリックすると、［ファイルを開く］ウィンドウが表示されファイル指定ができます。

  - 参照テーブル：参照するテーブルを選択します。
  - 結合フィールド：参照する結合フィールドを選択します。
  - 表示フィールド：参照する表示フィールドを選択します。
  - テーブル表示：参照テーブルのフィールドを表示し、DB を変更することができます。
    ［テーブル］からテーブルを選択します。
    ［一覧表形式フォーム］での表示・編集方法を選択します。
    ［一覧表形式フォーム］上でフィールドを変更して更新すると DB を変更します。
    再読込すると DB を変更したテーブルを参照しているフィールドの表示が変更します。

Excel

Excel へのデータ出力方法を設定します。

登録した Excel 出力設定は▲▼ボタンで順番を変更できます。

先頭の Excel 出力設定が、［Excel 出力］ – ［Excel 出力（選択）］ウィンドウの設定名称にデフォルトとして表示されます。

1） ［GIS 基本設定］ウィンドウの［Excel］タブを選択します。

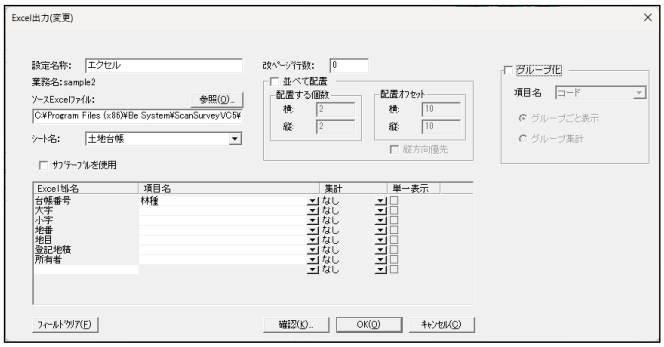
2） ［使用 DB 一覧］で選択している業務の Excel 出力設定をします。



- 追加：Excel 出力設定を追加します。
- 変更：Excel 出力設定を変更します。変更する設定名称を選択します。
- 削除：Excel 出力設定を削除します。

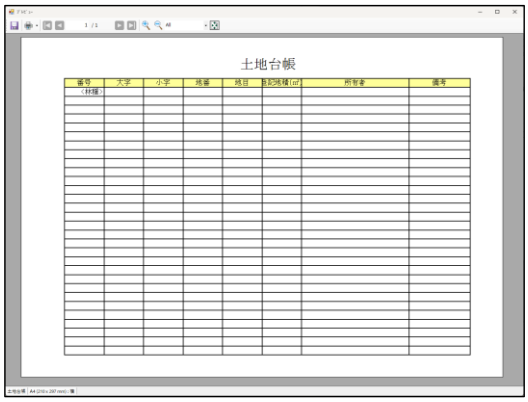
  削除する設定名称を選択し、［削除］ボタンをクリックします。

3） ［追加］・［変更］ボタンをクリックすると、［Excel 出力］ウィンドウが表示されます。



- 設定名称：名称を入力します。
- 業務名：指定した業務名が表示されます。
- ソース Excel ファイル：データを出力する Excel ファイルを選択します。
  ［参照］ボタンをクリックし、［ファイルを開く］ウィンドウから Excel ファイルを選択します。Excel ファイル作成方法は、＜Excel ファイル作成方法＞をご参照ください。
- シート名：データを出力する Excel シートを選択します。
- Excel セル名：データを出力する Excel セル名が表示されます。
- 項目名：データを出力するフィールドを選択します。
- 改ページ行数：改ページする行数を入力します。
  Excel でセル名を入力したセル位置から、指定した行数を出力すると改ページを行います。
  改ページごとにシートが新規作成されます。
  改ページを行わない場合は、0 を入力します。
- フィールドクリア：項目名をクリアします。
  項目名で選択したフィールドをすべてクリアします。
- 並べて配置： 1 ページに複数の Excel 出力を配置します。
- 配置個数： 1 ページに配置する Excel の個数を縦横入力します。
- 配置オフセット：縦横それぞれ複数配置する時の、次の Excel 出力までのセル数を入力します。
- グループ化：Excel 出力時、選択した条件でグループ化を行います

4） 設定終了後、［確認］ボタンをクリックすると［Excel 出力プレビュー］ウィンドウが表示され、Excel 出力の確認ができます。



- 保存：Excel ファイルへ保存します。

  ［Excel ファイルへの保存］ウィンドウでファイル名を入力して保存します。

- 印刷：プレビューされている内容を印刷します。

  メニューバーの［印刷］ – ［印刷］を選択します。

- 前ページ・次ページ：ページを移動します。

5） ［Excel 出力プレビュー］ウィンドウの ×をクリックすると、［Excel 出力］ウィンドウに戻ります。

6） ［OK］ボタンをクリックすると、［GIS 基本設定］ウィンドウに戻ります。

＜Excel ファイル作成方法＞

1） Microsoft Excel を起動し、既存ファイルを開くか新規ファイルを作成します。

2） データを出力するセルを選択します。

3） 名前ボックスに名前を入力し、［Enter］キーを押します。

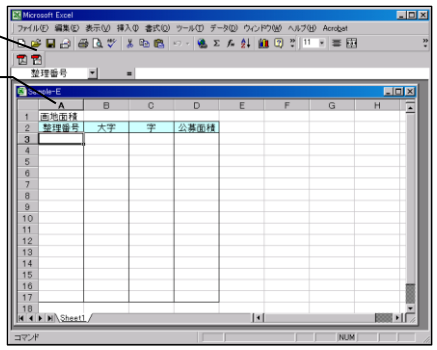
4） セルに名前が設定されます。

※ 一行につき 1 つのセルのみ、セル名を設定してください。

5） 名前を設定したセルを始点にデータが入力されます。

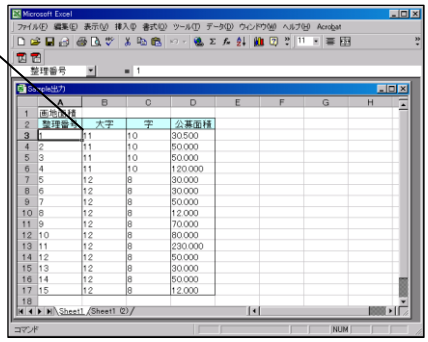
名前ボックス

ここを始点にデータを出力します。



＜データ出力前＞

設定した改ページ行数出力後、新規シートが作成されます。



＜データ出力後＞

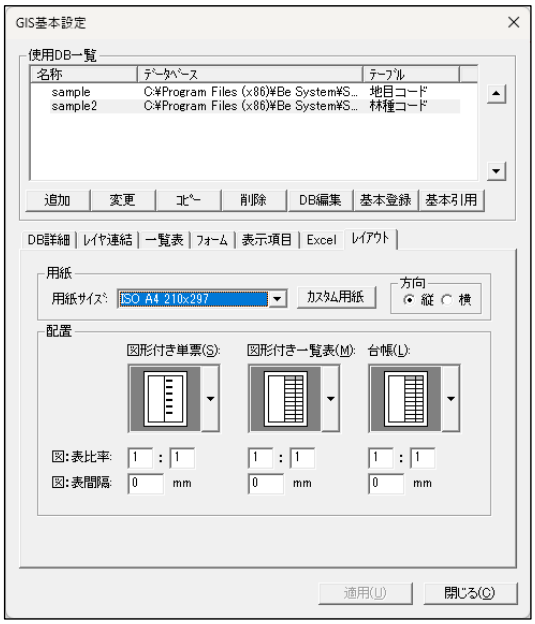
6） Excel ファイルを保存します。

※ Excel シートに集計用マクロ等を記入しておくと、数値型フィールドの合計等が計算できます。

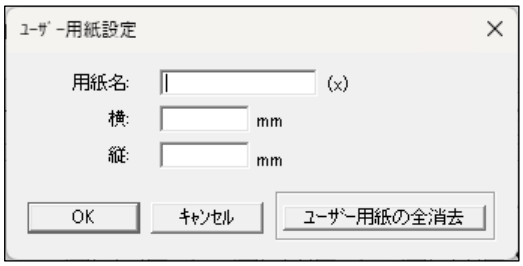
レイアウト

フォーム形式のレコードの印刷、図形とレコード印刷の際のレイアウト設定を行います。

1） ［GIS 基本設定］ウィンドウの［レイアウト］タブを選択します。



- 用紙
  - 用紙サイズ：用紙サイズを指定します。
  - カスタム用紙：カスタム用紙を作成します。
    ［ユーザー用紙設定］ウィンドウが表示されます。



    - 用紙名：用紙名を入力します。
    - 横･縦：横･縦のサイズを入力します。
    - ユーザー用紙の全消去：登録済みのカスタム用紙をすべて消去します。
- 方向：用紙の方向を選択します。

- 配置
  - 図形付き単票：フォーム形式でレコードと図形を印刷する場合の印刷レイアウトを設定します。
    右端▼ボタンをクリックし、レイアウトを選択します。
    図：表比率・・・図形とレコードのレイアウト比率を設定します。
    図：表間隔・・・図形とレコードの間隔を設定します。
  - 図形付き一覧表：一覧表形式でレコードと図形を印刷する場合の印刷レイアウトを設定します。右端▼ボタンをクリックし、レイアウトを選択します。
    図：表比率・・・図形とレコードのレイアウト比率を設定します。
    図：表間隔・・・図形とレコードの間隔を設定します。
  - 台帳：台帳印刷でレコードと図形を印刷する場合の印刷レイアウトを設定します。
    右端▼ボタンをクリックし、レイアウトを選択します。
    図：表比率・・・図形とレコードのレイアウト比率を設定します。
    図：表間隔・・・図形とレコードの間隔を設定します。

2） 設定終了後、［適用］ボタンをクリックします。

XIII.7.2. ［DB］ – ［GIS 設定］ – ［新規･変更］

業務と結び付いたレイヤ内の図形と、レコードを結び付けます。
また、既にレコードと結び付いている図形またはグリッドを選択してデータを変更できます。

新規

1） ［DB］ – ［GIS 設定］ – ［新規･変更］を選択します。
2） カーソルが▲に変わります。
3） データを入力する図形をクリックします。
4） ［フォーム］が表示されます。
- キー：キーを入力します。
- キー情報取得：入力したキーが既に DB 内にあるかどうかを確認します。
  DB 内にある場合は、データが表示されます。
  新規キーの場合は、［このキーは存在しません。］という確認メッセージが表示されます。

5） キー入力後、［決定］ボタンをクリックします。
6） 新規キーの場合は、［レコードを追加します。元に戻せなくなりますが、よろしいですか？］という
確認メッセージが表示されます。［はい］ボタンをクリックすると、新規レコードが DB 内に追加されます。
7） ［フォーム］が表示されます。データを入力します。データ入力方法は、**［変更］**をご参照ください。

変更

1） ［DB］ – ［GIS 設定］ – ［新規･変更］を選択します。
2） カーソルが▲に変わります。
3） データを入力する図形を選択します。
4） ［フォーム］が表示されます。
- カスタマイズ：フォームをカスタマイズします。
  カスタマイズ方法は、［GIS 基本設定］ – ［フォーム］をご参照ください。

5） データを入力します。グリッドを設定している場合は、グリッド内で右クリックすると、右メニューが表示され
レコードの編集ができます。オブジェクト表示枠に表示されたオブジェクトの設定･操作方法は、
＜オブジェクト表示枠の設定＞をご参照ください。
6） データ入力後、［更新］ボタンをクリックします。
［レコードを更新します。元に戻せなくなりますが、よろしいですか？］という確認メッセージが表示されます。
［はい］ボタンをクリックすると、データが DB に更新され［フォーム］が閉じます。
7） 2）に戻ります。

＜オブジェクト表示枠の設定＞

オブジェクト表示部にオブジェクトを表示します。

［GIS 基本設定］ – ［フォーム］でオブジェクトの貼り付けを選択している場合のみ複数のオブジェクトを設定できます。

手順

1） オブジェクト枠をダブルクリックすると、オブジェクトデータを編集するアプリケーションが起動します。

2） オブジェクトを編集します。

オブジェクト枠で右クリックすると、オブジェクト枠の編集メニューが表示されます。

- オブジェクト追加：オブジェクト枠にオブジェクトを追加します。［ファイルを開く］ウィンドウからオブジェクトを選択します。
- オブジェクト変更：現在表示されているオブジェクトを変更します。［ファイルを開く］ウィンドウからオブジェクトを選択します。
- オブジェクト削除：選択したオブジェクトを削除します。
- オブジェクト名：オブジェクト名の表示を切り替えます。
- タイトル名表示：入力したオブジェクト名を表示します。［カスタマイズ］ボタンをクリックして［オブジェクト名］をダブルクリックすると入力もできます。
- フィールド名表示：DB のフィールド名を表示します。
- ファイルパス表示：オブジェクトのファイルパスを表示します。
- ファイル名表示：オブジェクトのファイル名を表示します。
- 表示サイズをリセット：［カスタマイズ］で変更したオブジェクトサイズをリセットしてデフォルトに戻します。

XIII.7.3. ［DB］－［GIS 設定］－［フィールド一括登録］

複数のレコードに同じ値を一括登録します。対象レコードを選択後に処理実行します。

手順

1） ［DB］－［GIS 設定］－［フィールド一括登録］を選択します。

2） ［GIS フィールド一括登録］ウィンドウが表示されます。



3） ［GIS データ］欄に設定値を入力し、［登録欄］にチェックを入れて［ＯＫ］ボタンをクリックすると
選択したレコードに値が設定されます。

XIII.7.4. ［DB］ – ［GIS 設定］ – ［レコード自動追加］

データベースとリンクしていない図形を対象に自動でレコードを追加しリンクします。
この機能は図形とデータベースのレコードを自動リンクするので既存のキーではリンクできません。
予め自動リンクする為のオートナンバー型のフィールドを作成する必要があります。
手順

1） ［DB］ – ［GIS 設定］ – ［レコード自動追加］を選択します。

2） ［GIS レコード自動追加］ウィンドウが表示されます。



- レイヤ設定：レコードを自動追加するレイヤを指定します。
  - 全レイヤ指定：すべてのレイヤを対象にします。
  - レイヤ指定：指定レイヤを対象にします。選択した場合に［レイヤ］を指定します。
- 図形別指定：指定したレイヤに属する図形数が表示されます。
  レコードを自動追加する図形にチェックをします。
- 追加キー名称：新たにキーとするフィールドを指定します。
  この機能ではオートナンバー型のフィールドをキーとするため、オートナンバー型の
  フィールドのみ表示されます。
- 対象図形リスト：レコードを自動追加する対象図形情報を表示します。

3） 設定終了後、［追加実行］ボタンをクリックします。レコードが自動で作成され図形とリンクします。
キーは［追加キー名称］で指定したフィールドに変更されます。

XIII.7.5. ［DB］－［GIS 設定］－［GIS キー］

［DB］－［GIS 設定］－［GIS キー］－［キー変更］

図形の GIS キーを変更し、レコードとの結び付きを変更します。

手順

1） ［DB］－［GIS 設定］－［GIS キー］－［キー変更］を選択します。

2） カーソルが▲で表示されます。

3） GIS キーを変更する図形を選択します。

4） ［GIS・キー変更］ウィンドウが表示されます。



5） GIS キーを入力し、［変更］ボタンをクリックします。

※既にレコードと結び付いている GIS キーは入力できません。GIS キーが変更され、図形とレコードの結び付きが解除されます。入力した GIS キーが DB に存在した場合は、新たにそのレコードと結び付きます。

6） 2.に戻ります。

［DB］－［GIS 設定］－［GIS キー］－［キー削除］

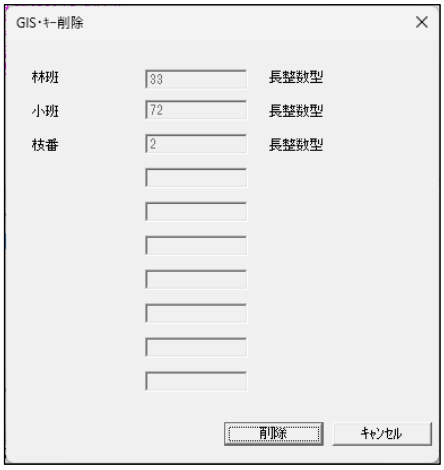
図形の GIS キーを削除し、レコードの結び付きを解除します。
また、レコードを DB から削除することもできます。
手順

1） ［DB］－［GIS 設定］－［GIS キー］－［キー削除］を選択します。

2） カーソルが▲に変わります。

3） GIS キーを削除する図形を選択します。

4） ［GIS･キー削除］ウィンドウが表示されます。



5） ［削除］ボタンをクリックすると、［レコードを削除します。元に戻せなくなりますが宜しいですか？］という確認メッセージが表示されます。［はい］ボタンをクリックすると、レコードを DB 内から削除し、図形の GIS キーも削除します。［いいえ］ボタンをクリックすると、［図面のキーのみ削除します。よろしいですか？］という確認メッセージが表示されます。

［はい］ボタンをクリックすると、図形の GIS キーのみ削除され、レコードは削除されません。

［いいえ］ボタンをクリックすると、削除をキャンセルします。

6） 2.に戻ります。

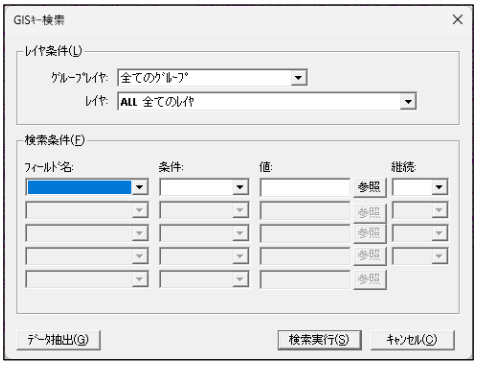
［DB］－［GIS 設定］－［GIS キー］－［キー検索］

図形に設定した GIS キーを検索します。

手順

1） ［DB］－［GIS 設定］－［GIS キー］－［キー検索］を選択します。

2） ［GIS キー検索］ウィンドウが表示されます。

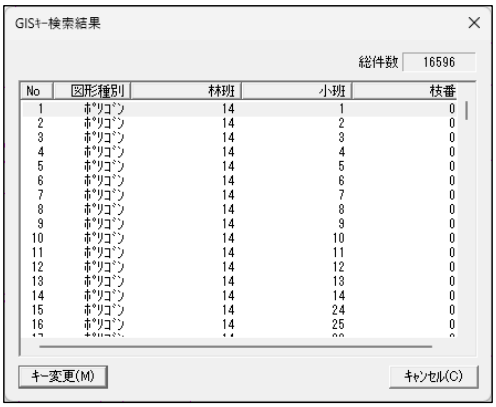


- レイヤ条件：検索するレイヤを指定します。
  - レイヤ：検索するレイヤを選択します。
- 検索条件：検索する条件を指定します。
  - フィールド名：データベースのフィールド名を指定します。
  - 条件：検索する条件を指定します。
  - 値：検索する値（数値または文字）を指定します。
  - 継続：続けて検索対象を追加する場合に使用します AND または OR を選択します。
  - データ抽出：［データ抽出］ボタンをクリックすると設定されている GIS キーを抽出します。
    GIS キーを変更後、再度検索する場合に使用します。

3） 設定終了後、［検索実行］ボタンをクリックします。

4） ［GIS キー検索結果］ウィンドウが表示されます。

5） ［検索結果一覧］でキーを選択し［キー変更］ボタンをクリックすると［キー変更］ウィンドウが表示されキーを変更できます。



6） ［キャンセル］ボタンをクリックすると 2 へ戻ります。

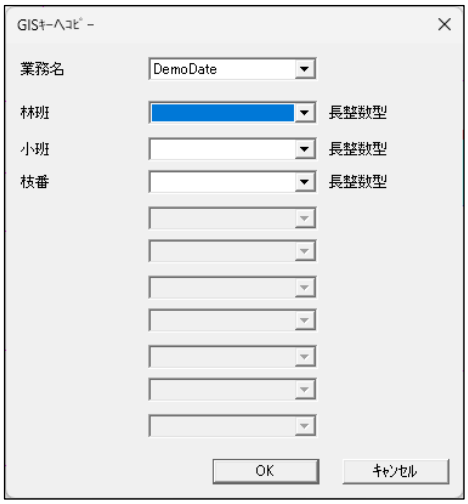
［DB］－［GIS 設定］－［GIS キー］－［キーへコピー］

図形の図形情報（地番・点名）と［一覧表形式フォーム］のキーが一致するレコードと図形を結び付けます。

手順

1） ［DB］－［GIS 設定］－［GIS キー］－［キーへコピー］を選択します。

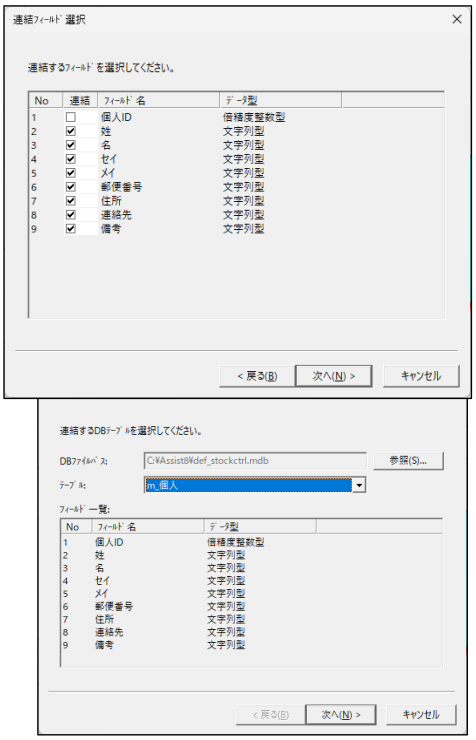
2） ［GIS キーへコピー］ウィンドウが表示されます。



3） 業務名を選択します。

4） ［GIS 基本設定］－［DB 詳細］で設定したキーと一致させる図形情報を選択します。

5） ［ＯＫ］ボタンをクリックすると、キーが一致するレコードと図形を結び付けます。



XIII.7.6. ［DB］ – ［GIS 設定］ – ［フィールド連結］

他の DB フィールドを指定して結合します。
GIS 設定されている図面の DB に、同一キーで管理できる別の DB を結合させることができます。

手順

1）　［DB］ – ［GIS 設定］ – ［フィールド連結］を選択します。

2）　［連結 DB テーブル選択］ウィンドウが表示されます。

- MDB ファイルパス：連結するファイルのパスを入力します。［参照］よりファイルを選択します。
- テーブル：連結する DB のテーブルを選択します。
- フィールド一覧：連結する DB のフィールドの一覧が表示されます。

3）　設定終了後、［次へ］ボタンをクリックします。

4）　［連結キー選択］ウィンドウが表示されます。



- GIS テーブルキー：マッチングする GIS のテーブルキーを選択します。
- 連結テーブルキー：マッチングする連結テーブルキーを選択します。

5）　設定終了後、［次へ］をクリックします。

6）　［連結フィールド選択］ウィンドウが表示されます。

7）　連結するフィールドを選択して、［次へ］をクリックします。

8）　マッチしなかったレコードがあった場合、［アンマッチリスト］ウィンドウが表示されます。

※アンマッチとは連結する DB のキーで既存の GIS 設定側のキーにデータが無いものです。

9） ［完了］をクリックすると、DB が連結されます。

XIII.7.7. ［DB］ – ［GIS 設定］ – ［フィールド文字置換］

指定された DB フィールドの値を置換します。

手順

1） DB 一覧から変更したいレコードを選択します。（複数選択可）

2） ［DB］ – ［GIS 設定］ – ［フィールド文字置換］を選択します。

3） ［GIS フィールド一括置換］ウィンドウが表示されます。



- 対象テーブル：選択しているレコードがあるテーブル名が表示されます。
- 置換対象列：置換の対象となるフィールドを選択します。
- 検索する文字列：置換前（現在）の値を入力します。
- 置換後の文字列：置換後の値を入力します。
- 大文字・小文字を区別しない：大文字・小文字にかかわらず置換する場合はチェックをいれます。

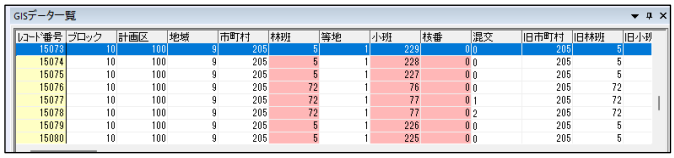
4） ［置換］をクリックすると、DB が更新され置換が行われます。

XIII.8. ［DB］ – ［AssistDB 操作］

DB を設定・操作します。

XIII.8.1. ［DB］ – ［AssistDB 操作］ – ［DB レコード→選択画地データ転送（キー以外）］

背景 DB のキー以外の情報を選択画地に転送します。転送されるフィールドは［AssistDB 操作］ – ［背景画地・所有者 MDB フィールド設定］で設定したデータです



手順

1） DB 一覧テーブルで背景レイヤタブを選択し、DB から転送したいレコードを選択します。

2） ［DB］ – ［AssistDB 操作］ – ［DB レコード→選択画地データ転送（キー以外）］を選択します。

3） カーソルが▲に変わります。

4） DB 情報を転送する画地を選択します。

[DB レコード貼り付け優先設定]ウィンドウが開きます。キーが未登録の画地を選択した場合は、
警告のメッセージが表示されます。その場合はキーを設定してください。

5） ［上書き］を押すと、選択した画地に背景 DB のキー以外のデータが上書きされます。
［転送しない］を押すと空白項目にのみデータが転送されます

XIII.8.2. ［DB］ – ［AssistDB 操作］ – ［全 DB→全画地同一キーデータ転送］

全ての背景 DB から同一キーを持つ画地（所有者 MDB）へ DB 情報を転送します。この転送されるフィールドは［DB］ – ［AssistDB 操作］ – ［背景画地・所有者 MDB フィールド設定］で設定したデータです。

手順

1） ［DB］ – ［AssistDB 操作］ – ［全 DB→全画地同一キーデータ転送］を選択します。

2） 更新件数が表示されます。

3） [ＯＫ]を押すと、 [DB レコード貼り付け優先設定]ウィンドウが開きます。
操作方法は O 1-4-1［DB］ – ［AssistDB 操作］ – ［DB レコード→選択画地データ転送（キー以外）］と同様です。

※背景 DB のキーと Assist キーのリンク設定は後述**XII.8.5.［DB］ – ［AssistDB 操作］ – ［背景画地・所有者 MDB フィールド設定］**をご参照ください。

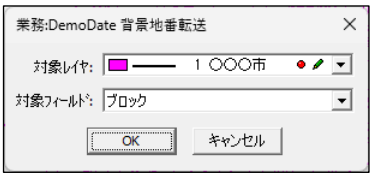
XIII.8.3. ［DB］ – ［AssistDB 操作］ – ［背景画地地番転送］

背景画地の地番にフィールドからコピー。

手順

1） ［DB］ – ［AssistDB 操作］ – ［背景画地地番転送］を選択します。

2） ［業務背景　背景地番転送］ウィンドウが開きます。
対象レイヤと対象フィールドを選択し、[OK]を選択します。



3） ［取込開始］ボタンをクッリクすると取り込みが開始されます。

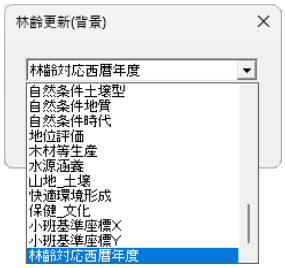
XIII.8.4. ［DB］ – ［AssistDB 操作］ – ［背景画地林齢更新］

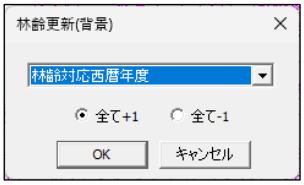
林齢を 1 年加算、または 1 年減算する。

手順

1） ［DB］ – ［AssistDB 操作］ – ［背景画地林齢更新］を選択します。

2） ［林齢更新］ウィンドウが表示されます。





3） 林齢を更新したいフィールドを選択し[ＯＫ]ボタンをクリックします。

4） 林齢が一年加算 1 年、または 1 年減算されます。

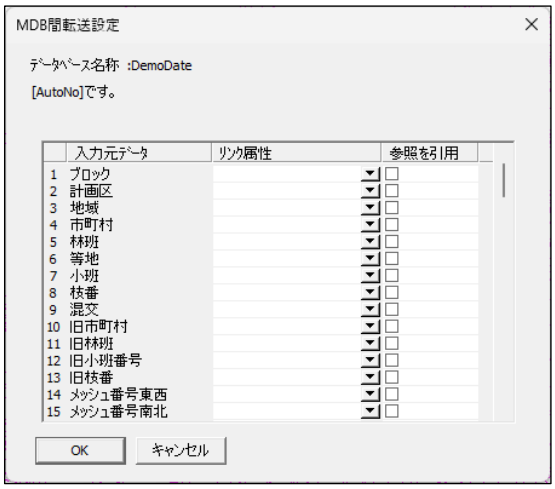
XIII.8.5. ［DB］ – ［AssistDB 操作］ – ［背景画地･所有者 MDB フィールド設定］

背景 DB から所有者 DB への転送先を設定します。この設定は［DB レコード→選択画地データ転送（キー以外）］/［全 DB→全画地同一キーデータ転送］/［背景画地表示切替］で使用されます。

手順

1） ［DB］ – ［AssistDB 操作］ – ［背景画地･所有者 MDB フィールド設定］を選択します。

2） ［MDB 間転送設定］ウィンドウが開きます。



- 入力元データ：背景 DB のフィールド名です。
- リンク属性：所有者 DB（Assist 画地情報）のフィールド名です。
  項目を選択し、背景 DB の各フィールドに割り当てます。
- 参照引用：背景 DB が参照テーブルを利用している場合、参照テーブル側の値を
  Assist 項目に転送します。

3） 設定終了後［ＯＫ］ボタンをクリックします。

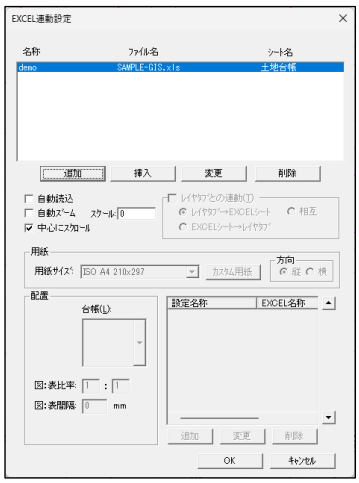
XIII.9. ［DB］－［EXCEL 連動］

Excel ファイルと図形を連動させる設定をします。

XIII.9.1. ［DB］－［EXCEL 連動］－［連動設定］

1） ［DB］－［EXCEL 連動］－［連動設定］を選択します。

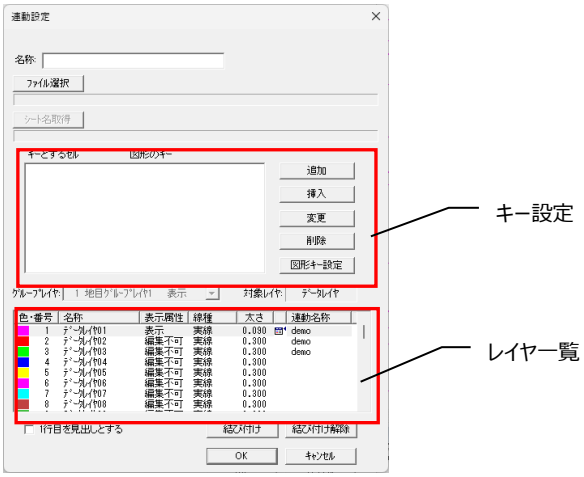
2）「EXCEL 連動設定」ウィンドウが表示されます。



- 追加：EXCEL 連動設定を追加します。「追加」ボタンをクリックすると、「連動設定」ウィンドウが表示されます。
- 挿入：設定済みの一覧に EXCEL 連動設定を挿入します。「挿入」ボタンをクリックすると、「連動設定」ウィンドウが表示されます。
- 変更：設定済みの EXCEL 連動設定を変更します。「変更」ボタンをクリックすると、「連動設定」ウィンドウが表示されます。
- 削除：設定済みの EXCEL 連動設定を削除します。
- 自動読込：自動で読み込みます。
- 自動ズーム：EXCEL 行を選択すると、対象図形がズームアップします。
- 中心にスクロール：中心にスクロールします。
- レイヤタブとの連動
  - レイヤタブ→EXCEL シート：レイヤタブを変更すると、そのレイヤに結びつけられている EXCEL を表示します。
  - EXCEL シート→レイヤタブ：タスクバーの EXCEL を選択すると、その EXCEL が設定されているレイヤタブに変更します。
- 相互：上記 EXCEL シートとレイヤタブ相互に表示変更されます。
- 用紙：用紙を設定します。
- 配置：配置を設定します。

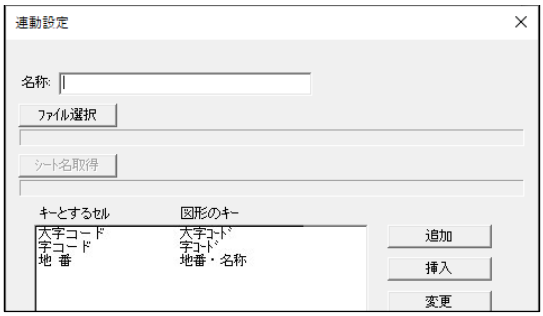
3）「OK」ボタンをクリックすると終了します。

<EXCEL 連動設定方法>

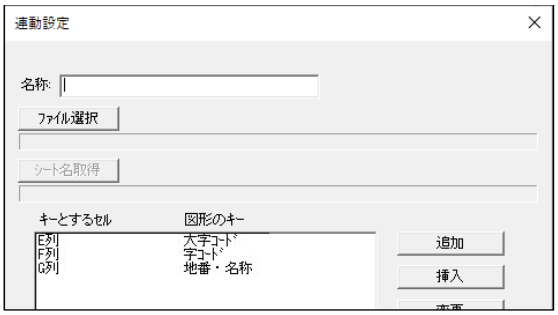


- 名称：Excel 連動設定の名称を入力します。
- ファイル選択：Excel 連動設定をする EXCEL ファイルを指定します。
  1. 「ファイル選択」ボタンをクリックすると「ファイルを開く」ウィンドウが表示されます。
  2. ファイルを選択して「開く」ボタンをクリックすると Excel ファイルが開きます。
- シート名取得：Excel ファイルのシート名を選択します。
  1. Excel ファイルのシートを選択します。
  2. 「シート名取得」ボタンをクリックするとシートが選択されます。
- キー設定：Excel と図形を連動させるキーを設定します。
- 追加：連動するキーを追加します。
  1. Excel ファイルのシートでキーにする列を選択します。
  2. 「追加」ボタンをクリックするとキー設定の一覧に Excel の列と図形のキーが表示されます。
- 挿入：連動するキーを追加し挿入します。
  1. Excel ファイルのシートでキーにする列を選択します。
  2. 「挿入」ボタンをクリックするとキー設定の一覧に Excel の列と図形のキーが表示されます。
- 変更：連動するキーを変更します。
  1. Excel ファイルのシートでキーにする列を選択します。
  2. 「変更」ボタンをクリックするとキーが変更されます。
- 削除：設定したキーを削除します。
  1. キー設定の一覧で削除するキーを選択します。
  2. 「削除」ボタンをクリックするとキーが削除されます。

- 図形キー設定：図形のキーを選択します。EXCEL 連動では GIS キーの他に図形に設定した各要素を直接キーとして使用できます。使用可能要素は「地番・名称／属性／都道府県コード／都道府県名／市町村コード／市町村名／大字コード／大字名／字コード／字名」です。
  1. 「図形キー設定」ボタンをクリックすると「図形キー設定」ウィンドウが表示されます。
  2. キーにする要素を選択します。属性を選択した場合は対象とする属性タイトルを選択します。
- 1 行目を見出しとする：連動する Excel の 1 行目の項目を見出しとして使用できます。
  1. 「1 行目を見出しとする」にチェックを入れます。



1 行目を見出しとした場合



1 行目を見出しとしなかった場合

- 結び付け：Excel と連動する図形のレイヤを設定します。
  1. レイヤ一覧から結び付けるレイヤを選択します。
  2. 「結び付け」ボタンをクリックするとレイヤ一覧で選択したレイヤの連結名称欄に設定名称が表示されます。
- 結び付け解除：Excel と連動する図形のレイヤを解除します。
  1. レイヤ一覧から結び付けを解除するレイヤを選択します。
  2. 「結び付け解除」ボタンをクリックするとレイヤ一覧で選択したレイヤの連結名称欄の設定名称が削除されます。

XIII.9.2. ［DB］ – ［EXCEL 連動］ – ［起動］

図形と連動させる Excel ファイルを起動します。

手順

1） ［DB］ – ［EXCEL 連動］ – ［起動］を選択します。

2） Excel ファイルが起動し画面下部に表示されます。

XIII.9.3. ［DB］ – ［EXCEL 連動］ – ［検索］

Excel データを検索します。

手順

1） ［DB］ – ［EXCEL 連動］ – ［検索］を選択します。

2） ［EXCEL 検索］ウィンドウが表示されます。



- 名称：Excel データの名称です。
- レイヤ条件：検索するレイヤを選択します。
  - グループレイヤ：グループレイヤを選択します。
  - レイヤ：レイヤを選択します。
    すべてのレイヤを選択すると、選択したグループレイヤ内のすべてのレイヤを検索します。
  - 対象レイヤ：レイヤの種類（データ内レイヤ・システムレイヤ）を選択します。
- 検索条件：検索条件を指定します。（複数指定可）
  - フィールド名：フィールド名を選択します。
  - 条件：「値」との検索時の比較条件を選択します。
    「＊あいまい」を選択した場合は、ワイルドカードが対応になります。
  - 値：検索時の基準値を入力します。
    1. 「参照」ボタンをクリックすると、「参照」ウィンドウが表示されます。
    2. 指定した「フィールド名」に該当する検索条件が表示されます。
    3. 「選択」ボタンをクリックすると、選択したデータが「値」に入力されます。
  - 参照：2 番目の「参照」ボタンをクリックすると、1 番目の条件で絞り込んだデータが表示され、
    選択することができます。

- 継続：検索条件を複数指定する場合に検索方法を指定します。
  「AND」を選択すると、現在の検索条件とその次に設定した検索条件を満たすレコードを検索します。「OR」を選択すると、現在の検索条件または次に設定した検索条件のどちらかを満たすレコードを検索します。「空欄」を選択すると、次の検索条件を設定しません。
- 範囲条件：範囲方法：全て・矩形・円を選択します。
- 表示
  - ポリゴン塗り潰し：検索条件に該当する図形を指定したポリゴンレイヤに変更します。
    色表示部の「色ボタン」をクリックすると、「塗り潰しレイヤリスト」ウィンドウが表示され、ポリゴンレイヤが選択できます。
- 検索：検索を開始します。

3） 設定終了後、「検索」ボタンをクリックします。
検索条件に該当するレコードが見つかった場合はウィンドウに件数が表示されます。

XIII.9.4. ［DB］ – ［EXCEL 連動］ – ［表示］ – ［一覧形式表示］

標準表示の Excel ファイルを一覧表形式表示に切替えます。

手順

1） ［DB］ – ［EXCEL 連動］ – ［表示］ – ［一覧形式表示］を選択します。

2） 標準表示の Excel ファイルが一覧表形式表示に切り替わり画面下部に表示されます。

XIII.9.5. ［DB］ – ［EXCEL 連動］ – ［表示］ – ［標準表示］

一覧表形式表示の Excel ファイルを標準表示に切替えます。

手順

1） ［DB］ – ［EXCEL 連動］ – ［表示］ – ［標準表示］を選択します。

2） 標準表示の Excel ファイルが一覧表形式表示に切り替わり画面下部に表示されます。

XIII.9.6. ［DB］ – ［EXCEL 連動］ – ［表示］ – ［表示位置変更］

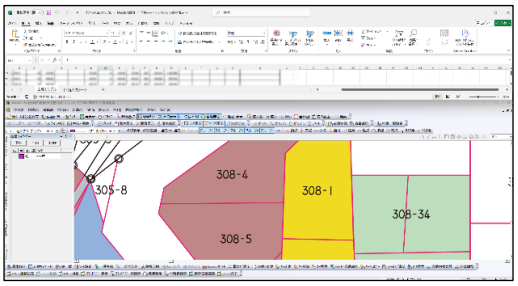
Excel の表示位置を変更します。

手順

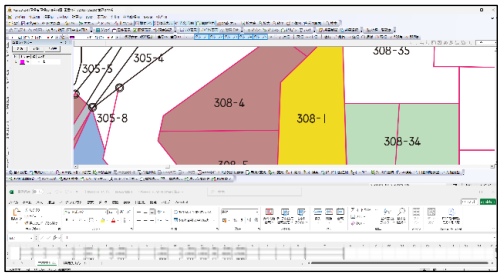
1） ［DB］ – ［EXCEL 連動］ – ［表示］ – ［表示位置変更］を選択します。

2） 上下左右に Excel の表示位置を変更することができます。

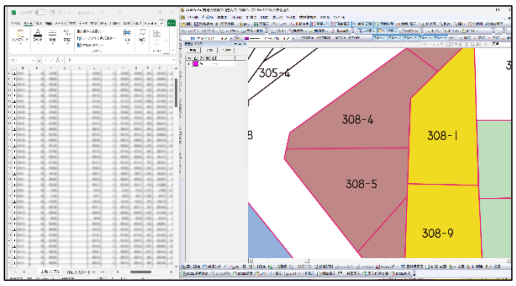
Excel 表示画面（上）



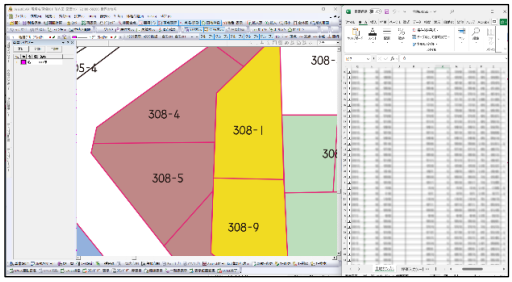
Excel 表示画面（下）



Excel 表示画面（左）



Excel 表示画面（右）



XIII.9.7. コマンドバー表示/非表示

Excel コマンドバーの表示/非表示の設定をします。

手順

1） ［DB］ – ［EXCEL 連動］ – ［コマンドバー］ – ［コマンドバー表示］または、
［コマンドバー非表示］選択します。

2） コマンドバーが表示/非表示されます。

XIII.9.8. ［DB］ – ［EXCEL 連動］ – ［終了］

Excel ファイルを終了します。

手順

1） ［DB］ – ［EXCEL 連動］ – ［終了］を選択します。

2） Excel ファイルが終了します

XIV.　表示

XIV.1. ［表示］－［再表示］



最新のラスタデータとベクタデータを表示します。

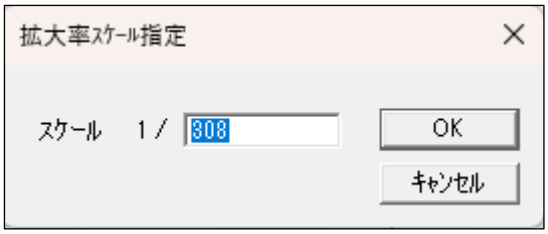
XIV.2. ［表示］－［ズーム］

画面上で図面を拡大・縮小して表示します。

［表示］－［ズーム］を選択すると以下の拡大メニューが表示されます。

- 全体図：全体図を表示します。
- 窓：矩形で指定した範囲を拡大します。 
- 拡大：図面の画面中心を１サイズ拡大します。 
- 縮小：図面の画面中心を１サイズ縮小します。 
- スケール指定：図面のスケールを指定して表示します。 

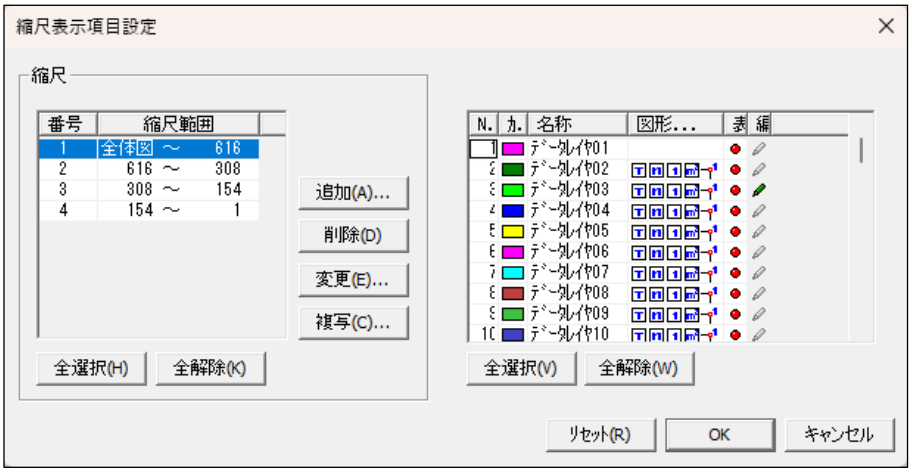
  [拡大率スケール指定]ウィンドウが表示されるので、任意の数値を入力し［ＯＫ］ボタンをクリックします。



- 前画面：画面を一つ前のサイズに戻します。
- 基本画面設定：現在の表示位置・拡大率が基本画面として設定されます。 
- 基本画面表示：基本画面設定で設定した位置・拡大率で図面が表示されます。

- スケール別要素表示：下記のスケール別要素表示設定で設定した内容で表示されます。

- スケール別要素表示設定：スケール別の要素表示を設定することができます。
  [縮尺表示項目設定]ウィンドウが表示されるので、縮尺の番号別に
  各レイヤの要素表示を設定します。
  設定した内容を反映させるには、上記[スケール別要素表示]を有効に
  する必要があります。



XIV.3. ［表示］ – ［ドラッグ］

編集画面をマウスで移動させます。

手順

1） メニューバーから［表示］ – ［ドラッグ］を選択します。

2） カーソルが  に変わります。

3） マウスで画面をドラックします。

4） 再度［表示］ – ［ドラッグ］を選択すると、カーソルが矢印に変わります。 

5） マウスで図面を選択します。

※［表示］ – ［ドラッグ］を選択しなくても、マウスの右ボタンをクリックした状態でドラッグスクロールもできます。

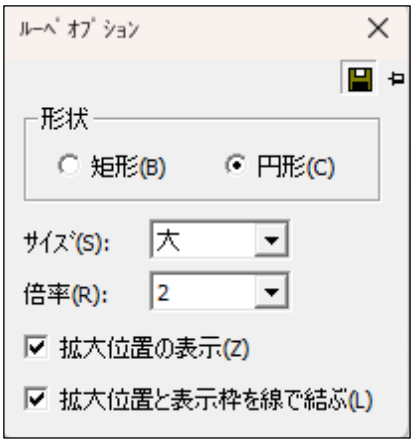
XIV.4. ［表示］－［ルーペ機能］

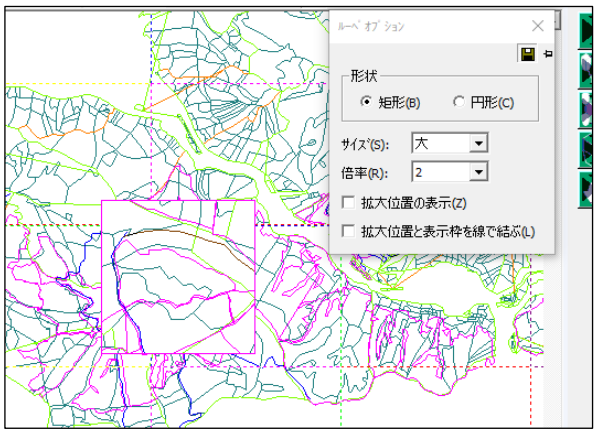
拡大させたい部分を切り取って表示させます。

手順

1） ［表示］－［ルーペ機能］を選択します。

2） [ルーペオプション]ウィンドウが表示されるので、ルーペの形状や拡大率などの設定を行います。





3） カーソルが十字マークに変わります。拡大させたい部分をクリックすると破線で表示されます。

4） 次にルーペを配置する場所を選びクリックします。

クリックすると映っている地図を保存することができ、任意の場所に表示したまま作業が可能です。

XIV.5. ［表示］－［点名］ 

点名の表示／非表示を切り替えます。

手順

1） ［表示］－［点名］を選択します。

2） 点名の表示／非表示を切り替えます。

※選択ごとに、点名表示、点名印刷表示、非表示に切り替わります。

メニューバーの表示も［表示］－［点名］、［表示］－［点名－固定］、

［表示］－［点名－印刷］に切り替わります。

XIV.6. ［表示］－［地番］ 

地番の表示／非表示を切り替えます。

手順

1） ［表示］－［地番］を選択します。

2） 地番の表示／非表示を切り替えます。

※選択ごとに、地番表示、地番印刷表示、非表示に切り替わります。

メニューバーの表示も［表示］－［地番］、［表示］－［地番－固定］、

［表示］－［地番－印刷］に切り替わります。

XIV.7. ［表示］－［ライン名称］

ライン名の表示／非表示を切り替えます。

手順

1） ［表示］－［地番］を選択します。

2） 地番の表示／非表示を切り替えます。

XIV.8. ［表示］－［画地確認］ 

ポリゴンを網掛けして表示します。

手順

1） ［表示］－［画地確認］を選択します。

2） ポリゴン毎に色を変色し、網掛けします。

XIV.9. ［表示］－［図形別］

図形別に表示または点滅します。

XIV.9.1. ［表示］－［図形別］－［図形別表示（1）］

図形別に表示します。

手順

1） ［表示］－［図形別］－［図形別表示］－［ポイント］・［ライン］・［ポリゴン］・［テキスト］を選択します。

2） 選択した図形（ポイント／ライン／ポリゴン／テキスト）が表示されます。

XIV.9.2. ［表示］－［図形別］－［図形別点滅（2）］

図形別に点滅表示します。

手順

1） ［表示］－［図形別］－［図形別点滅］－［ポイント］・［ライン］・［ポリゴン］・［テキスト］を選択します。

2） 選択した図形（ポイント／ライン／ポリゴン／テキスト）が点滅表示されます。

XIV.10. ［表示］－［ユーザー定義］

各項目の表示／非表示を切り替えます。

［表示］－［ユーザー定義］を選択すると以下のメニューが表示されます。

- グリッド：グリッドの表示／非表示を切り替えます。 

- 面積：画地面積と引出し線の表示／非表示を切り替えます。（面積は自動計算されます。） 

- 属性：属性の表示／非表示を切り替えます。 

- 頂点：頂点の表示／非表示を切り替えます。 

- 基準座標：各座標系の基準点の表示／非表示を切り替えます。

XIV.11. ［表示］－［フォント］

各項目のフォントを設定します。

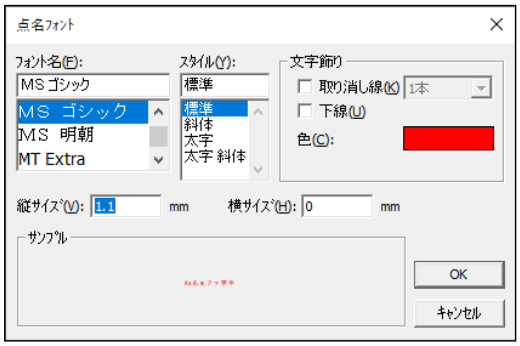
XIV.11.1. ［表示］－［フォント］－［印刷頂点名］

印刷頂点名のフォントを設定します。

手順

1) ［表示］－［フォント］－［印刷頂点名］を選択します。

2) ［点名フォント］ウィンドウが表示されます。



- フォント名：フォントの種類を選択します。
- スタイル：文字のスタイルを選択します。
- 文字飾り：作成する文字に文字飾りをつけるときに選択します。
- 色：テキストの色を設定します。
- 縦サイズ・横サイズ：文字の縦のサイズと横のサイズを設定します。
- サンプル：設定したテキストのプレビューを表示します。

3) 設定終了後、［ＯＫ］ボタンをクリックします。

XIV.11.2. ［表示］－［フォント］－［印刷地番］

印刷頂点名のフォントを設定します。

手順

1) ［表示］－［フォント］－［印刷地番］を選択します。

2) ［地番フォント］ウィンドウが表示されます。

設定詳細は、**Ⅷ.11.1. ［表示］－［フォント］－［印刷頂点名］**をご参照ください。

XIV.11.3. ［表示］－［フォント］－［固定地番］

固定地番のフォントを設定します。

手順

1） ［表示］－［フォント］－［固定地番］を選択します。

2） ［地番フォント］ウィンドウが表示されます。

設定詳細は、**Ⅷ.11.1.［表示］－［フォント］－［印刷頂点名］**をご参照ください。

XIV.11.4. ［表示］－［フォント］－［面積］

面積表示のフォントを設定します。

手順

1） ［表示］－［フォント］－［面積］を選択します。

2） ［画地面積フォント］ウィンドウが表示されます。

設定詳細は、**Ⅷ.11.1.［表示］－［フォント］－［印刷頂点名］**をご参照ください。

XIV.12. ［表示］－［固定点名設定］

頂点名のサイズと表示位置、表示色を指定します。

手順

1） ［表示］－［固定点名設定］を選択します。

2） ［文字表示設定］ウィンドウが表示されます。



- ［左上］～［右下］：頂点に対して頂点名を表示する位置を選択します。
- 印刷点名も移動：固定頂点名の移動と同時に印刷頂点名も移動します。
- ［フォント変更］：固定頂点名のフォントを変更します。

  設定詳細は、**Ⅷ.11.1.［表示］－［フォント］－［印刷頂点名］**を
  ご参照ください。

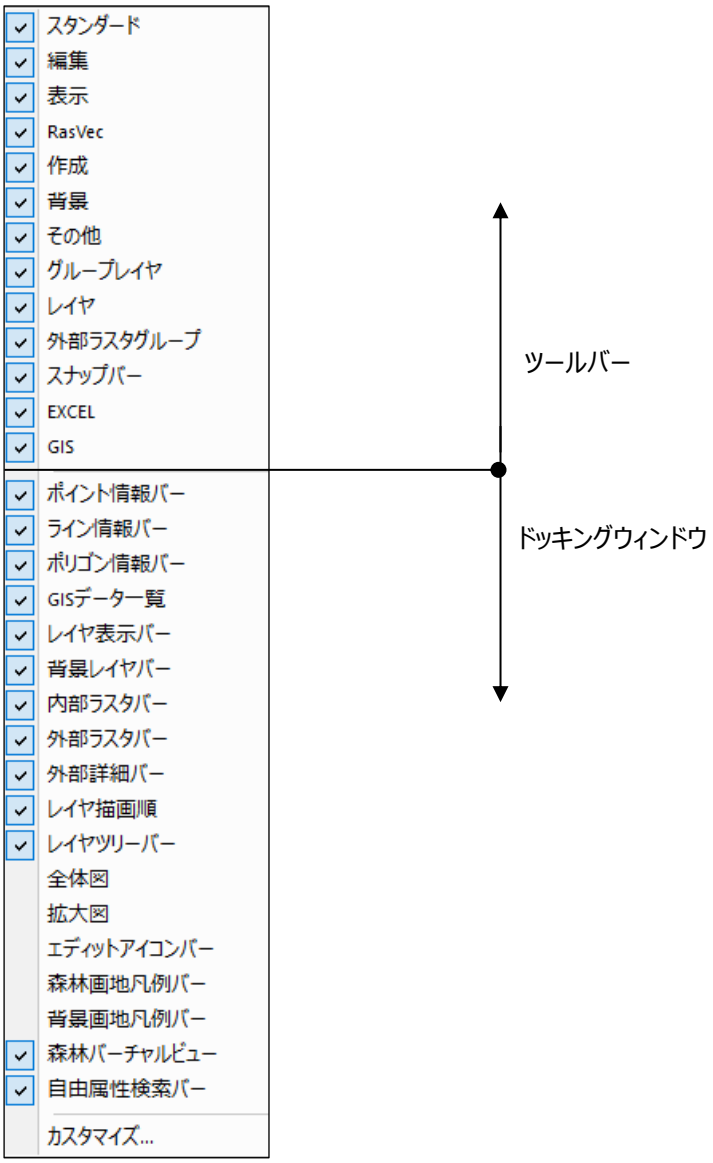
【注意】色設定は印刷時や拡張機能の自動テキスト化には未対応です。
また、点名の場所は「右下」が動作上最速です。

XIV.13. ［表示］ – ［ツールバーとドッキングウィンドウ］

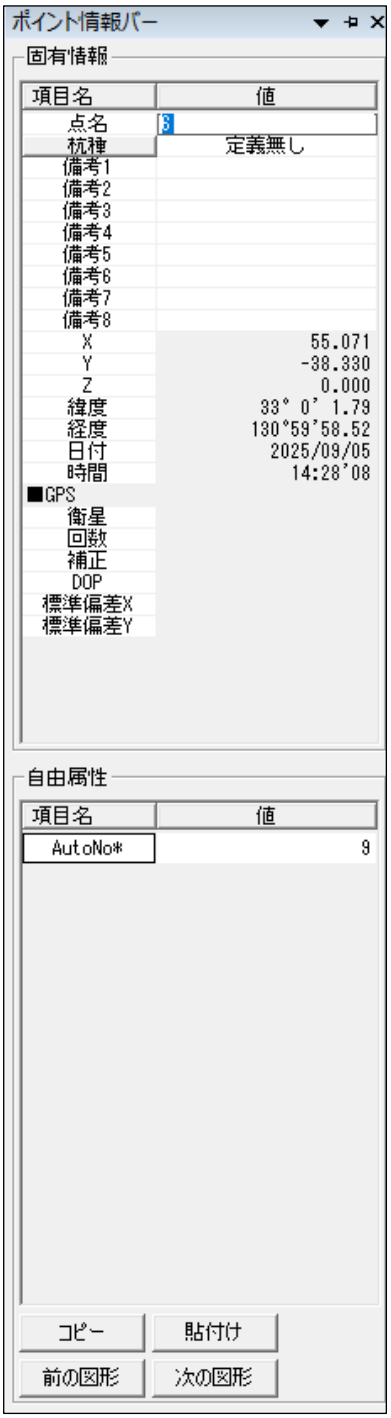
各ツールバーの表示／非表示を切り替えます。

［表示］―［ツールバーとドッキングウィンドウ］を選択すると、以下のメニューが表示されます。

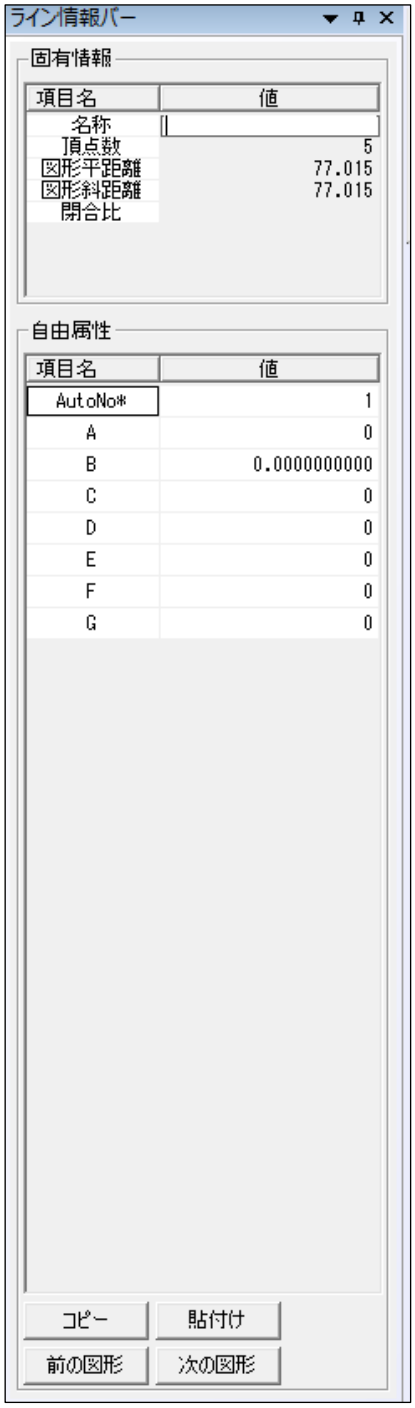
ツールバーにつきましては**Ⅱ.1.1 各種ツールバー、Ⅱ.1.2 スタンダードツールバー**をご参照ください。



ポイント情報バー



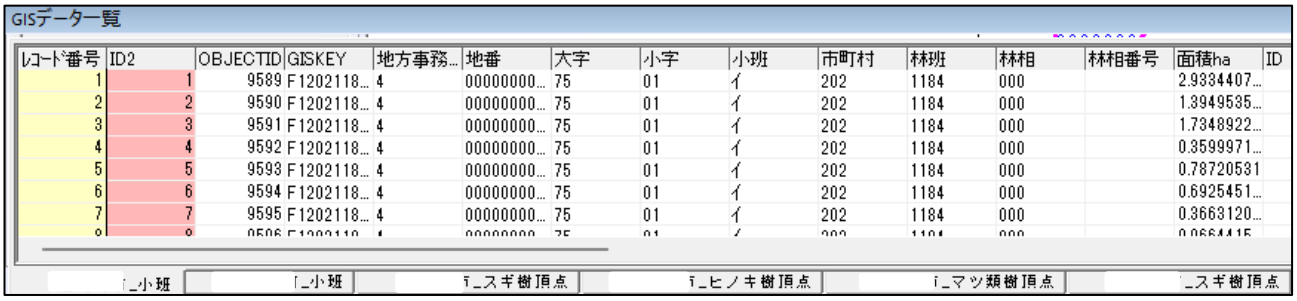
ライン情報バー



ポリゴン情報バー



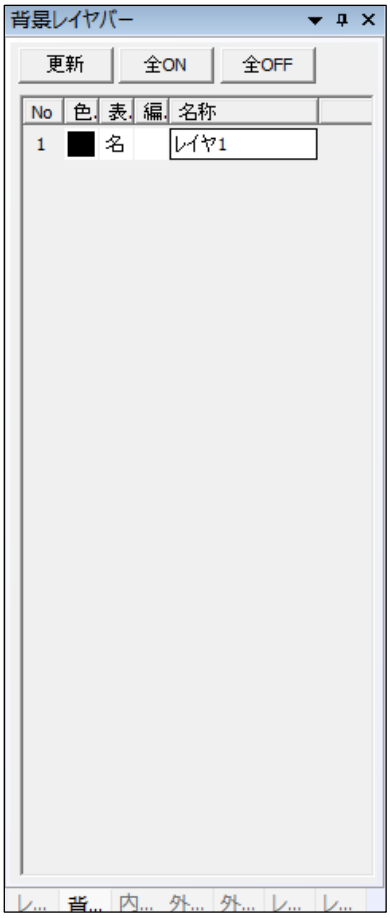
GIS データ一覧



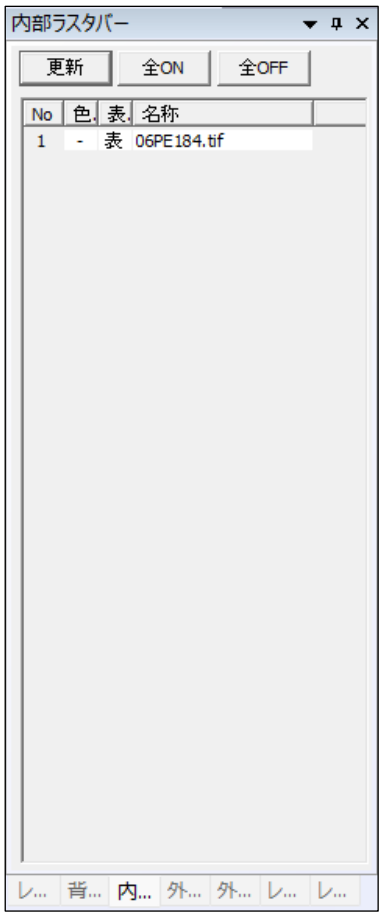
レイヤ表示バー



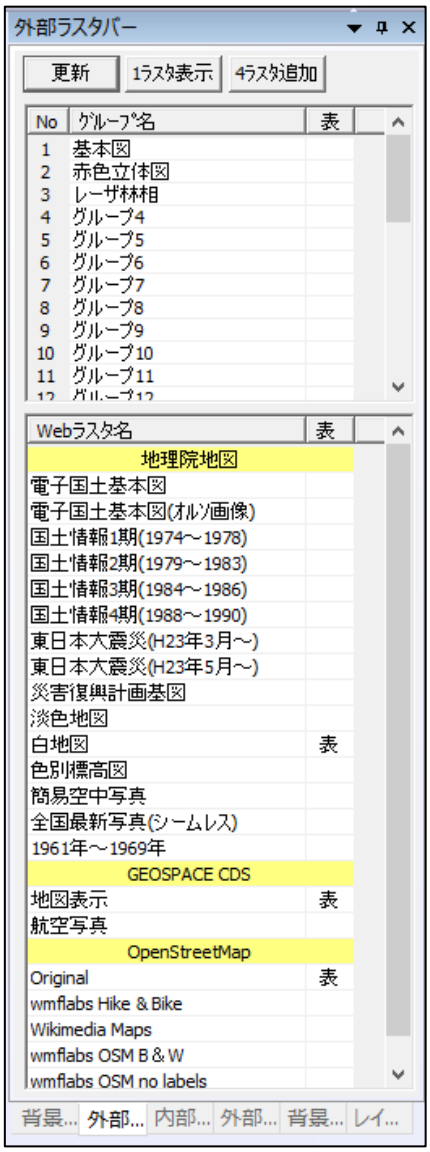
背景レイヤバー



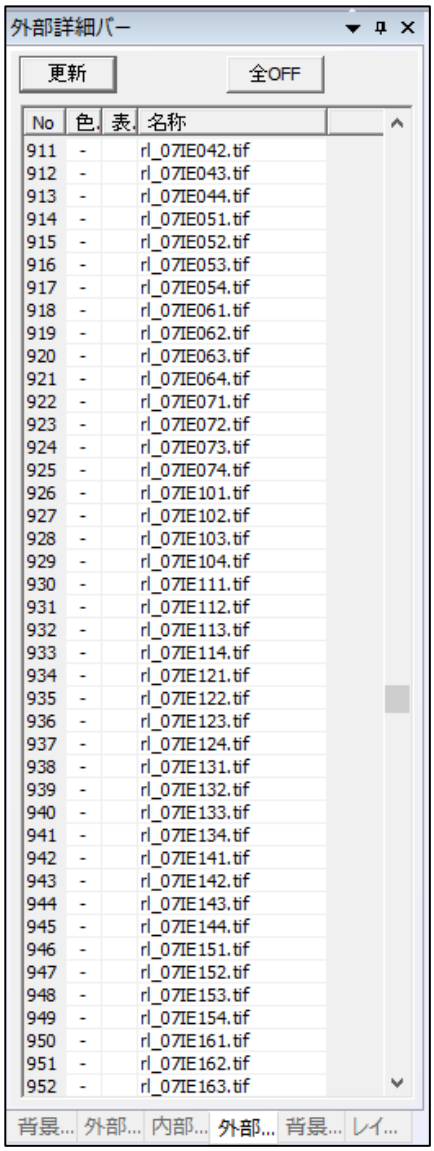
内部ラスタバー



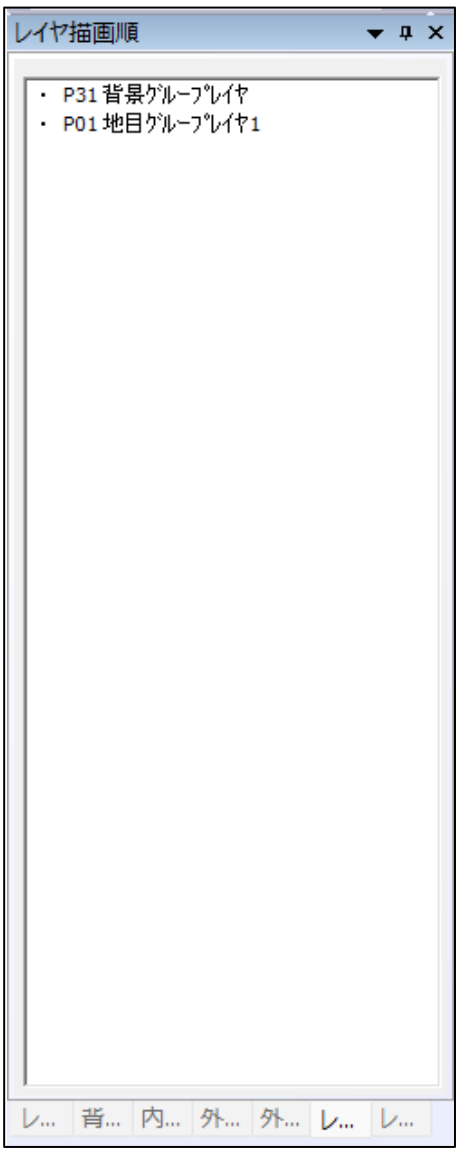
外部ラスタバー



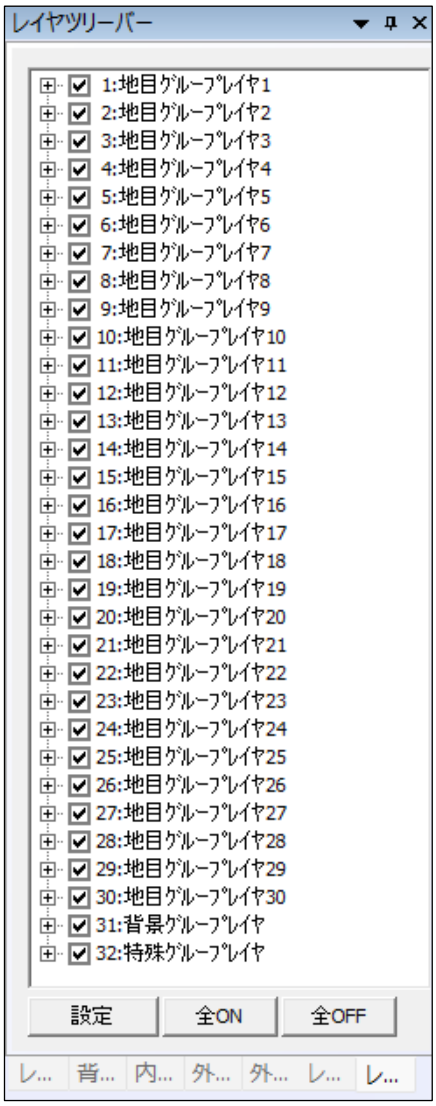
外部詳細バー



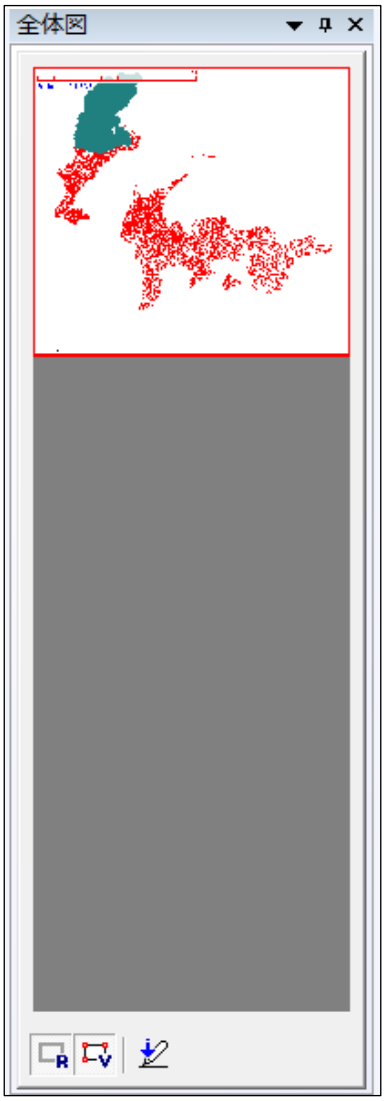
レイヤ描写順



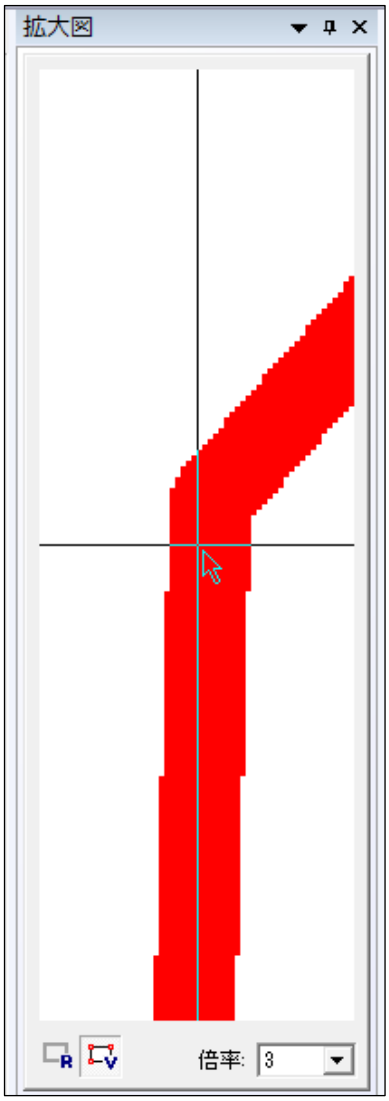
レイヤツリーバー



全体図



拡大図



エディットアイコンバー



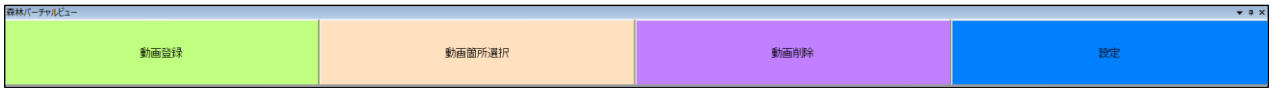
森林画地凡例バー



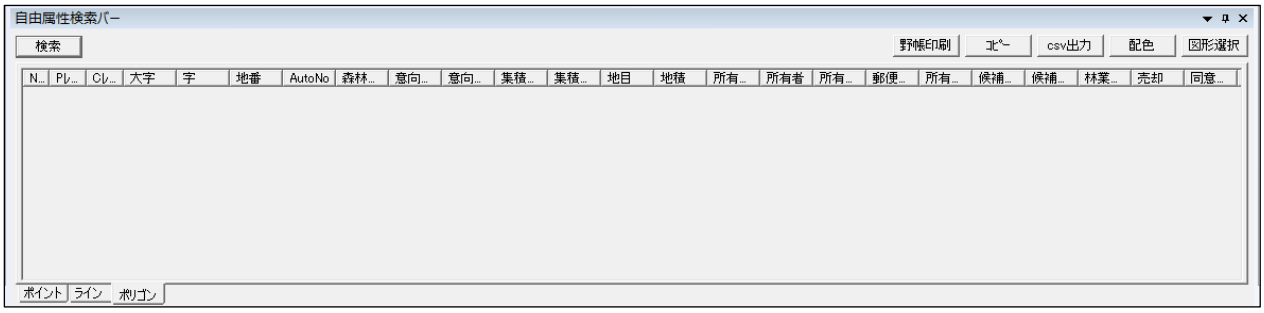
背景画地凡例バー



森林バーチャルビュー

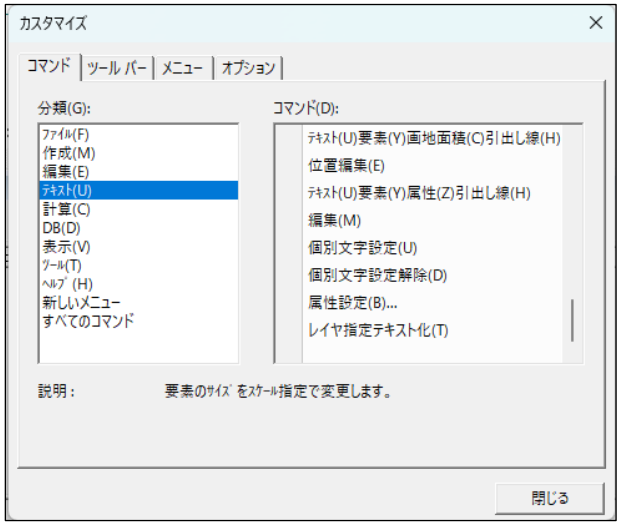


自由属性検索バー



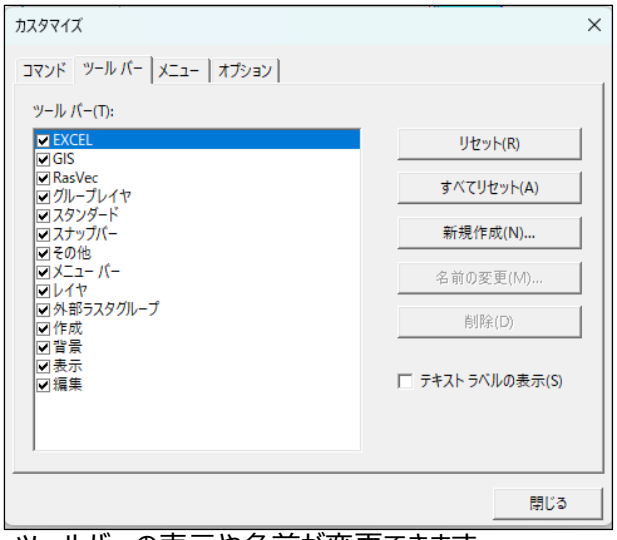
カスタマイズ

コマンド



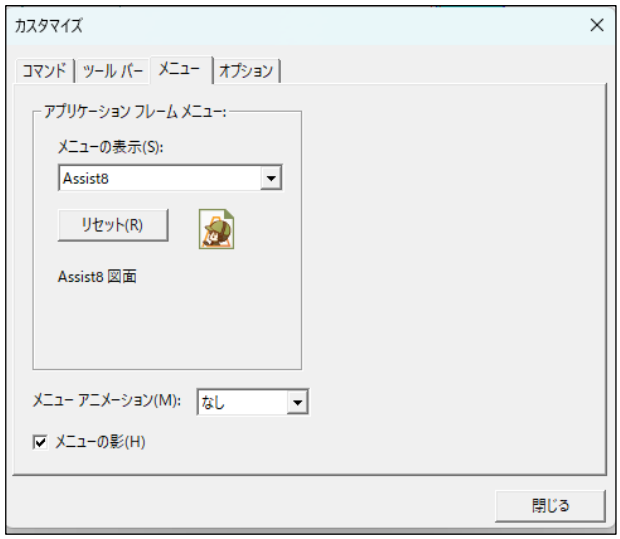
各コマンドの説明が表示されます。

ツールバー



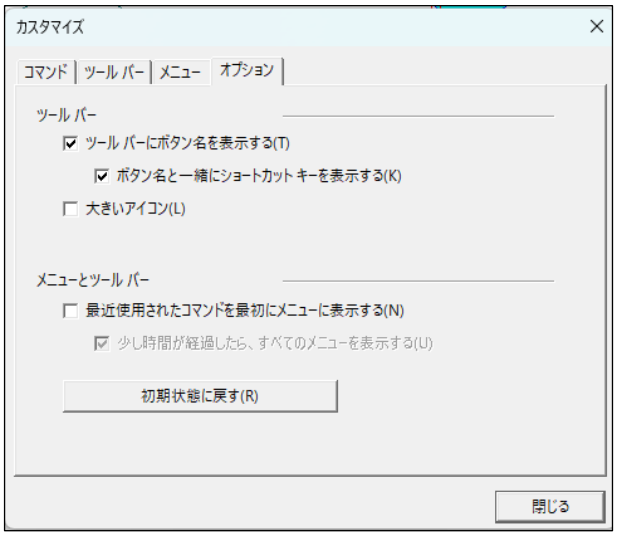
ツールバーの表示や名前が変更できます。

メニュー



メニューの表示の変更ができます。

オプション



その他オプションが設定できます。

XIV.14. ［表示］－［ツールバー設定］

XIV.14.1. ［表示］－［ツールバー設定］－［一括表示設定］

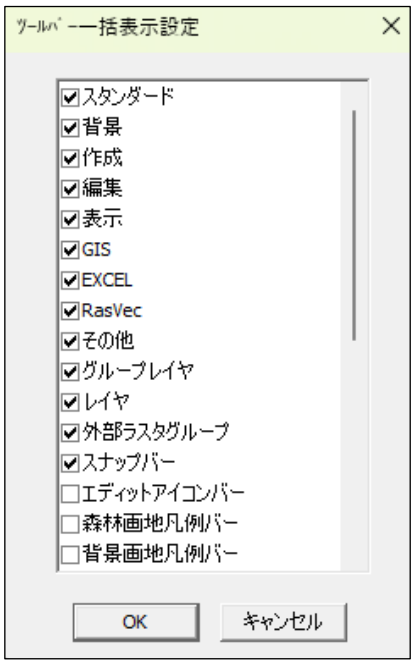
固定地番のフォントを設定します。

手順

1） ［表示］－［ツールバー設定］－［一括表示設定］を選択します。

2） ［ツールバー一括表示設定］ウィンドウが表示されます。

表示させたいツールバーとドッキングウィンドウを選択します。



3） 設定終了後、［ＯＫ］ボタンをクリックします。

XIV.14.2. ［表示］－［ツールバー設定］－［ツールバー配置保存］

ツールバーの配置を保存します。

XIV.14.3. ［表示］－［ツールバー設定］－［ツールバー再配置］

上記[ツールバー配置保存]で保存した状態に再配置します

XIV.14.4. ［表示］－［ツールバー設定］－［ツールバー固定化］

ツールバーの配置を固定します。

XIV.14.5. ［表示］－［ツールバー設定］－［グループレイヤツールバー幅設定］

グループレイヤツールバーの幅を指定します。

XIV.14.6. ［表示］－［ツールバー設定］－［レイヤツールバー幅設定］

レイヤツールバーの幅を指定します。

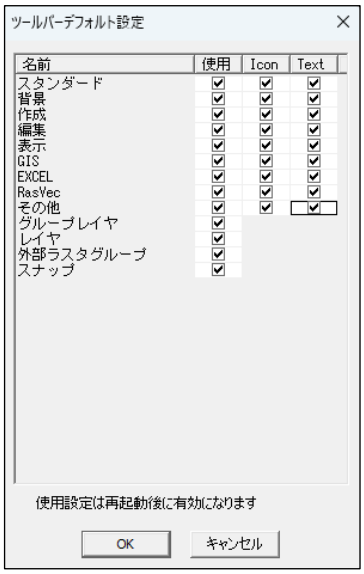
XIV.14.7. ［表示］－［ツールバー設定］－［ポイントバー高さ設定］

ポイント選択時の情報バーの高さを設定します。

XIV.14.8. ［表示］－［ツールバー設定］－［デフォルト設定］

デフォルトのツールバーの設定を行います。

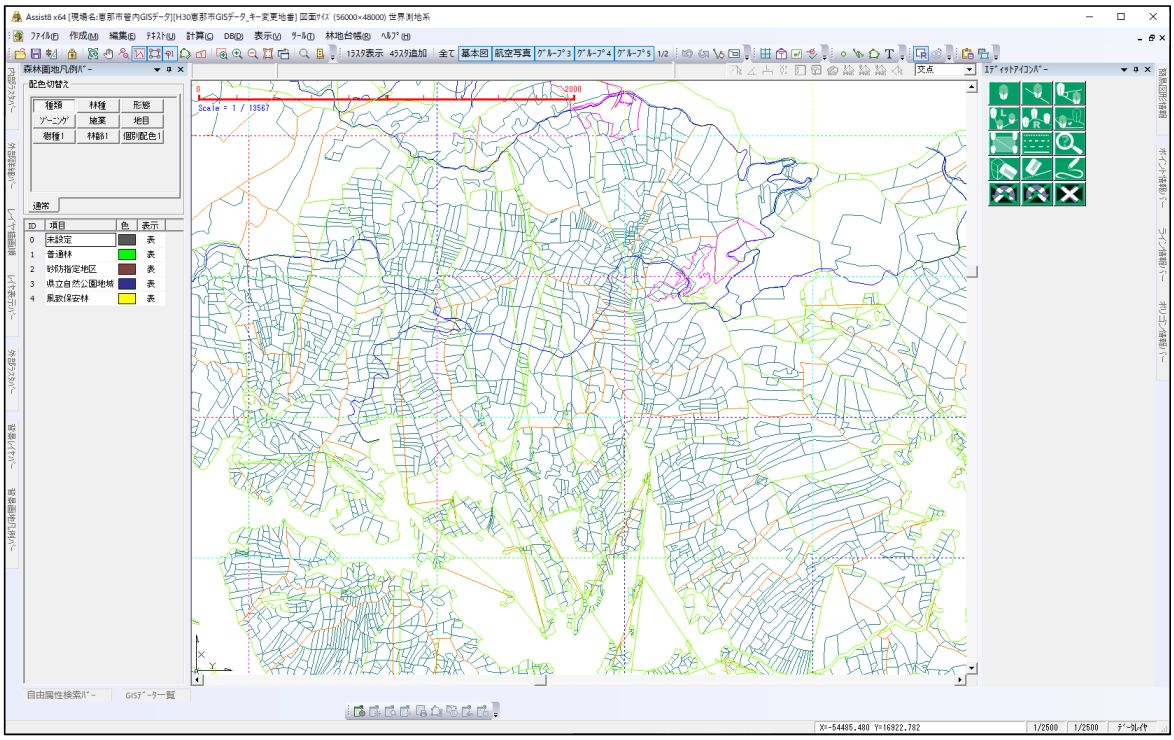
設定を反映させるには Assist8 の再起動が必要です。



XIV.15. ［表示］－［ステータスバー］

ステータスバーの表示／非表示を切り替えます。

［表示］―［ステータスバー］を選択すると、ステータスバーが表示され、座標、縮尺が確認できます。



XIV.16. ［表示］－［フルスクリーン表示］

図面をフルスクリーン表示します。

［表示］－［フルスクリーン表示］を選択すると、図面をフルスクリーン表示します。

XIV.17. ［表示］－［チェック］

各種チェックを行います。

XIV.17.1. ［表示］－［チェック］－［点名未記入チェック］

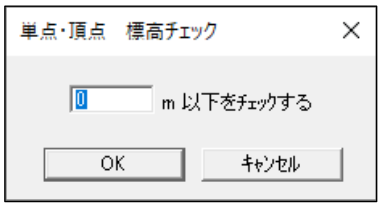
杭のうち、点名が未記入（入れ忘れ）の杭のみを表示します。

この表示を解除するには、もう一度［表示］－［チェック］－［点名未記入チェック］を選択し、
チェックマークを外してください。

XIV.17.2. ［表示］－［チェック］－［標高チェック］

ある一定の高さ以下の標高の杭のみを表示します。

この表示を解除するには、もう一度［表示］－［チェック］－［標高チェック］を選択し、
チェックマークを外してください。



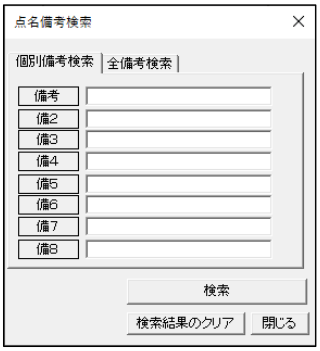
XIV.17.3. ［表示］－［チェック］－［非閉合点チェック］

閉合されていない点のみを表示します。

の表示を解除するには、もう一度［表示］－［チェック］－［非閉合点チェック］を選択し、
チェックマークを外してください。

XIV.17.4. ［表示］－［チェック］－［点備考チェック］

備考を条件で検索し表示します。



- 個別備考検索：備考毎に条件を入力し、検索します。検索ボタンをクリックすると検索対象の点が表示されます。
- 全備考検索：条件を全ての項目で検索します。検索ボタンをクリックすると検索対象の点が表示されます。

※検索結果のクリアで通常の表示に戻ります。
この表示を解除するには、もう一度［表示］－［チェック］－［点備考チェック］を選択し、チェックマークを外してください。

XIV.17.5. ［表示］－［チェック］－［森林チェック］

画地所有者情報を持つ単点のみを表示します。
この表示を解除するには、もう一度［表示］－［チェック］－［森林チェック］を選択し、チェックマークを外してください。

XIV.17.6. ［表示］－［チェック］－［Exif 情報チェック］

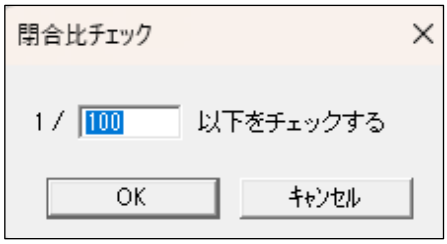
Exif 情報の含まれる頂点のみを表示します。
この表示を解除するには、もう一度［表示］－［チェック］－［Exif 情報チェック］を選択し、チェックマークを外してください。

XIV.17.7. ［表示］－［チェック］－［コンパス情報チェック］

コンパス測量データの頂点のみを表示します。
この表示を解除するには、もう一度［表示］－［チェック］－［コンパス情報チェック］を選択し、チェックマークを外してください。

XIV.17.8. ［表示］－［チェック］－［閉合比チェック］

指定した閉合比以下のコンパス測量データの頂点のみを表示します。
この表示を解除するには、もう一度［表示］－［チェック］－［閉合比チェック］を選択し、
チェックマークを外してください。[閉合比チェック]ウィンドウから指定する閉合比を入力してください。



XIV.17.9. ［表示］－［チェック］－［GPS 情報チェック］

GPS 測量データの頂点のみを表示します。
この表示を解除するには、もう一度［表示］－［チェック］－［GPS 情報チェック］を選択し、
チェックマークを外してください。

XIV.17.10. ［表示］－［チェック］－［GPS 情報（未補正）チェック］

GPS 測量データ（未補正）の頂点のみを表示します。
この表示を解除するには、もう一度［表示］－［チェック］－［GPS 情報（未補正）チェック］を選択し、
チェックマークを外してください。

XIV.17.11. ［表示］－［チェック］－［インポート点チェック（ｲﾝﾎﾟｰﾄ側）］

**SIMA（点名マッチング）か CSV 単点（点名マッチング）でデータをインポートした後にチェックします。
インポートしたファイルにしか存在しない点名を表示します。**

XIV.17.12. ［表示］－［チェック］－［インポート点チェック（既存図側）］

**SIMA（点名マッチング）か CSV 単点（点名マッチング）でデータをインポートした後にチェックします。
既存図面にしか存在しない点名を表示します。**

XIV.17.13. ［表示］－［チェック］－［インポート点チェック（両方）］

SIMA（点名マッチング）か CSV 単点（点名マッチング）でデータをインポートした後にチェックします。両方の図面に存在する点名を表示します。

XIV.17.14. ［表示］－［チェック］－［ログファイル作成］

SIMA（点名マッチング）か CSV 単点（点名マッチング）でデータをインポートした後にチェックします。インポートしたファイルにしか存在しない点名、既存図面にしか存在しない点名、両方の図面に存在する点名をチェックし、CSV でログファイルを作成します。

手順

1） ［表示］－［チェック］－［ログファイル作成］を選択します。

2） ［インポートファイル　点差分ログファイル］ウィンドウが表示されます。

3） ファイル名を入力し［保存］ボタンをクリックするとログファイルが保存されます。

XIV.17.15. ［表示］－［チェック］－［点チェック解除］

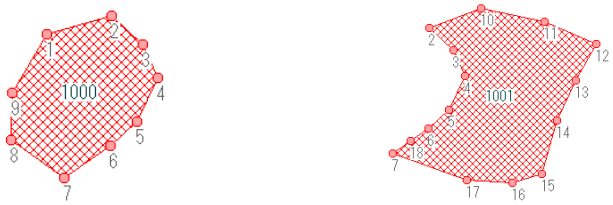
点名記入チェック、標高チェック、点備考チェックを解除します。

XIV.17.16. ［表示］－［チェック］－［二重線チェック］

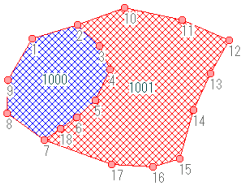
境界線のうち、1 回しか通過していない境界線を強調表示します。

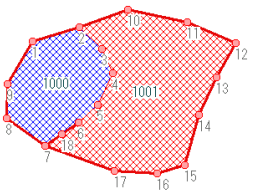
例　［ファイル］　－［インポート］－［他の Assist8 ファイル］　などで、合成処理を行った場合

１班のデータ　　２班のデータ



１班のデータ　地番１０００の隣は、２班のデータ　地番１００１　だが、筆界線　６～７　の間に杭（NO１８）が、２班のデータには存在し、１班には存在しない。この状態で、
［ファイル］　－［インポート］－［他の Assist8 ファイル］を行うと一目では、この間違いがわからない。
［表示］－［二重線チェック］を行うと
一度しか境界線に使用されていない線だけを強調表示する。
正しいデータでは、隣り合わせの境界は、地番１０００と
地番１００１の両方で使用されているため、二度境界線を
使用している。最外周　や　エラーデータ（この場合は、
６～１８～７の境界）は、２度使用されていないので、強調表示される。





この場合の一般的な修正手順は、この強調表示を解除した後に
1.　６～１８～７の境界ラインを一度削除
2.　再度、６～１８～７の境界ラインを作成
3.　再度　自動ポリゴン化　を実行の上、地番１０００、１００１を再入力
この強調表示を解除するには、もう一度［表示］－［二重線チェック］を選択し、チェックマークを外してください。

XIV.18. ［表示］ – ［地理院地図］

国土地理院の地理院地図データを背景に表示することができます。地理院地図表示のためには、
ネット環境に接続している必要があります。また、基図面データは世界測地系図面になります。

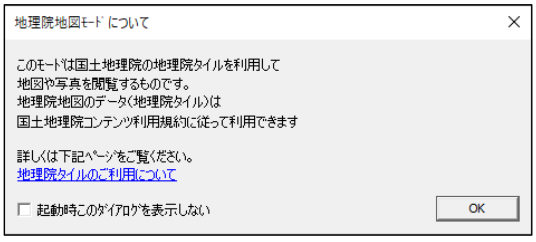
XIV.18.1. ［表示］ – ［地理院地図］ – ［地理院地図モード］

背景に地理院地図を表示します。電子国土は、場所によって表示されない場合があります。また、空中写真などは、拡大表示しないと背景に表示されない場合があります。



XIV.18.2. ［表示］ – ［地理院地図］ – ［電子国土利用規約］

利用規約ウィンドウを表示します。
※電子国土の印刷は、Ａ４サイズまでしかできません。



- [起動時このダイアログを表示しない]：利用規約ウィンドウを、電子国土起動時に表示しないようにします。

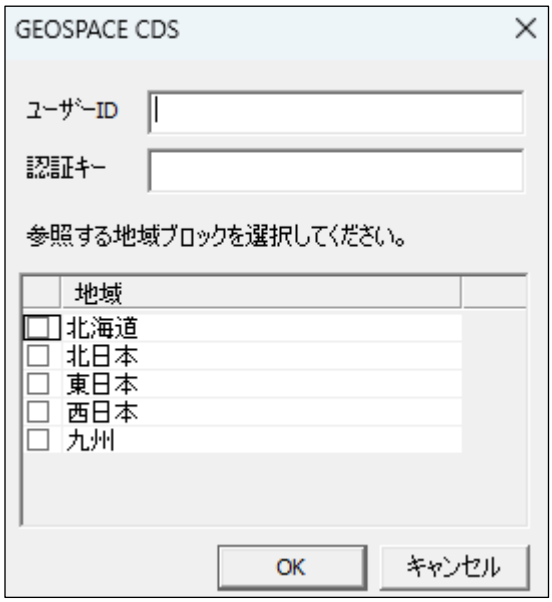
XIV.19. ［表示］－［GEOSPACE CDS］（オプション）

GEOSPACE の地図データを背景に表示することができます。GEOSPACE の地図データ表示のためには、ネット環境に接続している必要があります。

XIV.19.1. ［表示］－［GEOSPACE CDS］－［GEOSPACE モード］

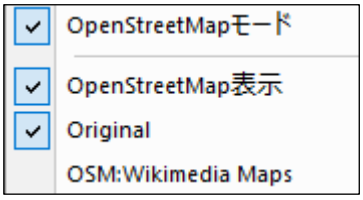
背景に GEOSPACE の地図を表示します。電子国土は、場所によって表示されない場合があります。利用するためにはユーザーID と認証キーが必要です。





XIV.20. ［表示］－［OpenStreetMap］

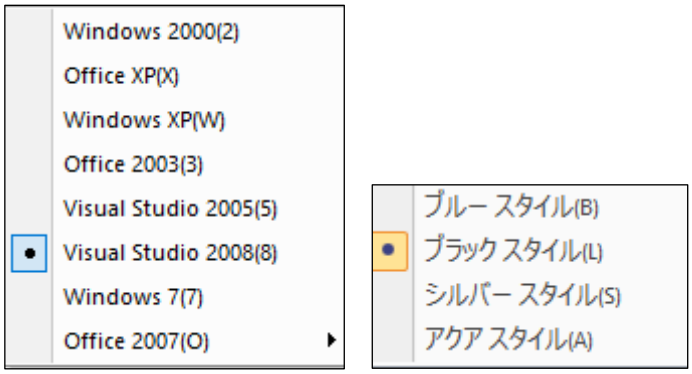
OpenStreetMap の地図データを背景に表示することができます。OpenStreetMap の地図データ表示のためには、ネット環境に接続している必要があります。



XIV.21. ［表示］ – ［アプリケーションの外観］

Assist8 の外観（画面表示）を選択できます。デフォルトは Visual Studio 2008(8)です。

Office 2007（O）はブルー、ブラック、シルバー、アクアスタイルから選択できます。

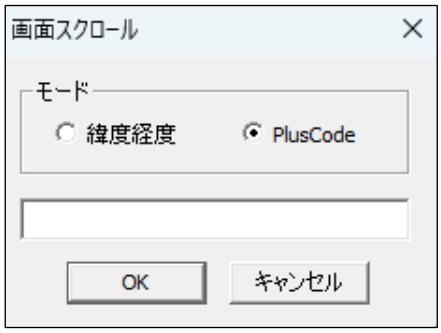


XIV.22. ［表示］ – ［スクロール］

XIV.22.1. ［表示］ – ［スクロール］ – ［GoogleMap から入力］

GoogleMap の緯度経度または PlusCode を入力して該当の地点を画面中心に表示させます。

下記[画面スクロール]ウィンドウから緯度経度または PlusCode を選択して、
下の空欄に緯度経度または PlusCode を入力します。



XV.　G３　１９座標系

系番号	座標系原点の経緯度		適用区域
	経度（東経）	緯度（北緯）	
I	129 度 30 分 0 秒 0000	33 度 0 分 0 秒 0000	長崎県 鹿児島県のうち北方北緯 32 度南方北緯 27 度西方東経 128 度 18 分東方東経 130 度を境界線とする区域内（奄美群島は東経130度13分までを含む。)にあるすべての島、小島、環礁及び岩礁
II	131 度 0 分 0 秒 0000	33 度 0 分 0 秒 0000	福岡県 佐賀県 熊本県 大分県 宮崎県 鹿児島県（第Ｉ系に規定する区域を除く。）
III	132 度 10 分 0 秒 0000	36 度 0 分 0 秒 0000	山口県 島根県 広島県
IV	133 度 30 分 0 秒 0000	33 度 0 分 0 秒 0000	香川県 愛媛県 徳島県 高知県
V	134 度 20 分 0 秒 0000	36 度 0 分 0 秒 0000	兵庫県 鳥取県 岡山県
VI	136 度 0 分 0 秒 0000	36 度 0 分 0 秒 0000	京都府 大阪府 福井県 滋賀県 三重県 奈良県 和歌山県
VII	137 度 10 分 0 秒 0000	36 度 0 分 0 秒 0000	石川県 富山県 岐阜県 愛知県
VIII	138 度 30 分 0 秒 0000	36 度 0 分 0 秒 0000	新潟県 長野県 山梨県 静岡県
IX	139 度 50 分 0 秒 0000	36 度 0 分 0 秒 0000	東京都（XIV 系、XVIII 系及び XIX 系に規定する区域を除く。） 福島県 栃木県 茨城県 埼玉県 千葉県 群馬県 神奈川県
X	140 度 50 分 0 秒 0000	40 度 0 分 0 秒 0000	青森県 秋田県 山形県 岩手県 宮城県
XI	140 度 15 分 0 秒 0000	44 度 0 分 0 秒 0000	小樽市 函館市 伊達市 胆振支庁管内のうち有珠郡及び虻田郡 檜山支庁管内 後志支庁管内 渡島支庁管内
XII	142 度 15 分 0 秒 0000	44 度 0 分 0 秒 0000	札幌市 旭川市 稚内市 留萌市 美唄市 夕張市 岩見沢市 苫小牧市 室蘭市 士別市 名寄市 芦別市 赤平市 三笠市 滝川市 砂川市 江別市 千歳市 歌志内市 深川市 紋別市 富良野市 登別市 恵庭市 北広島市 石狩市 石狩支庁管内 網走支庁管内のうち紋別郡 上川支庁管内 宗谷支庁管内 日高支庁管内 胆振支庁管内（有珠郡及び虻田郡を除く。） 空知支庁管内 留萌支庁管内
XIII	144 度 15 分 0 秒 0000	44 度 0 分 0 秒 0000	北見市 帯広市 釧路市 網走市 根室市 根室支庁管内 釧路支庁管内 網走支庁管内（紋別郡を除く。） 十勝支庁管内
XIV	142 度 0 分 0 秒 0000	26 度 0 分 0 秒 0000	東京都のうち北緯 28 度から南であり、かつ東経

			140 度 30 分から東であり東経 143 度から西である区域
XV	127 度 30 分 0 秒 0000	26 度 0 分 0 秒 0000	沖縄県のうち東経 126 度から東であり、かつ東経 130 度から西である区域
XVI	124 度 0 分 0 秒 0000	26 度 0 分 0 秒 0000	沖縄県のうち東経 126 度から西である区域
XVII	131 度 0 分 0 秒 0000	26 度 0 分 0 秒 0000	沖縄県のうち東経 130 度から東である区域
XVIII	136 度 0 分 0 秒 0000	20 度 0 分 0 秒 0000	東京都のうち北緯 28 度から南であり、かつ東経 140 度 30 分から西である区域
XIX	154 度 0 分 0 秒 0000	26 度 0 分 0 秒 0000	東京都のうち北緯 28 度から南であり、かつ東経 143 度から東である区域

XVI. ツール

XVI.1. ［ツール］ – ［プロパティ］

編集の基本条件を設定します。

XVI.1.1. 表示



画面表示

編集画面に表示する項目のチェックボックスを［ＯＮ］／［ＯＦＦ］することにより表示／非表示を切り替えます。表示項目は、
メニューバーの［表示］と重複する項目があります。
プロパティの表示項目とメニューバーの［表示］ – ［ユーザー定義］の設定は互いに反映されています。

- 基準座標：メニューバーの［ツール］ – ［補正］ – ［基準点］で設定した基準座標の位置に座標
- マークを表示します。
- ラスタ境界：ラスタ図面の外枠を点線で表示します。
- グリッド：編集画面にグリッドを表示します。
- 面積：面積と引出し線を表示します。
- 頂点（選択図形）：図形を選択したときの頂点を表示します。
- 重心（選択図形）：図形を選択したときの重心点を表示します。
- 中抜きポリゴンの線：中抜きポリゴン線を表示します。

- 背景レイヤ頂点表示：背景レイヤの頂点を表示します。
- テキスト背景上書き：テキストの周りを白く上書きします。
- 要素背景上書き：要素の周りを白く上書きします。
- 拡大ファイン・縮小ファイン：画面を拡大した時、または縮小した時に高画質で表示します。
- ラスタ透過：重複しているカラーラスタを透過して表示します。
- 面積単位：面積表示のときに単位を表示します。
- カーソル位置標高：カーソル付近のＺ座標をステータスバーに表示します。
- 経緯度表示：カーソル位置の経度・緯度をステータスバーに表示します。経緯度での座標入力ができます。
- 線種等間隔：破線の長さを等間隔にします。
- 全地目配色・杭：全ての地目レイヤに対して配色を施し、頂点も表示します。
- GIS フィールド：自由属性変換を行った項目と GIS フィールド表示設定で設定した DB のフィールドを図面上にテキストで表示します。
- キャッシュ描画：現在表示している画面の一部を一時保存しておき、スクロールなどで再び表示が必要になったときに、その保存データを使って素早く描画します。
- 外部ラスタファイル名：各外部ラスタのファイル名を図面上に表示します。
- 高速表示：指定サイズ以下で表示される小さい図形を簡易表示します。表示速度を 0～10 で選択します。

ラスタグレースケール

- 濃度：ラスタをグレースケールで表示するときの濃度を設定します。濃度は、レベル１～９まであり、
- レベルを上げると濃くなります。選択したレベルの色で表示します。

OLE オブジェクト

- 透過・上書き：メニューバーの［編集］ – ［オブジェクト］ – ［オブジェクトの作成と貼り付け］で、
- オブジェクトを貼り付けた場合に、重なり合う図形に対してオブジェクトを［透過］・［上書き］
- の選択をします。

チェック

- 二重線チェック：［表示］ – ［チェック］ – ［二重線チェック］を実行した結果の色を変更します。

頂点名

- デフォルトのみ：デフォルトの地目レイヤのみ頂点名を表示します。
- レイヤ別：レイヤごとの頂点名の表示／非表示を設定します。

スケール

- スケール表示：スケールを表示するときの色を設定します

Exif

- カメラマーク表示：Exif 取込みをした点の表示をカメラマークで表示するかどうか選択します。

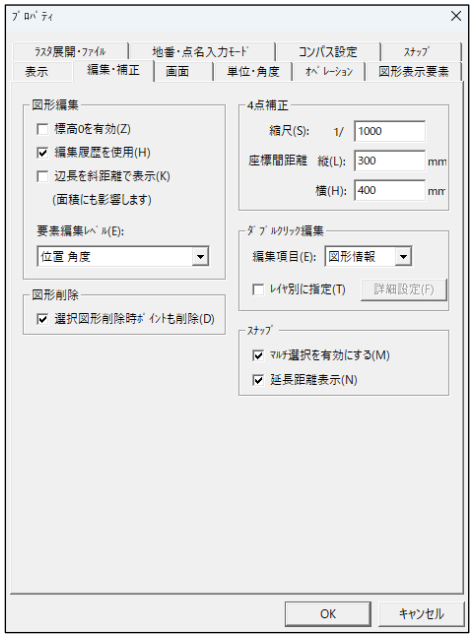
印刷ライン幅設定

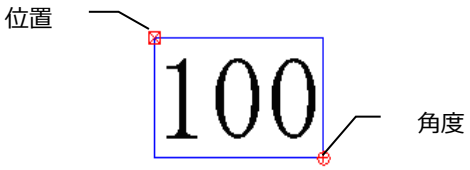
- 境界線幅：印刷時の線幅を設定します。0 で各レイヤ設定の線幅になります。

点名表示モード/地番表示モード

- 固定・印刷：固定モード（文字位置変更不可）と印刷モード（文字位置変更可）の両方を使用できます。
- 固定：固定モードのみ使用できます。
- 印刷：印刷モードのみ使用できます。

XVI.1.2. 編集･補正





図形編集

- 標高 0 を有効：メニューバーの［ファイル］ – ［外部出力］で標高を伴うファイル出力や標高計算時に高さがない場合でも 0 として認識します。
- 編集履歴を使用：編集した履歴を保持します。（［編集］ – ［元に戻す］・［やり直し］が使用できます。）
- 辺長を斜距離で表示：辺の長さを高さを考慮して計算します。
- 要素編集レベル：地番等の表示中の要素の編集レベルを設定します。

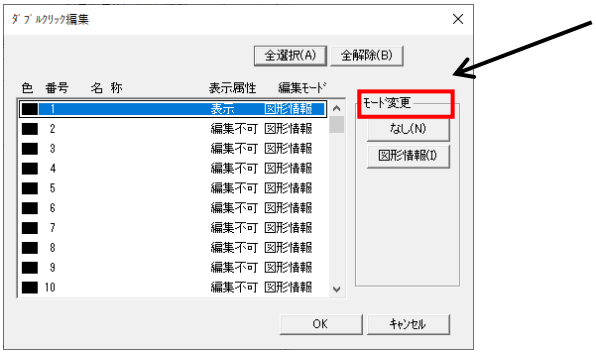
４点補正

メニューバーの［ツール］ – ［補正］ – ［４点自動］で４点補正パラメータ入力をするときの縮尺・座標間距離のデフォルトを設定します。

ダブルクリック編集

図形をダブルクリックしたときの編集モードを設定します。

- 編集項目：編集項目を選択します。
  - なし：ダブルクリックしても何も起動しません。
  - 図形情報（デフォルト）：図形情報を表示します。
- レイヤ別に指定：レイヤ別にダブルクリックしたときの編集モードを設定します。



モード変更ボタン
※ダブルクリックしたときにどのモード を表示するかを選択します。

1） ［レイヤ別に指定］を選択して［詳細設定］ボタンをクリックします。

2） ［ダブルクリック編集］ウィンドウが表示されます。

3） レイヤ一覧から、レイヤを選択してモード変更ボタンをクリックします。

4） 4.設定終了後、［ＯＫ］ボタンをクリックします。

スナップ

- マルチ選択を有効にする：スナップバーで複数の選択ができます。
- 延長距離表示：延長スナップのとき、既存点からスナップ点までの距離を表示します。

XVI.1.3. 画面



グリッド

グリッドを表示したときの縦・横の間隔を設定します。グリッドを表示したときの色を設定します。

色設定

図面の背景色（図面の背景の色）・前景色（モノクロラスタの初期色）を設定します。
背景色・前景色の［色ボタン］をクリックして［色設定］ウィンドウから背景色・前景色を選択します。

拡大・縮小

拡大・縮小率を設定します。

- ズームレベル：ズームレベルのリストからレベルを選択します。ズームレベルはレベル５を標準とし、
  レベルの数値が上がるほど拡大・縮小率が大きくなり、下がるほど拡大・縮小率が小さくなります。
- 基準位置
  - 画面中央：編集画面の中央を基準に拡大・縮小します。
  - マウスカーソル：カーソルの位置を基準に拡大・縮小します。

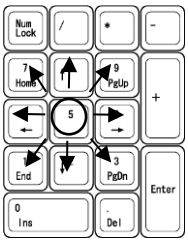
マウスホイール

「拡大・縮小、スクロール」を選択します。

スクロールキー

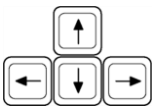
編集画面のスクロールに使用するキーを選択します。もう一方のキーでマウスカーソルを移動します。

<テンキー>



５を中心に方向キーを押すと画面がスクロールします。

<カーソルキー>



［矢印］キーを押すと画面がスクロールします。

XVI.1.4. 単位･角度



表示桁･表示桁丸め

座標･高さ･距離･面積･坪･経緯度･方向角･面積

途中を表示する桁数と、表示桁の丸め方法（四捨五入･切上･切捨）を選択します。

- 経緯度：測地成果２０００系へ座標変換時に計算上の経緯度の桁数を選択します。
  設定桁数は、度分秒の秒の少数桁数です。
- 方向角：図形の回転･角度設定時の０度の方位と、回転時の進行方向を選択します。
- 面積途中：計算する座標：計算する座標の桁の丸め方法（四捨五入･切上･切捨）を選択します。

単位

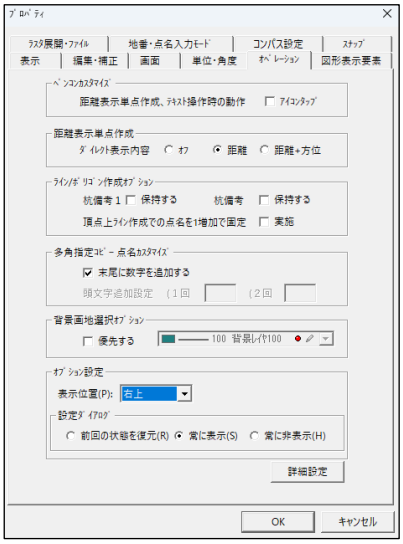
- 面積表示：画地面積表示の桁数を選択します。
  - ｍ２：面積桁で四捨五入して表示します。
  - ヘクタール：面積表示単位をヘクタール（ha）にします。

経緯度

図面の測地系・座標系を選択します。

- 測地系：日本測地系・世界測地系を選択します。
- 座標系：１～１９までの座標系を選択します。

XVI.1.5. オペレーション

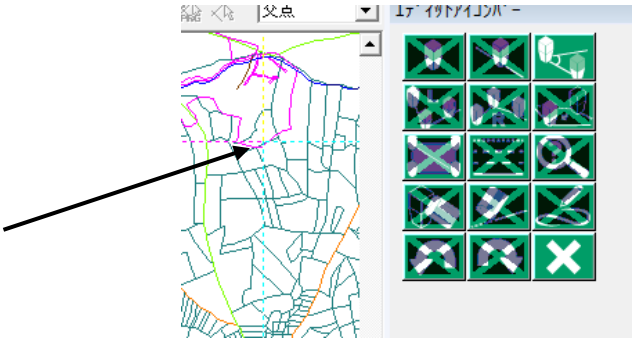


ペンコンカスタマイズ

タッチパネル式のペンコンピュータでは、掴んだままで移動することができず、操作感を悪化させます。そこで距離表示単点作成とテキスト操作時の動作を事務所のＰＣ同様の操作感を持たせるようにしました。

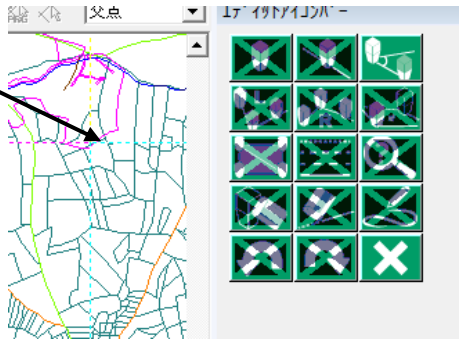
- 距離表示単点作成、テキスト操作時の動作
  - アイコンタップ　ＯＮ：タッチパネル式のペンコン
  - アイコンタップ　ＯＦＦ：通常のＰＣ

  アイコンタップ　ＯＮのときは、移動決定後距離表示単点作成のアイコンを押す動作で、単点を作成します。



距離表示単点作成

- ダイレクト表示内容：画面上にリアルタイムに離れ量を表示します。
  - オフ：表示しません
  - 距離：距離のみ表示します。
  - 距離と方位：距離と共に方位角も表示します。

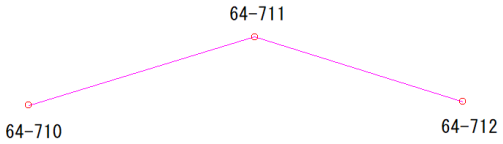


ラインポリゴン作成オプション

- 杭の備考：杭の備考上部（備考１）、杭の備考下部（備考２）に、各々備考１には comment1.txt、備考２には comment2.txt を対応させ、これらの２種のファイルを作成の上、現場フォルダ内に用意すると、ボタンによりリスト表示され選択可能にしました。単点作成時に前回記入された備考を保持させるか、クリアさせるかを選択します。

  杭備考１、杭備考２とも
  - 保持する：単点作成毎に前回と同様の備考を記入しつづけます。
    （杭毎に、入力内容があまり変わらない場合に使用します）
  - チェックがない場合は：単点作成毎にクリアされるので、杭を作成する毎に記入動作を行います。
    （杭毎に、入力内容が変わる場合に使用します）
- 頂点上ライン作成時での点名の１増加：頂点上ライン作成時に、最初に指示した既存杭名に＋１インクリメントした点名を新設点につけます。

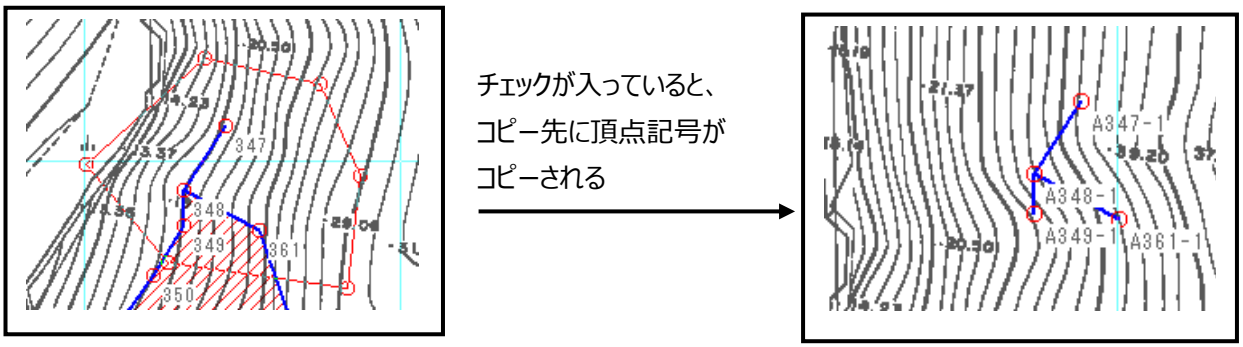
右例では、
最初に指示した既存杭名…64-710
次の新設点…64-711
次の新設点…64-712



【注意】作成時や作成後に同一名称チェックは行いません。

多角指定コピー　点名カスタマイズ

- 末尾に数字を追加する：ここにチェックがあると［編集］ – ［多角指定コピー］で図形をコピーした際、頂点番号も一緒にコピーし、末尾に数字を追加できます。頭文字追加設定で、コピーした頂点に特定の文字列を追加することも可能です。



背景画地選択オプション

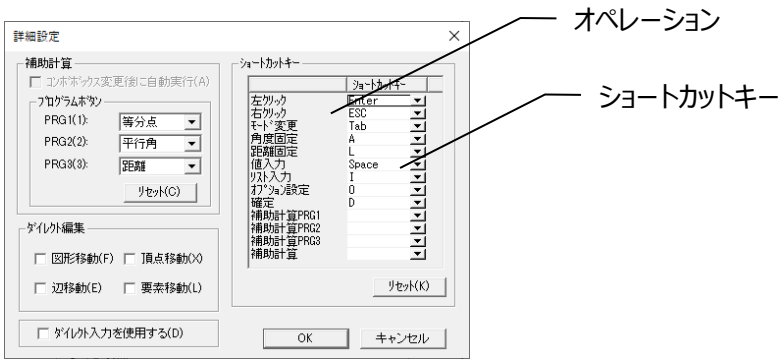
- 優先する：重なる背景画地を選択した時に優先して選択するレイヤを指定します。

オプション設定

- 表示位置：オプションウィンドウを表示する位置を指定します。
- 設定ダイアログ：オプションの表示状態を選択します。

詳細設定

補助計算、ダイレクト編集、ショートカットキーの詳細を設定します。



- 補助計算
  - プログラムボタン：オペレーションバーのプログラムボタンの設定をします。
  - リセット：プログラムボタンを初期値に戻します。
- ダイレクト編集
  - 図形移動：指定した図形を移動します。
  - 頂点移動：指定した図形の頂点を移動します。
  - 辺移動：指定した図形の辺を移動します。
  - 要素移動：指定した図形の要素を移動します。
- ショートカットキー：オペレーションごとにショートカットキーを選択します。（▼で選択します。）
  - リセット：ショートカットキーの設定を初期値に戻します。
- ダイレクト入力を使用する：図形作成時にキーボード入力のみでの作成ができます。

XVI.1.6. 図形表示要素



フォント

各項目のフォントを設定します。

フォントの詳細は、**XIII.11.［表示］ – ［フォント］**をご参照ください。

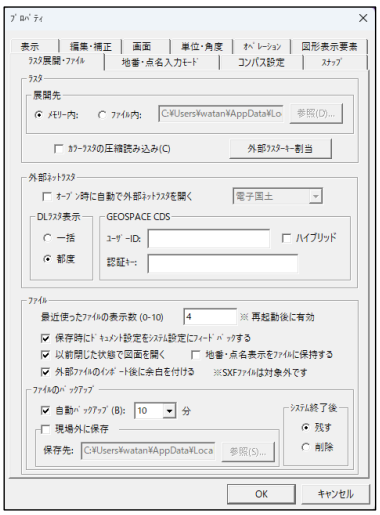
初期配置

各項目の初期表示位置を設定します。

引出し要素テキスト位置再計算

要素の引出線のテキスト位置を再計算して再配置します。

XVI.1.7. ラスタ展開・ファイル



ラスタ

- 展開先:ワークファイルの格納先を選択します。
  - メモリー内：メモリー内にワークファイルを作成します。
  - ファイル内：指定した場所にワークファイルを作成します。［参照］ボタンをクリックして、［フォルダの参照］ウィンドウからファルダを指定します。
- カラーラスタの圧縮読み込み：カラーラスタを圧縮して読み込みます。

外部ネットラスタ

- オープン時に自動で外部ネットラスタを開く：ファイルオープン時に指定された外部ネットラスタを開きます
- 電子国土動作モード：電子国土での画像のダウンロード方法などを設定します。

ファイル

- 保存時にドキュメント設定をシステム設定にフィードバックする：ドキュメントにしか保存していない設定を、図面保存時にシステム設定にも保存します。
- 以前閉じた状態で図面を開く：一度開いたファイルを前回と同様の表示位置・拡大率で開きます。
  外部ファイルのインポート後に余白を付ける：外部入力をした後の図面に余白を付けます。

ファイルのバックアップ

- 自動バックアップ：自動保存する時間を分単位で設定します。（最大３０分）
- 現場外に保存：指定したフォルダにバックアップファイルを保存します。
- システム終了後：［残す］を選択すると、システム終了後もバックアップファイルを残します。

XVI.1.8. 地番・点名入力モード



自動名称設定

- 杭番号頭文字　（デフォルトはし）

  00－1　00－2　と順次　点名を繰り上げる

- 交点杭頭文字　（デフォルトは　P－）

  P－1　P－2　と順次　点名を繰り上げる

[自動連番]をチェックした状態では杭番号を自動で　1 繰り上げる。（上図はチェックした状態）
押されていない状態では、点名表示部には何も表示しない。この場合は常に作業者が杭番号を入力する。



- [詳細]・・・
  - 桁指定：プレートと同じ点番号を連番で付けることができます。
  - 桁：3 桁　001、002、003　～　009、010　と連続されます。
  - 開始値指定：基本的にはデータ内に有る杭番号の最大値に 1 加算した番号を自動で付けますが、
    例えばデータ内には 3000～5000 まですでに杭番号を使っていて、これからは 1000 から
    杭番号を付けたい場合に使用します。この例では、401、402、403　の順で点番号を付与します。

途中でこのプロパティを開くと、次の番号が表示されています。

【注意】 このモードで自動連番したときに既存点名とぶつかった場合は、オペレーションのモードによって、動作が変わります。

A・単点、ライン上頂点、オフセット単点のとき
次に作成する点名が既存名とぶつかることがわかった段階で画面にメッセージボックスが出ます。



B・ラインのような仮線が出るオペレーションの時は地図右上に注意　この頂点名は使用済みです
と表示されます。作った頂点名と既存点がぶつかってから注意メッセージが出ます。
この場合、以後もラインの作成の続きが出来ますが、点名重複チェックはされません。
また、この動作が終了したら点名開始位置指定は自動で解除されます。
右ボタンでキャンセルしても進んだ杭番号は戻りません。

エディットボックスの表示文字数

点名の最大文字（半角サイズ）を指定します。
文字数が少なければ、表示文字は大きく表示します。（視覚し易くするため）

重複点名時にメッセージを表示する

ここにチェックがあると、点名の入力時に重複していた場合
確認メッセージを表示します。

重複ポリゴンキー時にメッセージを表示する

ここにチェックがあると、AutoNo 以外のキー入力時に重複していた場合
確認メッセージを表示します。

XVI.1.9. コンパス設定



野帳コンパス入力

- 真北角度（標準 0 よりオフセット入力）：地図や GPS は真北になっているので、観測地を正しく地図上に表示させるため、磁北と真北の差を入力し、調整する。国内では地域によって違うので、国土地理院のホームページなどを参照する。
- 誤差配布方法：コンパス法、トランシット法より選択。
- 入力ウィンドウ：コンパス入力時のウィンドウを選択する。通常画面と、ミニパネルより選択。
- 閉合計算表示：閉合比の計算表示を選択。

新規コンパス作成時、1 点目の座標で偏角を自動設定

チェックをいれると新規コンパス作成時に真北が自動で設定される。

XVI.1.10. スナップ



対象図形設定

対象図形毎にスナップの可否の設定ができます。

頂点対象

頂点の対象を選択します。

交点対象

交点の対象を選択します。

編集可能レイヤに限定

編集可能なレイヤのみスナップを設定します。

XVI.2. ［ツール］ – ［自由属性］

XVI.2.1. ［ツール］ – ［自由属性］ – ［基本設定］

ポイント、ライン、ポリゴンの自由属性の基本設定を行います。



- FieldID：フィールドの ID（現状変更不可）
- 名前：フィールド名
- Type：フィールドタイプ・オートナンバー（ID0 固定）・整数、ID・小数・文字列・日付・真/偽
  から選択します。
- キー：データキーを選択します。最低一つはキーにする必要があります。（AutoNo、整数、ID、文字列）
- 引用：データの入力値を引用するか選択します。ID タイプの場合は必須です。
  [ツール]-[自由属性]-[引用設定メニュー]から設定できます。
- 引用参照：引用設定されているフィールドの引用情報を参照するか選択できます。
  （自フィールドを参照はできない）
- 配色：画地配色で使用するかどうか選択します。（ポリゴンのみ）
- 範囲：値の範囲で画地配色をするか選択します。（ポリゴンのみ、タイプは整数・小数のみ）
- 追加：フィールドを一つ追加します。
- 削除：選択したフィールドを一つ削除します。

※デフォルト設定では FieldID0 の AutoNo がキー、AutoNo がキーの場合はその他のフィールド
をキーには選択できません。

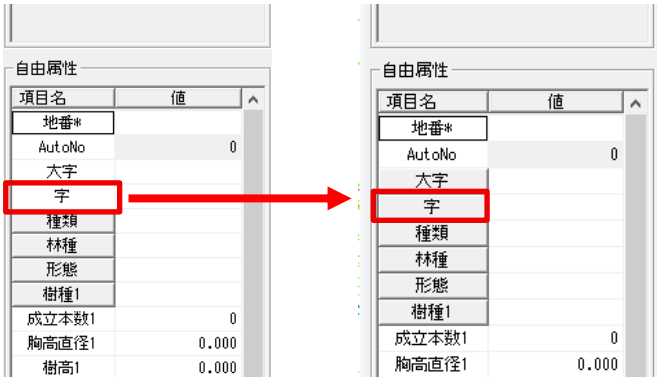
引用手順

1） ［ツール］ – ［自由属性］ – ［基本設定］を選択します。

2） ［自由属性基本設定］ウィンドウが表示されます。

3） 引用したい項目にチェックをいれます。

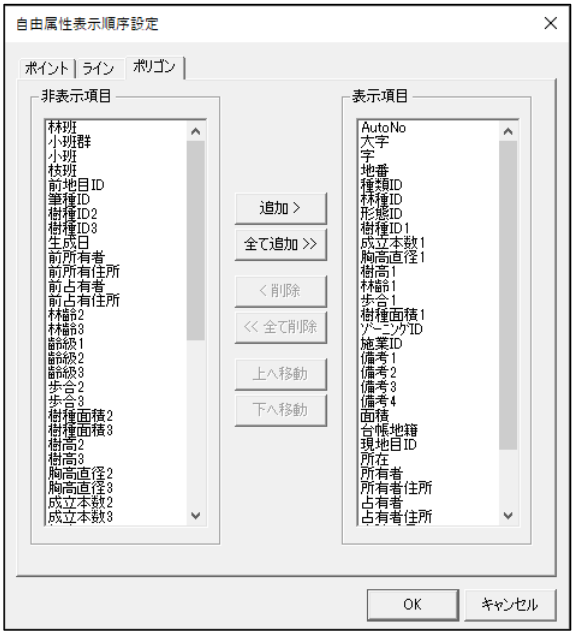
4） [ＯＫ]を押しウィンドウを閉じると対応した情報バーが変化します。



凡例の設定は **XV.2.3［ツール］ – ［自由属性］ – ［引用設定］** をご参照ください。

XVI.2.2. ［ツール］ – ［自由属性］ – ［表示順設定］

ポイント、ライン、ポリゴンの自由属性の表示順設定を設定します。



- 追加：選択した非表示項目を表示項目末尾に追加します。
- 全て追加：非表示項目を表示項目に全て追加します。
- 削除：選択した表示項目を非表示にします
- 全て削除：表示項目を全て非表示にします。
- 上へ移動：選択した表示項目を上に移動します。
- 下に移動：選択した表示項目を下に移動します。

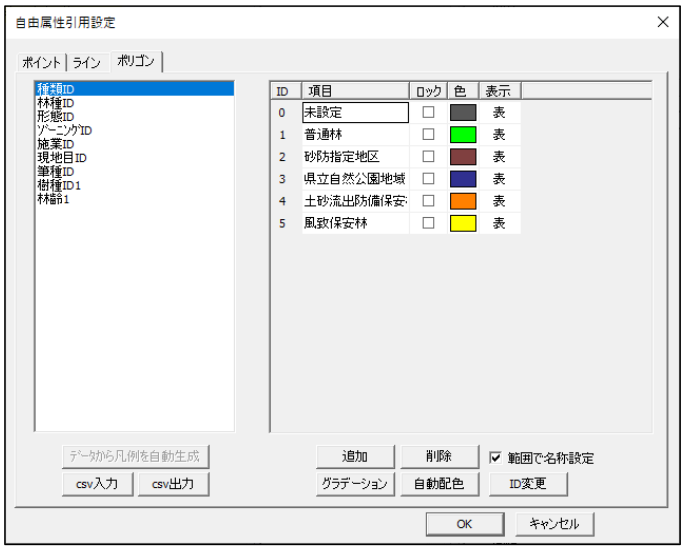
※キー項目は必ず最初に表示されます。

※キー項目以外をキー項目より上に移動はできません。

XVI.2.3. ［ツール］ – ［自由属性］ – ［引用設定］

ポイント、ライン、ポリゴンの自由属性の引用設定をします。

ポリゴンの場合は配色設定も行います。

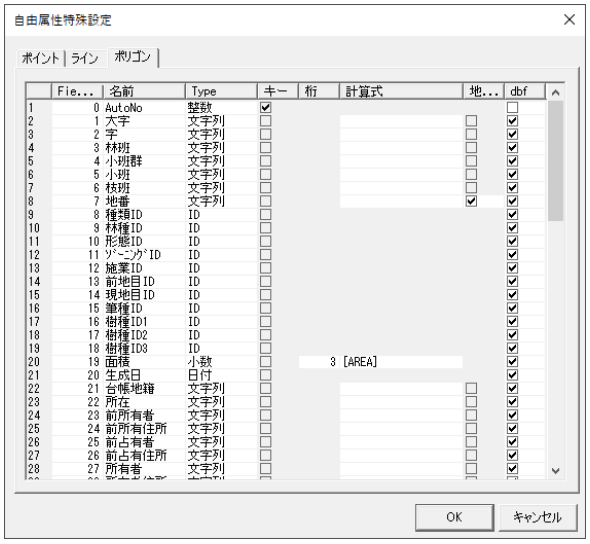


- ID or No.：タイプが ID だと ID が表記、それ以外は No.が表示されます。
- 項目：引用データの項目名が表示されます。
- ロック：自動配色で色の変更を行わないグラデーションでの基準値を選択します（ポリゴンのみ）
- 色：図面での画地色やハッチ設定します。（ポリゴンのみ、押下で設定ダイアログ表示）
- 表示：図面上で表示するかの設定します。（ポリゴンのみ）
- Min：範囲設定での Min 値（ポリゴンのみ、範囲設定時のみ）
- Max：範囲設定での Max 値（ポリゴンのみ、範囲設定時のみ）
- データから凡例を自動生成：データが持つ属性値を基に自動で凡例を作成します。
- csv 入力：引用設定情報を csv 形式で入力します。
- csv 出力：引用設定情報を csv 形式で出力します。
- 追加：引用データを一つ追加します。
- 削除：選択した引用データを一つ削除します。（ID0 は削除できません。）
- ID 変更：項目の ID を変更します（ID タイプのみ）
- グラデーション：ロックにチェックが入っている項目間で色をグラデーションさせます。（ロックは 2 個以上必要）
- 自動配色：色を自動で設定　ロックされている項目は色を変更しません。
- 範囲で名称設定：Min と Max 値から項目名を設定します。

XVI.2.4. ［ツール］ – ［自由属性］ – ［特殊設定］

ポイント、ライン、ポリゴンの自由属性の特殊設定をします

この設定では FieldID、名前、Type、キーは編集できず表示のみできます。



- 桁：Type が小数の場合、表示する小数点以下桁数を指定します。
- 計算式：フィールドを指定して四則演算や地番分解など特殊な値設定をさせます。
- 地番連動：ポリゴンの地番と連動するフィールドを指定します。
  （ポリゴンのみ、全フィールドで一つだけ設定可能）
- dbf：シェープ出力時に dbf に出力するフィールドを指定します。（現在ポリゴンのみ）

☆計算式詳細説明

フィールド ID を参照する場合、[19]など、フィールド ID を[ ]で囲うとその値を参照します。

○四則演算

フィールドが整数・小数の場合に可能です。

＋ - * / が使用できます。

[ ]でフィールド ID を指定するとその値を計算に使用します。

[19] * 3

など入力するとフィールド ID19 の値に 3 をかけた結果を値とします。

[19] * [46]

など入力するとフィールド ID19 の値に ID46 をかけた結果を値とします。

（四則演算なのですが、* / を優先的に実行したりはまだできていません。( )でくくってください）

○地番分解

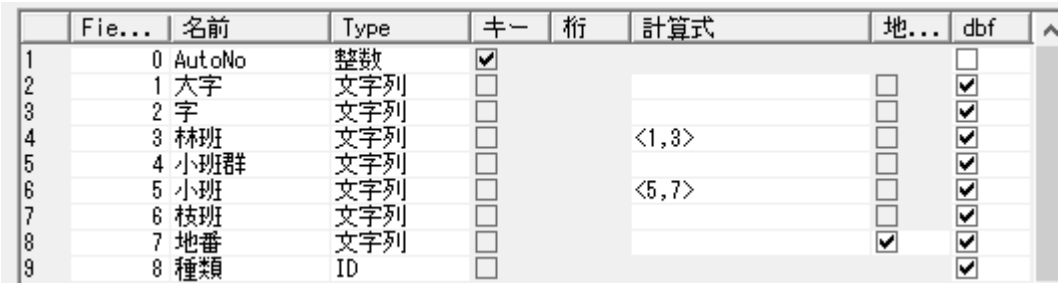
地番連動フィールドの文字列を分解します。

<A,B> という書式で指定し、A 文字目～B 文字目を抜き出します。

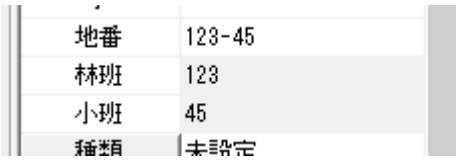
例）

地番：123-45

<1,3> と指定すると【123】となり、<5,7> と指定すると【45】となります



	Fie...	名前	Type	キー	桁	計算式	地...	dbf
1	0	AutoNo	整数	☑				☐
2	1	大字	文字列	☐			☐	☑
3	2	字	文字列	☐			☐	☑
4	3	林班	文字列	☐		<1,3>	☐	☑
5	4	小班群	文字列	☐			☐	☑
6	5	小班	文字列	☐		<5,7>	☐	☑
7	6	枝班	文字列	☐			☐	☑
8	7	地番	文字列	☐			☑	☑
9	8	種類	ID	☐				☑



地番	123-45
林班	123
小班	45
種類	未設定

○文字列連結

フィールドが文字列の場合に可能です。

また、数値フィールドも参照可能です。

○面積

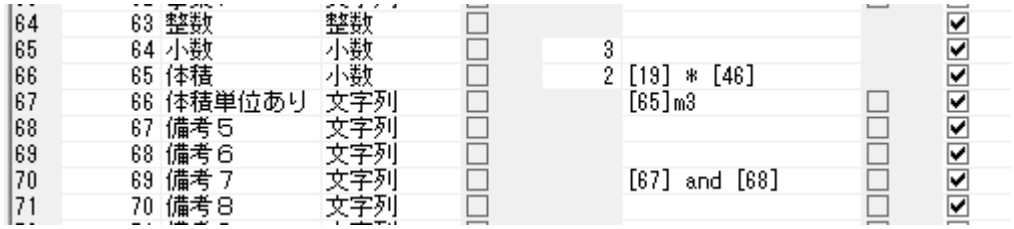
実面積を引用します。

[AREA]



19	18	樹種3	ID	☐		☑
20	19	面積	小数	☐	3 [AREA]	☑
21	20	生成日	日付	☐		☑

計算式例

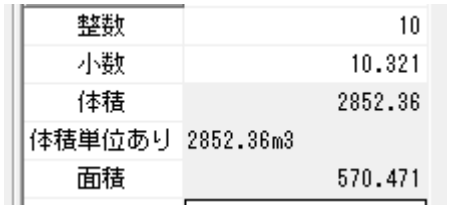


64	63	整数	整数	☐			☑
65	64	小数	小数	☐	3		☑
66	65	体積	小数	☐	2	[19] * [46]	☑
67	66	体積単位あり	文字列	☐		[65]m3	☐ ☑
68	67	備考５	文字列	☐			☐ ☑
69	68	備考６	文字列	☐			☐ ☑
70	69	備考７	文字列	☐		[67] and [68]	☐ ☑
71	70	備考８	文字列	☐			☐ ☑

面積[19]は[AREA]指定なのでポリゴンの実面積を計算して表示

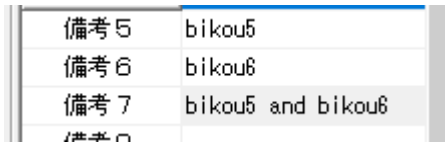
体積は面積[19]*樹高[46]で計算して表示

体積単位あり[66]は体積[65]に m3 を連結して表示



整数	10
小数	10.321
体積	2852.36
体積単位あり	2852.36m3
面積	570.471

備考７[69]は備考５[67]と備考６[68]を and という文字列を連結させて表示



備考５	bikou5
備考６	bikou6
備考７	bikou5 and bikou6

XVI.2.5. ［ツール］ – ［自由属性］ – ［設定入力］

[ツール] メニューの [自由属性] → [設定出力] から bin ファイルを出力し、そのファイルを [設定入力] で読み込むことで、自由属性の基本設定（項目名など）をコピーできます。

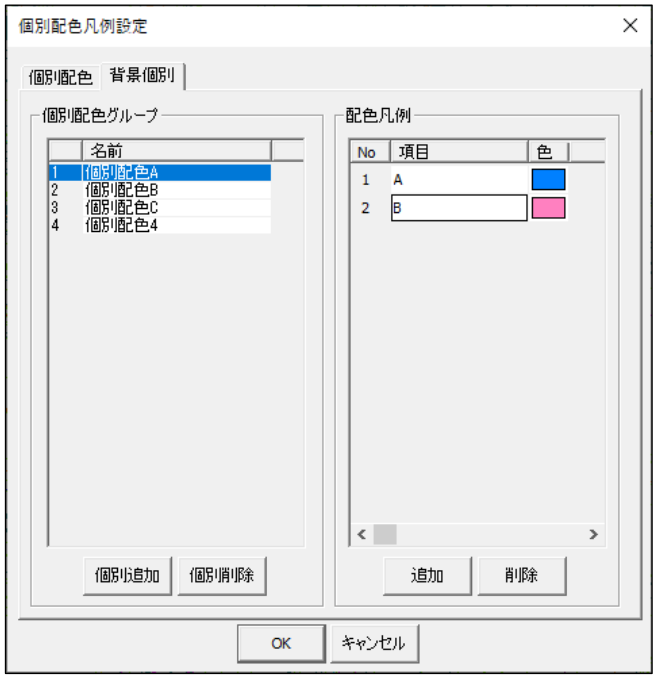
XVI.2.6. ［ツール］ – ［自由属性］ – ［設定出力］

自由属性の基本設定をコピーするための bin ファイルを出力します。
出力したファイルを [設定入力] で読み込むことで、自由属性の基本設定（項目名など）をコピーできます。

XVI.2.7. ［ツール］ – ［自由属性］ – ［個別配色凡例設定］

個別配色凡例を設定することができます。

属性値にかかわらず、任意の色で色を付けたい場合に使用します。



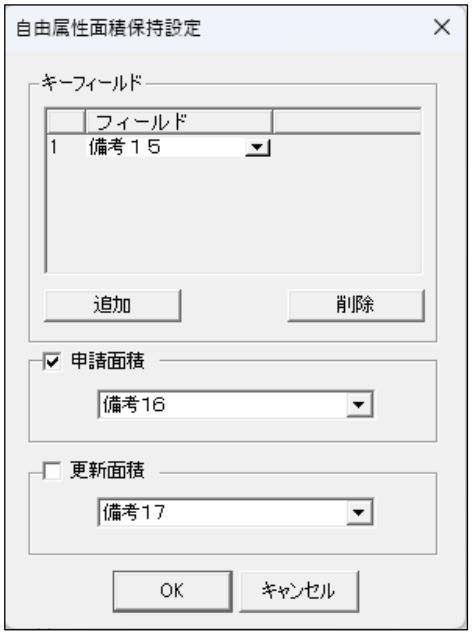
- 個別配色グループ
  - 個別追加：個別配色を追加できます。
  - 個別削除：個別配色を削除できます。
- 配色凡例
  - 追加：配色凡例を追加できます。
  - 削除：個別凡例を削除できます。

色をクリックして変更することが可能です。



XVI.2.8. ［ツール］ – ［自由属性］ – ［申請面積保持］

Assist 印刷の測量実測図ドローン帳票用に反映するデータの設定を行います。



- キーフィールド：キーフィールドを設定します。キーフィールドに同一の値が入っている場合、面積は合算されます。
  キーフィールドは追加することが可能です。
- 申請面積：通常の面積。図形面積と連動させる場合はチェックを入れます。
  チェックを外している場合は選択した項目に入っている数値が反映されます。
- 更新面積：除地を考慮しない面積。図形面積と連動させる場合はチェックを入れます。
  チェックを外している場合は選択した項目に入っている数値が反映されます。

※申請面積、更新面積のどちらかは図形面積と連動させる必要があります。

XVI.2.9. ［ツール］ – ［自由属性］ – ［メンテナンス機能］

通常使用しません。

XVI.3. ［ツール］ – ［レイヤ管理］

XVI.3.1. ［ツール］ – ［レイヤ管理］ – ［杭種一覧設定］

杭種や杭マークを設定します。

現在設定されている杭情報が表示されます。



表示/非表示

- 表示：杭マークを表示します。（デフォルト）
- 非表示：杭マークを表示しません。
- 全表示：杭マークを全て表示にします。
- 全非表示：杭マークを全て表示しません。
- 日付範囲：指定の日付に作成した杭のみ表示にします。
- 操作許可：選択杭種の編集を制限します。

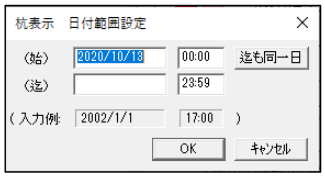
※表示を押すと個別に表示非表示を選択できます。

【注意】［ファイル］ – ［Assist 印刷］で「現在の杭種ステータスを使用する」にチェックを入れると、
ここの表示非表示に従って（画面に表示されている状態）で印刷します。

杭の作成日時に該当する杭マークのみを表示する機能

手順

1）日付範囲の右横のボタンを押すと「杭表示　日付範囲設定」ウィンドウが表示されるので、
開始時間と終了時間を入力する。

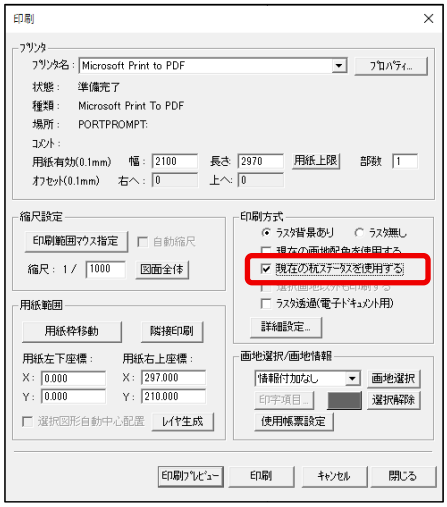


2）[ＯＫ]を押しウィンドウを閉じる。

3）日付範囲　を押し、ON 状態にした後、[適用]を押す。

4）再度、時間に関係なく表示する時は[日付範囲]を再度押して OFF にする。

【注意】 印刷するときは必ず「現在の杭種ステータスを使用する」をチェックマークしてください。



詳細変更



- ＩＤ変更：マークの ID を変更
- マーク変更：杭マークを変更
- テキスト変更：杭種の名前を変更
- 色変更：マークの色を変更

杭追加



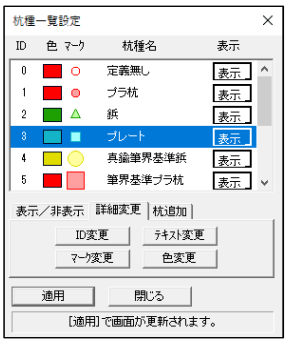
- 杭の追加：新しい杭を追加
- 杭の削除：現在の杭を削除

【注意】 ID 0 定義なしは、ID、マーク、色 とも固定です。

杭マークの設定方法

（例）デフォルトの杭を変更する。

ID 7 ペンキを プラ杭（黄）に変更する。



手順

1） 詳細変更のマーク変更を押し、用意されているマークから選択

2） テキスト変更を押してプラ杭（黄）と入力します。

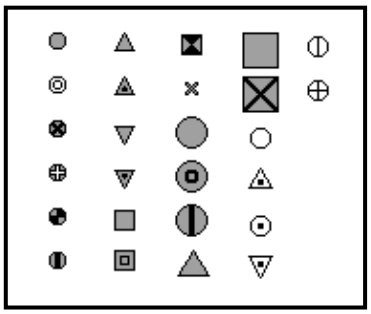
3） 必要に応じて色変更でマークの色を、ＩＤ変更でマークの ID を変更します。

4） [適用]をクリックして閉じる。

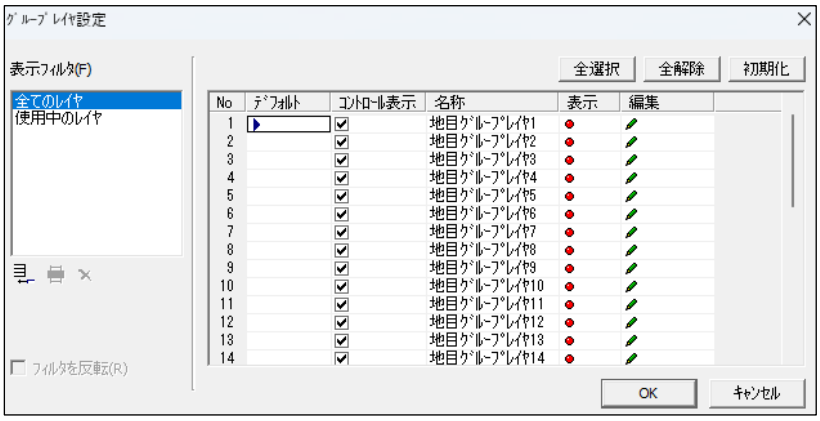
必要に応じて色変更でマークの色を変更、ＩＤ変更でマークの ID を変更

【注意】

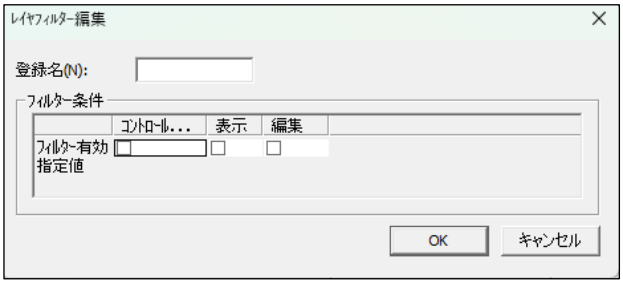
杭種は無制限に用意できますが、印刷時の凡例表示と杭種本数一覧で
は 19 種までの対応になります。



XVI.3.2. ［ツール］ – ［レイヤ管理］ – ［グループレイヤ管理］



- 表示フィルタ：すべてのレイヤ（グループ）、使用中のレイヤ（グループ）を選択すると
  右側に該当のレイヤグループが表示される。
  下側の追加ボタンで新しいフィルタを作成することができます。
- 表示フィルタ追加、編集、削除：追加、編集をクリックすると[レイヤフィルタ編集]ウィンドウが表示されます。

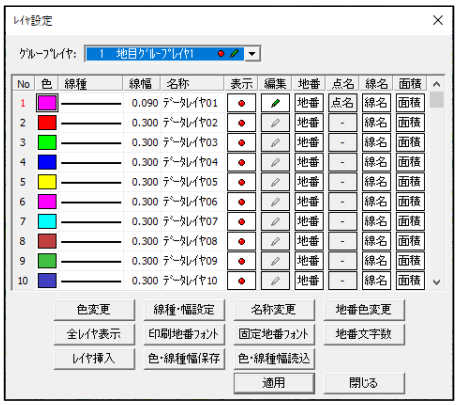


登録名を設定し、コントロール表示、表示、編集の項目にチェックを入れると該当するレイヤグループのみが表示されます。削除ボタンをクリックすると作成したフィルタは削除されます。

- フィルタを反転：各フィルタで表示されてない方のレイヤグループが表示される。
- デフォルト：通常使用するグループレイヤを選択することができます。
- コントロール表示：チェックを外すと、該当するグループレイヤが使用不可になります。
- 名称：グループレイヤ名を変更できます。
- 表示：グループレイヤごとに表示・非表示を切り替えることができます。
- 編集：グループレイヤごとに編集の許可を切り替えることができます。

XVI.3.3. ［ツール］ – ［レイヤ管理］ – ［レイヤ表示設定］

レイヤの詳細を設定します。



色変更

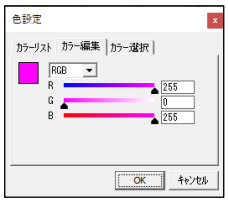
手順

1） 変更したいレイヤを選択します。

2） ［色変更］を押し、変更します。
［カラー編集］で RGB 指定、［カラー選択］でカーソル色指定後、［カラーリスト］ – ［追加］
または［削除］でパレットにカラーを追加・削除できます。

色設定　　カラー編集　　カラー選択







線種・幅設定



手順

1） 線種変更したいレイヤを選択します。

2） ［線種・幅設定］を押し、線種を選択し、線幅を入力して変更します。

3） レイヤ内の線が変更されます。

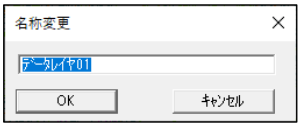
名称変更

手順

1） 変更したいレイヤを選択します。

2） ［名称変更］を押し、名称を入力します。

3） OK で、名称が変更されます。



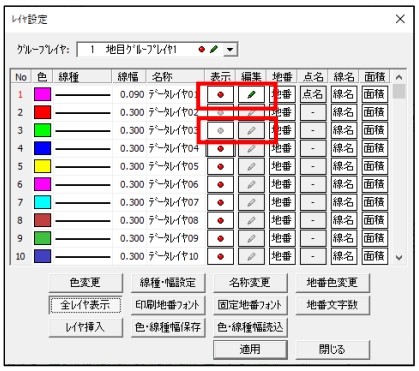
［表示］

表示：地目レイヤ、背景レイヤ、または地番を表示します。
（デフォルト）

非表示：地目レイヤ、背景レイヤ、または地番を表示しません。

全レイヤ表示：No.17～No.99 のレイヤを表示にします。

  を押すと個別に表示・非表示を選択できます

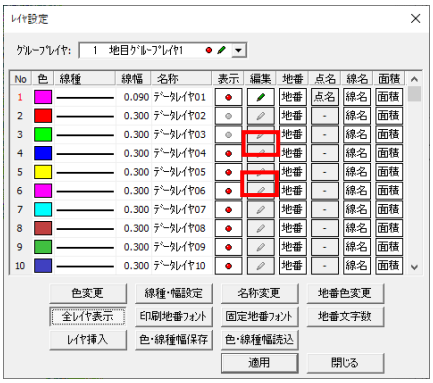


［編集］

を押して、選択中のレイヤの編集可・編集不可を選択できます

編集可：レイヤを編集できます。

編集不可：レイヤを編集不可にします。



［地番色変更］

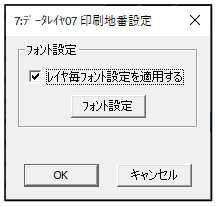
地番色変更：選択されているレイヤ内の地番色を変更します。
詳細は色変更と同様です。

［全レイヤ表示］

レイヤを全て表示します。

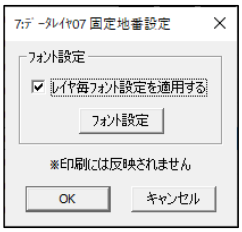
印刷地番フォント

選択したレイヤの地番フォントを変更します。［１地目レイヤ印刷地番設定］
ウィンドウが表示されます。［フォント設定］でフォントを変更します。



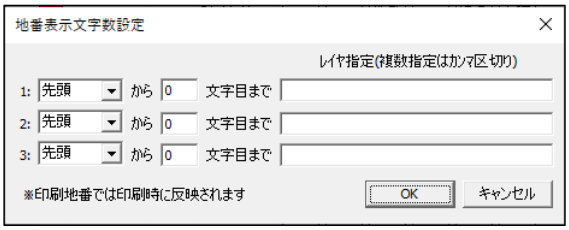
固定地番フォント

選択したレイヤの地番フォントを変更します。［１地目レイヤ固定地番設定］
ウィンドウが表示されます。［フォント設定］でフォントを変更します。



地番文字数

選択したレイヤの地番表示文字数を変更します。
［地番表示文字数設定］ウィンドウが表示されます。表示する文字数を変更します。



色・線種幅保存

色・線種を保存することができます。

色・線種幅読込

色・線種幅保存で保存した色・線種を読み込むことができます。

適用

作成やラインカラーや線の太さを変更した後に、 適用 を押すと正しい表示になります。

XVI.3.4. ［ツール］ – ［レイヤ管理］ – ［選択図形色設定］

ポリゴンやラインを選択した際の色を指定することができます。

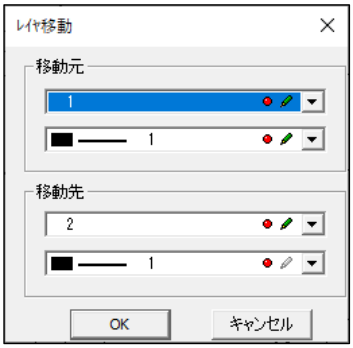
XVI.3.5. ［ツール］ – ［レイヤ管理］ – ［図形レイヤ編集］ – ［移動］

既存図形のレイヤを指定したレイヤに移動します。

手順

1） ［ツール］ – ［レイヤ管理］ – ［図形レイヤ編集］ – ［移動］を選択します。

2） ［レイヤ移動］ウィンドウが表示されます。



- 移動元：レイヤを移動する図形のレイヤを指定します。
- 移動先：指定したレイヤの図形を移動するレイヤを指定します。

3） 設定終了後、［ＯＫ］ボタンをクリックするとレイヤが移動します。

XVI.3.6. ［ツール］－［レイヤ管理］－［図形レイヤ編集］－［コピー］

既存図形のレイヤを指定したレイヤに複写します。

手順

1） ［ツール］－［レイヤ管理］－［図形レイヤ編集］－［コピー］を選択します。

2） ［レイヤコピー］ウィンドウが表示されます。



- コピー元：レイヤをコピーする図形のレイヤを指定します。
- コピー先：指定したレイヤの図形をコピーするレイヤを指定します。

3） 設定終了後、［ＯＫ］ボタンをクリックするとレイヤがコピーされます。

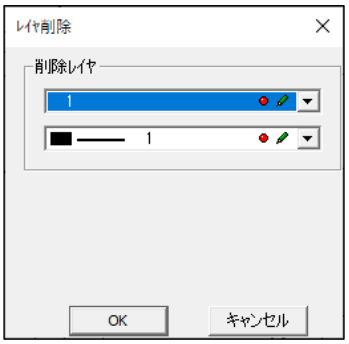
XVI.3.7. ［ツール］－［レイヤ管理］－［図形レイヤ編集］－［削除］

指定したレイヤの図形を削除します。

手順

1） ［ツール］－［レイヤ管理］－［図形レイヤ編集］－［削除］を選択します。

2） ［レイヤ削除］ウィンドウが表示されます。



- 削除レイヤ：図形を削除するレイヤを指定します。

3） 設定終了後、［ＯＫ］ボタンをクリックすると指定したレイヤの図形が削除されます。

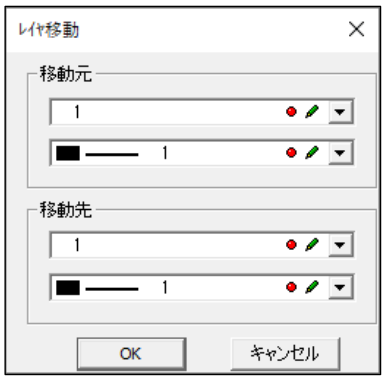
XVI.3.8. ［ツール］-［レイヤ管理］-［図形レイヤ編集］-［選択図形移動］

選択図形を指定したレイヤに移動します。

手順

1） ［ツール］ – ［レイヤ管理］ – ［図形レイヤ編集］ – ［選択図形移動］を選択します。

2） ［レイヤ移動］ウィンドウが表示されます。



- 移動元：移動する図形のレイヤを指定します。
- 移動先：指定したレイヤの図形を移動するレイヤを指定します。
-

3） 設定終了後、［ＯＫ］ボタンをクリックすると［選択図形レイヤ移動オプション］ウィンドウが表示されます。
対象図形を選択します。



4） マウスカーソルが＋に変わります。

5） 移動したい図形を囲むようにクリックし、最後にダブルクリックすると指定したレイヤに選択図形が移動します。

6） 右クリックで終了します。

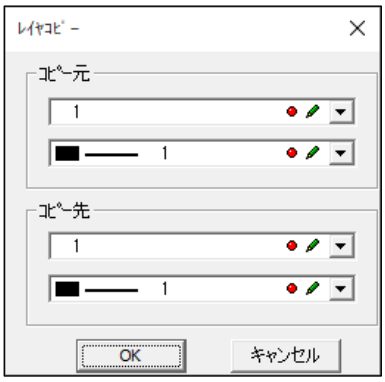
XVI.3.9. ［ツール］-［レイヤ管理］-［図形レイヤ編集］-［選択図形コピー］

選択図形を指定したレイヤに複写します。

手順

1） ［ツール］－［レイヤ管理］－［図形レイヤ編集］－［選択図形コピー］を選択します。

2） ［レイヤコピー］ウィンドウが表示されます。



- コピー元：コピーする図形のレイヤを指定します。
- コピー先：指定したレイヤの図形をコピーするレイヤを指定します。

3） 設定終了後、［ＯＫ］ボタンをクリックすると［選択図形レイヤコピーオプション］ウィンドウが表示されます。
対象図形を選択します。



4） マウスカーソルが＋に変わります。

5） コピーしたい図形を囲むようにクリックし、最後にダブルクリックすると指定したレイヤに選択図形がコピーされます。

6） 右クリックで終了します。

XVI.3.10. ［ツール］-［レイヤ管理］-［図形レイヤ編集］-［選択図形削除］

選択図形を指定したレイヤから削除します。

手順

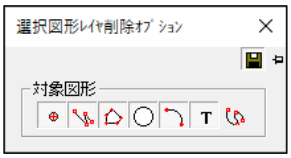
1） ［ツール］－［レイヤ管理］－［図形レイヤ編集］－［選択図形削除］を選択します。

2） ［レイヤ削除］ウィンドウが表示されます。



- 削除レイヤ：削除する図形のレイヤを指定します。

3） 設定終了後、［ＯＫ］ボタンをクリックすると［選択図形レイヤ削除オプション］ウィンドウが表示されます。
対象図形を選択します。



4） マウスカーソルが＋に変わります。

5） 削除したい図形を囲むようにクリックし、最後にダブルクリックすると指定したレイヤから選択図形が削除されます。

6） 右クリックで終了します。

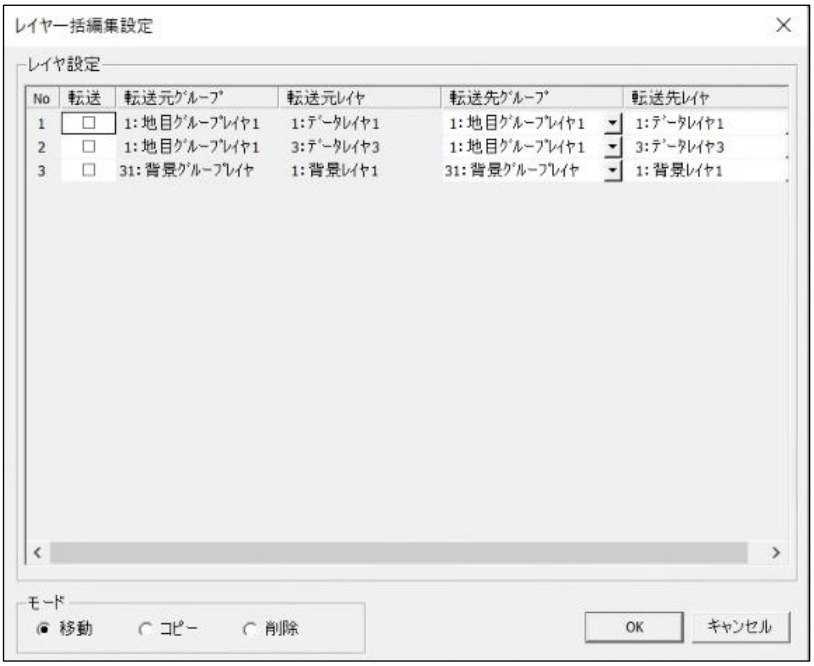
XVI.3.11. ［ツール］-［レイヤ管理］-［図形レイヤ編集］-［一括レイヤ移動･コピー･削除］

現在図面に追加されているレイヤの一覧表から、レイヤの移動･コピー･削除を一括で設定できます。

手順

1）左下の「モード」欄で、移動･コピー･削除のいずれかを選択します。

2）「レイヤ設定」欄にて、移動･コピー･削除の対象レイヤのチェックを入れ、コピー･移動先のレイヤを選択します。
※削除の場合、転送先レイヤの設定は不要です。



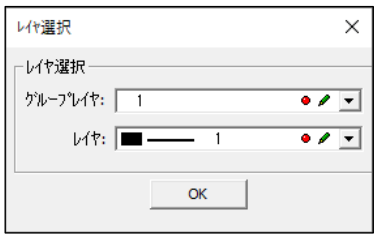
XVI.3.12. ［ツール］-［レイヤ管理］-［図形レイヤ編集］-［ByData･ByEdge 削除］

選択したレイヤの ByData（図形のカスタム線色やカスタム線種など）と
ByEdge（辺のカスタム線色やカスタム線種など）を削除します。

手順

1） ［ツール］ – ［レイヤ管理］ – ［図形レイヤ編集］ – ［ByData ByEdge 削除］を
選択します。

2） ［レイヤ選択］ウィンドウが表示されます。



3） 選択後［ＯＫ］ボタンをクリックすると指定したレイヤの ByData ByEdge が削除されます。

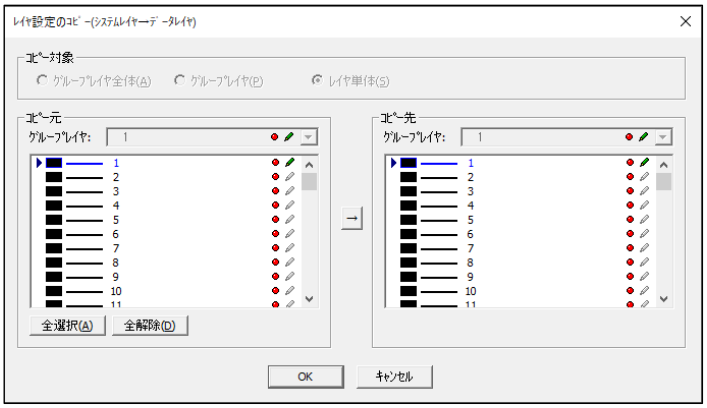
XVI.3.13. ［ツール］ – ［レイヤ管理］ – ［システム→データレイヤ（D）］

システムレイヤをデータ内レイヤにコピーします。

手順

1） ［ツール］ – ［レイヤ管理］ – ［システム→データレイヤ］を選択します。

2） ［レイヤ設定のコピー（システムレイヤ→データレイヤ）］ウィンドウが表示されます。



- コピー対象
  - グループレイヤ全体：グループレイヤ全体でコピーします。
  - グループレイヤ：グループレイヤ単位でコピーします。
  - レイヤ単体：レイヤ単体でコピーします。
- コピー元

  ※グループレイヤまたはレイヤ単体を選択すると選択可能になります。
  - グループレイヤ：グループレイヤを選択します。
  - 全選択：すべてのレイヤを選択します。
  - 全解除：すべてのレイヤの選択を解除します。
- コピー先
  - グループレイヤ：グループレイヤを選択します。

3） コピーするレイヤを選択して［→］ボタンをクリックするとコピー先の表示が変更されます。

4） ［ＯＫ］ボタンをクリックするとレイヤがコピーされ終了します。

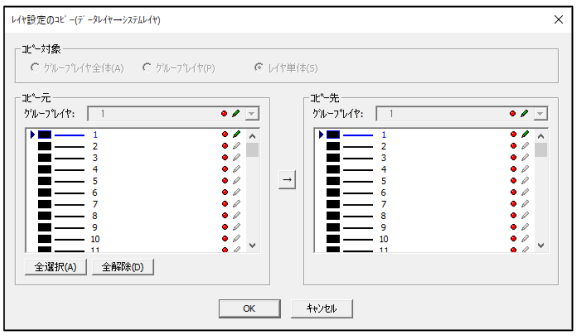
XVI.3.14. ［ツール］ – ［レイヤ管理］ – ［データ→システムレイヤ（S）］

データ内レイヤをシステムレイヤにコピーします。

手順

1） ［ツール］ – ［レイヤ管理］ – ［データ]→[システムレイヤ］を選択します。

2） ［レイヤ設定のコピー（データレイヤ→システムレイヤ）］ウィンドウが表示されます。



- コピー対象
  - グループレイヤ全体：グループレイヤ全体でコピーします。
  - グループレイヤ：グループレイヤでコピーします。
  - レイヤ単体：レイヤ単体でコピーします。
- コピー元

※ グループレイヤまたはレイヤ単体を選択すると選択可能になります。

  - グループレイヤ：グループレイヤを選択します。
  - 全選択：すべてのレイヤを選択します。
  - 全解除：すべてのレイヤの選択を解除します。
- コピー先
  - グループレイヤ：グループレイヤを選択します。

3） コピーするレイヤを選択して［→］ボタンをクリックするとコピー先の表示が変更されます。

4） ［ＯＫ］ボタンをクリックするとレイヤがコピーされ終了します。

XVI.3.15. ［ツール］ – ［レイヤ管理］ – ［ポリゴン基本色設定（G）］

現在の地目レイヤ以外の画地色を設定します。

XVI.3.16. ［ツール］ – ［レイヤ管理］ – ［グループレイヤ間設定コピー］

グループレイヤのレイヤ名称・色・線種の設定をコピーします。

XVI.3.17. ［ツール］ – ［レイヤ管理］ – ［杭種・森林属性入出力］ – ［杭種入力］

下記「［ツール］ – ［レイヤ管理］ – ［杭種・森林属性入出力］ – ［杭種出力］」の操作にて、Assist8 から出力した「kuisyu.txt」をインポートします。

XVI.3.18. ［ツール］ – ［レイヤ管理］ – ［杭種・森林属性入出力］ – ［杭種出力］

杭種の情報が記載された kuisyu.txt を出力します。
出力した kuisyu.txt は上記［ツール］ – ［レイヤ管理］ – ［杭種・森林属性入出力］ – ［杭種入力］より、インポートします。

XVI.4. ［ツール］ – ［補正］

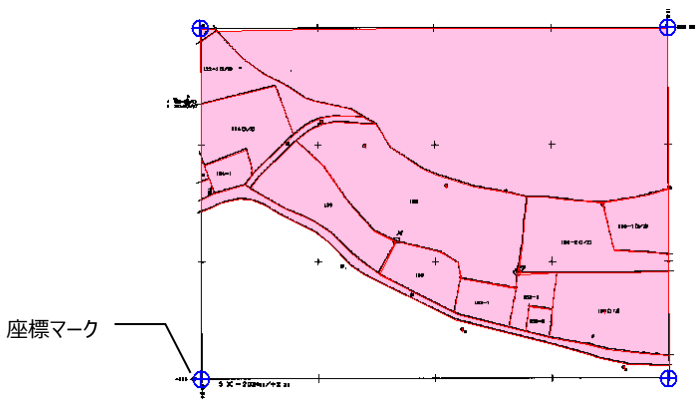
XVI.4.1. ［ツール］ – ［補正］ – ［基準点］

図面を公共座標で扱うために、公共座標が確定している位置に基準となる点を指定して座標値を設定します。

座標マークが編集画面に表示されない場合は、［ツール］ – ［プロパティ］ – ［表示］タブを選択し、［基準座標］のチェックボックスを［ＯＮ］にしてください。

基準点の設定方法は、補正方法によって異なります。

［ツール］ – ［補正］ – ［補正方法］を選択して設定してください。



※座標マークは補正方法によって異なります。

XVI.4.2. ［ツール］－［補正］－［基準点］－［左下］

座標がない図面に、編集上の架空の座標値を設定します。左下基準点位置と座標値を入力し、基準点を設定します。

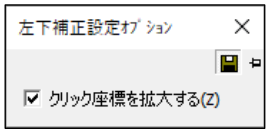
手順

1） 補正方法を［左下から計算］に設定します。

設定方法は、ＸＶ.4.16.［ツール］－［補正］－［補正方法］をご参照ください。

2） ［ツール］－［補正］－［基準点］－［左下］を選択します。

3） ［左下補正設定オプション］ウィンドウが表示されます。



- クリック座標を拡大する：カーソルが  に変わり、クリックで座標を拡大します。

4） カーソルが＋に変わります。

5） 左下座標を入力するポイントをクリックします。

6） ［ポイント指定］ウィンドウが表示されます。



7） Ｘ座標・Ｙ座標を入力し、［ＯＫ］ボタンをクリックすると、座標値が設定され座標マークが表示されます。

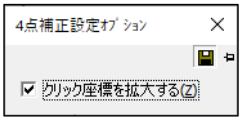
XVI.4.3. ［ツール］－［補正］－［基準点］－［4 点］

図枠の４点がある図面の場合は、図枠の４点に座標値を入力して補正します。
４点座標位置と座標値を入力し、基準点を設定します。入力した値は４点自動のパラメータに反映されます。
手順

1） 補正方法を［４点補正］に設定します。
　　設定方法は、［ツール］－［補正］－［補正方法］をご参照ください。

2） ［ツール］－［補正］－［基準点］－［４点］を選択します。

3） ［4 点補正設定オプション］ウィンドウが表示されます。

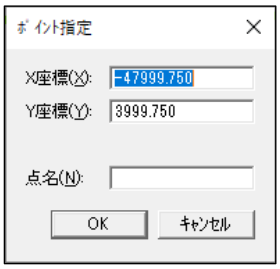


- クリック座標を拡大する：カーソルが こ変わり、クリックで座標を拡大します。

4） カーソルが＋に変わります。

5） 座標を入力するポイントをクリックします。

6） ［ポイント指定］ウィンドウが表示されます。



7） Ｘ座標・Ｙ座標を入力し、［ＯＫ］ボタンをクリックすると、座標値が設定され座標マークが表示されます。

8） 3.～6.の作業を繰り返し４点入力します。

※ 座標値を入力する順番は、左上を１点目に右回りで入力してください。

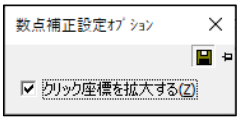
XVI.4.4. ［ツール］－［補正］－［基準点］－［数点］

図枠の４点がない図面で２点以上のポイント（トンボ）を指定することで補正します。
座標を任意の複数点で補正するときの座標位置と座標値を入力します。
手順

1） 補正方法を［ヘルマート］・［座標差による補正］・［距離差による補正］・［メッシュ補正］のいずれかに設定します。設定方法は、［ツール］－［補正］－［補正方法］をご参照ください。

2） ［ツール］－［補正］－［基準点］－［数点］を選択します。

3） ［数点補正設定オプション］ウィンドウが表示されます。

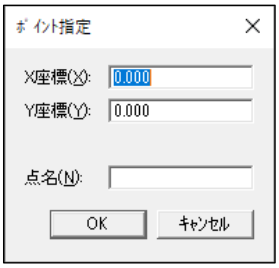


- クリック座標を拡大する：カーソルが　に変わり、クリックで座標を拡大します。

4） カーソルが＋に変わります。

5） 座標を入力するポイントをクリックします。

6） ［ポイント指定］ウィンドウが表示されます。



7） Ｘ座標・Ｙ座標を入力し、［ＯＫ］ボタンをクリックすると、座標値が設定され座標マークが表示されます。

8） 必要に応じて 3.～6.の作業を繰り返します。

XVI.4.5. ［ツール］－［補正］－［基準点］－［編集］

既に入力した基準点を修正します。

手順

1） ［ツール］－［補正］－［基準点］－［編集］を選択します。

2） カーソルが△に変わります。

3） 座標値を修正する座標マークをクリックすると、［ポイント指定］ウィンドウが表示されます。



4） Ｘ座標・Ｙ座標を修正し、［ＯＫ］ボタンをクリックすると、座標値が修正されます。

XVI.4.6. ［ツール］－［補正］－［基準点］－［移動］

既に設定されている基準点を移動します。

手順

1） ［ツール］－［補正］－［基準点］－［移動］を選択します。

2） カーソルが△に変わります。

3） 移動する座標マークをクリックすると、カーソルに移動する基準点が表示されます。

4） 移動する位置でクリックすると、［ポイント指定］ウィンドウが表示されます。

5） Ｘ座標・Ｙ座標を修正し［ＯＫ］ボタンをクリックすると、座標値が修正されます。

XVI.4.7. ［ツール］－［補正］－［基準点］－［削除］

既に設定されている基準点を削除します。４点補正の場合は、すべて削除されます。

手順

1） ［ツール］－［補正］－［基準点］－［削除］を選択します。

2） カーソルが＋に変わります。

3） 削除する座標マークをクリックすると、指定した基準点が削除されます。

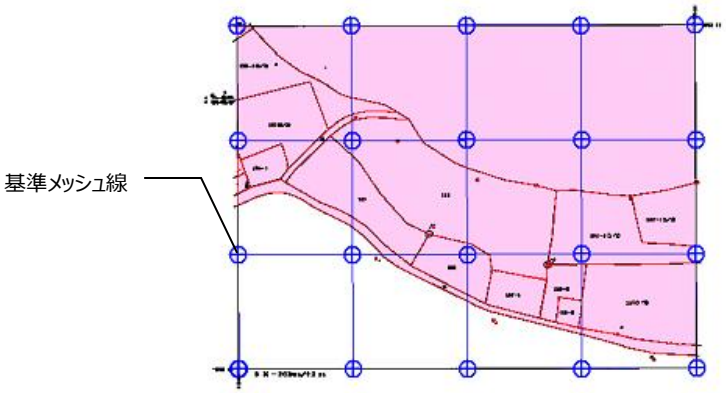
XVI.4.8. ［ツール］－［補正］－［基準メッシュ］

［基準点］－［数点］で指定した座標が３点以上ある場合は、指定した３点から４点目の座標を作成し、メッシュ補正します。

XVI.4.9. ［ツール］－［補正］－［基準メッシュ］－［追加］

基準座標入力後、座標にメッシュを追加します。
基準座標入力は、［基準点］－［数点］をご参照ください。
手順

1） 補正方法を［メッシュ補正］に設定します。設定方法は、［ツール］－［補正］－［補正方法］をご参照ください。
2） ［ツール］－［補正］－［基準メッシュ］－［追加］を選択します。
3） カーソルが＋に変わります。
4） メッシュを作成する座標マークを３点クリックします。
３点目でダブルクリックすると、指定した３点から平行四辺形のメッシュと４点目の座標が作成されます。
（２点目に指定した座標マークの対角に４点目の基準点が作成されます。）



XVI.4.10. ［ツール］－［補正］－［基準メッシュ］－［削除］

基準メッシュを削除します。
手順

1） ［ツール］－［補正］－［基準メッシュ］－［削除］を選択します。
2） カーソルが▲に変わります。
3） メッシュの１辺をクリックすると削除されます。（基準点は残ります。）

XVI.4.11. ［ツール］－［補正］－［補正条件］

各座標補正に対して補正条件（縮尺等）を設定して補正を行ないます。

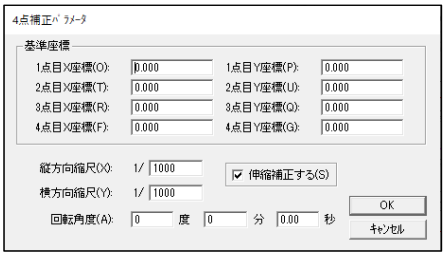
手順

1） 補正方法を［左下補正］に設定します。

2） 設定方法は、［ツール］－［補正］－［補正方法］をご参照ください。

3） ［ツール］－［補正］－［補正条件］を選択します。

［４点補正パラメータ］ウィンドウが表示されます。



- 左下 X/Y 座標：左下 X/Y の座標値が表示されます。（変更可）
- 縦・横方向縮尺：図面の縦・横方向の縮尺を入力します。
- 図面角度：［伸縮補正する］のチェックボックスを［ＯＦＦ］にした場合に、図面の方向角を入力します。
  図面に対して北の角度を入力します。

4） 設定終了後、［ＯＫ］ボタンをクリックすると座標値が補正されます。

XVI.4.12. ［ツール］－［補正］－［４点自動］

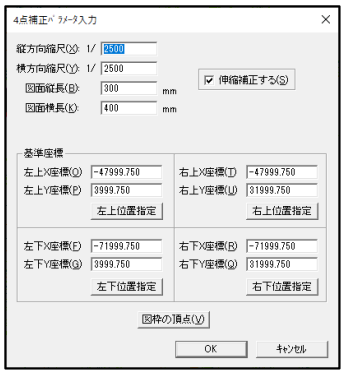
４点補正において、１点の座標値とスケール及び図枠の長さを指定して３点を自動登録します。
４点入力を使った入力方法を自動化するもので登録した基準座標は基準点の機能を使って移動・編集できます。

手順

1） 補正方法を［４点補正］に設定します。
設定方法は、［ツール］－［補正］－［補正方法］をご参照ください。

2） ［ツール］－［補正］－［４点自動］を選択します。

3） ［４点補正パラメータ入力］ウィンドウが表示されます。



- 縦・横方向縮尺：図面の縦・横方向の縮尺を入力します。
- 図面縦長：図面縦長を入力します。
- 図面横長：図面横長を入力します。
- 伸縮補正する：４点の座標から補正計算を行います。
  チェックボックスを［ＯＦＦ］にすると、４点のうち、左下の１点の座標を基準にして計算を行います。図面角度は左下と右下の座標から計算されます。
- 基準座標：基準にする座標を１点指定することによって他の３点が自動的に登録されます。
  基準にする１点を［左上位置指定］・［右上位置指定］・［左下位置指定］・［右下位置指定］ボタンで指定します。詳細は、**＜位置指定＞**をご参照ください。
- 図枠の頂点：図形から図枠を設定します。

4） 設定終了後、［ＯＫ］ボタンをクリックすると４点の座標値が設定されます。

＜位置指定＞

［左上位置指定］・［右上位置指定］・［左下位置指定］・［右下位置指定］から、基準にする座標位置のボタンをクリックします。

① 編集画面に戻り、カーソルが  こ変わります。

② １回目のクリックで編集画面が拡大され、カーソルが＋に変わります。

③ ２回目のクリックで座標値入力ポイントを決定します。

④ ［ポイント指定］ウィンドウが表示されます。

⑤ Ｘ座標・Ｙ座標を入力します。

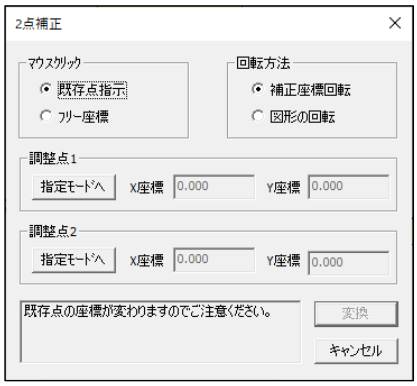
⑥ ［ＯＫ］ボタンをクリックすると、座標値が設定され座標マークが表示されます。

XVI.4.13. ［ツール］－［補正］－［2 点補正］

補正方法が「左下」の場合（任意座標系）に、座標系や縮尺を変更します。

［目的］

字図で調査を行った場合、各々の字図毎に調査図を作成し、全ての調査が完了後、調査地域の接合する場合などに使用します。図上の 2 箇所に座標値を与えることで、新たな座標系や回転を定義します。



- マウスクリック
  - 既存点指示：図面上に存在する杭に座標値を与える場合
  - フリー座標：図面上の任意場所に座標値を与える場合
- 回転方法
  - 補正座標を回転：ラスタ背景図はそのままで、座標系を定義しなおす。
    （見た目は変わらない）通常はこの方法。
  - 図形の回転：新しく定義された座標系で表示。（見た目に、データが回転する：ラスタ背景は非表示）

手順

1） マウスクリック、回転方法を選択

2） 調整点 1 の[指定モードへ]で図面上の座標値を与えなおす点の 1 点目をマウスでヒット

3） 新Ｘ　新Ｙに座標値を入力

4） 調整点 2 の[指定モードへ]で図面上の座標値を与えなおす点の 2 点目をマウスでヒット

5） 新Ｘ　新Ｙに座標値を入力

XVI.4.14. ［ツール］－［補正］－［係数確認］

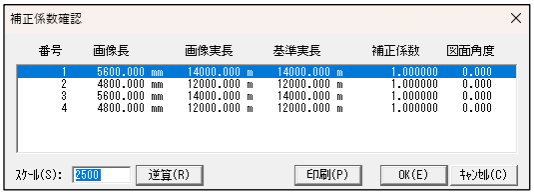
座標値・補正パラメータ入力後、図面の補正状態を確認します。

※左下基準座標で補正した場合は表示されません。

手順

1） ［ツール］－［補正］－［係数確認］を選択します。

2） ［補正係数確認］ウィンドウが表示されます。



- 番号：座標値を登録した順番で座標番号が表示されます。
  選択した座標番号の座標マークが編集画面上で赤く表示されます。
- 画像長：紙上の長さを表示します。
- 画像実長：スケールから考慮した実長を表示します。
- 基準実長：座標値から計算した距離を表示します。
- 補正係数：補正係数を表示します。「１」に近いほど正確に補正されます。
- 図面角度：図面角度を表示します。
- スケール：図面スケール（縮尺）を入力します。
- 逆算：補正係数を１に近づけてスケールを逆算します。
- 印刷：補正係数を印刷します。

3） 補正係数確認後、［ＯＫ］ボタンをクリックします。
［補正係数］が不正確な場合は、［補正条件］で座標値と座標位置と縮尺等を確認して修正します。

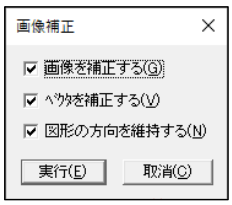
XVI.4.15. ［ツール］ – ［補正］ – ［ラスタ］

基準点に合わせてラスタ・ベクタの画像を補正します。（オプション）

手順

1） ［ツール］ – ［補正］ – ［ラスタ］を選択します。

2） ［画像補正］ウィンドウが表示されます。



- 画像を補正する：基準点に合わせてラスタの歪みを自動調整します。
- ベクタを補正する：基準点に合わせてベクタの歪みを自動調整します。
- 図形の方向を維持する：画像補正を実行するときに、図形の角度を維持します。
  チェックボックスを［ＯＦＦ］にすると、北を真上に補正します。

3） 設定終了後、［実行］ボタンをクリックすると［補正係数確認］ウィンドウが表示されます。



4） ［実行］ボタンをクリックすると、ラスタ・ベクタの画像が補正されます。

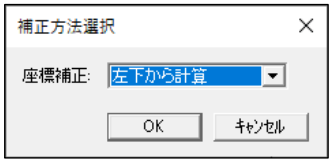
XVI.4.16. ［ツール］－［補正］－［補正方法］

補正方法を設定します。

手順

1） ［ツール］－［補正］－［補正方法］を選択します。

2） ［補正方法選択］ウィンドウが表示されます。



- 左下から計算：基準点を左下に設定して補正を行います。
- ４点補正：基準点を４点に設定して補正を行います。
- ヘルマート：数点の実座標によるヘルマート補正を行います。
- 座標差による補正：数点の実座標による座標差の平均係数による補正を行います。
- 距離差による補正：数点の実座標による距離差の平均係数による補正を行います。
- メッシュ補正：基準点３点から作成したメッシュによる補正を行います。

  メッシュの作成方法は、ＸＶ.4.8.［ツール］－［補正］－［基準メッシュ］をご参照ください。

3） 座標補正方法を選択して［ＯＫ］ボタンをクリックすると、補正方法が設定されます。

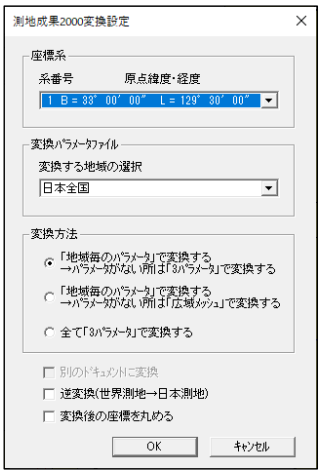
XVI.4.17. ［ツール］－［補正］－［測地成果２０００］

従来、使用されてきた座標系（日本測地系）を、測量法の改正により変更になった座標系（世界測地系）に変換します。測地成果２０００の概要は、<測地成果２０００の概要>をご参照ください。

手順

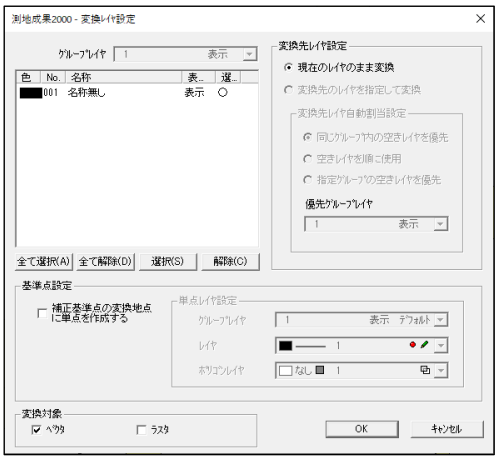
1） ［ツール］－［補正］－［測地成果２０００］を選択します。

2） ［測地成果２０００変換設定］ウィンドウが表示されます。



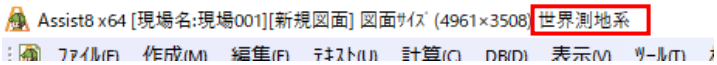
- 座標系：座標系を選択します。
- 変換パラメータファイル：変換する地域を選択します。
- 変換方法：変換方法を選択します。
- 逆変換（世界測地→日本測地）：世界測地→日本測地へ変換します。
- 変換後の座標を丸める：変換後に座標を丸めます。

3） 設定終了後、［ＯＫ］ボタンをクリックすると、［測地成果２０００変換レイヤ設定］ウィンドウが表示されます。



- 変換先レイヤ設定：変換先のレイヤを設定します。
  現在のレイヤか、変更先のレイヤを指定することができます。
- 補正基準点の変換地点に単点を作成する：チェックを入れると補正基準点の変換地点に単点を作成します。
- 単点レイヤ設定：単点のグループレイヤ、レイヤ、ポリゴンレイヤを設定します。
- ラスタは変更しない：ラスタを補正するか指定できます。

※ 世界測地系から世界測地系、日本測地系から日本測地系へ変換しようとすると、警告画面が表示されます。
現在の測地系の設定は画面上部のキャプションに表示されています。



4） 設定終了後、［ＯＫ］ボタンをクリックすると、世界測地系または日本測地系に変換します。

※ このシステムには、国土地理院長の承認を得て、同院の技術資料Ｈ・１－Ｎｏ.２「測地成果２０００のための座標変換ソフトウエアＴＫＹ２ＪＧＤ」を使用しました。
（承認番号 国地企調発第６２１号 平成１４年３月２９日）

＜測地成果２０００の概要＞

地球上の位置を経度・緯度で表わすための基準を測地基準系（測地系）といい、地球の形に最も近い回転楕円体で定義されています。経度・緯度は、この回転楕円体（地球楕円体）の上で表示されています。

そして、個々の土地の経度・緯度が精度良く、効率的に求められるように、位置の目印になる基準点を全国に多数設置し、測量によってこれらの基準点の経度・緯度を求めています。この基準点の位置を表わす経度・緯度の数値を測地基準点成果といいます。従来、我が国は、明治時代に５万分の１地形図を作るために決定した回転楕円体（いわゆるベッセル楕円体）を位置の基準としており、測地基準点成果もこの回転楕円体に基づく値が求められ使用されてきました。この、従来使用されてきた測地基準系を日本測地系といいます。

しかし、ＶＬＢＩ（数十億光年の彼方にある電波星から届く電波を電波望遠鏡で受信して数千ｋｍもの長距離を数ｍｍの高精度で測る技術）や人工衛星により地球規模の観測ができるようになった今日では、日本測地系は、地球全体によく適合した測地基準系であるとは言えなくなりました。

一方で、地球全体によく適合した測地基準系として、世界測地系が構築されています。 世界測地系とは、ＶＬＢＩや人工衛星を用いた観測によって明らかとなった地球の正確な形状と大きさに基づき、世界的な整合性を持たせて構築された経度・緯度の測定の基準で、国際的に定められている測地基準系をいいます。

また、日本測地系の経緯度で表されている地点を、世界測地系の経緯度で表わすと、東京付近では、経度が約－１２秒、緯度が約＋１２秒変化します。これを距離に換算すると、北西方向へ約４５０ｍずれることに相当します。
ＧＰＳ（全地球測位システム）及びＧＩＳ（地理情報システム）というコンピュータシステムによる位置情報の測定・利用技術が出現し、今後急速な普及が見込まれています。そして、両技術に対応する基準として、世界測地系に基づいた、高精度な測地基準点成果及び地図成果が求められています。しかも、近い将来に予測されているＧＰＳやＧＩＳの本格的普及を考慮すると、それ以前に、世界測地系に移行する必要があります。

国土地理院では、全国に電子基準点を整備し、世界測地系に基づく高精度な新しい測地基準点成果である測地成果２０００を計算しました。測地成果２０００では、日本測地系による基準点網のひずみが解消されています。

世界測地系を適用するため、測量法の一部が改正され、平成１４年４月１日から施行されます。

改正測量法の施行により、地方自治体等が行う測量や、地図・ＧＩＳ用地図データベースの作成、法令・告示の経度・緯度表示などについては、世界測地系に基づくことになります。また、必要に応じて既存データの変換等が必要となります。

しかし、地方自治体が持っているデータのすべてを一度に改正測量法の施行日に変換しなければならないというものではありません。新たな測量計画や今後とも維持する必要のあるデータ等を考慮して、必要なものを計画的に順次変換すれば良いことになります。

国土地理院ホームページ 「世界測地系移行の概要」より引用

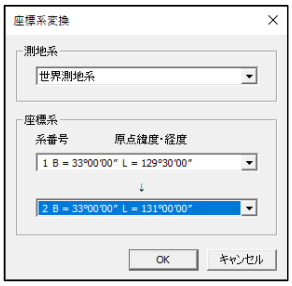
XVI.4.18. ［ツール］ – ［補正］ – ［座標系変換］

座標系の違う図面の結合を行なう場合に結合前に座標系変換を行ないます。

手順

1） ［ツール］ – ［補正］ – ［座標系変換］を選択します。

2） ［座標系変換］ウィンドウが表示されます。

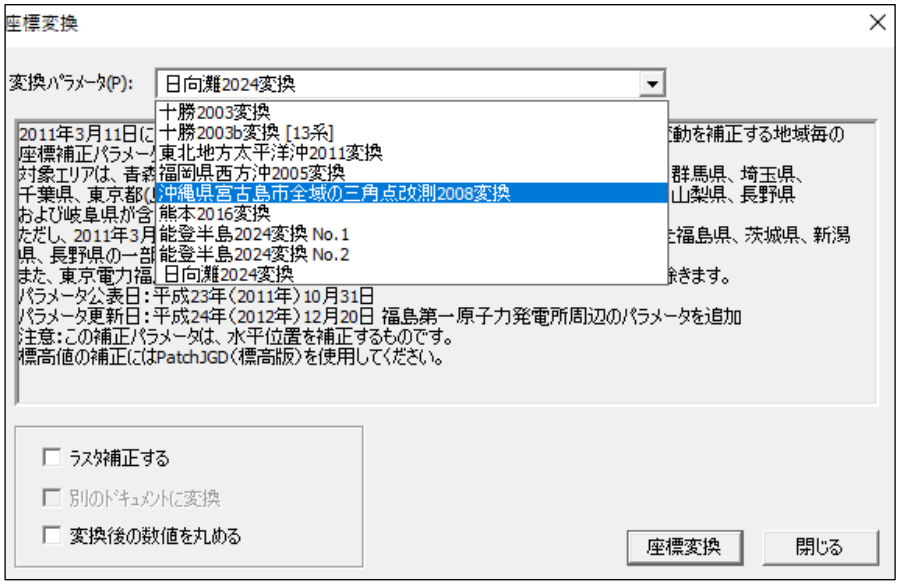


- 測地系：測地系を選択します。
- 座標系：上に現在の座標系が表示されます。(変更可)
  下は変換する座標系を選択します。

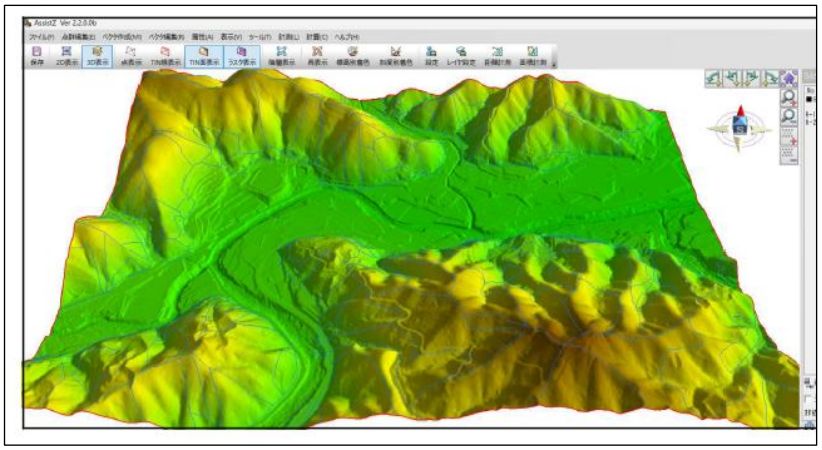
3） 設定終了後、［ＯＫ］ボタンをクリックすると、座標を変換し［ツール］ – ［プロパティ］ – ［単位・角度］を変更します。

XVI.4.19. ［ツール］ – ［補正］ – ［座標パラメータ］

特定の地震などによる地殻変動を補正するための変換パラメータが用意されています。

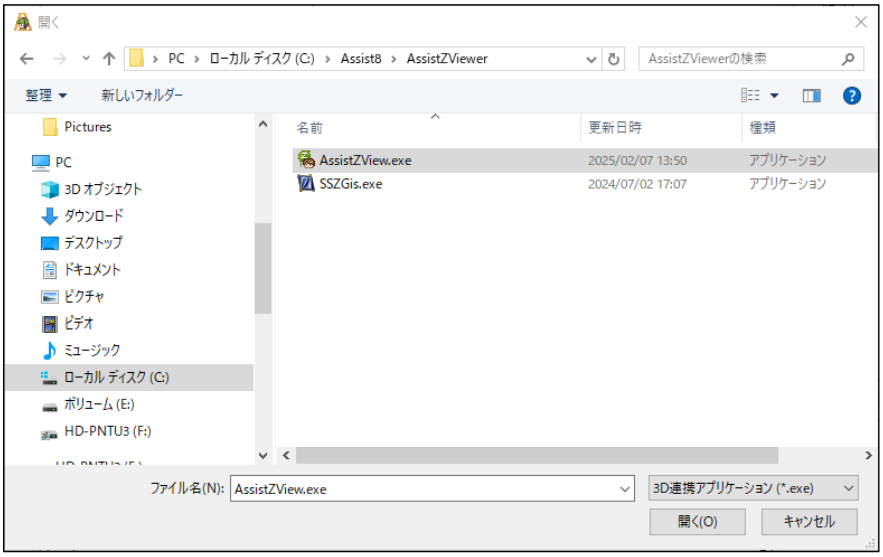


XVI.5. ［ツール］ – ［３D 連動］



XVI.5.1. ［ツール］ – ［３D 連動］ – ［３D 連動アプリ選択］

地理院標高を使用して Assist8 の図面を 3D で表示することが可能です。
３D を表示するアプリを選択します。
Assist8 のインストールフォルダ内にある「Assist8¥AssistZViewer¥AssistZView.exe」または、
AssistZ をお持ちの場合は「AssistZ.exe」を指定します。

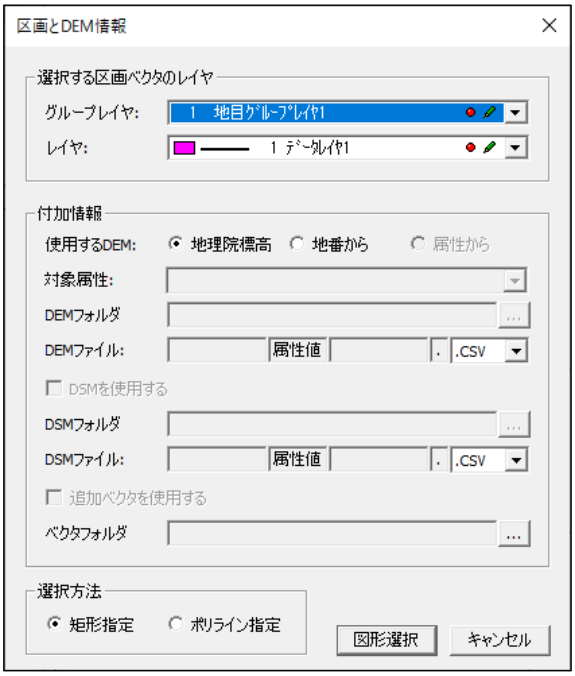


XVI.5.2. ［ツール］ – ［３D 連動］ – ［３D 表示］ – ［範囲指定］

３D で表示する範囲を、矩形で指定します。

XVI.5.3. ［ツール］ – ［３D 連動］ – ［３D 表示］ – ［ベクタ指定］

地理院標高ではなく任意の DEM データにて、３D 表示用の地形を作成することも可能です。



手順

1） 航空レーザー等で作成された DEM データと、分割された DEM データの配置がわかる図郭(ポリゴン)を用意し、DEM データは任意のフォルダに保存します。

2） 図郭を任意のレイヤにインポートします。

- 選択する区画ベクタのレイヤ:インポートしたレイヤを指定
- 付加情報:[地番から]を選択し、「DEM フォルダ」欄に保存したフォルダを入力。

  例）C:¥データ¥AssistZ データ¥○○市航空レーザー¥グリッドデータ_DEM

3） DEM ファイルの拡張子を選択、DEM ファイル名と図郭名が違う場合、「属性値」欄に相違の部分を入力。

  例）DEM ファイル名が「03lg9322_0.5g.txt」、図郭名が「03LG9322」の場合、
  ファイル名の後半が図郭名称と違うので、「属性値」の右側に_0.5g を入力します。
  ファイル名の前半が違う場合は、「属性値」の左側に入力します。

4） [矩形指定]を選択し、[図形選択]をクリックして範囲を囲むと AssistZ が起動します。

XVI.5.4. ［ツール］ – ［３D 連動］ – ［３D 表示］ – ［3D データのリンク］

SSZ（ASZ）のデータをリンクします。

XVI.5.5. ［ツール］ – ［３D 連動］ – ［３D 表示］ – ［保存データの表示］

リンクしている 3D データを表示します。

XVI.6. ［ツール］ – ［外部ベクタ］

XVI.6.1. ［ツール］ – ［外部ベクタ］ – ［外部ベクタ読込み］

すでに読み込んだ外部ベクタを表示します。
手順

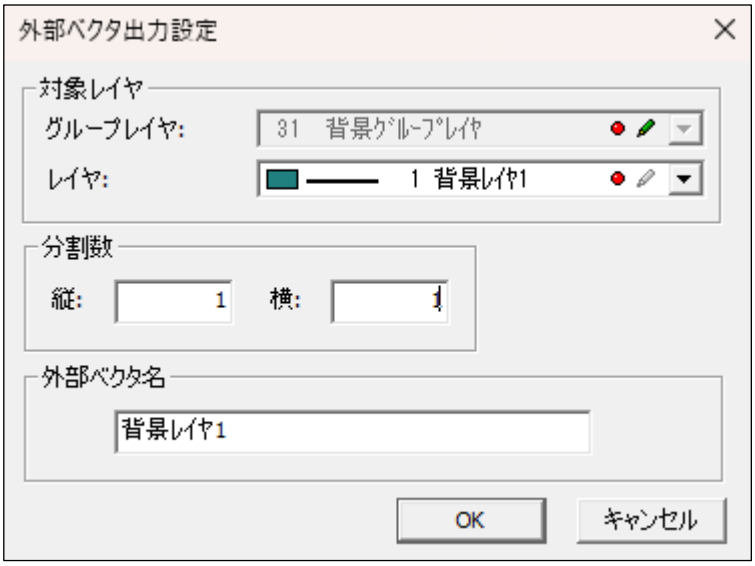
1） ［ツール］ – ［外部ベクタ読込み］を選択します。
2） ［外部ベクタ読込み］ウィンドウが表示され、赤い図郭が表示されます。
3） 図郭を選択すると緑色に図郭が表示され、ダブルクリックで確定します。
「外部ベクタを読み込みます。・・・」というメッセージが表示されるのでよろしければ[はい]を
クリックします。
4） 「〇個の図形を読み込みました。」DB がある場合は DB データを読み込むかの確認メッセージも
表示されます。
5） 図形は元のデータと同じ背景レイヤに取り込まれます。
背景レイヤバーの[更新]ボタンとクリックして対象のレイヤを選んで表示させます。

XVI.6.2. ［ツール］ – ［外部ベクタ］ – ［外部ベクタ出力］

外部ベクタを出力します。

手順

1） ［ツール］ – ［外部ベクタ出力］を選択します。



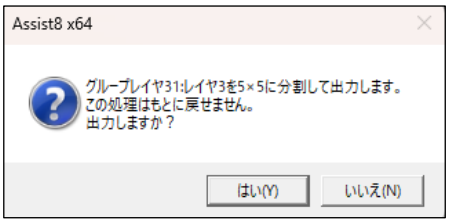
2） ［外部ベクタ出力設定］ウィンドウが表示され、赤い図郭が表示されます。

- 対象レイヤ：対象のレイヤを選択します。

  ※外部ベクタは背景レイヤグループのみになります。

- 分割数：図郭の割り付けを設定します。
- 外部ベクタ名：ファイルが保存されるフォルダ名を設定します。

3） メッセージが表示されます。[はい]をクリックするとデータが出力されます。(ファイル拡張子は.mvec)



XVI.6.3. ［ツール］ – ［外部ベクタ］ – ［管理ファイル選択］

読み込む外部ベクタファイルを選択します。(ファイル拡張子は.mvec)

選択したファイルは XV.6.1 ［ツール］ – ［外部ベクタ］ – ［外部ベクタ読込み］から読み込めます。

XVI.7. ［ツール］ – ［ラスタ設定］

ラスタファイルを設定します。

手順

1） ［ツール］ – ［ラスタ設定］を選択します。

2） ［ラスタ設定］ウィンドウが表示されます。



3） 現在編集画面に表示されているラスタファイルの一覧が表示されます。

4） カーソルが▲に変わります。

5） 編集するラスタをクリックするか、［ラスタ設定］ウィンドウでファイルを選択すると、編集画面上で点滅します。［ｓｈｉｆｔ］キーを押しながら複数ラスタの選択もできます。

内部ラスタ

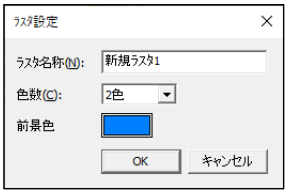
- 内部ラスタ：内部ラスタの設定画面が表示されます。
- 登録順：ラスタを図面に登録（結合）した順に並び替えます。
- 名称順：ラスタ名称順に並び替えます。
- 昇順：並び替え順を昇順にします。
- 降順：並び替え順を降順にします。
- グループで選択する：分割して読み込んだラスタを一括選択し、編集できるようにします。
- 編集時ベクタも行う：ベクタも同時に編集します。
- 追加：図面上にラスタ領域を追加します。

  ①［追加］ボタンをクリックします。

  ②カーソルが＋に変わります。

  ③追加したいラスタ領域を矩形で囲みます。

  ④［ラスタ設定］ウィンドウが表示されます。



  - ラスタ名称：新規ラスタ領域の名称を入力します。
  - 色数：色数を選択します。（２色、２５６色、フルカラー）

- 前景色：ラスタの前景色を設定します。

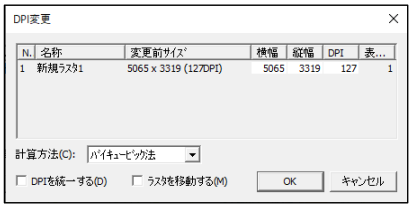
⑤［ＯＫ］ボタンをクリックすると、新しいラスタ領域が追加されます。

- ラスタ削除：選択したファイルのラスタを削除します。
- ラスタ編集：選択したラスタを編集します。［結合データ補正メニュー］が表示されます。

詳細は、<結合データ補正メニュー>をご参照ください。

- DPI 変更：ラスタのＤＰＩ（解像度）を変更します。

① ラスタを選択します。
② ［ＤＰＩ変更］ボタンをクリックします。
③ ［ＤＰＩ変更］ウィンドウが表示されます。



- 横幅：横幅を入力します。横幅を入力すると、変更可能な縦幅とＤＰＩを算出します。
- 縦幅：縦幅を入力します。縦幅を入力すると、変更可能な横幅とＤＰＩを算出します。
- ＤＰＩ：ＤＰＩを入力します。ＤＰＩを入力すると、変更可能な横幅と縦幅を算出します。
- 計算方法：ＤＰＩ変更の計算方法を選択します。
  - ニアレストネイバー法：

    伸縮後のピクセルが伸縮前のどの位置にいたかを計算し、そのピクセルの色を適用します。伸張時にはジャギーが目立ち、縮小時には情報の欠落が多いため、伸縮後の画像の品質は良くありません。計算方法が単純なため、計算時間は高速でほとんど時間はかかりません。
  - バイリニア法：

    伸縮後のピクセルが伸縮前のどの領域に相当するかを計算し、その領域内の色の平均をピクセルの色として適用します。複数のピクセルの色の平均値を使うので、伸縮後には伸縮前に存在しなかった色が含まれることがあります。

    伸縮後の画像の品質は、ニアレストネイバー法よりきれいです。計算時間はニアレストネイバー法に比べ若干時間がかかります。
  - バイキュービック法：

    バイリニア法の発展方法で、伸縮前の領域の周囲のピクセルの色を考慮して伸縮後のピクセルの色を計算します。

    伸縮後の画像の品質はバイリニア法よりきれいですが、計算時間が大幅に増えます。
  - 伸縮なし：伸縮をしません。

- ＤＰＩを統一する：分割して読み込んだラスタファイルの DPI を一括して変更します。
- ラスタを移動する：複数の合成しているラスタをＤＰＩ変更したとき、図面の拡大・縮小にともないラスタ間の余白を埋めるようにラスタを移動します。

④ ［ＯＫ］ボタンをクリックすると、ＤＰＩの変更を行います。

※ この機能は元に戻せません。

外部ラスタ



- 外部ラスタ：外部ラスタの設定画面が表示されます。
- ラスタ削除：選択したファイルのラスタを削除します。
- ラスタ移動：選択したラスタを移動します。［ラスタ移動］ボタンをクリックするとカーソルが+に変わります。画面上でラスタをクリックし、マウスで移動させます。

＜結合データ補正メニュー＞

- 図面移動：ラスタデータを移動します。



移動するラスタデータの現在の基準点と移動後の基準点をクリックするとデータが移動します。

- 隣接移動：２枚のラスタを境界線で合わせます。移動するラスタの境界線をクリックして移動先のラスタの境界線をクリックするとラスタが移動します。［補正計算しない］のチェックボタンを［ＯＦＦ］にすると移動先のラスタの境界線の長さで補正されます。
- 平行移動：ラスタデータを水平・垂直に移動します。

移動するラスタデータをクリックして移動先でクリックするとラスタデータが移動します。

- ２点補正： ２点補正します。（オプション）

  １.補正するラスタデータの基準点（１点目）と、それに対応する補正後の図面の基準点（２点目）を各２点クリックします。

  ２.［２点補正］ウィンドウが表示されます。

  ３.補正方法（伸縮補正・回転）を選択します。

  ４.先に指定した基準点（１点目）の図面が２点目で指定した基準点に合わせて拡大・縮小・回転して補正します。

- 数点補正：歪んだ結合図面を数点補正します。（オプション）

  １.先に読み込んだ図面と結合した図面の補正をして合わせる図形のポイントを３ヶ所以上クリックして最終点でダブルクリックします。

  ２.［現在指定した点で、固定するラインは、ありますか？］という確認メッセージが示されます。

  ３.［はい］ボタンをクリックすると、カーソルが＋に変わります。

  ４.ポイントとポイントを合わせて固定ラインを作成します。（複数指定可）
  ダブルクリックすると、固定ラインの歪みを矯正して補正します。

- 図面回転：図面を回転します。（オプション）

  １.［回転」ウィンドウが表示されます。



  - 方向:回転方向を左回り、右回りから選択します。
  - 角度:90 度、180 度、270 度、任意から回転角度を選択します。
  - 任意:任意で図面を回転させます。

    1.カーソルが＋に変わります。

    2.回転させる基準になる位置をクリックするとカーソルが▲に変わります。

    3.カーソルを移動するとラスタ枠が回転します。
    確定する位置で左クリックするとラスタが回転します。

  - 回転中心:ラスタの回転中心を選択します。

  ２.［ＯＫ］ボタンをクリックすると、ラスタが回転します。

- サイズ変更:ラスタ枠のサイズを変更します。（オプション）

  １.カーソルが△に変わります。

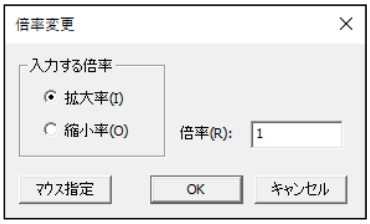
  ２.サイズを変更するラスタ枠の上下左右いずれかのライン上でクリックするとラスタ境界枠が移動します。

  ３.変更する位置でクリックするとラスタのサイズが変更します。

• 倍率変更：倍率を変更します。（オプション）

1 .カーソルが＋に変わります

2 .倍率を変更するデータの基準になる位置をクリックします。



- 拡大率、縮小率：拡大、縮小を選択します。
- 倍率：倍率を入力します。
- マウス指定：赤枠が表示されるので、マウスで調整し、クリックで倍率が変更されます。スペースキーで［倍率の入力］ウィンドウが表示されますので縦横の倍率を指定することもできます。

3 .［OK］ボタンをクリックすると倍率が変更されます。

• 結合部調整：ラスタ結合部のずれを調整します。（オプション）

1 .［ラスタ設定］ウィンドウでラスタを選択します。

2 .［結合部調整］ボタンをクリックします。

3 .自動で調整個所が青矢印で表示され、［線ズレ調整］ウィンドウが表示されます。



- 追加：調整個所を追加します。カーソルが＋に変わるので、調整したい個所に矢印を作成します。
- 削除：調整個所の矢印を削除します。
- 補正実行：確認メッセージが表示されます。
  ［はい］をクリックすると補正を実行します。
- 終了…線ズレ調整を終了します。

• 再作成：結合時のビットマップ領域を現在の図面に再度作成します。

• 簡易：［数点補正］・［ラスタ読込］以外のラスタの移動を表示のみで処理します。
［終了］ボタンをクリックするとデータを変更します。

• 隣接移動の時、補正計算しない：［隣接移動］を選択した場合に 2 枚のラスタの境界線の長さが違ってもそのままで移動します。

• 数点補正の時、固定ラインがある：［数点補正］を選択した場合に固定ラインの指示が有効になります。（オプション）

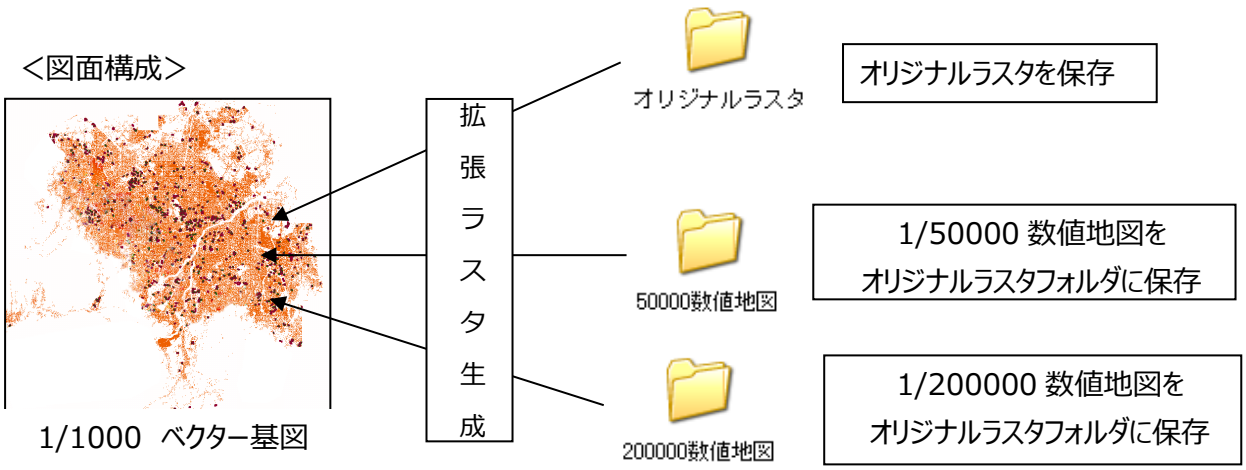
- 優先順位：重なるラスタの優先順位を指定して表示します。
  1.カーソルが△１に変わります。
  2.最前面に表示するラスタをクリックします。
  3.カーソルが△２に変わります。
  4.２． で指定したラスタの下に表示するラスタをクリックします。
- 矩形作成：ラスタの表示範囲を矩形で変更します。
  1.カーソルが▲に変わるので、表示範囲を変更するラスタを指定します。
  2.カーソルが△に変わります。
  3.ラスタ枠をクリックすると変更する青枠が表示されます。
  4.カーソルを移動しクリックするとラスタの表示範囲が変更されます。
- 多角作成：ラスタの表示範囲を多角で変更します。
  1.カーソルが▲に変わるので、表示範囲を変更するラスタを指定します。
  2.カーソルが＋に変わります。
  3.表示範囲を多角で指定すると、多角指定した範囲で表示されます。
- 頂点移動：［多角指定］で指定した表示範囲の頂点を移動します。
  1.カーソルが▲に変わるので、頂点を移動するラスタを指定します。
  2.カーソルが＋に変わり［多角作成］で作成したラスタ表示範囲が青枠で表示されます。
  3.頂点をクリックしてマウスを移動し変更位置でクリックすると頂点が移動します。
- 頂点挿入：［多角指定］で指定した表示範囲に頂点を挿入します。
  1.カーソルが▲に変わるので、頂点を挿入するラスタを指定します。
  2.［多角作成］で作成したラスタ表示範囲が青枠で表示されます。カーソルを多角指定の辺に近づけると仮線が表示されます。
  3.頂点を挿入する位置でクリックすると頂点が挿入されます。
- 頂点削除：［多角指定］で指定した表示範囲の頂点を削除します。
  1.カーソルが▲に変わるので、頂点を削除するラスタを指定します。
  2.カーソルが＋に変わり［多角作成］で作成したラスタ表示範囲が青枠で表示されます。
  3.頂点をクリックすると削除されます。
- リセット：［優先順位］・［矩形指定］・［多角指定］で設定した内容をリセットします。
- 終了：［結合データ補正メニュー］を終了します。

XVI.8. ［ツール］ –[階層ラスタ]

XVI.8.1. ［ツール］ –[階層ラスタ] – ［階層ラスタリンク設定］

広域のラスタを取り込む際、基図にラスタを取り込まず、オリジナルラスタを使用して階層分けしたラスタを自動作成し、参照表示します。
基図の図面スケールと異なるラスタも使用可能です。航空写真、1/50000 数値地図、1/200000 数値地図など数種類のラスタで階層ラスタを作成し、表示を切り替えて使用できます。
※ 階層ラスタは基図の図面サイズ内で作成されます。参照するラスタが基図の範囲外にある場合、階層ラスタは作成されません。

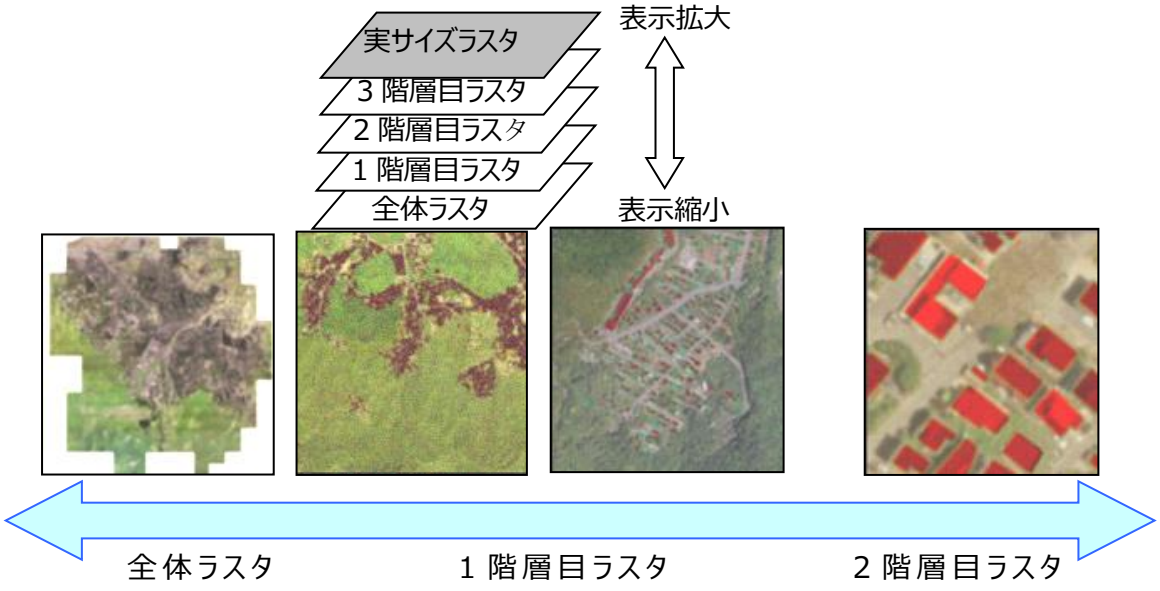
<図面構成>



※データ種類数に制限はありません。

<表示切替>

作成された階層ラスタは、図面の拡大率に合わせて、最適な階層のラスタに自動で切り替わります。



［階層ラスタ設定］

階層ラスタの設定を行います。

手順

1） ［ツール］－［階層ラスタリンク設定］を選択します。

2） ［階層ラスタリンク設定］ウィンドウが表示されます。階層ラスタの設定を行います。



- 全体ラスタサイズ：［全体ラスタ作成］から全体ラスタを作成する時のサイズの目安になります。
  ［拡張ラスタ作成］を実行するだけで全体ラスタは自動作成されますが、
  サイズを変更して再作成することができます。
- ラスタ種別一覧：作成した階層ラスタ種別の一覧です。ここで選択されている階層ラスタが画面
  上に表示されます。
- 選択解除：選択したラスタ種別を解除します。
- 種別名：種別の名称を登録します。
- 種類：カラー、モノクロの種類です。
- 解像度：拡張ラスタを作成する基となるラスタの解像度を指定します。
- 縮尺：拡張ラスタを作成する基となるラスタの縮尺を指定します。
- 管理フォルダ：作成した拡張ラスタを保存するフォルダを指定します。オリジナルラスタが格納されている
  フォルダを指定することもできます。その場合は、管理フォルダに拡張ラスタが保存されるので
  ［基本フォルダ］の指定は必要ありません。
- 基本フォルダ：オリジナルラスタが格納されているフォルダを指定します。

- 作成設定：拡張ラスタの詳細を設定します。
  - 作成サイズ

    拡張ラスタを作成するサイズの目安を指定します。上部 3 つがスクエアディスプレイ向け、下部 2 つがワイドディスプレイ向けです。作成されるイメージサイズはカラーの場合、4096×3072 で 36MB～56MB。6720×4200 で 80MB～126MB 程度が目安となります。ディスプレイの解像度、搭載メモリに応じて指定してください。
  - 切替タイミング

    階層を切替えるタイミングを指定します。作成した拡張ラスタのイメージに対し、どの表示倍率でその階層の拡張ラスタを使用するかを指定します。

    イメージを綺麗に表示させたい場合は 1 倍、高速に表示させたい場合は 4 倍を指定してください。

    ※ 1 倍を指定した場合は、動作が遅くなることがあります。
  - 読み込み数

    メモリ上に展開するラスタの数を指定します。

    全体保持を有効にしている場合は読み込み数＋全体ラスタ数分のメモリを使用します。ラスタのサイズ、ディスプレイの解像度、読み込み数、切替タイミングの設定によっては画面全体にラスタが表示されない場合がありますので、読み込み数、切替タイミングを変更して調整してください。

- 同時表示：他種別のラスタを同時に表示します。
- 表示設定：階層ラスタの表示を設定します。
  - ファイン

    階層ラスタを高画質で表示します。縮小して表示すると綺麗に表示されます。
  - 透過

    階層ラスタを透過モードで表示します。

    ラスタが重なり、一方のラスタに空白部分があると空白のまま表示されますので、このような場合は透過を指定してください。
  - 全体保持

    全体ラスタを表示用に読み込み後、他の階層ラスタを使用するときも保持し続けます。必要なラスタを読み込み中にイメージを補間します。透過に指定していると拡張ラスタ同士が重なって表示されます。
  - オリジナルラスタのみ

    Geotiff、World ファイルのみを表示します。

- 閉じる：設定画面を閉じます。全体ラスタサイズとラスタ種別一覧の選択種別が更新されます。
- 追加：入力されている種別名以下の設定内容で種別情報を追加します。
- 更新：選択されている種別の変更内容を更新します。
- 削除：選択されている種別を削除します。
- 拡張ラスタ作成：種別名以下の項目の内容で拡張ラスタを作成します。
- 全体ラスタ作成：拡張ラスタ作成後に、指定した全体ラスタサイズに近いサイズで全体ラスタを再作成します。

XVI.8.2. ［ツール］ – ［階層ラスタ］ – ［階層ラスタ切替］

複数ある階層ラスタを切り替えます。

XVI.8.3. ［ツール］ – ［階層ラスタ］ – ［他ファイルから階層ラスタ設定読み込み］

階層ラスタを設定済みの他 Assist ファイルから、階層ラスタの設定を読み込みます。

XVI.8.4. ［ツール］ – ［階層ラスタ］ – ［階層ラスタ表示設定］

階層ラスタの表示を設定します。

手順

1） ［ツール］ – ［階層ラスタ表示設定］を選択します。

2） ［ラスタ表示設定］ウィンドウが表示されます。



3） 詳細は **XV.8.1［ツール］ – ［階層ラスタリンク設定］** をご参照ください。

4） ［更新］をクリックすると選択した種別の変更内容を更新します。

XVI.9. ［ツール］－［外部ラスタ表示設定］

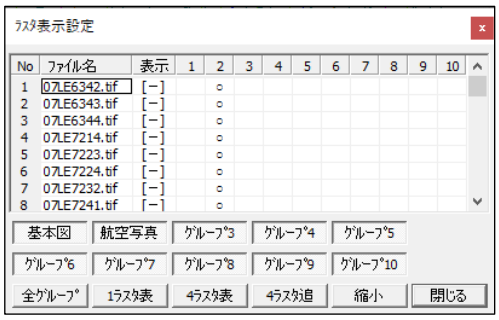
外部ラスタの表示を設定します。

2 種類のラスタを重ね合わせて、各々をグループ化する場合や、1 ラスタや 4 ラスタ以外に複数のラスタを表示したい場合に使用します。

手順

1） ［ツール］－［外部ラスタ表示設定］を選択します。

2） ［ラスタ表示設定］ウィンドウが表示されます。



- ファイル名…ファイルの名称です。
- 表示…表示、非表示を選択します。［－］が非表示、［表］が表示中です。
  - １～３０…グループ１～３０でラスタを振り分けることが出来ます。クリックで○が移動します。
- 通常…非表示を除いたすべてのラスタを表示します。
  - グループ１～３０…グループ１～３０を選択します。表示状態であれば、選択したグループのみのラスタを表示します。
- 全グループ…全てのグループを表示します。
- １ラスタ表…画面中央に近い１枚のラスタを表示します。
- ４ラスタ表…画面中央に近い４枚のラスタを表示します。
- ４ラスタ追…現在表示しているラスタに４枚のラスタを追加表示します。
- 縮小…［ラスタ表示設定］ウィンドウを縮小表示します。
- 閉じる…［ラスタ表示設定］ウィンドウを閉じます。

XVI.10. ［ツール］－［外部ラスタ順序変更］

外部ラスタの登録順序を、「フルカラー→256 色→モノクロ」の順番に変更します。

XVI.11. ［ツール］ – ［外部ラスタパス確認］

外部ラスタの保存先一覧を確認することができます。

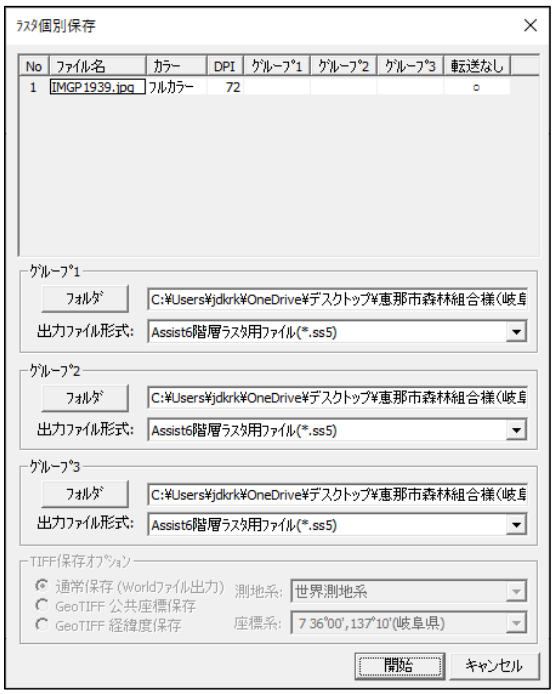
XVI.12. ［ツール］ – ［ラスタエクスポート］

内部ラスタデータを個別に出力します。

手順

1） ［ツール］ – ［ラスタエクスポート］を選択します。

2） ［ラスタ個別保存］ウィンドウが表示されます。



- ファイル名：ファイルの名称を表示します。
- カラー：カラー、モノクロの種類を表示します。
- DPI：ラスタのＤＰＩ（解像度）を表示します。
- グループ１～３：グループ１～３を選択します。クリックで○が表示されます。
- 転送無し：転送の有無を選択します。クリックで○が表示されます。
- フォルダ選択：グループ１～3 の［フォルダ］ボタンをクリックして保存先のフォルダを指定します。
- 出力ファイル形式：グループ１～3 の出力するファイルの種類を指定します。

- TIFF 保存オプション：ファイルの種類でＴｉｆｆを選択した場合にＴＩＦＦの保存の種類を選択します。
  - 通常保存（Ｗｏｒｌｄファイル出力）：ラスタファイルと同一名称のＷｏｒｌｄファイル（ｔｆｗ）を保存します。
  - ＧｅｏＴｉｆｆ公共座標保存：公共座標でＧｅｏＴＩＦＦを保存します。
  - ＧｅｏＴｉｆｆ経緯度保存：経緯度でＧｅｏＴＩＦＦを保存します。
  - 測地系：日本測地系・世界測地系を選択します。
  - 座標系：１～１９までの座標系を選択します。

3） 設定終了後、［開始］ボタンをクリックすると、ラスタが出力されます。

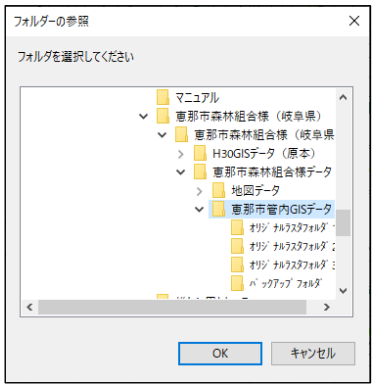
XVI.13. ［ツール］ – ［外部ラスタ wld エクスポート］

外部ラスタの World ファイルを出力します。

手順

1） ［ツール］ – ［外部ラスタ wld エクスポート］を選択します。

2） ［フォルダの参照］ウィンドウが表示されます。



3） ［OK］をクリックすると確認画面が表示され選択したフォルダに出力します。

XVI.14. ［ツール］―［簡易ライン］



地図上にペンで文字や線を記入します。

簡易ライン用のレイヤは№255 です。簡易ラインを使用すると自動的に
№255 のレイヤに切り替わります。

手順

1） ［ツール］－［簡易ライン］または 

2） 簡易ラインツールウィンドウが開きます。[レイヤ]欄にて簡易ラインを書くグループレイヤを選択します。

3） 書くボタンを選択するとカーソルがペンに変わって、地図上に文字や線が書けます。

レイヤ ：グループレイヤを選択します。

Free ：自由線を書きます。

Line ：直線を書きます。

→ ：矢印付きラインを書きます。

●Free ：円を書きます。

●1.5 ミリ ：ポリライン上に 1.5mm の円を書きます。

× ＋ ◎ △ ：マークを書きます。

※ × ＋ ◎ △ は、このアイコンを押す度に、マークサイズの大、小を切り替えます。

消しゴム ：矩形で指示した枠内の簡易ラインを消去します。

▽ ：消去する簡易ラインの色を選択します。



線種

カラー ：パレットが開き、色を指定できます。

標 ― ：線の太さを選べます。ボタンに表示されているのが現在の太さ（任意、細い、普通、太い）
任意の場合は線幅をミリ指定できます。

通 常 ：線の種類を選べます。（通常、破線、点線、一点破線、二点破線）

Cancel ･･･現在のモードを終了し簡易ラインウィンドウの他のモードに変更するとき

閉じる ･･･簡易ラインウィンドウを閉じます。

XVI.15. ［ツール］―［簡易ライン表示］

記入された簡易ラインの表示、非表示を切り替えます。

XVI.16. ［ツール］－［簡易ライン編集］

簡易ラインの線幅・色を設定します。

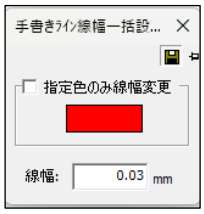
XVI.16.1. ［ツール］－［簡易ライン編集］－[線幅設定］－［多角指定］

多角で簡易ラインを囲んで範囲指定した簡易ラインの線幅を設定します。

手順

1） ［ツール］－［簡易ライン編集］－[線幅設定］－［多角指定］を選択します。

2） ［手書きライン線幅一括設定］ウィンドウが表示されます。



3） カーソルが＋に変わるので、範囲を多角で指定すると指定した範囲内の簡易ラインが変更されます。

- 指定色のみ線幅変更：指定した色のみ線幅を変更します。

XVI.16.2. ［ツール］－［簡易ライン編集］－[線幅設定］－［全体］

全ての簡易ラインの線幅を設定します。

手順

1） ［ツール］－［簡易ライン編集］－[線幅設定］－［全体］を選択します。

2） ［手書き線幅一括設定］ウィンドウが表示されます。



3） 線幅を設定し、ＯＫを選択します。

- 線色も変更：線色も同時に変更します。

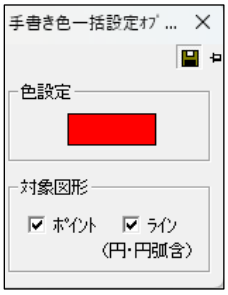
XVI.16.3. ［ツール］－［簡易ライン編集］－[色]

多角で簡易ラインを囲んで範囲指定した簡易ラインの色を設定します。

手順

1） ［ツール］－［簡易ライン編集］－[色］を選択します。

2） ［手書き色一括設定オプション］ウィンドウが表示されます。



3） カーソルが＋に変わるので、範囲を多角で指定すると指定した範囲内の簡易ラインが変更されます。

- 対象図形：指定した図形のみ色を変更します。

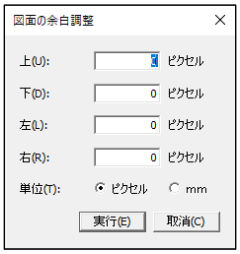
XVI.17. ［ツール］－［図面の余白調整］

図面の余白を調整します。

手順

1） ［ツール］－［図面の余白調整］を選択します。

2） ［図面の余白調整］ウィンドウが表示されます。



3） 上下左右の余白をドット単位で（マイナス（－）も可）入力します。

4） 設定終了後、［実行］ボタンをクリックすると、余白が修正されます。

XVI.18. ［ツール］ – ［地籍ツール］

XVI.18.1. ［ツール］ – ［地籍ツール］ – ［画地情報を Excel で編集］

画地情報を Excel で編集します。

手順

1） ［ツール］ – ［地籍ツール］ – ［画地情報を Excel で編集］を選択します。

2） ［自由属性 Excel 編集］ウィンドウが表示されます。

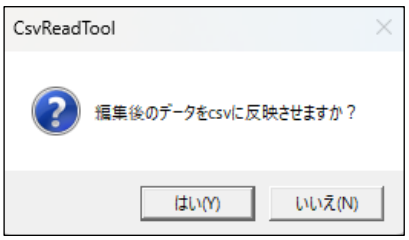


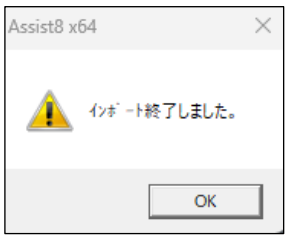
- 対象属性：全属性は図形の有無に関係なく、すべての自由属性情報が対象になり、
  現在のレイヤのみの場合は現在のレイヤで図形が存在するポリゴンの情報のみになります。
- キー項目を変更した場合：Excel 上でキー項目を変更した時に、ポリゴンの自由属性にも反映させる
  場合はチェックを入れる。

3） 画地情報が転送され、Excel が起動します。

4） 画地情報を編集します。

5） Excel を閉じると編集内容を反映させるか確認メッセージが表示され、［はい］をクリックすると情報が
書き換えられます。





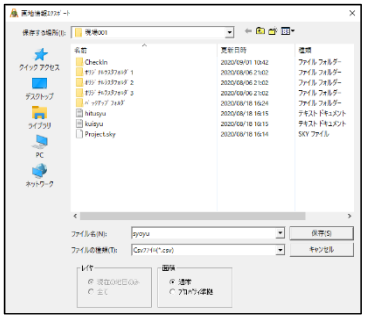
XVI.18.2. ［ツール］ – ［地籍ツール］ – ［画地情報インポート］

画地情報をインポートします。

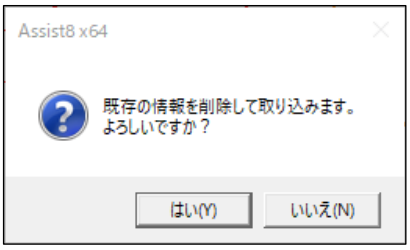
手順

1） ［ツール］ – ［地籍ツール］ – ［画地情報インポート］を選択します。

2） ［画地情報インポート］ウィンドウが表示されます。csv ファイルを選択します。



3) 「既存の情報を削除して取り込みます。」というメッセージが出たら、「はい」をクリックして取り込みます。
※既存の情報に上書きされますのでご注意ください。



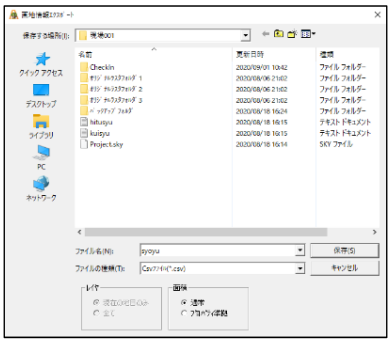
XVI.18.3. ［ツール］ – ［地籍ツール］ – ［画地情報エクスポート］

画地情報を出力します。

手順

1） ［ツール］ – ［地籍ツール］ – ［画地情報エクスポート］を選択します。

2） ［画地情報エクスポート］ウィンドウが表示されます。



3） 保存する場所を選択し、ファイル名を入力後、［保存］をクリックします。

XVI.18.4. ［ツール］ – ［地籍ツール］ – ［図形有り画地情報エクスポート］

図形のある画地情報を出力します。

手順

1） ［ツール］ – ［地籍ツール］ – ［図形有り画地情報エクスポート］を選択します。

2） ［画地情報エクスポート］ウィンドウが表示されます。

3） ファイル名をつけて［保存］をクリックします。

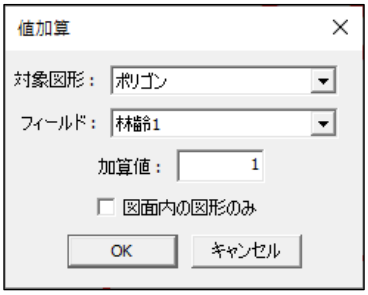
XVI.18.5. ［ツール］ – ［地籍ツール］ – ［自由属性フィールド値加算］

全画地の指定したフィールドに対して、指定した値を一律に加算します。

手順

1） ［ツール］ – ［地籍ツール］ – ［自由属性フィールド値加算］を選択します。

2） ［値加算］ウィンドウが表示されます。



- 対象図形：ポイント、ライン、ポリゴンから選択できます。
- フィールド：自由属性の項目の中から選択できます。
- 加算値：選択したフィールドに加算する数値を設定した。
- 図面内の図形のみ：図形がある自由属性にのみ値が加算されます。
  チェックがない場合は図形がない自由属性にも値が加算されます。

3） 設定終了後、［OK］ボタンをクリックすると、値が加算されます。

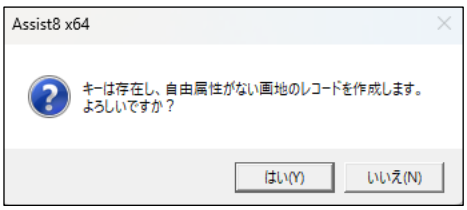
XVI.18.6. ［ツール］ – ［地籍ツール］ – ［空レコード作成］

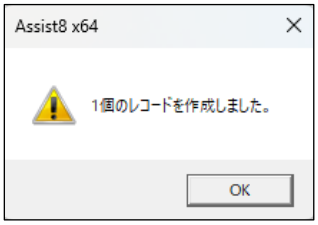
画地にキーが設定されているが画地情報にレコードがない場合、空のレコードを作成します。

手順

1） ［ツール］ – ［地籍ツール］ – ［空レコード作成］を選択します。

2） レコードを作成しますという確認メッセージが表示されたら、「はい」をクリックし空レコードを作成します。作成が終わったら「〇個のレコードを作成しました。」とメッセージが表示されます。





XVI.18.7. ［ツール］ – ［地籍ツール］ – ［属性情報の使用状況確認］

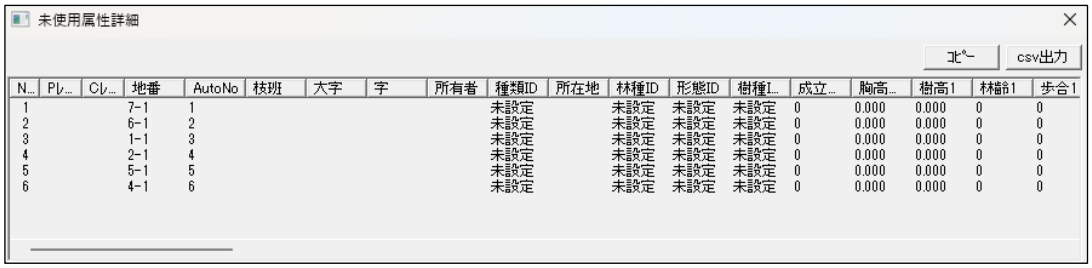
現在使用中のキー、未使用のキーを確認します。

※デフォルトではキーは AutoNo です。



- 使用中：ポイント、ライン、ポリゴンそれぞれの要素で現在使用中のキーを表示します。
  キーを選んで[選択]をクリックすると画面上で対象の要素が表示されます。

- 未使用：ポイント、ライン、ポリゴンそれぞれの要素で現在未使用のキーを表示します。
  キーを選んで[詳細表示]をクリックすると[未使用属性詳細]が表示されます。
  [全削除]をクリックすると未使用のキーすべてを削除し、キーを選択して[削除]を
  クリックすると選択したキーのみ削除します。
  最後に[更新]をクリックして終了します。



XVI.18.8. ［ツール］ – ［地籍ツール］ – ［ポイント自由属性を Excel で編集］

ポイントデータの自由属性を Excel で開き、編集します。

XVI.18.9. ［ツール］ – ［地籍ツール］ – ［ライン自由属性を Excel で編集］

ラインデータの自由属性を Excel で開き、編集します。

XVI.19. ［ツール］ – ［地番・点名機能］

XVI.19.1. ［ツール］ — ［地番・点名機能］ — ［地番点名検索］

点名、地番を検索します。

手順

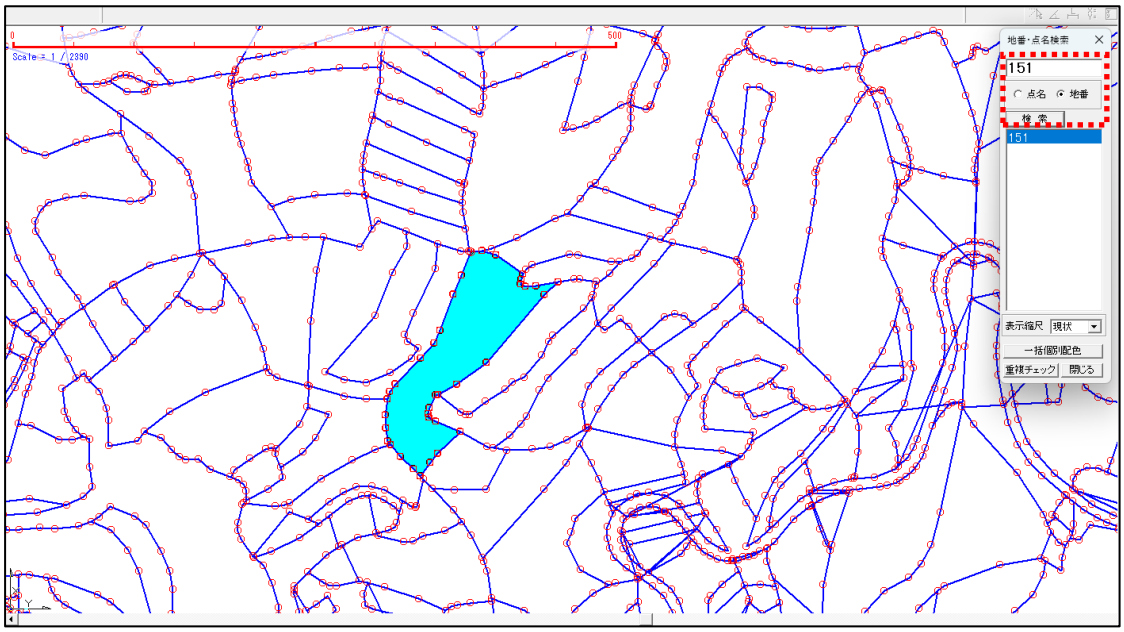
1） 点名か地番をボタンで選択します。

2） 上部の BOX に名前を入力します。

3） 検索を押します。

4） 下部の BOX に検索結果が表示されます。

5） マウスで BOX 内の地番・点名を選択すると画面中央に表示されます。



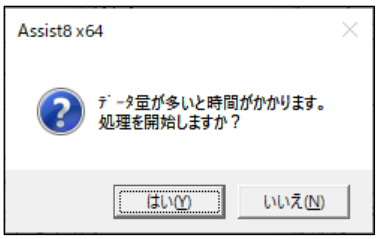
※ 空白で検索を実行すると未入力のデータが表示されます。

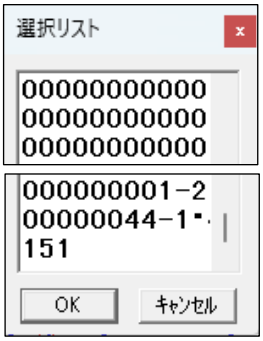
地番・点名検索で重複チェックを行なう方法

手順

1） 探す対象が点名か地番をボタンで選択します。

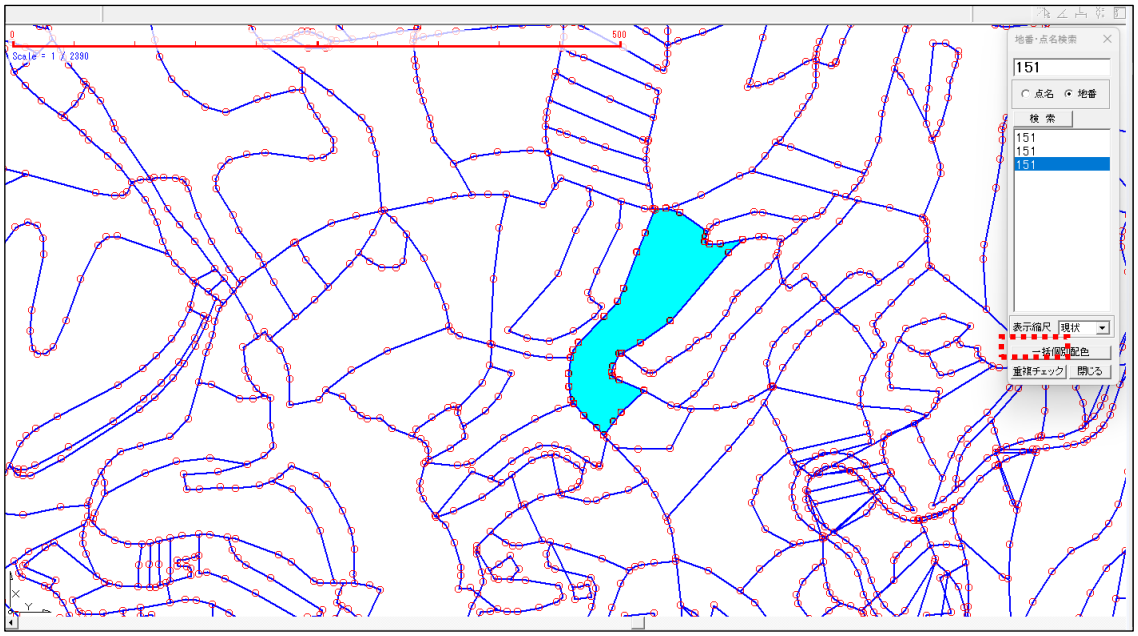
2） 重複チェックを押すと確認メッセージが表示され、[はい]を押すと［選択リスト］ウィンドウが表示されます。





3） 全ての重複している点名が表示されます。マウスで BOX 内の見たい箇所をヒットすると、開いたウィンドウが閉じ、複数表示されます。

4） マウスで BOX 内のいずれかをヒットすると画面中央に表示されます。



一括杭種変更

検索した対象点名の杭種を一括で変更します。

手順

1） 点名をボタンで選択します。

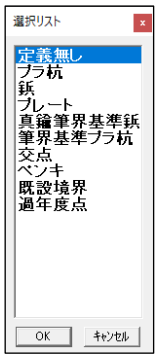
2） 上部の BOX に杭種変更したい名前を入力します。

3） 検索を押します。

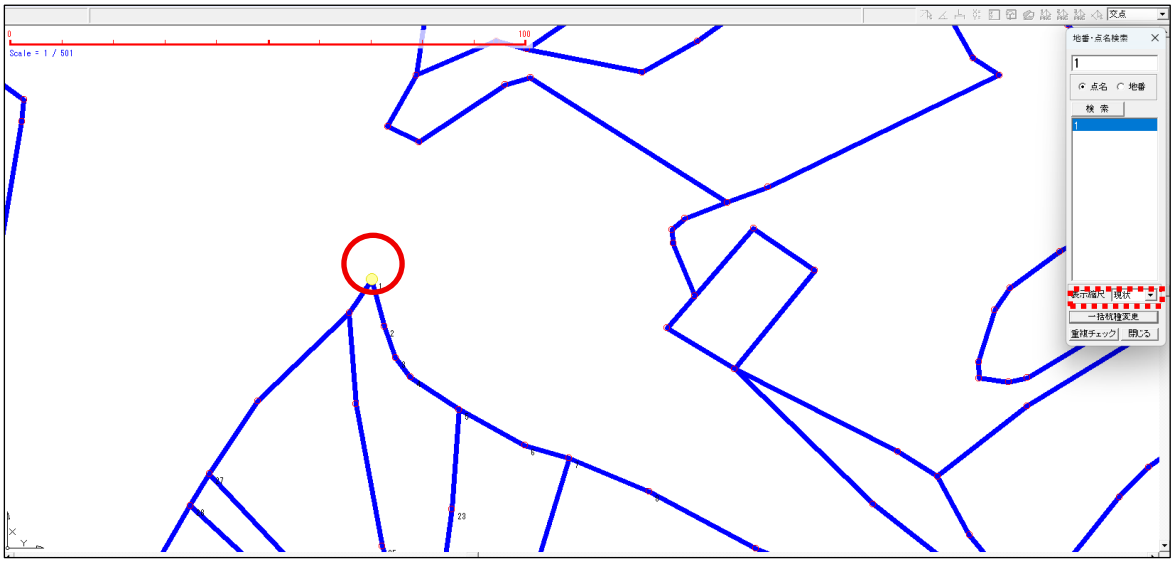
4） 下部の BOX にあるだけ表示されます。

5） 一括杭種変更を押します。

6） 選択リストが表示されるので杭種を選択します。



7） 検索結果に表示された対象点名の杭種が変更されます。



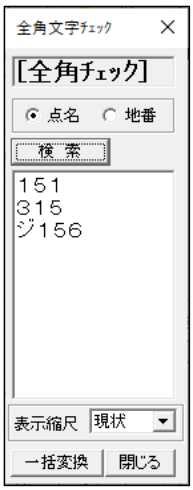
XVI.19.2. ［ツール］―［地番・点名機能］―［全角文字チェック］

全角文字を検索し、半角に変換します。

手順

1） ［ツール］－［地番・点名機能］－［全角文字チェック］を選択します。

2） ［全角文字チェック］ウィンドウが表示されます。



3） 点名か地番をラジオボタンで選択して、検索ボタンを押します。候補があがり、
このリストの文字列をヒットすると、画面の中央に対象測点を表示します。

4） 一括変換ボタンを押すと、一括で半角に変換します。（検索ボタンを押さなくても稼動します）

【注意】変換対象は０から９、ＡからＺ、ａからｚ、全角スペース、全角ハイフンです。

右例では一括変換を行うと、 １５１ は 151 に、 ３１５ は 315 に、ジ１５６ は ジ156 に変換されます。

XVI.20. ［ツール］ – ［特殊検索］

テキスト・図形の頂点の数・図形の辺の長さなどを指定して検索を行うことができます。



手順

1）「対象」欄にて、検索したい対象を選択します。

2）「条件１」欄は「対象」欄の内容によって自動で選択されます。

3）「条件２」欄にて、「＝等しい」「＞より大きい」「＜より小さい」などを選択します。

4）「値」欄に検索したい値を入力し、[検索]をクリックすると検索結果が表示されます。

XVI.21. Exif オプション（オプション）

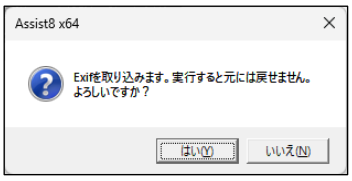
位置と状況を確認する為の画像データ更新作業を自動で行い、管理することができます。
ＧＰＳ機能付きデジタルカメラ、スマートデバイスを使用し撮影した画像データを既存の地図や市販されている電子地図に、撮影した位置を自動でプロットし、画像をリンクすることができます。データベースを自動登録し、台帳を作成できます。

XVI.21.1. ［ツール］－［Exif オプション］－［Exif 取込］

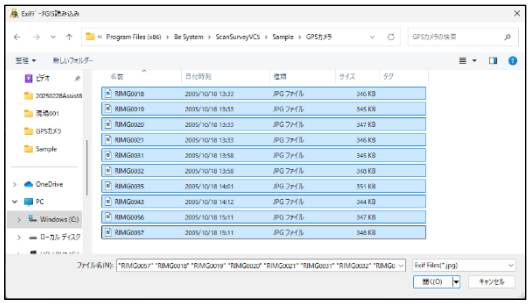
ＥｘｉｆのＧＰＳ情報を元に、図面上に単点を作成し、ＥｘｉｆのＧＰＳ情報を自動で取り込みます。
手順

1） ［ツール］－［Exif オプション］－［Exif 取込］を選択します。

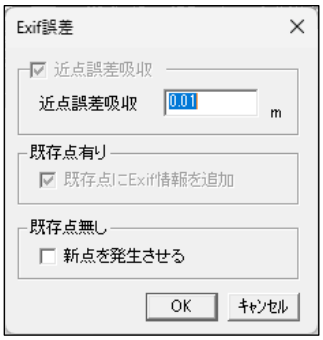
2） 確認メッセージが表示されます。



3） ［はい］ボタンをクリックすると［Exif データ GIS 読み込み］ウィンドウが表示されます。
Exif データを選択し、開きます。※ Exif データは複数選択が可能です。



4） ［Exif 誤差］ウィンドウが表示されます。



- 近点誤差吸収：図面上に単点がある場合、Exif の単点情報との誤差を計算し、指定した
  m範囲内で取り込みます。
- 既存点有り：図面上に単点がある場合、既存点に Exif データを取り込みます。
- 既存点無し：図面上に単点がない場合 Exif データから新しい単点を作成し、Exif データを取り込みます。

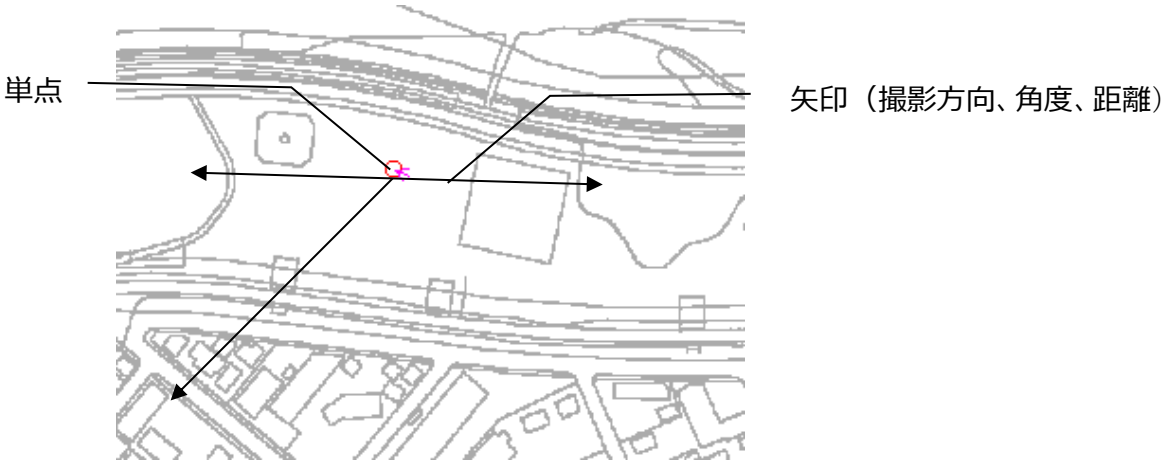
5） ［OK］ボタンをクリックすると Exif データが取り込まれ、単点と矢印が表示されます。

Exif データの編集については**＜Exif データの編集＞**をご参照ください。

＜Exif データの編集＞

Exif データの取り込まれた単点から Exif データ（ＧＰＳ情報等）の編集ができます。

単点に対しての矢印の数が Exif データの枚数です。

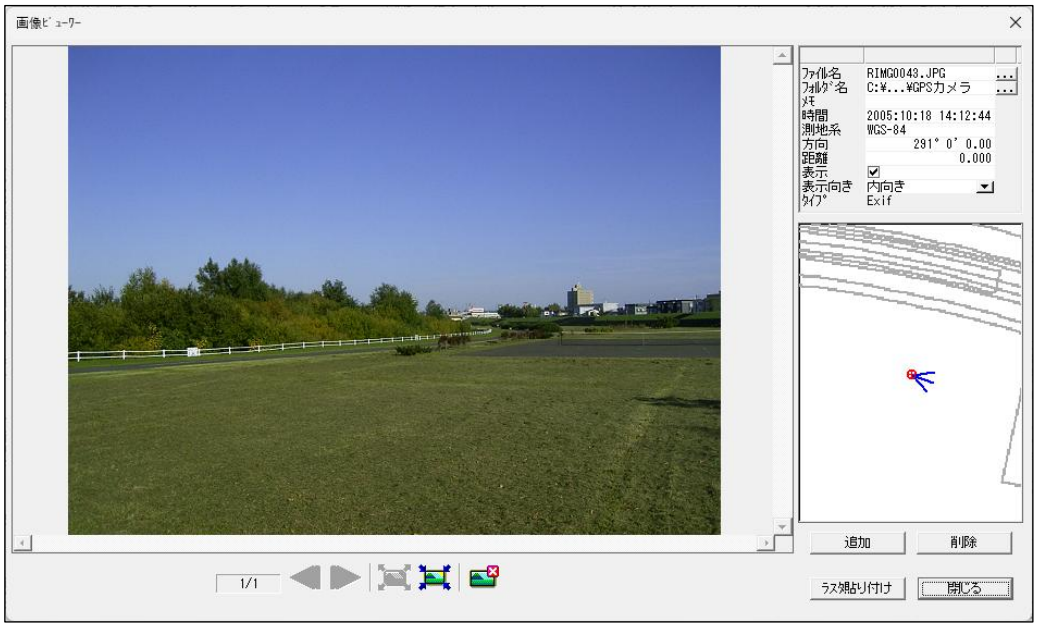


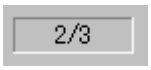
1） Exif データを取り込んだ単点をダブルクリックします。

2） ［画像ビューワー］ウィンドウが表示されます。画像サイズ：表示画像サイズを小・中・大から選択します。

3） Exif（jpg）データをダブルクリックします。

4） ［画像ビューワー］ウィンドウが横長に表示されます。





：移動ページ/全ページ数を表示します。


：前のイメージへ移動します。


：次のイメージへ移動します。


：Exif をウィンドウに合わせて表示します。


：Exif を原寸大で表示します。


：Exif の編集画面を閉じます。

- ファイル名：Exif データのファイル名です。  をクリックすると［Exif データ読み込み］ウィンドウが表示され、別ファイルを指定できます。
- フォルダ名：Exif データを保存しているフォルダ名称です。  をクリックすると［フォルダの参照］ウィンドウが表示されます。フォルダ内の Exif データを選択すると、ファイル名も自動で変更されます。
- メモ：メモデータです。
- 時間：撮影時間です。
- 測地系：測地系です。
- 方向：撮影方向です。方向を入力すると画面右下のビューワー矢印の方向が変更されます。
- 距離：撮影対象までの距離です。距離を入力すると画面右下のビューワー矢印の長さが変更されます。
- 表示：矢印の表示・非表示を設定します。
- 表示向き：矢印（撮影方向）の向きを外向き・内向きから選択します。

- タイプ：データの情報です。
- 追加：Exif データを追加できます。［追加］ボタンをクリックすると［Exif データ読み込み］ウィンドウが表示されます。Exif データを選択し、［開く］ボタンをクリックすると単点に対して Exif データが追加されます。
- 削除：Exif データを削除します。
- 閉じる：Exif データの編集を終了します。

XVI.21.2. ［ツール］－［Exif オプション］－［Exif 矢印一括変更］

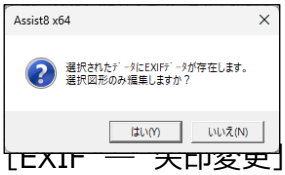
図面上の Exif 矢印を一括で変換します。

手順

1） ［ツール］－［Exif オプション］－［Exif 矢印一括変更］を選択します。

Exif 矢印を選択している場合は確認メッセージが表示されます。

［はい］で選択している Exif 矢印のみ、［いいえ］で全ての Exif 矢印が選択されます。



2） ［EXIF 一括矢印変更］ウィンドウが表示されます。



- 表示状態を変更する：表示を変更します。
  - 表示/非表示：Exif 矢印を表示・非表示にします。
- 向きを変更する：Exif 矢印の方向を変更します。
  - 内向き/外向き：Exif 矢印を内向き、外向きに変更します。
- 距離を変更する：Exif 矢印の距離を入力し、変更します。

3） ［OK］ボタンをクリックすると、Exif 矢印が変更されます。

XVI.21.3. ［ツール］－［Exif オプション］－［矢印→簡易ライン］

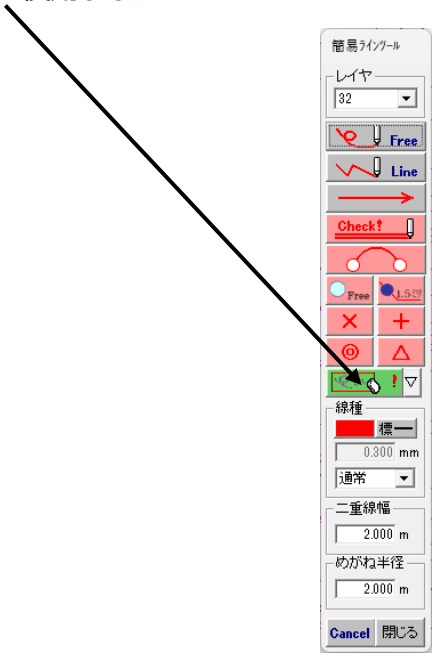
Exif 矢印を一括で簡易ラインに変換します。

手順

1） ［ツール］－［Exif オプション］－［矢印→簡易ライン］を選択します。

2） Exif 矢印が簡易ラインに変換されます。

3） 簡易ラインを削除する場合は［簡易ラインツール］の消しゴムを使用してください。
簡易ラインを削除しても Exif 矢印は削除されません。
※Exif 矢印は印刷されません。
印刷する場合は、簡易ラインに変換してください。



XVI.21.4. ［ツール］－［Exif オプション］－［画像フィールド選択］

画像をＤＢに取り込む際に、キーフィールドと画像を取り込むフィールドの指定を行います。
※ ＧＩＳ基本設定でキーフィールドをキーに設定し、画像フィールドの編集型を画像に設定します。
ＧＩＳ基本設定詳細は**XII.7.1.［DB］－［GIS 設定］－［ＧＩＳ基本設定］**をご参照ください。

キーフィールド、画像フィールドの設定

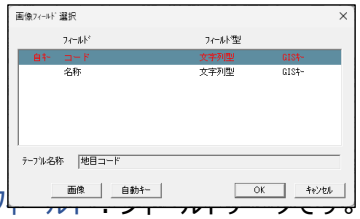
＜キーフィールド＞　レコード追加時に自動でカウントアップするため数値型
＜画像フィールド＞　画像が保存されているパスを保存するためテキスト型



手順

1）　［ツール］－［Exif オプション］－［画像フィールド選択］を選択します。

2）　［画像フィールド選択］ウィンドウが表示されます。レコード追加時にカウントアップさせるフィールドを選択し［自動キー］ボタンをクリックします。（GIS 基本設定で「キー」に設定したフィールド）



- フィールド：フィールド名です。
- フィールド型：フィールドのデータ型です。
- テーブル名称：参照しているテーブルの名称です。
- 画像：画像フィールドを設定します。フィールドを選択して［画像］ボタンをクリックします。
  設定されると青文字になり、「画像」と表示されます。
- 自動キー：キーを設定します。フィールドを選択して［自動キー］ボタンをクリックします。設定されると赤文字になり、「自キー」と表示されます。

3）　［OK］ボタンをクリックすると結びつけが設定されます。

XVI.21.5. ［ツール］－［Exif オプション］－［新規画像取込］

ＤＢに新規で画像を取り込みます。既にＤＢに取り込まれた画像を選択しても、ＤＢには取り込まれません。＜既にデータベースがある場合＞　該当するレコードに自動的に取り込まれます。

手順

1)　［ツール］－［Exif オプション］－［新規画像取込］を選択します。

2)　［GIS 業務選択］ウィンドウが表示されます。GIS 基本設定で設定した DB を選択し［OK］ボタンをクリックします。



［ＧＩＳ基本設定］で設定した

3)　［Exif データ GIS 読み込み］ウィンドウが表示されます。Exif データを選択し、開きます。

※Exif データは複数選択が可能です。

4)　［Exif 誤差］ウィンドウが表示されます。

詳細は前述Ⅷ.1［ツール］－［Exif オプション］－［Exif 取込］をご参照ください。

5)　設定終了後［OK］ボタンをクリックすると確認メッセージが表示されます。

［はい］ボタンをクリックするとログが表示されます。

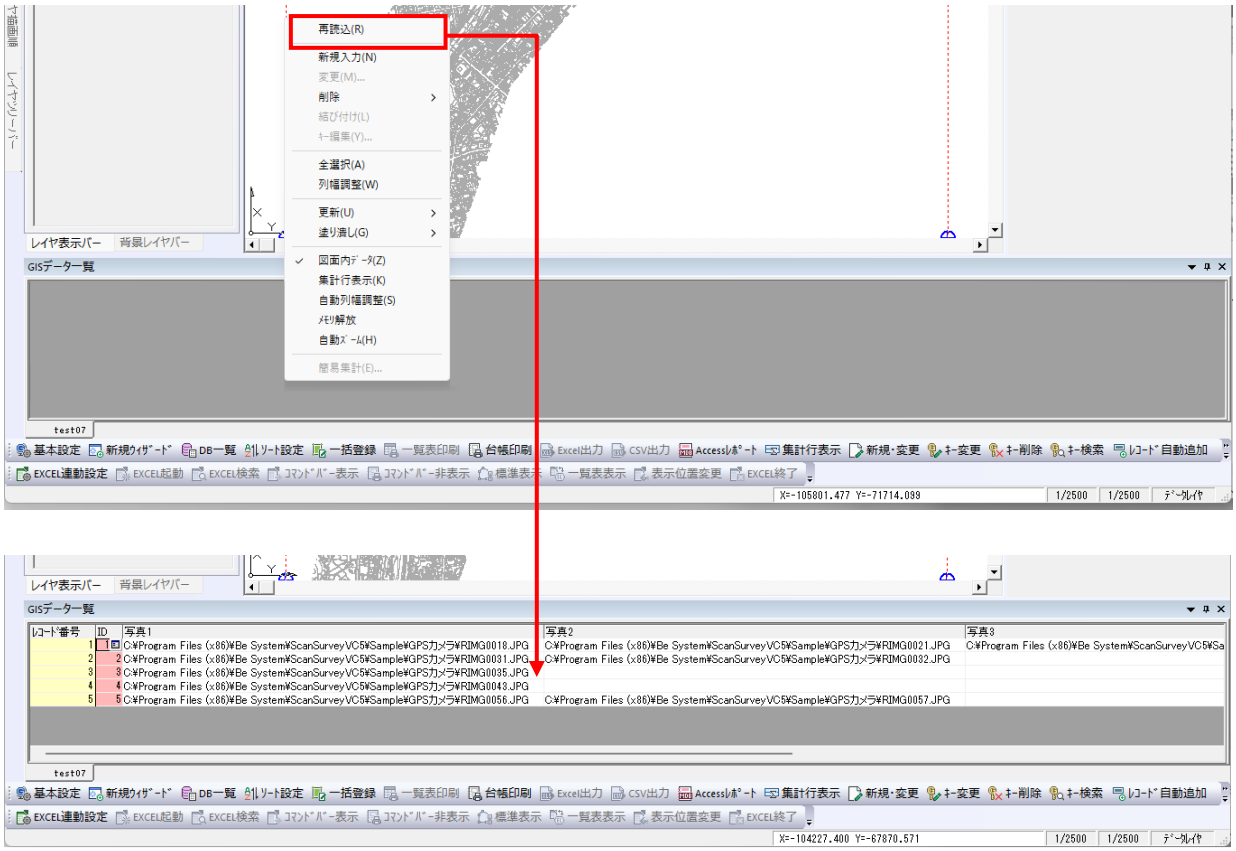
※近点誤差範囲・画像の位置情報が指定した距離内の場合は、データベースの同一レコードに取り込みます。



6)　ログ画面を閉じると、確認メッセージが表示されます。

［OK］ボタンをクリックすると図面上に単点、データベースにレコードが追加され、画像が取り込まれます。追加された単点とＤＢのレコードは自動リンクされます。

7)　一覧表形式フォームで右クリックし、［再読込］を選択すると、DB が表示されます。


再読込(R)
新規入力(N)
変更(M)...
削除
結び付け(L)
ｷｰ編集(Y)...
全選択(A)
列幅調整(W)
更新(U)
塗り潰し(G)
図面内ﾃﾞｰﾀ(Z)
集計行表示(K)
自動列幅調整(S)
ﾒﾓﾘ解放
自動ｽﾞｰﾑ(H)
簡易集計(E)...
レイヤ表示バー
背景レイヤバー
GISデータ一覧
test07
基本設定
新規ｳｨｻﾞｰﾄﾞ
DB一覧
ﾘｰﾄ設定
一括登録
一覧表印刷
台帳印刷
Excel出力
CSV出力
Accessﾚﾎﾟｰﾄ
集計行表示
新規・変更
ｷｰ変更
ｷｰ削除
ｷｰ検索
ﾚｺｰﾄﾞ自動追加
EXCEL連動設定
EXCEL起動
EXCEL検索
ｺﾏﾝﾄﾞﾊﾞｰ表示
ｺﾏﾝﾄﾞﾊﾞｰ非表示
標準表示
一覧表表示
表示位置変更
EXCEL終了
X=-105801.477 Y=-71714.098
1/2500
1/2500
ﾃﾞｰﾀﾚｲﾔ

レイヤ表示バー
背景レイヤバー
GISデータ一覧
ﾚｺｰﾄﾞ番号
ID
写真1
写真2
写真3
1 C:¥Program Files (x86)¥Be System¥ScanSurveyVC5¥Sample¥GPSカメラ¥RIMG0018.JPG C:¥Program Files (x86)¥Be System¥ScanSurveyVC5¥Sample¥GPSカメラ¥RIMG0021.JPG C:¥Program Files (x86)¥Be System¥ScanSurveyVC5¥Sa
2 C:¥Program Files (x86)¥Be System¥ScanSurveyVC5¥Sample¥GPSカメラ¥RIMG0031.JPG C:¥Program Files (x86)¥Be System¥ScanSurveyVC5¥Sample¥GPSカメラ¥RIMG0032.JPG
3 C:¥Program Files (x86)¥Be System¥ScanSurveyVC5¥Sample¥GPSカメラ¥RIMG0035.JPG
4 C:¥Program Files (x86)¥Be System¥ScanSurveyVC5¥Sample¥GPSカメラ¥RIMG0043.JPG
5 C:¥Program Files (x86)¥Be System¥ScanSurveyVC5¥Sample¥GPSカメラ¥RIMG0056.JPG C:¥Program Files (x86)¥Be System¥ScanSurveyVC5¥Sample¥GPSカメラ¥RIMG0057.JPG
test07
基本設定
新規ｳｨｻﾞｰﾄﾞ
DB一覧
ﾘｰﾄ設定
一括登録
一覧表印刷
台帳印刷
Excel出力
CSV出力
Accessﾚﾎﾟｰﾄ
集計行表示
新規・変更
ｷｰ変更
ｷｰ削除
ｷｰ検索
ﾚｺｰﾄﾞ自動追加
EXCEL連動設定
EXCEL起動
EXCEL検索
ｺﾏﾝﾄﾞﾊﾞｰ表示
ｺﾏﾝﾄﾞﾊﾞｰ非表示
標準表示
一覧表表示
表示位置変更
EXCEL終了
X=-104227.400 Y=-67870.571
1/2500
1/2500
ﾃﾞｰﾀﾚｲﾔ

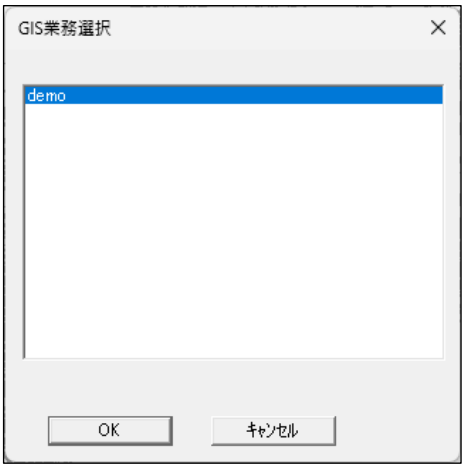
XVI.21.6. ［ツール］－［Exif オプション］－［画像入替］

既にＤＢに取り込んだ画像を他のＥｘｉｆ画像に入れ替えます。

手順

1） ［ツール］－［Exif オプション］－［画像入替］を選択します。

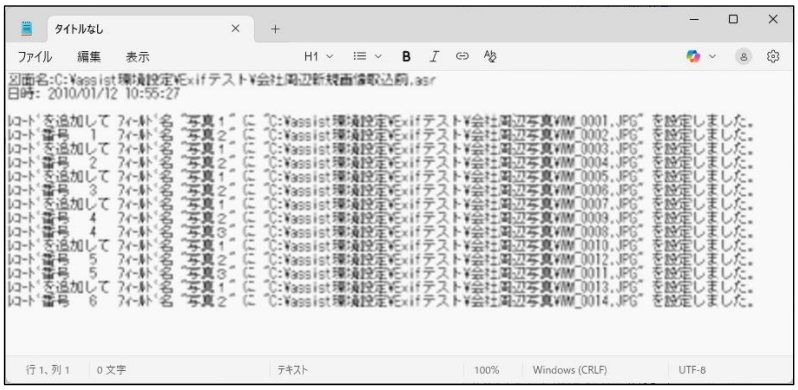
2） ［GIS 業務選択］ウィンドウが表示されます。GIS 基本設定で設定した DB を選択し［OK］ボタンをクリックします。



3） ［Exif データ GIS 読み込み］ウィンドウが表示されます。入れ替える Exif データを選択し、開きます。
※Exif データは複数選択が可能です。

4） ［Exif 誤差］ウィンドウが表示されます。
詳細は**ＸＶ.22.1［ツール］－［Exif オプション］－［Exif 取込］**をご参照ください。
［OK］ボタンをクリックすると確認メッセージが表示されます。

5） ［はい］ボタンをクリックするとログが表示されます。



6） ログ画面を閉じると、確認メッセージが表示されます。［OK］ボタンをクリックすると新規 Exif データが取り込まれます。

7） 一覧表形式フォームで右クリックし、［再読込］を選択すると、DB が更新されます。

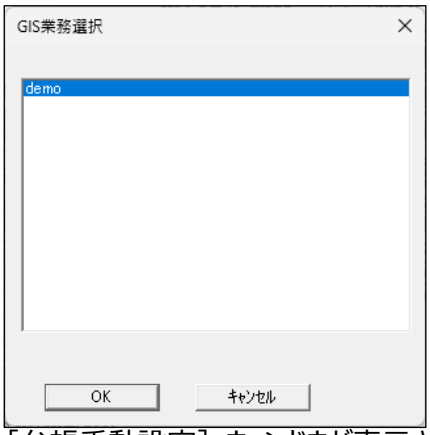
XVI.21.7. ［ツール］－［Exif オプション］－［台帳手動設定］

画像を指定して、直接画像フィールドに取り込みます。また、［新規画像取込］・［画像入替］で取り込んだ画像の保存フィールドを変更します。

手順

1） ［ツール］－［Exif オプション］－［台帳手動設定］を選択します。

2） ［GIS 業務選択］ウィンドウが表示されます。GIS 基本設定で設定した DB を選択し［OK］ボタンをクリックします。



3） ［台帳手動設定］ウィンドウが表示されます。

4）



- データベース：DB の内容です。
- 最初：最初のレコードへ移動します。
- 前へ：前のレコードへ移動します。
- 次へ：次のレコードへ移動します。
- 最終：最終レコードへ移動します。
- 上へ/下へ：画像フィールドを移動します。
- 登録：新規画像登録を行います。［画像登録］ウィンドウが表示されます。
  登録する画像を選択し、［開く］ボタンをクリックすると画像が取り込まれます。
- 削除：登録画像を削除します。削除したい画像を選択し、［削除］ボタンをクリックすると削除されます。
- DB 更新：変更内容をＤＢに反映します。
  確認メッセージが表示されるので、［はい］をクリックします。
- 閉じる：台帳手動設定を終了します。内容変更後、DB 更新をしていない場合は、確認メッセージが表示されます。

5） 一覧表形式フォームで右クリックし、［再読込］を選択すると、DB が更新されます。

XVI.21.8. ［ツール］－［Exif オプション］－［DB→単点］

既存のＤＢ内にあるＥｘｉｆデータのファイルパスを参照して、図面上に単点を作成します。

手順

1） ［ツール］－［Exif オプション］－［DB→単点］を選択します。

2） ［GIS 業務選択］ウィンドウが表示されます。［OK］ボタンをクリックすると、DB のデータから図面上に単点を作成します。

XVI.21.9. ［ツール］－［Exif オプション］－［方向矢印の表示／非表示］

Ｅｘｉｆ矢印を表示・非表示にします。

手順

1） ［ツール］－［Exif オプション］－［方向矢印の表示／非表示］を選択します。

2） Exif 矢印が、表示・非表示になります。

XVI.22. ［ツール］ – ［印刷/自由帳票 詳細設定］

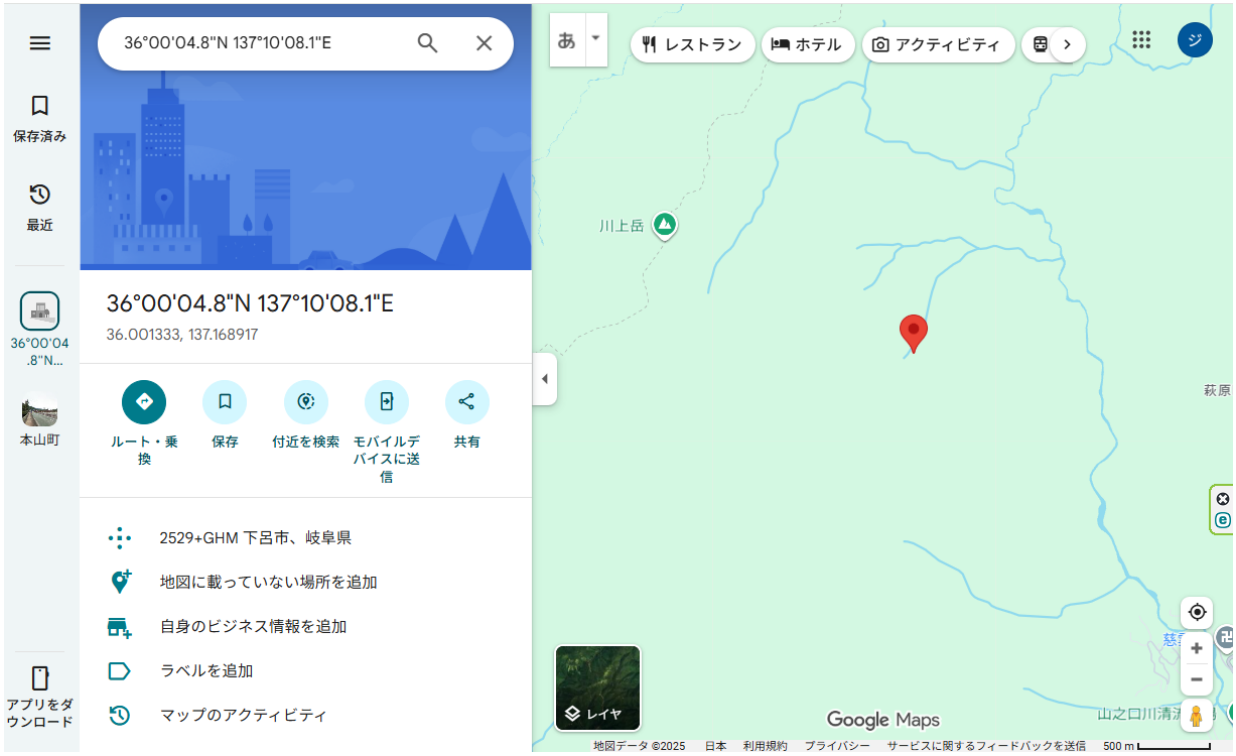
測量野帳印刷の詳細を設定します。

設定についてはⅦ.14.1.測量野帳印刷をご参照ください。

XVI.23. ［ツール］ – ［画面中心を GoogleMap で開く］

Web ブラウザが起動し、GoogleMap が自動で開きます。

Assist8 で表示中の中心座標を自動的に取得し、その位置にピンが配置されます。



XVII.ヘルプ

XVII.1. ［ヘルプ］ – ［バージョン情報］

バージョン情報を開きます。こちらから最新版の有無を確認できます。

XVII.2. ［ヘルプ］ – ［ブラウザでサポートサイトを開く］

弊社サポートサイトへアクセスします。

XVII.3. ［ヘルプ］ – ［Assist8 環境設定フォルダを開く］

環境設定フォルダを開きます。

XVII.4. ［ヘルプ］ – ［現場フォルダを開く］

現在開いているファイルの現場フォルダを開きます。

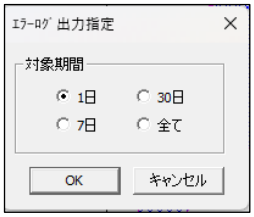
XVII.5. ［ヘルプ］ – ［イベントエラーログ表示］

イベントエラーログを表示します。

手順

1) ［ヘルプ］ – ［イベントエラーログ表示］を選択します。

2) ［エラーログ出力指定］ウィンドウが表示されます。対象期間を選択して［OK］ボタンをクリックすると、エラーログがテキストで表示されます。



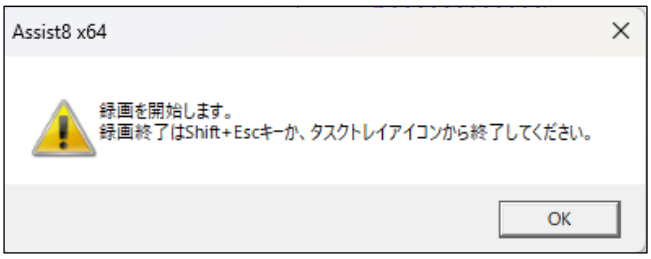
XVII.6. ［ヘルプ］ – ［ビデオツールで録画開始］

画面をビデオツールで撮影します。

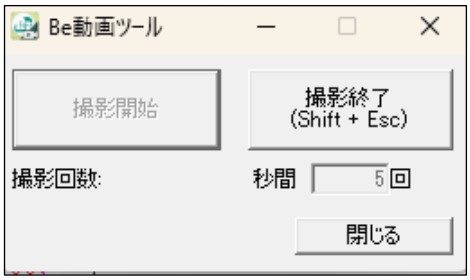
手順

1） ［ヘルプ］ – ［ビデオツールで録画開始］を選択します。

2） メッセージが表示されます。［OK］ボタンをクリックすると、録画を開始します。

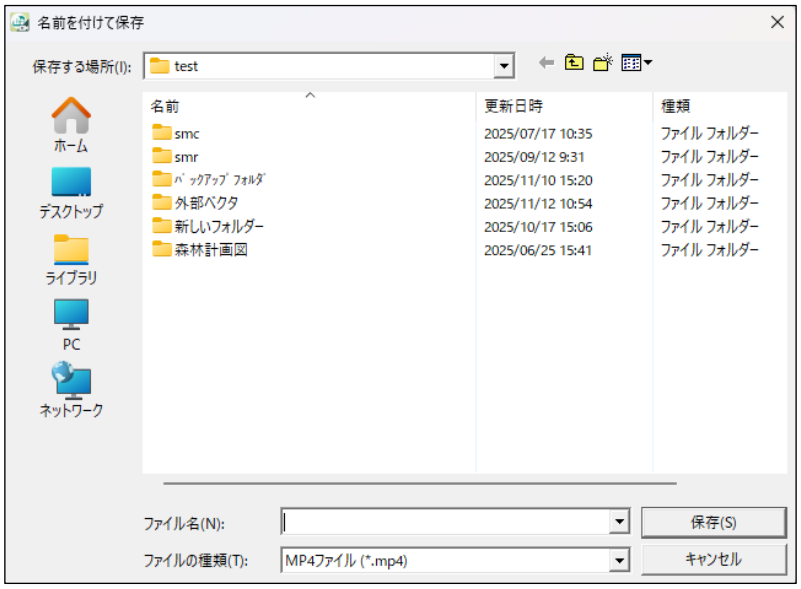


3） 録画を終了する時は Shift＋Esc キーか、[Be 動画ツール]から撮影を終了してください。



4） 録画を終了する時と[名前を付けて保存] ウィンドウが表示されます。

保存先とファイル名を指定して[保存]ボタンをクリックすると、動画ファイルが保存されます。



XVIII. 森林バーチャルビュー（オプション）

XVIII.1. 動画登録

測量データと撮影した動画をリンクさせます。

手順

1） 森林バーチャルビューバーから［動画登録］を選択します。

2） カーソルが▲に変わります。測量データ（ライン）をクリックします。

3） [動画選択]ウィンドウが開きます。対象の動画を選択して[開く]をクリックします。（mp4 形式のみ対応）

4） カーソルが△1 ラインに変わります。
動画の再生ウィンドウが開きますので[再生]で動画を再生し、開始頂点と一致するところで[一時停止]をクリックし、測量データ上の開始頂点を選択します。
確認のメッセージが表示されますので、問題なければ[はい]をクリックします。

5） カーソルが△1 ラインに変わります。
上記同様、動画の再生ウィンドウが開きますので[再生]で動画を再生し、終了頂点と一致するところで[一時停止]をクリックし、測量データ上の終了頂点を選択します。
確認のメッセージが表示されますので、問題なければ[はい]をクリックします。
動画を再生すると測量データ上を人型マークが移動し、動画と測量データがリンクされます。

XVIII.2. 動画箇所選択

選択した箇所から動画を再生します。

手順

1） 森林バーチャルビューバーから［動画箇所選択］を選択します。

2） カーソルが▲に変わります。測量データ（ライン）上で動画を再生したい地点をクリックします。

3） 選択した地点からの動画を再生することができます。

XVIII.3. 動画削除

リンクさせた動画を削除します。

手順

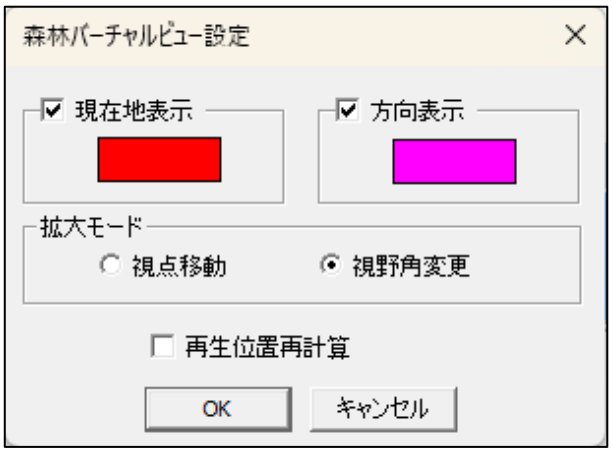
1） 森林バーチャルビューバーから［動画削除］を選択します。

2） カーソルが▲に変わります。動画が登録されている測量データ（ライン）をクリックします。

3） 動画が削除されます。

XVIII.4. 設定

各設定を行います。



- 現在地表示：動画再生開始位置に人型マークを表示させます。色の変更もできます。
- 方向表示：進行方向の矢印マークを表示させます。色の変更もできます。
- 拡大モード：視野移動か視野角変更を選択できます。
- 再生位置再計算：リンクされている動画の再計算を行います。

Assist8 ユーザーガイド

本ソフトウエアの複製、及び本マニュアルの複製、転記することを禁止します。
本ソフトウエア及び本マニュアルを運用した結果については、責任を負いかねますので
予めご了承ください。
本マニュアルに掲載している画面表示につきましては、一部異なる場合がございますので
予めご了承ください。
本マニュアルの内容について、将来予告なく変更する場合があります。

2026 年 10 月

Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国及び、その他の国における登録商標です。
その他記載されている会社名、製品名は、各社の商標及び登録商標です。

2021 年 1 月 8 日　　初版発行(Ver.1.0.0.0)

Assist8 に関するお問い合わせは

株式会社 ジツタ

本社　〒790-0964　愛媛県松山市中村二丁目 8 番 1 号
TEL：089-931-7175　FAX：089-934-7701

E-Mail　products@jitsuta.co.jp

Copyright（C） jitsuta Jitsuta Co. Ltd.